別紙

大禮奉祝餘興ニ對スル取締

一、大禮奉祝ノ爲メ多衆運動（提燈行列旗行列等）ヲ爲サントスルモノハ治安警察法第四條ニ依ルノ外左記事項ヲ屆出シムルコト

（一）團體名稱及其人員ノ概數

（二）男女ノ區別

（三）趣向ノ要領

道路ニ神輿、山車又ハ踊屋臺等ヲ曳出サントスルモノハ發起人ヨリ前項ヲ具シ願出シムルコト

二、發起人又ハ監督者ハ其團體ヲ統率指揮シ取締ノ責ニ任セシムルモノトス

三、多衆運動ハ男女ヲ區別シ之レヲ二列若クハ四列ニ整列シ其行列カ一町以上延長スルトキハ分列シ相當ノ間隔ヲ保タシムルコト但シ適當ノ員數ノ巡査ヲ附シ取締ルコト

四、左記各項ニ該當スル行爲ハ之ヲ制止スルコト

（一）不快ノ念ヲ起サシムル虞アルモノ

（二）不祥ノ扮裝ヲ爲スモノ

（三）男ニシテ女裝シ女ニシテ男裝スルモノ

（四）女ニシテ腹懸ケ股引ヲ穿チ又ハ踊袢纏ヲ着スルモノ

（五）猥リニ他人ノ家宅ニ侵入シ又ハ通行人ニ對シ惡戲ヲ加ヘ若クハ粗暴ノ所業ヲ演シ及營業ノ妨害ヲ爲シ又ハ猥褻ニ渉ル行動ヲ爲ス者アルトキハ嚴重制止スルコト

（六）學校（授業時間中）神社寺院教會（擧式中）病院等ノ近傍ニ於テハ喧擾ニ渉ル行爲ヲ禁止スルコト

（七）貸座敷免許地内ト雖モ娼妓ノ行列ニ之ヲ制止スルコト

（八）左ノ道路ニ於テハ提燈行列、旗行列ノ外餘興ヲナサシムヘカラス

（イ）御所及二條離宮周圍ノ道路

（ロ）　鹵簿通御附近ノ道路

（ハ）　其他必要ト認ムル道路

（九）　多衆運動（旗行列提燈行列等）ヲ除クノ外餘興ハ十一月十五日以後ニ於テ行ハシムルコト

（一〇）　時間ハ午後十二時ヲ限リトスルコト

十一月七日、十日、十六日、十七日、二十日ノ五日ニ分チ大禮奉祝ノ爲メ京都市公同組合ハ提燈行列ヲ執行スル旨京都市長ヨリ通牒アリタリ、依テ主殿寮出張所ヘ左ノ如ク通知セリ。

保第八三八六號

大禮奉祝ノ爲來ル七日十日十六日十七日二十日本市内ニ於テ公同組合員、市立學校（尋常小學校盲啞院ヲ除ク）ノ提燈行列執行ノ趣京都市長ヨリ届出候條御參考ノ爲此段及通知候也

大正四年十一月六日

警察部名

右市長通牒ニ係ル提燈行列ヲ初メトシテ、市民各團體ヨリ盛ニ提燈行列、旗行列ヲナシ屋臺、山車ヲ曳出シ變裝行列手踊等ノ催物アリテ奉祝ノ念盛ナリシ爲メ左ノ通牒ヲ各市郡警察署長ニ發セリ。

保第八七三五號

保訓第二五號ヲ以テ大禮奉祝餘興ニ對スル取締方曩ニ訓示相成候處同訓示ニ基キ届出ヲ受ケタル提燈行列、旗行列其他ノ催物ハ速カニ當部ヘ報告相成度此段及通牒候也

大正四年十一月十四日

警察部

十一月十五日以後市内ニ於ケル奉祝踊ハ遂夜其度ヲ加ヘ、男子ニシテ女裝シ女子ニシテ男裝シ其他種々ノ變裝ヲナシ、男女混同手踊ヲナス等市民ノ熱狂混亂其極ニ達シ、多數人群集シテ市街雜沓ヲ極メタリ、殊ニ四條通、烏丸以東、圓山公園ノ如キ殆ト交通杜絶ノ狀態ナリキ、茲ニ於テ取締上各警察署ニ宛テ左ノ訓示ヲ發セリ。

保訓第二八號

提燈行列、旗行列其他餘興取締方ニ關シテハ曩日訓示スル所アリシカ十五日以來市内ノ實況ヲ見ルニ遂夜其度ヲ加ヘ

男子ニシテ女裝シ女子ニシテ男裝シ男女混同手踊ヲナシ、又ハ甚シク異樣ノ風體ヲナシ或ハ電車軌道ニ立塞リ其ノ進行ヲ阻害シ通行人又ハ電車乘客ニ對シ惡戲ヲナシ娼妓ニシテ外出手踊ヲナシ又ハ戎器兒器ヲ仕込ミタル物件ヲ携帶スルモノ續出スルカ如シ大體期間中ハ風俗交通ニ關シテハ一層ノ取締ヲ要スル儀ナレハ放任ニ失セス訓示ノ標準ニヨリ取締ヲ加ヘ且ツ提燈行列旗行列ヲ除クノ外山車手踊等ノ餘興ハ來ル二十五日限リ制限スル樣相當措置セラルヘシ

右訓示ス

大正四年十一月二十二日

警察部長

右ト同時ニ京都市長ヘモ左ノ通牒ヲ發セリ。

保第九一一六號

大禮奉祝ノ爲ニ擧行スル提燈行列旗行列其他ノ餘興ハ別紙ノ通警察署長ニ訓示シ取締ラシメ居候處十五日以來市内ノ實況ヲ見ルニ餘興ハ風俗交通等ノ取締上默過スヘカラサルモノ有之候ニ就テハ提灯行列旗行列ヲ除クノ山車手踊等ノ餘興ハ來ル二十五日限リ制限ヲ加フル筈ニ有之候條公同組合等ヲ通シ一般市民ヘ周知方相當御取計相成度此段及通牒候也

大正四年十一月二十三日

警察部

尚遂夜奉祝踊ハ雜踏ヲ極メ交通取締上看過スヘカラサルヲ以テ市部各署長ヘ左ノ通牒ヲ發セリ。

保第九一一七號

奉祝會餘興トシテ踊ヲ爲ス者ニシテ通行人又ハ電車等ノ交通機關ニ對シ惡戲ヲ爲スモノ多ク甚シキハ貴顯御乘ノ御馬車ニ提燈ヲ差シ付ケ或ハ窓ニ飛付キ喧噪シタル者アリシ由、就テハ示後貴顯通過ノ場合ハ特ニ警戒ヲ加ヘ不敬ニ渉ル如キコトナカラシムル樣注意相成度此段及通牒候也

大正四年十一月二十三日

警察部

右ノ如ク訓示或ハ通牒ヲ發シ市郡ニ於ケル奉祝踊ノ取締ヲナシ或ハ保安課員ヲシテ大阪ニ於ケル奉祝踊ノ模樣ヲ視察セシメ、二十五日ヲ期シ絶對ニ之ヲ禁止スルコトニ努力シタル結果同期日ヲ以テ一齊ニ奉祝踊ノ跡ヲ絶テリ。

第三節　電車統一及電車共通切符發行ノ計畫

京都市ニ於テハ、京都市ノ經營ニ係ル市營電鐵ト京都電氣鐵道株式會社ノ經營ニ係ル京都電鐵トノ二個ノ電氣鐵道アリ、大正四年三月末日現在ニ於テ市營電鐵ハ軌道ノ亘長十三哩八七一、現業員六百十七人、車輛總數百六十七臺ノ内九十二臺ヲ運轉シ、京都電鐵ハ軌道ノ亘長市内線十哩六六七、郊外（伏見、稻荷線）線四哩五八四、現業員四百八十九人、車輛總數百二十臺ノ内六十九臺ヲ運轉シ居リテ両者相對立ノ結果ハ乘客ノ吸收電車運轉等ニ關シテ互ニ競爭シ、時ニ或ハ事故ノ發生スルコトアルヲ免レサルノミナラス乘客ハ常ニ多大ノ不便ヲ感スルノミナラス通行稅等ニ關シ不測ノ不利益ヲ蒙リ來レリ、凡ソ一ツノ都市ニ於テ經營者ヲ異ニスル二個ノ電氣鐵道ノ存在スルハ交通上不便ナルノミナラス一般經濟上ニ及ホス影響亦大ナルヲ以テ之レカ統一ヲ計ルノ議ハ屢々識者ノ間ニ論議セラレ、局ニ當ルモノ亦切實ニ其必要ヲ認メ一般市民亦之ヲ期待スルニ至レリ、大正三年十一月有志ノ斡旋ニヨリ統一ノ爲メ京都市ニ於テ京都電鐵ヲ買收スルノ議起リ、市ハ京都電鐵ヲ買收スル爲メ六分利附市公債四百萬圓ヲ發行シテ之ヲ會社ニ交付スルコト及市ハ其營業ニ必要ナル一切ノ財産ヲ收得スルコトノ二條件ヲ提出シ、市長ハ之ヲ適當ト認メ大正四年五月八日買收ニ付テノ假契約ヲ會社ト締結スルニ至レリ、次テ該契約ハ市參事會ニ附議セラレ、此間買收價額ノ點ニ付意見區々ニシテ參百六拾萬圓トノ修正ノ動議アリシモ七月一日ノ參事會ニ於テ結局原案ヲ認メ、更ニ市會ニ提出セラレタルカ、七月七日ノ市會ニ於テ委員附託トナリ、委員會ハ買收價額ヲ參百四拾萬圓ニ修正シ、同月二十七日ノ市會ハ遂ニ該修正案ヲ可決シタルヲ以テ、市長ハ之ヲ會社ニ通知セシカ、會社ハ到底之ニ應スヘクモアラス、市ニ對シテ不承諾ノ旨ヲ表明スルニ至リ、斯テ電車統一ニ關スル計畫ハ全然不調ニ歸シタルハ遺憾ナリ、此ニ於テカ市民ハ依然トシテ從來ノ不便ト不利ヲ免レサルコトヽナレリ。

然ルニ大正四年十一月ノ大禮時ニ際シテハ各地方ヨリ多數ノ入洛者アルヘク、而シテ是等ノ者ハ全然京都市ノ地理ニ通セサルノ結果一層ノ不便ヲ感スルノミナラス不測ノ損害ヲ受クルコトナキヲ保セサレハ之ヲ保護スルノ必要上知事ハ九月下旬市及會社ニ對シ大禮期間中及其前後一定ノ期間電車ノ乘車賃金ヲ四錢均一トシ、且ツ市ト會社トノ間ニ共通切符ヲ發行センコトヲ勸告シタルニ會社及市ハ各左ノ條件ヲ提出セリ、

會社ハ

（一）賃金ハ市ト會社ト絕對的四錢均一トスルコト

（二）之カ分配ノ方法ハ營業哩數ニヨルヘキコト

市ハ

（一）期間ヲ大正四年十一月一日ヨリ翌五年三月末日迄トスルコト

（二）會社擔小路停留場以南ノ線路（以下單ニ伏見線ト稱ス）ハ從來ノ通リ區間制トシ伏見線ノ乘客ニシテ擔小路停留場以北ノ線路（以下單ニ市内線ト稱ス）ニ乘繼セントスル者ハ賃金四錢（通行稅ヲ除ク）ヲ仕拂ヒ市營電車ニ連絡乘車スルコトヲ得ルモノトス市内線ノ二倍トス

（三）會社擔小路停留場以北ノ市及會社ノ現在營業線路内ニ於テ乘車スルト否トニ拘ハラス總テ片道金四錢往復ハ其ヨリ伏見線ニ乘繼セントスル場合ニ於テモ亦同樣ノ方法ニ依ルモノトス

（四）連絡乘車券ハ左ノ四種トス

（イ）片道共通券

（ロ）往復共通券

（ハ）回數券用乘換券

（ニ）乘繼券

（五）回數券ニテ連絡乘車ヲ爲ス乘客ニ對シテハ回數券用乘換券ヲ交付スルモノトス此場合ニ於ケル回數券ハ乘換券發行者ニ於テ發賣シタルモノニ限ル

（六）連絡乘車券ハ市及會社ノ協同製作保管トシ殘數計算方法ニ依リ使用高ヲ査定ス

（七）回數券ハ一割ト團體乘車賃率ハ普通賃金ノ五割以内ニ於テ市長ト會社代表者ト協定ノ上同一率ノ割引ヲ爲スモノトス

（八）回遊券其ノ他特殊券ノ發行ハ市長ト會社代表者ト協定スルモノトス
但シ通學券及通勤券ハ此限ニ非ス

（九）乘車賃ノ分配方法ハ左ノ如シ

（イ）連絡乘車券ノ收入ハ市ノ百分ノ五十七會社ハ百分ノ四十三ノ割合ニ依リ分割取得ス

（ロ）連絡券以外ノ收入ハ各自ノ取得トス

斯ク両者ノ間ニ於ケル條件ニ甚シキ懸隔アルヲ以テ市側ヨリハ大野盛郁、陶山富太郎、永田兵二郎、佐々野播雄等、會社側ヨリハ岸田勉、荒尾徹中、谷春次郎等ノ關係人ヲ召致シ互ニ協議セシメ條件ノ緩和ニ努メタルモ、會社側ニ於テハ最初ヨリ本計畫ニ對シ誠意ナカリシモノヽ如ク遂ニ不調ニ歸シタリ。

第二章　電氣、瓦斯、火藥、石油

第一節　電氣

第一　監査

電氣需要者ノ屋内ニ於ケル電氣工作物ノ良否ニヨリ意外ナル事故ヲ惹起スルコトアリテ之レカ爲メソノ取締ニ關シテハ充分ナル注意ト指導トヲ要スルヲ以テ需要者中公衆ノ參集ヲ目的トシ特ニ雜踏ヲ極ムル左記ノ如キ重ナル劇場、興業場、寄席等ニ於ケル電氣工作物ニ付テハ技術者ニ於テ嚴密ナル監査ヲ施行シ危險又ハ不適當ナル個所ハ夫々迅速ニ且充分ナル改修ヲナシタリ。

左記

監査個所

歌舞伎座、八千代館、南座、京都座、帝國館、明治座、夷座、富士館、第二勢國館、第一勢國館、第一福眞亭、京極座、千本座、壽座。

第二　事業者ニ對スル注意

需要者ニ對シテハ第一ニ述ヘタル如ク嚴重ナル監査ヲ行フト同時ニ電氣供給事業者ニ對シテハ左ノ如キ注意ヲ發シタリ。

一、需要者屋内工事ノ檢査ヲ勵行シ特ニ爆發性燃燒性若シクハ公衆ノ來集ヲ目的トスル場所ニ於ケル屋内工事ノ檢査ヲ勵行シ必要ノ個所ハ修理スルコト（第二十六號表參照）

二、柱上變壓器ノ接地裝置ノ檢査ヲ勵行シ必要ノ個所ハ相當修理スルコト（第二十七號表參照）

三、御大典期幷ニ其後ニ亘リ一般需要者ノ爲メニ消燈其他ノ事故ニ際シ之レニ適應スル樣相當ノ施設ヲナシ其計企ニ付キテハ十月十五日迄ニ當廳ヘ申出ツルコト（第二十八號表參照）

四、發電所變電所其他ノ個所ニ於ケル機械器具ノ監視ヲ勵行シ事故ヲ未然ニ防止スルコト

五、線路巡回ノ度數ヲ增シ線路監視ヲ嚴ニスルコト

六、電燈ハ差支ナキ範圍ニ於テ成ルヘク晝夜送電ヲナシ晝夜送電不可能ノ個所ニ對シテハ雨天等ノ場合ニハ臨機送電時間ヲ早ムル等遺漏ナキ樣注意スルコト

七、（一）（二）記載事項檢査ノ結果ハ十五日迄ニ當廳ニ報告スルコト（第二十六號表）第一項ニヨル報告結果表（需要者屋内工事監査）

（一）京都市

工事種別	調査總數	内良好ノモノ	内不良ノモノ
旅館	四〇	三	一
料理店	六三	六	一
劇場	一		

工事種別	調査總數	内良好ノモノ	内不良ノモノ
役所	一	一	
個人宅	二	九	三

（二）京都電燈株式會社

參列員宿舍	一六四	八一	八三	劇場	一八	三	一五

（三）　嵐山電車軌道株式會社

（第二十七號表）　第二項ニヨル報告結果表（變壓器地板監査）

事業者	調査總數	內其好ノモノ	內不其ノモノ
京都市	三七	二七	〇
京都電燈株式會社	一三三	一三五	八

（第二十八號表）　第三項ニヨル結果表

（一）　保線人員配置表

事業者	晝間 常時	晝間 御大典期間	夜間 常時	夜間 御大典期間
京都市	五	一四	一五	一七
京都電燈株式會社	四九	一四一	四四	一五〇
嵐山電車軌道株式會社	一四	九	一三	一四

（二）　瓦斯壓力ノ變動ヲ大ナラシメサル樣相當調整ニ注意スルコト

（三）　瓦斯製造所有諸設備ノ監視ヲ勵行シ需要激增ノ時機ニ於テ供給上遺憾ナカラシムルコト

（四）　一般需要者ノ爲メ故障其他ニ際シ敏活ニ應スヘキ計企ヲ立テ十月十五日迄ニ右計企ニ付キ當廳ニ申出ツルコト

（五）　（一）ニ記載シタル檢査ノ結果ハ十月二十五日迄ニ當廳ニ報告スルコト

前記ノ趣旨ヲ瓦斯事業者ニ示達シタル結果左ノ屆出ヲ徵セリ。

大正四年九月二十三日付保第七一三〇號御示達ノ御趣旨ニ基キ御大典御擧行前後ニ於ケル一般需要者ノ瓦斯故障其他ニ對スル應急方法ハ左記ノ通實行致シ萬遺憾ナキヲ期シ可申候依テ此段御屆申上候也

京都瓦斯株式會社

取締役社長　奥　繁三郎

大正四年十月十五日

京都府警察部御中

（一）　瓦斯ノ修理專門ノ職工ヲ左ノ三營業所ニ配置シ敏活ニ需要者ノ瓦斯故障其他ノ要求ニ應スルモノトス

一、西陣營業所（今出川淨福寺東入ル）　職工六名配置

一、中央營業所（柳馬場三條上ル）　職工十名配置

一、七條營業所（七條西洞院東入）　職工六名配置

（二）　前項ノ職工配置數ハ本年十一月一日ヨリ十一月末日迄トス十二月一日以後ハ其員數ヲ半減スルモノトス

（三）　修理專門ノ職工ニハ何レモ自轉車ヲ給付シ急速ニ需要者故障修理ノ要求ニ應スルモノトス

第二節　檢査

瓦斯事業者ヲシテ檢査ヲ勵行セシメ其結果ヲ左ノ如ク報告セシメタリ

第一八七條

（一）　屋內瓦斯供給管ノ檢査ヲ勵行シ特ニ火氣ヲ取扱フ構內幷電力電結線ト瓦斯供給鉛管トノ關係ニ就キ嚴重檢査ヲ勵行シ火災豫防上遺憾ナカラシムルコト

（二）　瓦斯壓力ノ變動ヲ大ナラシメサル樣相當調整ニ注意スルコト

（三）　瓦斯製造所有諸設備ノ監視ヲ勵行シ需要激增ノ時機ニ於テ供給上遺憾ナカラシムルコト

（四）　一般需要者ノ爲メ故障其他ニ際シ敏活ニ應スヘキ計企ヲ立テ十月十五日迄ニ右計企ニ付キ當廳ニ申出ツルコト

（五）　（一）ニ記載シタル檢査ノ結果ハ十月二十五日迄ニ當廳ニ報告スルコト

前記ノ趣旨ヲ瓦斯事業者ニ示達シタル結果左ノ屆出ヲ徵セリ。

第二節　瓦斯

第一　營業者ニ對スル注意

瓦斯事業ヨリ生スル災害ノ豫防ニ付テハ當業者ニ對シ常ニ注意ヲ怠ラスト雖、特ニ此際督勵ヲ加フルノ要アリ、九月二十三日京都瓦斯株式會社ニ對シ左記ノ事項ヲ示達シ受書ヲ徵シ之レカ取締ヲ勵行シタリ。

左記事項

御廳保第七一三〇號御示達ノ趣旨ニ基キ劇場病院其他一般需要家ニ對シ電線ト屋内瓦斯沿管トノ交叉又ハ接近ニ付キ本年九月二十五日ヨリ本月二十日ニ至ル間ニ於テ夫々檢査ヲ行ヒタルニ火災豫防上何等危險無之候間此段御報告仕候也

大正四年十月二十五日

京都瓦斯株式會社
取締役社長　奥　繁三郎

京都府警察部御中

第三節　火藥

第一　檢査

市郡ニ於ケル火藥商取締ニ付テハ大禮期間前十月中ニ警部一名專務技術員一名ヲ出張セシメ各火藥商及火藥庫ニ臨檢シ周密ナル檢査ヲ行ヒタルカ、火藥類ハ帳簿殘高及現品殘高ト一致セスシテ現品ニ不足ヲ生シ居ル營業者二三アリシモ調査ノ結果密賣或ハ不正ニ使用シタルモノニ非ス、一時ニ多量ヲ購入シ置キタルヲ少量宛販賣スル都度秤リ込ミタルト違算ヲ生シタルトノ結果ナルコトヲ發見シ、將來ヲ注意シタリ、火藥類ヲ試驗スルニ孰レモ品質佳良ニシテ危害發生ノ虞ナキコトヲ認メタリ、尙火藥庫、倉庫、假貯藏所ニ付テ嚴密檢查ヲ行ヒタルニ火藥庫周圍ノ土堤等ハ破損ノ箇所ナク錠前及庫内ハ完備整頓シ居ルヲ認メタルニ付一面營業者ニ對シ大禮期間中特ニ注意スルコトニ諭達セリ。

第二　各警察署長ニ對スル取締方訓示

第三章第一節保訓第八號訓示中銃砲火藥ニ關スル事項參照

第四節　石油

各警察署長ニ對シ取締方ノ訓示

石油取締ニ付テハ（第二章第一節保訓第八號石油ニ關スル事項參照）市郡各警察署長ニ訓示シ其部内ニ於ケル石油貯藏所、石油油槽場、藏置場及置場ノ臨檢ヲ嚴密ニナサシメ其成績ヲ報告セシムルコトニナシタルカ、別ニ危害發生ノ個所ナク改造、修繕、設備不完全ノモノニ對シテハ期日ヲ指定シ實行スルコトニ命シ、尙大禮期間中ハ巡查ヲシテ之レカ取締ヲ勵行スルト同時ニ營業者ニ一層注意方諭達セリ

第三章　製造場、工場、劇場、興行場、湯屋

第一節　各警察署長ニ對スル取締方訓示

大禮ニ際シ危害豫防上各營業者ニ對シ嚴密臨檢ヲナシ危害發生ヲ防止スルニ努ムル爲メ市郡各警察署長ニ左ノ訓示ヲナセリ。

保訓第八號

大典ニ際シ危害豫防上製造場、劇場、興行場、湯屋、火藥商及石油營業者ニ對シ嚴密臨檢ヲ行ヒ左記事項調查ノ上其結果ト共ニ技術員派遣ノ要アルモノハ七月十日迄ニ報告（製造場劇場興行場湯屋ノ分ニ付テハ六月ニ爲スヘキ定期ノ臨檢報告ト兼ヌルコトヲ得）セラルヘシ。

大正四年五月十二日

京都府警察部長　永田秀次郎

左記

（4）製造場、劇場、興行場、湯屋ニ關スル事項

一、許可ヲ得スシテ增設又ハ變更セルモノナキヤ
二、就業時間ハ正確ニ守レルヤ
三、場内ハ清潔ナルヤ
四、非常口非常階段等ハ急變ニ際シ支障ナキヤ
五、燃料等ハ許可以内ノモノナルヤ
六、發火ノ虞レアル製造場ニ在リテハ防火ノ方法備ハレルヤ
七、有害又ハ有臭瓦斯ヲ發散スルモノ若クハ塵芥ノ飛散スルモノハ排除ノ方法宜シキヤ
八、汚水及汚物ヲ生スルモノハ排除ノ方法宜シキヤ
九、機關手、油差、火夫ハ屆出濟ノ者ナルヤ
十、汽罐ノ汽壓ハ制限以内ナルヤ
十一、安全辨ノ封鎖セルモノニアリテハ異狀ナキヤ
十二、汽罐ノ給水ハ水面計ノ中央ニアリヤ又壓力計ニ異狀ナキヤ
十三、汽機ノ運轉圓滑ナラス又ハ異常ノ音響ヲ發スルコトナキヤ
十四、汽罐汽機井蒸汽管ノ各部ヨリ蒸汽又ハ水ノ漏洩スル等ノ〻ナキヤ
十五、軸受支柱取付不完全又ハ基礎不完全ノ爲メ震動甚シキモノナキヤ
十六、動力傳導裝置ニ於テ軸調革調索等ノ爲メ危險ヲ生スル虞レナキヤ
十七、機械ノ設置間隔狹隘ニ過キテ非常ノ際危險ノ虞レナキヤ

十八、機械ノ動部ニシテ人ノ觸ルヽ虞レアルモノハ相當保護裝置ヲナサヽルヤ

十九、電動機變壓器ノ接地裝置ヲナサヽルヤ

二十、電氣機械器具等ニ著シク塵芥ノ附着シ居ラサルヤ

二十一、煙突ノ腐蝕又ハ龜裂ヲ生シテ危險ノ虞レアルモノ及煙害ノ甚シキモノナキヤ

二十二、石油發動機又ハ瓦斯發動機ヨリ瓦斯ノ漏洩甚シキモノ又ハ排氣ノ爲メ公害ノ及ホスモノ若クハ場内防火ノ設備不完全ト認ムルモノナキヤ

二十三、電氣事業用架空高壓線路ノ近傍ニ金屬製煙突又ハ之レニ類似スルモノヽ存スル場合之レカ傾斜轉倒スト雖モ該電線ニ接觸スルノ虞レナキヤ

二十四、建物ノ足元（即チ土臺又ハ葛石ノ類）上下又左右ノ通リ貫キヤ

二十五、建物ノ傾斜又ハ撓曲并ニ建具ノ破損及此等開閉ノ具合良キヤ

二十六、土臺及柱其他各材ノ腐朽又ハ腐蝕ナキヤ

二十七、棚窓及入口ノ敷石其他各横物（無目、長押鴨居ノ類）ノ通リ并ニ此等取付ケノ個所密着セルヤ

二十八、床カ固定シ居ルヤ

二十九、天井ノ弛ミナキヤ

三十、階段及手摺等（各材取付ケ個所）固定セルヤ

三十一、小屋材ノ弛ミ及此等繼手ノ弛ミ并此等ニ使用ノ締付鐵物ノ弛ミ及腐蝕等ナキヤ

三十二、屋根ノ弛ミナキヤ

三十三、壁ノ剝脫及纏其他使用ノ取付鐵物（釘鎹ノ類）ノ腐蝕ナキヤ

（ロ）鐵砲火藥ニ關スル事項

一、銃砲火藥商ノ各帳簿ハ漏レナク記載シアルヤ

二、火藥類消費者ノ火藥類收支明細簿ハ詳記シアルヤ

三、火藥庫ノ土堤ニ破損ノ箇所ナキヤ

四、庫ノ周圍及排水溝ハ清潔ニ掃除シアリヤ

五、庫ノ戸扉ノ錠前ノ完全ナリヤ

六、庫内ニ土砂塵芥ノ飛散シ居ラサル樣掃除シアリヤ

七、庫内ニ燃燒物ヲ貯積シ居ラサルヤ

八、庫内雨漏セサルヤ

九、火藥箱、爆藥箱ハ庫壁ト一尺以上ヲ隔テ下部ニハ高サ約三寸ノ枕木ヲ置キ上下各箱間ニハ五乃至六分角ノ木ヲ差シ挾ミ井形ニ積上ケアルヤ

十、格納ダイナマイト類無煙火藥類中ニハ青色リトマス試驗紙ヲ必ス其ノ箱内ニ入レ置カシメ時々臨檢シ三ケ月以内ニ其ノ試驗紙全面ニ渉リ赤變セサルヤ

十一、帳簿殘高ト在庫現品ト一致スルヤ

十二、銃砲火藥類取締施行規則第十八條各號以外ノ火藥類及爆藥ニシテ規定ノ貯藏所以外ノ場所ニ貯藏シ居ラサルヤ

（ハ）石油ニ關スル事項

一、石油藏置場及置場ニハ規定量以上ヲ置カサルヤ

二、油糟ヲ据付ケタル地盤ノ「コンクリート」及石又ハ煉瓦積ノ基礎ニ破損ノ箇所無キヤ

三、貯藏所、藏置場、小分讓詰、詰換場所、石油排除溝及瀦溜所等ニ破損ノ箇所ナキヤ

四、油糟、貯藏所、藏置場及石油小分讓詰ノ詰換スル場所并其ノ附近ニ於テ濫リニ火氣ヲ取扱フ樣ノ事ナキヤ

五、場内ニハ消火用ノ爲メ土砂其他適當ノ設備ヲ爲シ居レルヤ

六、石油ノ小賣店ニ於テ販賣用ニ供スル容器ハ金屬製ノ「カラン」付ヲ用ヒ且ツ金屬製ノ受滴器ヲ備ヘ居ルヤ

七、石油ノ滲潤シタル空箱ヲ店舖軒下其他火氣ヲ取扱フ場所ニ堆積シ置カサルヤ

第二節　檢查

第一　建物ノ檢查

第一節ノ訓示事項ニ基キ技術員檢查派遣ノ必要アル以外ノ湯屋ニシテ嚴密檢查ヲ行ハシメ其結果ヲ報告セシメタリ、而シテ改造ヲ命シ修繕スヘキモノニ對シテハ改造又ハ修繕ヲ命シ危險豫防ニ努メタリ、尚技術員派遣ノ必要アリト認ムル湯屋、製造工場、劇場、興行場ヲ調查シ、各警察署長ヨシテ報告セシメタルニ左表ノ如シ。（第二十九號表參照）

（第二十九號表）　技術員檢查必要アル建造物調

警察署別	湯屋	製造工場	劇場	興行場	計
上長者町署	一	一	三	一	五
中立賣署	一	一	一	一	四
川端署	六	一六	六	一	二九
五條署	一	一	一	一	四
堀川署	八	六	一	一	一六
松原署	一	一	一	一	四
七條署	三	七	一	一	一二
下鴨署	一	二	一	一	五
計	一七	二九	一二	八	六五

技術員ヲシテ建造物ニ對シ嚴重檢查ヲ行ハシメ、改造、修繕、設備不完全ノ個所ヲ調查シ期日ヲ定メ之レカ實行ヲ命シタルニ孰レモ落成シ大禮期間中於ケル危害發生ノ豫防ニ努メタリ、而シテ檢查シタル建造物ハ左ノ如シ。

（イ）劇場　歌舞伎座、南座、京都座、明治座、夷谷座、富士館、朝日倶樂部、京極座、壽座、千本座

（ロ）興行場　第一勢國館、第二勢國館、豐梅館、福眞亭、芦邊館、笑福亭、中央館、帝國館、第一八千代館

（ハ）湯屋十七ヶ所

（ニ）製造工場二十九ヶ所

第二　瀝罐瀝機ノ檢查

瀝罐瀝機ニ對シテハ每年一回定期檢查ヲ施シ嚴重ナル取締ヲ加ヘツヽアリ、未タ災害ノ發生ヲ見スト雖モ大禮期間中

ハ最モ注意ヲ要スル秋ナルヲ以テ、十月二十七日付ヲ以テ各工場主ニ對シ左記事項ヲ示達シ、第二號事故發生ヲ防止スル爲メ毎年十一月中ニ施行スヘキ定期檢査ヲ繰上ケ、前月ニ檢査員ヲ臨檢セシメ嚴密檢査ヲ行ヒタリ、而シテ大禮期間中ハ檢査員一名在廳之レカ警戒ニ努メタリ。

左　記

一、瀝鑵瀝機取扱上特ニ注意ヲ嚴ニシ危害豫防上遺憾ナカラシムルコト

二、煙突ノ掃除ヲ勵行シ煤煙ノ飛散ヲ勉メテ少カラシムルコト

三、瀝鑵瀝機ニ故障ヲ生スル虞レアリ又ハ故障ヲ生シタルトキハ應急ノ措置ヲ施スト同時ニ所轄警察署若クハ當部ヘ即報スルコト

第四章　車馬

第一節　人力車供給事務

第一　供給事務ノ管掌

大禮參列員乘用人力車ノ供給ニ付テ京都市内ノ人力車輛數ハ大正四年三月ノ調査ニヨレハ、一人乘二千五百零六輛、輓夫二千五百四十八人ニ過キス、各官廳、停車場、停留場等ノ需要車幷ニ一般交通用ノ所要車ヲ見積ルトキハ參列員全部ノ乘用ニ不足ヲ生スルハ當然ナルヲ以テ、之レカ不足ヲ充實スルト同時ニ參列員ノ便宜ヲ計ル目的ヲ以テ他府縣ヨリ供給ヲ仰キ、本府警察部保安課ハ之レカ供給ニ對スル事務ヲ掌レリ。

第二　大禮當時所要人力車數ノ調査

人力車供給上先ツ第一ニ參列員所要人力車ノ數ヲ知ルノ必要アルニ付大禮使ヘ左ノ照會ヲ發セリ。

保第六四九九號

大禮參列員乘用人力車ハ豫メ府下相當營業者ニ命シ準備セシムルノ必要可之有ト被存候就テハ其所要概數ヲ承知致度候條此際貴使ヨリ參列員各位ニ對シ人力車ノ要否若シ入用トセハ其日數及車輛數ヲ來ル九月二十日迄ニ當府ヘ通知セラルヽ樣御照會方御取計相成度尤モ左記ノ數日ハ是非共乘用ノ要アルヘク而カモ其當時ハ車輛逼迫ヲ告ケ雇上困難ナラント被察候得共前以テ一日雇切ノ契約ト致度尚ホ賃金ハ概ネ後記ノ如ク御承知可有之旨御申添置相成度此段及照會候也

大正四年八月三十日

京都府知事　大森鍾一

左　記

十一月十日、同十一日、同十四日、同十六日、同十七日、同十八日

人力車賃金

金四圓乃至五圓但シ二人曳一日雇切

第三　人力車供給請負人ノ指定幷其監督

右照會ノ結果參列員ヨリ申込ミタル車輛數二人曳一人曳取交セ總數一千二百五十二輛ニ及ヒタルモ、參列員ノ都合上又ハ宿舍ニ於テ準備シタル理由ニ依テ取消シタルモノ二百五十六輛差引九百九十六輛ノ所要申込數ヲ算ス、茲ニ於テ之レカ人力車供給ノ調達方ヲ京都市上京區一條通御前通東入勇山事小畑岩次郎ニ命シタリ、而シテ小畑岩次郎ハ之レカ請負ノ準備ニ着手シ必要ニ應シ保安課ハ之レヲ指揮監督シタリ。

第四　人力車請負人ノ氏名通知

請負人小畑岩次郎ヲシテ人力車所要申込ミノ參列員一般ヘ京都府ヨリ人力車ノ調達方用命ヲ受ケタル趣意ノ端書ヲ發セシメタリ、又一面京都府ヨリモ左ノ如ク參列員ヘ通知セリ。

左　記

御滯在中ノ人力車御依賴ノ向ハ夫々調査ヲ命シ置候ニ付御必要ノ日時ニ差廻方左記ノ者被命度事但本文ニ付テハ宿主ヘモ通達致置候間御打合相成度候

人力車賃金等ハ夫々直接御支拂相成度事

第五　人力車ノ募集

請負人勇山事小畑岩次郎ハ人力車調達方ノ爲メ大阪市北濱通浪花橋南詰ニ人力車募集事務所ヲ設ケタルニ付之レカ便宜ヲ與ヘラレン事ヲ大阪府警察部ヘ照會セリ。

保第七八二三號

京都市上京區北野神社前

勇山事　小畑岩次郎

電上二〇二一番

右ノ者大禮參列員乘用人力車被雇方受命車輛及輓夫募集中ノ處府下ノミニテハ到底需要ヲ充タシ兼ネ本月十二日以降貴市内浪花橋詰ニ一戸ヲ借受ケ右募集事務所ニ充テ居候趣申出候ニ付テハ募集上何卒御便宜ヲ與ヘラレ度此段及御依賴候也

大正四年十月五日

京都府警察部

大阪府警察部御中

第六　人力車申込上ノ注意

參列所要人力車申込者カ受命者小畑岩次郎ヨリ曩キニ差出タル端書ノ趣旨ヲ誤解シ不安ノ念ヲ生シタル向モアリ、爲メニ更ニ京都府ヨリ參列員ニ左ノ通知ヲ發セリ。

保第七九三八號

大禮參列ノ砌御乘用人力車調達方ノ件ハ曩キニ申上候通リ勇山事小畑岩次郎ニ命シ置候處期日ノ切迫ニ伴ヒ種々御問合ノ向モ有之候得共貴下ノ人力車ハ既ニ準備濟ニテ御申込御乘用ノ日時ニ於テ左記服裝ノ車夫ヲシテ車輛牽引宿舍ヘ相伺ハセ可申候條右ヘ御乘用相成候樣致度此段及通知候也

大正四年十月二十二日

京都府

左記

一紺法被ノ襟ニ御用小畑ノ四字ヲ白抜キニシアリ

一黒ノ饅頭笠ヲ携フ

第七　請負人ノ人力車收容ノ設備

人力車調達人小畑岩次郎ヲシテ市内御池通千本東入空地ニ別圖ノ如キ（第二十號表參照）人力車置場及輓夫ノ宿泊所ヲ設置セシメ、該所ニ警衞本部車馬係出張所ヲ設ケ、公衆電話機二個（上四五七五番、上四五七六番）ヲ架設シ、巡査部長一名巡査二名ヲ交代勤務セシメ、參列員乘用人力車供給ノ便ヲ圖リ、且ツ輓夫ノ取締ニ從事セリ。

第八　人力車募集ノ狀況視察

小畑岩次郎ニ請負ハシメタル人力車及輓夫募集ノ狀況ヲ視ルニ參列員申込人力車數ニ達セサルノ感アリ、其供給不安ノ狀態ニアルヲ以テ請負人カ募集契約セシ各府縣ノ應募模樣及車輛運搬ニ關スル狀況視察ノ爲メ十一月五日車馬係ノ船路警部ヲ靜岡愛知ノ二縣ヘ、田瀧警部補ヲ大阪兵庫奈良三重ノ各府縣ヘ、八木警部補ヲ京都府市郡ヘ急遽派遣セシメタルニ募集ノ狀況人力車運搬好都合ナリシモ尚ホ一面間接請負人ニ對シ種々ノ便宜ヲ圖リタリ。

第九　卽位式當日ノ人力車差立ノ狀況

請負人小畑岩次郎ノ取扱ヒタル參列員所要申込ノ人力車輛數ハ一千百七十五輛ノ内十一月十日迄ノ取消數三百八十九輛差引七百八十六輛（二人曳五七八、一人曳二〇八）ナリ、此豫定セル人力車及輓夫ヲ請負人カ豫定以上ニ募集セシモ請負人ト應募者タル輓夫間ニ種々ノ事情アリテ輓夫ニシテ無斷逃走スルモノアリ、解約歸國スル者アリ、之レカ整理不完全ノ爲メ請負人應募者間互ニ喧騒シ不穩ノ狀況アルヲ以テ之レヲ整理スル爲メ車馬係巡査及宿舍係巡査ノ總員ヲ非常召集シ、十日御卽位式當日參列員所要人力車差立ノ整理ニ着手シタル結果申込數ニ於テ二百五十輛ノ不足ヲ見ルニ至レリ、茲ニ於テ其不足ヲ補ハンカ爲メ宿舍係巡査ハ參列員各宿舍ニ付キ、車馬係巡査ノ差立テタル人力車カ參列員宿舍ニ

到着シタルヤ否ヤヲ調査スルト同時ニ不足セル人力車ノ募集ニ保安課長以下課員ハ徹宵自動車ヲ驅リテ人力車ノ供給ニ努メ或ハ自動車ヲ差廻シ以テ參列員ノ乘用ニ差支ナキヲ努メタリ。

第十　人力車申込ノ取消狀況

左ノ如ク人力車ノ差立ニ努力シ輓夫ノ如キモ二人曳ニ於テハ一人ハ必ス京都市ノ地理ヲ熟知セル者ヲ配シタルモ組合セ宜敷ヲ得ス地理不案内ノ爲メ參列員宿舍ヘ至ルニ遲刻シタルモノモアリ、或ハ重復シテ同一宿舍（差廻）シタルモノモアリ、爲メニ參列員ノ乘用ニ供セスシテ空シク歸リ來ル車夫モアリ、實際ニ於テ甚シク齟齬ヲ生シタリキ、其後車馬係出張所ヘ電話ヲ以テ取消申込ムモノ十一月十一日以後三百十五輛ノ多數ニ達シタリ。

第十一　御神樂ノ儀當日以後ニ於ケル人力車差立ノ狀況

御神樂當日、大嘗祭當日、大饗第一日第二日、市招待會等ノ場合モ同シク車馬係巡査ヲシテ各參列員所要數ノ人力車差立ニ從事セシメタルカ大嘗祭當日ノ如キ所要數四百四十輛ナルニ供給約三百輛ニ過キス、茲ニ於テ不足セル車輛ハ各宿舍主ヲシテ周旋セシメ又必要ニ應シ車馬係巡査ニ於テ便宜周旋シタリ。

參考ノ爲メ請負人ノ差立タル人力車ニシテ出戻セシ數ヲ調査スレハ

十日	卽位式當日	三三輛	
十一日	御神樂當日	五七輛	
十二日		六四輛	
十四日	大嘗祭當日	一〇九輛	
十六日	大饗第一日	三九輛	
十七日	大饗第二日	一五輛	

十日以後請負人ノ差立タル人力車ニシテ實際參列員ノ乘用ニ供セシ車輛數ヲ調査スレハ

十日	卽位式當日	（一八曳 五三九）（四三）五七二輛	
十一日	御神樂當日	（一八曳 四二八）（四四）四七二輛	
十四日	大嘗祭當日	（一八曳 二五七）（三七）二九〇輛	
十六日	大饗第一日	（一八曳 二二四）（三三）二五七輛	
十七日	大饗第二日	（一八曳 二一六）（四七）三六二輛	
十八日	市招待會	（一八曳 二一七）一三五輛	

第十二　人力車賃金支拂ニ關スル注意

參列員乘用人力車賃金支拂方ニ付請負人及參列員ノ相互ニ便スルノ趣旨ニ依リ宿舍係巡査ヲシテ左ノ書面ヲ各參列員ヘ配付セシメタリ。

左記

當警察部又ハ小畑岩次郎ヨリ差立申候人力車賃金ニ關シテハ保安課ノ認印ナキモノニ對シテハ御支拂無之樣御注意相成度此段通知申候也

京都府警察部

一、賃金ハ一日二人曳金四圓七拾五錢

一、一人曳金貳圓五拾錢

右ノ外大禮期間中宮內省及大禮使ヨリ人力車雇上方ニ付テ本府ニ依賴シ來レリ、依テ京都人力車聯合組合ニ命シ宮內省御用トシテ人力車七十五輛大禮使御用トシテ人力車百輛ヲ供給シタリ、而シテ御用車夫二百七十五人ニ對シ當部ニ於テ身元調査ヲ遂ケ傳染病患家附近ニ居住セサルモノニシテ素行善良ノ者ヲ選拔シテ之レヲ供給セリ。

第二節　車馬置場及取扱

大禮ニ關スル御所、二條離宮ニ於ケル參列員ノ車馬置場ニ付テハ當部ト協議ノ上馬車、自動車、人力車ノ車馬置場ハ大禮使ニ於テ、御着京當日還幸當日、京都停車場ニ於ケル奉迎奉送人ノ車馬置場ハ當部ニ於テ之レカ設備ヲ爲シタリ。

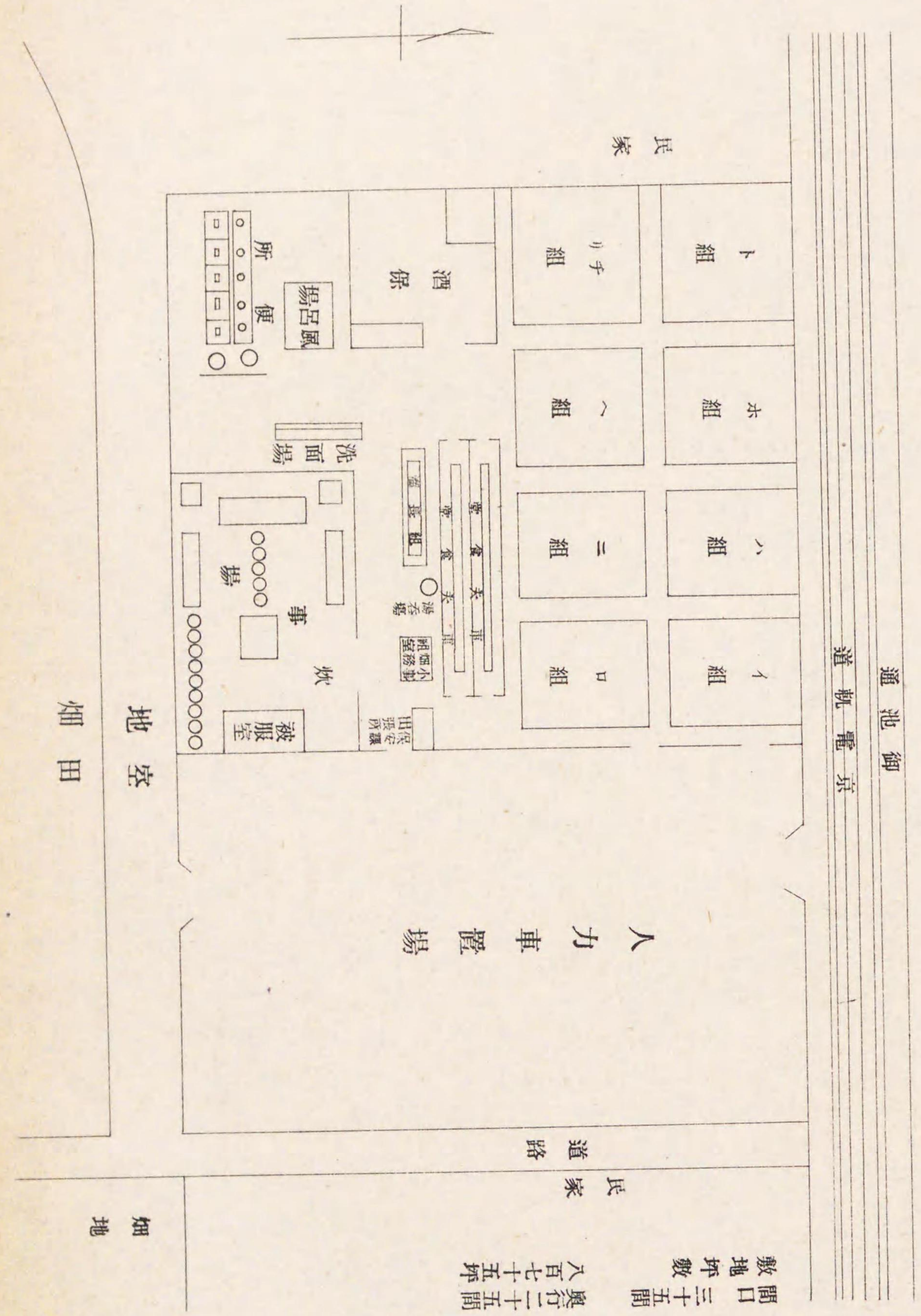
第一項　御所二條離宮ニ於ケル車馬置場及取締心得

第一　置場ノ設備

置場ニハ竹ヲ以テ高サ二尺ノ埒ヲ作リ區劃ヲ定メ、之レニ番號ヲ付シ番號ニ六臺乃至十八臺ヲ置クコトヽセリ。

從一位以上（白色券）御所西手　二十臺
馬車　四十臺
自動車　百九十二臺
人力車　自一號至十六號

一、御所ノ置場
甲、御卽位式當日及御神樂ノ儀當日
馬車自動車人力車總數二千二百六十四臺
內譯



（第三十號表）大禮參列員乘用人力車置場及車夫收容所車馬係出張所平面圖

勳一等以上（青色劵）清和院門通

馬　車（甲）　十臺

自動車（甲）　二十臺

人力車（い列）自一號至十一號　百四十臺

一等官以下（赤色劵）御所東手

馬　車（乙）　十臺

自動車（乙）　三十八臺

人力車（ろ列）自一號至十六號　百九十二臺

は列　自一號至十七號　二百四臺

に列　自一號至十三號　百五十六臺

ほ列　自一號至十四號　百六十八臺

へ列　同　上

と列　自一號至十三號　百五十六臺

ち列　自一號至十七號　三百六臺

り列　自一號至十六號　二百八十八臺

ぬ列　自一號至二十六號百五十六臺

乙、大嘗祭當日

馬車自動車人力車總數千百六十八臺

內　譯

勳一等以上（白色劵）仙洞御所南手

馬　車（甲）　二十臺

自動車（甲）　四十臺

人力車い列　一號至十二號　百二十臺

ろ列　自一號至三十六號二百十六臺

一等官以下（青色劵）仙洞御所南手

馬　車（乙）　十臺

自動車（乙）　五十臺

人力車は列　自一號至三十九號三百十二臺

に列　自一號至十四號　百四十臺

ほ列

へ列　自一號至十五號　同　上　百二十臺

二、二條離宮

馬車自動車人力車總數二千六百二十八臺

內　譯

勳一等以上（白色劵）北馬場

馬　車　十五臺

自動車　五十臺

人力車　自一號至三十號　三百六十臺

一等官以下（赤色劵）南馬場及西馬場

馬　車　十臺

自動車　五十三臺

人力車い列　自一號至三十四號六百八十臺

ろ列　自一號至三十號　五百四十臺

は列　自一號至三十五號四百二十臺

に列　自一號至五十號　五百臺

第二　取扱心得

（イ）一般事項

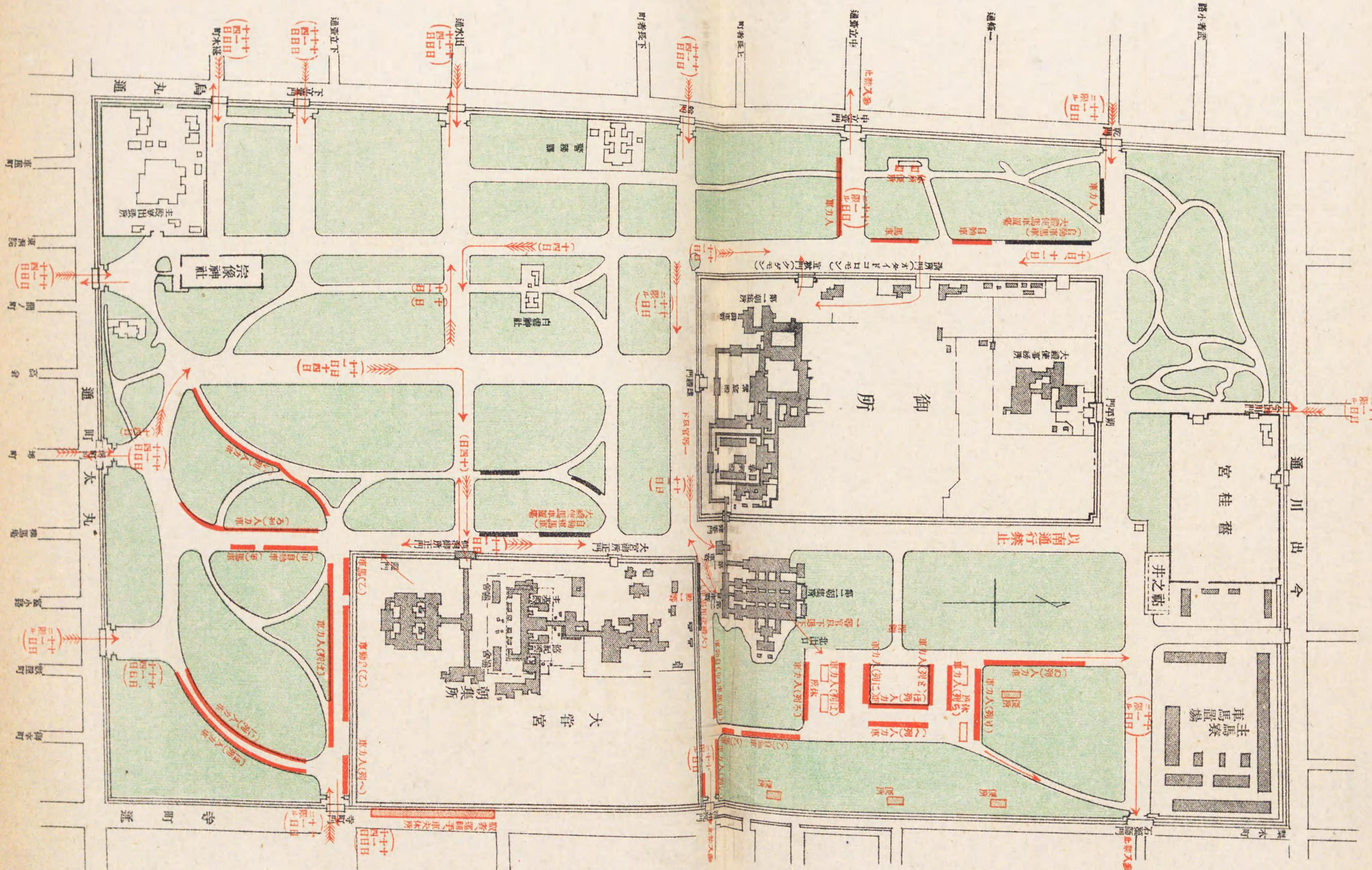
一、大禮使用自動車ニハ自動車番號ヲ附スヘキ場所ニ「大禮使」ノ記號ヲ附シ且ツ「ヘツドライト」及「サイドライト」ニ外賓用ニ在リテハ紅線一般大禮使用ニ在リテハ縁線ヲ入ル

大禮使用人力車ハ一定ノ法被（襟ニ「大禮使」ト染抜キ脊ニ白絞袖ニ白筋ヲ附ス）ヲ着用スル車夫ヲシテ之ヲ曳カシム

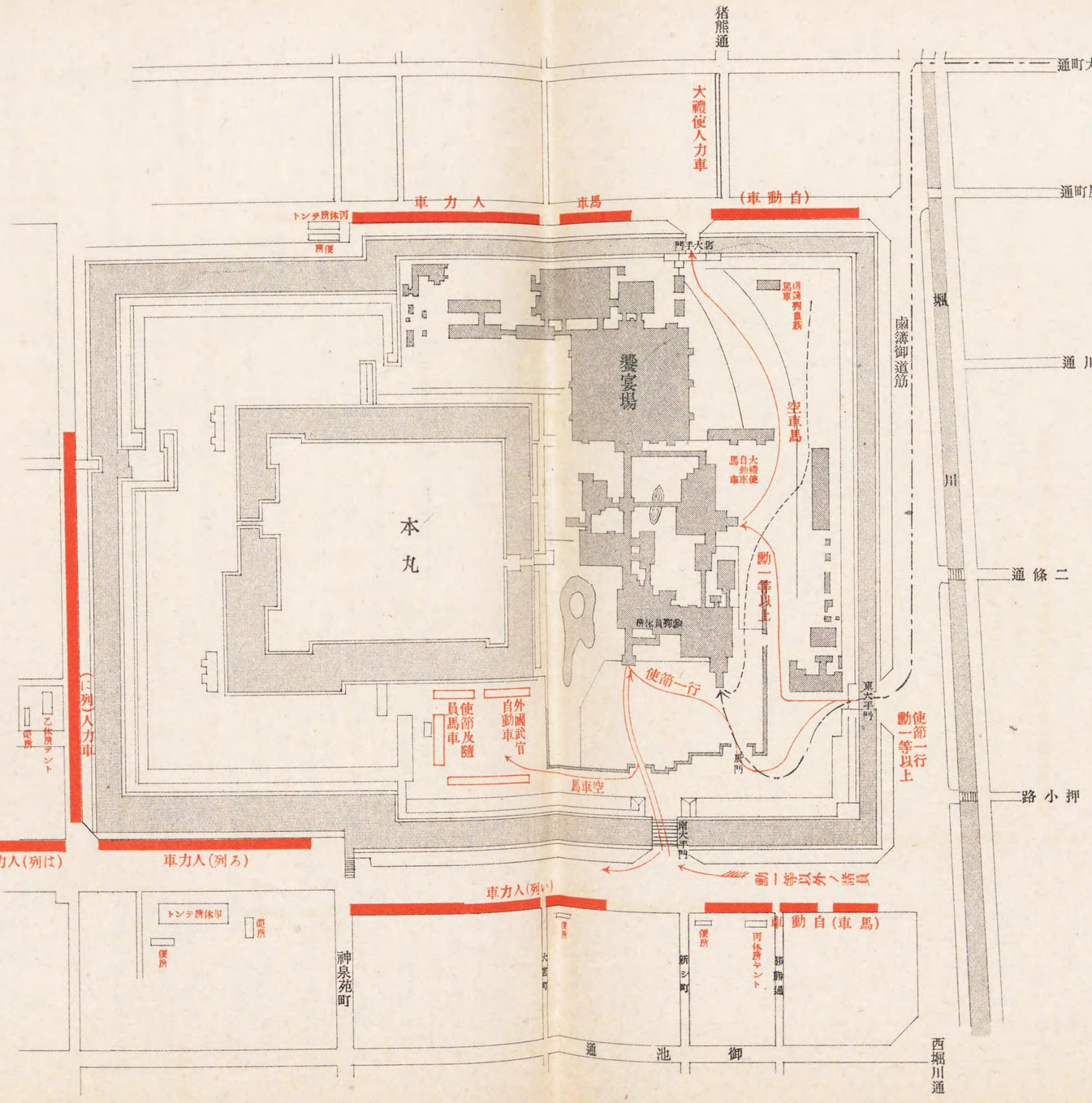
二、參列員ノ自動車、馬車及人力車ニ對シテハ別册第一車馬雛形ニ示スカ如ク各置場、番號ヲ記入セル札ヲ豫メ各參列員ニ交附シ各儀ニ參列ノ都度指定ノ車馬札ヲ各車馬ニ附着セシメ之ヲ一般民衆ノ車馬ト區別シ易カラシムルハ同時ニ各車馬ノ置場ヲ標示シ之カ取扱ニ便利ナラシム

馭者、運轉手又ハ車夫ハ各自ノ車馬番號ヲ記入セル小札ヲ胸部ニ附着シ又參列員ハ之カ合札ヲ携帶シ互ニ各自ノ車馬又ハ車夫等ヲ認識スルニ容易ナ

（第二十一號表附圖一）
御所御苑廻リ車馬置場及車馬通行路指示



（第三十二號場）附圖二　二條離宮廻リ車馬置場



テシム

三、參列諸員ハ各儀ニ於テ車馬札注意事項ニ記入シ在ル如ク指定ノ車寄又ハ門口迄乘入ルコトヲ得

大勳位以下勳一等以上約三百名ノ參列員ニ限リ儀式後退下ノ際一定ノ車寄又ハ門口ニ於テ各乘車退出スルコトヲ得セシム

前項以外ノ諸員ハ指定ノ車寄又ハ出口ヨリ徒歩ニテ退出シ各自ノ車馬置場ニ至リ掛官ノ指示ニ依リ乘車退散スルモノトス此ノ場合ニ於テ降雨ノ節ハ各員ニ車寄又ハ出口ニ於テ大禮使ヨリ雨傘ヲ貸與シ乘車ノ節ハ各之ヲ車置場ニ殘サシム

四、卽位禮當日(十一月十日)大嘗祭當日(十一月十四日)大饗第二日及大饗夜宴(十一月十七日)ノ各儀ニ於テ自動車、馬車ニ限リ一旦歸還セシメ諸員退下前一定ノ時刻迄ニ指定ノ方面ヨリ置場ニ就クコトヲ許ス、

人力車ニ在リテハ何レノ儀式ノ日ニ於テモ參列員ヲ下シタル後ハ直ニ置場ニ就キ以後退下ノ際ニ至ル迄之ヲ任意ニ置場外ニ曳出スコトヲ許サス、

五、馭者、運轉手及車夫ハ待合中大嘗祭當日ニ在リテハ寺町門外ノ休所ニ退キ休息シ一切御苑内ニ在ルヲ許サス其ノ他ノ諸儀ニ於テハ休所(天幕)又ハ各自ノ車馬内ニ於テ注意休息スルコトヲ得ルモ附近ヲ隨意徘徊スルコトヲ禁ス、

六、大勳位以下勳一等以上ノ諸官ノ車馬ノ取扱ニ從事スル掛官ハ右諸員退下ニ先タチ豫メ車寄又ハ門口ニ於ケル大禮使役員ト連絡ヲ保チ自動車、馬車人力車ノ順序ヲ以テ別册第二席次表ニ依リ概ネ各員ノ席順ニ車馬ヲ列序セシメ大禮使役員ノ呼出ニ依リ逐次ニ車寄ニ進出セシムルモノトス、

七、置場札ヲ携帶セサル車馬アルトキハ人力車ニ在リテハ最終ノ列ノ便宜ノ所ニ之ヲ取纏ムヘシ、自動車、馬車ニ在リテハ適宜列末ニ位置セシムヘシ

八、馭者、運轉手又ハ車夫中負傷又ハ發病シタル者アルトキハ車馬置場ノ掛官ハ當人ノ車馬番號札ヲ檢シ之ヲ車寄ニ於ケル大禮使役員ニ通告スヘシ、

九、外國使節、其ノ隨員及外國武官ノ各儀參列ニ要スル車馬ハ總テ宮内省若クハ大禮使ノモノヲ以テ之ニ充ツ、

各儀ニ參列ノ節外國使節及其ノ隨員ハ馬車、外國武官ハ自動車ヲ供用ス、

十、人力車置場ニ入力車ヲ、自動車、馬車置場ニ自動車、馬車ヲ排列スル要領ハ附圖三、同四、同五ノ如シ、

十一、卽位禮、賢所御神樂、大嘗祭各當日御苑内車馬置場ハ附圖ノ如シ

十二、大饗第一日、同第二日、同夜宴ノ儀當日二條離宮外車馬置場ハ附圖二ノ如シ、

十三、各儀ニ於ケル參列員自動車、馬車、人力車ノ各置場區分ハ別册車馬置場一覽表ノ如シ

(ロ) 外國使節、隨員及外國武官ノ馬車

其一　卽位禮當日(十一月十日)

一、使節及隨員ノ馬車

使節ハ當日賢所大前ノ儀ニ參列ノ爲メ午前八時二十分ヨリ同五十分ノ間ニ逐次建禮門ヨリ入リ御車寄ニ至リテ下乘參入ス

右ノ空馬車ハ宣秋門ヨリ退出シ主馬寮車馬置場ニ至リ休息シ午前十時二十分頃清所門ヨリ入リ(御所内掛官ト連絡ヲ保チ)逐次御車寄ニ至リ使節ノ乘用準備ヲ爲ス賢所大前ノ儀終リタルトキハ使節ハ午食ノ爲メ各旅館ニ歸還シ午後一時五十分ヨリ同二時二十分ニ至ル間ニ於テ再ヒ同一道筋ヲ取リ御車寄ヨリ參入ス此際隨員ハ別ノ馬車ニテ使節ニ附隨シ參入ス(賢所大前ノ儀ニハ隨員ハ參列セス)空馬車ハ午前ト同樣一旦主馬寮車馬置場ニ至リ休息シ午後三時三十分頃午前同樣掛官ト連絡ヲ保チ途次御車寄ニ進出使節ノ乘用準備ヲ爲ス退出路ハ參入路ニ同シ

二、外國武官ノ自動車

外國武官ハ紫宸殿ノ儀ニノミ參列ス、該武官ノ乘レル自動車ハ午後一時五十分頃ヨリ同二時二十分頃ニ至ル間ニ於テ逐次清所門(御溝所門)ヨリ乘リ入レ右ヘ宣秋門内車寄ニテ下乘シ空自動車ハ同門ヨリ退出シ一旦大禮使自動車置場ニ至リ休息シ御所内ニ掛官ト連絡ヲ保チ午後三時半頃同車寄ニ至

ヶ武官ノ乗用準備ヲ爲ス退出ノ際ハ宣秋門ヨリ出ツルモノトス

其　二　大饗第一日（十一月十六日）

一、使節及隨員ノ馬車

使節及隨員ハ大饗第一日ノ儀ニ參列スル爲メ午前十一時二十分頃ヨリ同五十分頃ニ至ル間ニ於テ二條離宮東大手門、唐門ヲ經テ第一車寄ニ參着ス

該馬車ハ使節一行下乘後南大手門ヨリ出テ右ヘ指定ノ置場ニ至リ休息シ式終了後掛員ノ指示ニ依リ午後零時五十分頃列ヲ整ヘ逐次同車寄ニ至リ乘用準備ヲ爲ス退出ノ通路ハ參入ノトキニ同シ

二、外國武官ノ自動車

右ハ使節一行ト同一通路ヲ經テ同一車寄ニ參着ス

空自動車ノ置場及其ノ退下ノ際ニ於ケル行動ハ前項ニ準ス

車寄ニ自動車ヲ準備スル時期ハ使節ノ馬車ノ總テ車寄ヲ去リタル直後トス

其　三　大饗第二日
大饗夜宴（十一月十七日）

一、使節ノ馬車

當日使節ハ午後五時二十分頃ヨリ同五十分頃迄ニ二條離宮ニ參着ス

馬車ノ通路及其ノ置場前日ニ同シ但シ當日馬車ハ使節一行下乘セハ直ニ南大手門ヨリ出テ主馬寮車馬置場ニ至リ休息ス

使節ハ大饗第二日ノ儀ヨリ引續キ夜宴ノ儀ニ列シタル後各退下スヘキニ付豫メ掛官ト連絡ヲ保テ退出前馬車ヲ一旦置場ニ準備シ列ヲ數ヘ掛官ノ指示ヲ俟テ車寄ニ逐次進出スルモノトス其ノ時刻ハ午前十一時半頃トス

二、隨員及外國武官ノ馬車、自動車

當日隨員及武官ハ大饗夜宴ニノミ召サル

車馬ノ通路及其ノ置場等使節ノ馬車ニ同シ

參着時刻ハ午後八時トス

退下ノ節隨員ノ馬車ハ使節ノ馬車ニ附隨スルモノトス

（ハ）參列諸員ノ車馬

其　一　卽位禮當日（十一月十日）

一、大勳位以下從一位以上諸官（百六十八名）ノ車馬

右諸員ハ各車馬券記載ノ心得ニ依リ當日午前八時迄ニ指定ノ御苑入口ヲ經テ清所門ニ乘リ入レ、宣秋門内第一朝集所車寄ニ參着ス

空車馬ハ宣秋門ヨリ出テ指定ノ置場ニ就クモノトス但シ自動車、馬車ハ必要ニ依リ乾門ヲ經テ退出歸還シ午後三時迄ニ同門ヲ經テ各指定ノ置場ニ就ク

各員退下ノ節ハ第一、（一般事項）ニ記載ノ要領ニ依リ豫メ自動車、馬車、人力車ノ順序ヲ以テ概ネ席次ニ依リ列ヲ整ヘ逐次清所門ヨリ入リ宣秋門ノ車寄ニ進ミ乘車シ宣秋門ヲ經テ退出スルモノトス

二、勳一等以下諸員（千五百二十名）ノ車馬

右諸員ハ當日午前七時半迄ニ第二朝集所（御所東側）ニ參着ス

勳一等（九十八名）ノ諸員ハ第二車寄ヨリ參入シ其ノ他ノ諸員ハ第一車寄ヨリ參入ス其乘入口及道筋等ハ總テ車馬券記載ノ心得ニ依ル

空自動車、空馬車ニシテ歸還スルモノハ總テ清和院門ヨリ退出シ午前三時迄ニ同門ヨリ入リ各置場ニ就ク

退下ノ際勳一等ノ諸員ハ自動車、馬車、人力車ノ順序ヲ以テ逐次第二車寄ヨリ乘車退出ス（總テ清和院門ノ方向ニ退出スルヲ禁ス）右以外ノ諸員ハ總テ第二朝集所北出口ヨリ徒歩ニテ各車馬置場ニ至リ乘車退出スルモノトス

其　二　賢所御神樂（十一月十一日）

參列諸員參集所及車馬ノ置場等ニ關スルコトハ總テ前日ニ同シ但シ當日ハ自動車、馬車モ亦一旦歸還スルコトナク退下ノ節迄人力車同樣待合スルモノトス

參列員參着時刻ハ第一朝集所、第二朝集所トモ午後三時ニシテ各退下ノ時刻ハ凡ソ同六時頃トス

其　三　大嘗祭當日（十一月十四日）

一、大勳位以下勳一等以上（二百六十六名）及其ノ他ノ參列諸員（五百七十八名）ノ車馬

右諸員ハ車馬券記載ノ心得ニ依リ當日午後五時五十分迄ニ仙洞御所正門ニテ下乘シ朝集所ニ參入ス

一、大勳位以下勳一等以上諸員（二百六十六名）ノ車馬

右諸員ハ當日二條離宮東大手門ヨリ乘入レ塀ニ沿ヒ右ニ入リ午前十一時迄ニ第二車寄ニテ下乘參入ス

空車馬ハ北大手門ヨリ出テ指定ノ置場ニ就ク退下ノ道筋ハ前項ニ同シ

二、勳一等以上ヲ除キタル諸員（五百七十二名）ノ車馬

右諸員ハ當日二條離宮南大手門（右側通行）ヨリ乘リ入レ午前十一時迄ニ第一車寄ヨリ參入ス

空車馬ハ同通路（右側通行）ヲ取リ南大手門外ニ出テ各置場ニ就ク

退下ノ際右諸員ハ徒歩ニテ第一車寄ヨリ出テ置場ニ至リ乘車退出ス

當日ハ自動車、馬車ノ一時歸還スルヲ許サス退下ノ節迄人力車同樣待合スルモノトス

ヲ下乘シ朝集所ニ參入ス

服者、運轉手及車夫ハ各自ノ空車馬ヲ各指定ノ置場ニ就カシメタル後寺町門外ノ休所ニ至リ休息シ翌早朝掛官ノ指示ニ依リ置場ニ至リ乘車準備ヲ爲スモノトス

自動車、馬車ニシテ歸還ヲ要スルモノハ總テ堺町門ヨリ退出シ翌十五日午前三時半迄ニ同門ヨリ入ル

同所ノ掛官ハ一旦右空自動車、馬車ヲ門内便宜ノ所ニ集合シ仙洞御門正門ニ於ケル大禮使役員ノ指示ヲ俟テ各置場ニ就カシムルモノトス（主基ノ儀式終了次第空自動車、空馬車ヲ置場ニ就カシムル爲メ内外相當ノ連絡ヲ要ス）

二、勳一等以上諸員ハ退下ノ節仙洞御所正門ヨリ乘車退出スルニ付キ置場掛官ハ前諸儀式ニ於ケル場合ト同樣自動車、馬車、人力車ノ列次ヲ豫メ整フルヲ要ス

右以外ノ諸員ハ仙洞御所正門南方ノ脇門ヨリ徒歩退出シ各車馬置場ニ至リテ乘車退出スルモノトス

其　四　大饗第一日（十一月十六日）

一、大勳位以下勳一等以上諸員（二百六十六名）ノ車馬

右諸員ハ當日二條離宮東大手門ヨリ乘入レ塀ニ沿ヒ右ニ入リ午前十一時迄ニ第二車寄ニテ下乘參入ス

空車馬ハ北大手門ヨリ出テ指定ノ置場ニ就ク退下ノ道筋ハ前項ニ同シ

退下ノ際ニ於テハ車馬ノ繰出シハ前諸儀ノ場合ニ準ス

二、勳一等以上ヲ除キタル諸員（五百七十二名）ノ車馬

右諸員ハ當日二條離宮南大手門（右側通行）ヨリ乘リ入レ午前十一時迄ニ第一車寄ヨリ參入ス

空車馬ハ同通路（右側通行）ヲ取リ南大手門外ニ出テ各置場ニ就ク

退下ノ際右諸員ハ徒歩ニテ第一車寄ヨリ出テ置場ニ至リ乘車退出ス

當日ハ自動車、馬車ノ一時歸還スルヲ許サス退下ノ節迄人力車同樣待合スルモノトス

其　五　〔大饗第二日
大饗夜宴（十一月十七日）

一、大饗第二日ノ儀參列諸員（百名）ノ車馬

右諸員ノ車馬參入ニ關スルコトハ總テ大饗第一日ノ場合ニ同シ但自動車、馬車ニ限リ一時歸還セシメ夜宴終了前午後十一時頃迄ニ各置場ニ就カシム

二、大饗夜宴ノミニ參列スル諸員（約二千四百名）ノ車馬

右諸員ハ當日午後八時迄ニ二條離宮ニ參著ス勳一等以上諸員及右以外ノ諸員ニ分チ各別ノ通路及車寄ヲ經テ參入方大饗第一日ノ場合ニ同シ但當日自動車、馬車ニ限リ一旦歸還シ午後十一時迄ニ置場ニ就カシムルコトヲ許ス

第三　車馬ノ切符

大禮使ニ於テ左記樣式（第三十三號第三十四號第三十五號第三十六號表參照）ノ如ク白青赤（大嘗祭及大饗當日ノ分白赤ノミ）ノ合札ヲ作リ豫メ之ヲ參列員ニ交付シ、參列員ハ其一半ヲ携帶シ他ノ一半ヲ取者、運轉手又ハ人力車夫ニ交付シ、之等ノ者ハ切符面ノ番號ニ依リ各置場ニ至リ警察官ノ指揮ニ從ヒ車馬ヲ置クコトヽセリ

（第三十二號表）　白色券ノ式

（表　面）

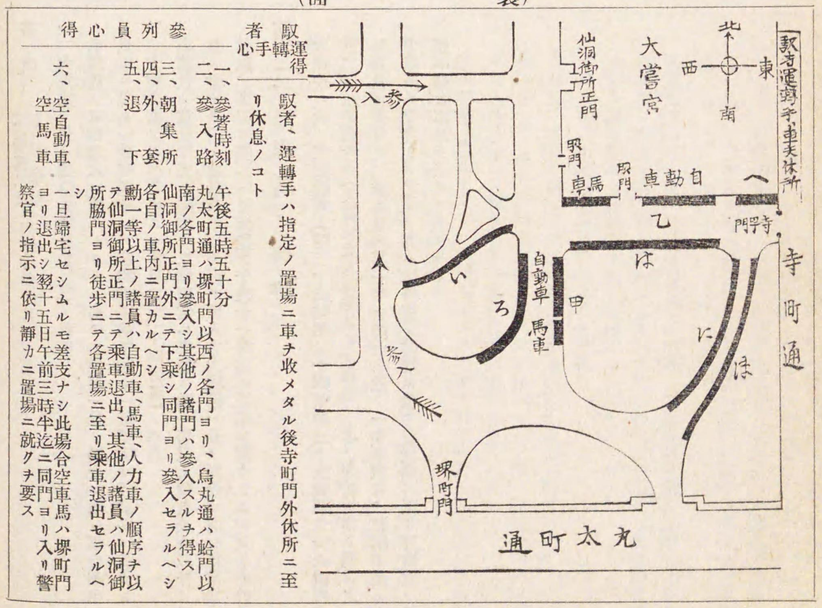
大嘗祭（十一月十四日）
馬車　甲　一
（參列員ハ本札ヲ携帶セラルヘシ）
（馭者、運轉手ハ此面ヲ表トシ本札ヲ其胸ニ縫付クヘシ）

馬車　甲　一
大嘗祭（十一月十四日）
（此面ヲ表トシ車ノ前方ヨリ見易キ所ニ本札ヲ結付クヘシ）

大嘗祭（十一月十四日）
馬車　甲　一

參列員氏名

（裏　面）



馭者、運轉手ハ指定ノ置場ニ車ヲ收メタル後寺町門外休所ニ至リ休息ノコト

參列員心得

一、參著時刻　午後五時五十分
二、參入路　丸太町通ハ堺町門以西ノ各門ヨリ、烏丸通ハ蛤門以南ノ各門ヨリ參入シ其他ノ諸門ハ參入スルヲ得ス
三、朝集所　仙洞御所正門外ニテ下乘シ同門ヨリ參入セラルヘシ
四、外套　各自ノ車内ニ置カルヘシ
五、退下　自動車、馬車、人力車ノ順序ヲ以テ仙洞御所正門ニテ乘車退出、其他ノ諸員ハ仙洞御所脇門ヨリ徒歩ニテ各置場ニ至リ乘車退出セラルヘシ

馭者、運轉手、車夫休所ハ指定ノ置場ニ車ヲ收メタル後寺町門外休所ニ至リ休息ノコト

車夫心得

一、參著時刻　午後五時五十分
二、參入路　丸太町通ハ堺町門以西ノ諸門ヨリ、烏丸通ハ蛤門以南ノ各門ヨリ、其他ノ諸門ハ參入スルヲ得ス
三、朝集所　仙洞御所正門ニテ下乘シ同門ヨリ參入セラルヘシ
四、外套　各自ノ車内ニ置カルヘシ
五、退下　自動車、馬車、人力車ノ順序ヲ以テ仙洞御所正門ニテ乘車退出、其他ノ諸員ハ仙洞御所脇門ヨリ徒歩ニテ各置場ニ至リ乘車退出セラルヘシ

六、車　乘車ヲ要スル者ハ其時ニ至ル迄各自ノ車ヲ指定ノ置場ニ在ラシムヘシ

六、空自動車　一旦歸宅セシムルモ差支ナシ此場合空車ハ堺町門ヨリ退出シ翌十五日午前三時半迄ニ同門ヨリ入リ警察官ノ指示ニ依リ靜カニ置場ニ就クヲ要ス

（第三十四號表）　白色券ノ式

（表　面）

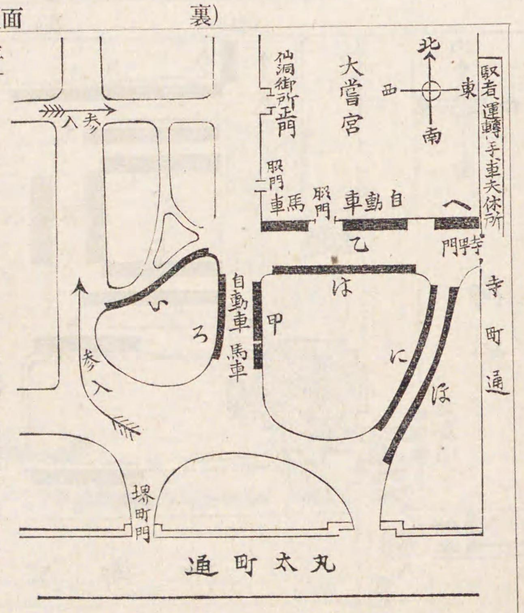
大嘗祭（十一月十四日）
人力車　い　一號ノ一
（車夫ハ此面ヲ表トシ本札ヲ其胸ニ縫付クヘシ）
（參列員ハ本札ヲ携帶セラルヘシ）

人力車　い　一號ノ一
大嘗祭（十一月十四日）

（此面ヲ表トシ車ノ前方ヨリ見易キ所ニ本札ヲ結付クヘシ）
大嘗祭（十一月十四日）
人力車　い　一號ノ一

參列員氏名

（裏　面）



馭者、運轉手ハ指定ノ置場ニ車ヲ收メタル後寺町門外休所ニ至リ休息ノコト

車夫心得

一、參著時刻　午後五時五十分
二、參入路　丸太町通ハ堺町門以西ノ諸門ヨリ、烏丸通ハ蛤門以南ノ各門ヨリ、其他ノ諸門ハ參入スルヲ得ス
三、朝集所　仙洞御所正門ニテ下乘シ同門ヨリ參入セラルヘシ
四、外套　各自ノ車内ニ置カルヘシ
五、退下　自動車、馬車、人力車ノ順序ヲ以テ仙洞御所正門ニテ乘車退出、其他ノ諸員ハ仙洞御所脇門ヨリ徒歩ニテ各置場ニ至リ乘車退出セラルヘシ

六、車　乘車ヲ要スル者ハ其時ニ至ル迄各自ノ車ヲ指定ノ置場ニ在ラシムヘシ

（第二十五號表）　青色又ハ赤色ノ券ノ式

（表　面）

賢所御神樂（十一月十一日）

人力車　い一號ノ一

（參列員ハ本札ヲ携帶セラルヘシ）

（車夫ハ此面ヲ表トシ本札ヲ其胸ニ縫付クヘシ）

人力車　い一號ノ一

賢所御神樂（十一月十一日）

（此面ヲ表トシ車ノ前方ヨリ見易キ所ニ本札ヲ結付クヘシ）

賢所御神樂　（十一月十一日）

人力車　い　號ノ一

參列員氏名

參列員心得

一、參著時刻　午後三時

二、參入路　丸太町通ハ各門ヨリ、烏丸通ハ鉾門以南ノ各門ヨリ、寺町通ハ寺町門ヨリ參入シ其他ノ諸門ハ參入スルヲ得ス

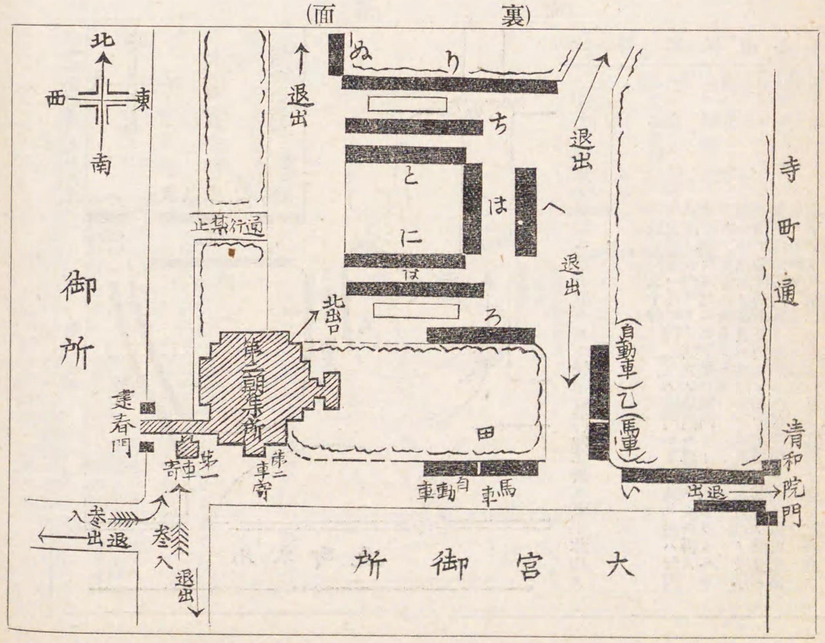
三、朝集所　勳一等ノ諸員ハ第二車寄、其他ノ諸員ハ第一車寄ヨリ第二朝集所ニ參集セラルヘシ

四、外套　各自ノ車内ニ置カルヘシ

五、退下　勳一等ノ諸員ハ自動車、馬車、人力車ノ順序ヲ以テ第二車寄ニテ乘車、其他ノ諸員ハ朝集所北出口ヨリ徒歩ニテ車置場ニ至リ乘車セラルヘシ

六、車　退下ノトキ乘車ヲ要スル者ハ其時ニ至ル迄各自ノ車ヲ指定ノ置場ニ在ラシムヘシ

（裏　面）



（第二十六號表）　青色又ハ赤色券ノ式

（表　面）

大饗第一日（十一月十六日）

馬　一

車　一

（參列員ハ本札携帶セラルヘシ）

（馭者、運轉手ハ此面ヲ表トシ本札ヲ其胸ニ縫付クヘシ）

馬　一

車　一

大饗第一日（十一月十六日）

（此面ヲ表トシ車ノ前方ヨリ見易キ所ニ本札ヲ結付クヘシ）

大饗第一日（十一月十六日）

馬　一

車　一

參列員氏名

參列員心得

一、參著時刻　午前十一時

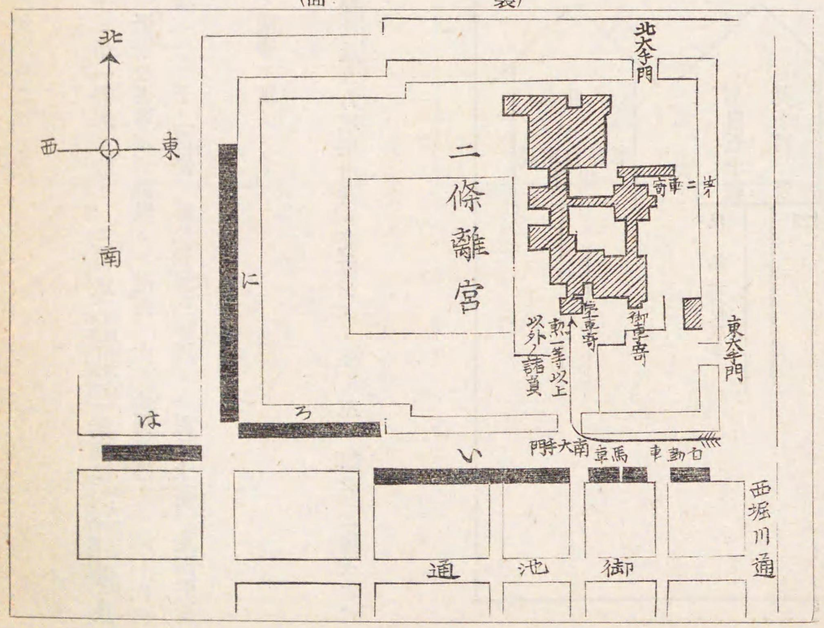
二、參入口　南大手門（右側通行）ヨリ乘リ入レ第一車寄ニテ下乘參殿セラルヘシ

三、外套　各自ノ車内ニ置カルヘシ

四、退下　第一車寄ヨリ徒歩ニテ退出シ各自ノ車置場ニ至リ乘車セラルヘシ

五、車　退下ノトキ乘車ヲ要スル者ハ其時ニ至ル迄各自ノ車ヲ指定ノ置場ニ在ラシムヘシ

（裏　面）



第二項　京都停車場ニ於ケル車馬置場及取扱心得

第一　置場ノ設備

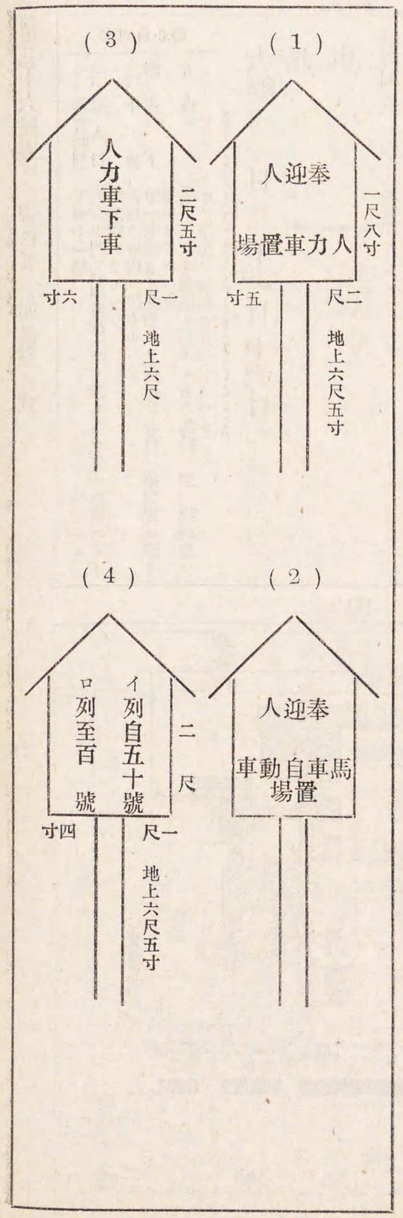
人力車置場ハ京都停車場構内巡査派出所ノ西方溝渠ノ北手ニ第一置場ヲ設ケ、三哲通（不明門高倉通以東以西）東洞院（三哲通以北七條通以南）及間ノ町通七條下ル道場跡（市内圓山長樂寺所有地）ニ第二置場ヲ設ケ、第一置場及道場跡ノ置場ニハ地面ニ太キ藁繩ヲ張リステープニテ之ヲ固着セシメ以テ各列區劃ヲ定メタリ、而シテ第一置場ニハ一千二百臺、第二置場三哲通ニハ百二十臺、東洞院通ニハ百八十臺、道場跡ニ四百三十臺ヲ置クコトヽセリ。

馬車自動車置場ハ京都停車場構内巡査派出所ノ西方溝渠ノ南手ニ定メタリ。

第二　車馬置場ノ標札及人力車ノ合札

車馬置場ノ位置ヲ明カナラシムル爲メ現場ニ建設シタル標札及人力車乘用者ニ交付シタル合札左ノ如シ。（第三十七號表、第三十八號表參照）

（第三十七號表）合札左ノ如シ



（第三十八號表）

（主人用）

口列	九六號
裏面ニ注意	

（人力車用）

口列	九六號
裏面ニ注意	

指定置場ニ至リ係員ノ指示ニ從ヒ乘車セラルヽコト

一指定置場ニ就クコト及置場ヨリ乘出スコト等總テ係員ノ指示ニ從フヘシ

一待合中置場外ニ出ルヲ禁ス

第三　車馬取扱心得

（一）京都停車場ニ於ケル奉迎奉送者等ノ馬車自動車人力車ハ左ノ場所ニ置ク

第一停車場構内巡査派出所ノ西北方

第二東洞院通三哲通及道場跡

（二）第一置場ノ車ハ東西ニ并ヘ「イロハ」順ニ依リテ十二列ニ區別シ各列ニ百輛トス但シ必要ニ應シテ其數ヲ增ス

（三）各列五十輛毎ニ標札ヲ建テ車ノ所在ヲ明ニス

第三項　平安神宮及八阪倶樂部ニ於ケル車馬置場及取扱心得

十一月十八日京都市招待會ヲ平安神宮境内ニ、同晩餐會ヲ八阪倶樂部内ニ開設ス、招待ヲ受クルモノ皇族、外國使節、大禮使職員、宮内省關係者及大禮參列員ニシテ其數約三千餘人、之レカ招待者乘用ノ車馬置場ヲ設クルノ必要アリ、當部ニ協議ノ上市役所ニ於テ之レカ施設ヲナシタリ、而シテ車馬置場ヲ廣道通、應天門通、冷泉通、武德會本部境内等ニ、晩餐會ノ場合ニハ八阪倶樂部境内及建仁寺境内ニ設ケ、置場ノ區域ニ對シテハ一時交通遮斷ヲ行ヒタリ、車馬ノ取扱ニ關シテハ御所二條離宮等ニ於テ大禮使カ爲シタル方法ニ則リタルモノナリ。

第三節　車馬置場取締ニ從事スル警察官

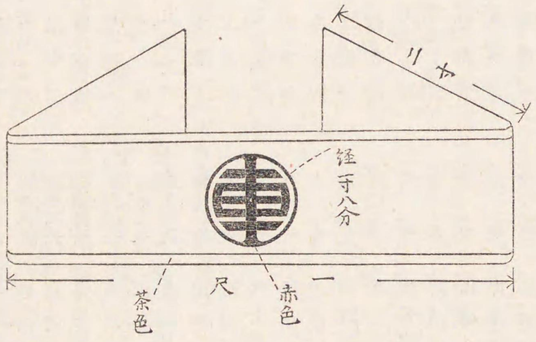
第一　車馬係徽章ノ制定

車馬置場ノ取締及人力車供給ニ關スル事務ニ從事シタル警察官ニハ一般警備警察官ト識別スル爲メ左腕ニ左ノ徽章ヲ纏付セシメタリ。

（四）人力車乘用者ニハ適當ノ場所ニ於テ置場ノ切符ヲ交付シ乘用者ト人力車輓夫トニ各其一半ヲ携帶セシムルモノトス但シ第二置場ニ置ク者ニ對シテハ之ヲ交付セス

（五）切符ハ各列一名以上ノ係員ヲ充テ互ニ聯絡シ可成其數ノ偏セサル樣ニ交付スルヲ要ス

（六）乘車ハ各自置場ニ於テ爲サシムルモノトス切符ヲ有セサル乘用者ニ對シテモ亦同シ



品質白地羽二重

第二　車馬係幹部ノ氏名

係長	警部	小寺儀太郎	警部	藤原佐々重	
	警部	遠藤至道	警部	堤　齊次郎	
	警部補	宮川　肇	警部補	棚橋易義	
	警部補	田瀧大作	警部補	船越彌七	
	警部補	高木鶴雄	警部補	八木芳三郎	

第三　車馬取扱ノ練習

十月二十四日二十五日両日ニ於テ車馬置場取締ニ關スル事務ノ打合ノ爲メ車馬係幹部員ヲ召集シ諸般ノ協議ヲナシ實地御苑内二條離宮七條停車場ノ車馬置場ノ指定地ヲ視察セリ、十一月二日幹部員一同ハ更ニ御苑内二條離宮ノ車馬置場ヲ視察シ、十一月三日取締ニ從事スル巡査部長以上ヲ召集シ警部補ト共ニ實地ニ臨ミ車馬取扱ニ關スル練習ヲナシタリ、而シテ同月四日又取締ニ從事スル巡査百名ヲ各巡査部長ニ分配シ、各受持ニ於ケル車馬置場ニ於テ取扱上ノ説明ヲ與ヘ、實地取扱ノ練習ヲ行ヒタリ、其取締ニ從事セシ巡査ノ氏名左ノ如シ。

巡査部長	田畑金吉	巡査部長	北尾市之助
巡査部長	矢野弓之助	巡査部長	寺師盛利
巡査部長	吉川豐三	巡査部長	蘆田代作
巡査部長	增田市藏	巡査部長	大泉　進
巡査部長	松原兵一	巡査部長	市田佐七
巡査部長	遠藤　剛	巡査部長	森本祐吏
巡査部長	須山松太郎	巡査部長	畑　吉之丞
巡査	宮本善六	巡査	山田永治
巡査	川上次郎	巡査	西田忠義
巡査	中島辰次郎	巡査	村上彌四郎
巡査	岩田廣作	巡査	增田重治
巡査	鹿島寅吉	巡査	赤松六郎
巡査	黒宮銃一	巡査	奥藤信一郎
巡査	中島直範	巡査	谷　天心
巡査	松本孝太郎	巡査	室伏駒太郎
巡査	岡本龜太郎	巡査	岡田兵三
巡査	田中藤平	巡査	川崎茂吉
巡査	谷本頴祐	巡査	山本五郎
巡査	竹岡清一	巡査	濱崎榮藏
巡査	大崎平五郎	巡査	山本寅一
巡査	甲本　勇	巡査	關野英彦
巡査	田中清一郎	巡査	田口三之助
巡査	弃淵廣司	巡査	壺井定次郎
巡査	内藤嘉助	巡査	布田讓磨
巡査	川勝義信	巡査	大槻文吉
巡査	大寄鴻雲	巡査	仲原重吉
巡査	阪東久右衞門	巡査	小倉芳之助
巡査	津田利三郎	巡査	翁　勝利
巡査	北野吏一	巡査	宮永恒治
巡査	利田新作	巡査	片山猶次郎
巡査	灰川三郎	巡査	小寺政之助
巡査	布口馬之助	巡査	高木　保
巡査	皆川德次郎	巡査	井上熊太郎
巡査	岡田角太郎	巡査	小田原直記
巡査	井手雄一	巡査	北林常太郎
巡査	柴田恒雄	巡査	阪本彌吉
巡査	石川長吉	巡査	今大路孝太郎
巡査	海老瀨秀太郎	巡査	今井林七
巡査	田村房次郎	巡査	小田嘉之助
巡査	桐山種次郎	巡査	山口福三郎
巡査	野田秀次郎	巡査	辻田信次
巡査	梅原豐藏	巡査	柴田榮次郎

第四　取扱ヒタル車馬ノ數

車馬係巡査カ實際取扱ヒタル車輛數ヲ調査スルニ左ノ如シ。

(一)	御着京當日(七日)	自動車三十輛、馬車七輛、人力車八四五輛	
(二)	御卽位式當日(十日)	自動車五七輛、馬車二四輛、人力車一、七八一輛	
(三)	御神樂當日(十一日)	自動車五六輛、馬車二三輛、人力車一、七八九輛	
(四)	大嘗祭當日	自動車三四輛、馬車七輛、人力車七八八輛	
(五)	大饗第一日(十六日)	自動車五六輛、馬車九輛、人力車七〇七輛	
(六)	地方供饌當日(十六日)	自動車三輛、馬車一輛、人力車四六〇輛	
(七)	大饗第二日夜宴(十七日)	自動車七二輛、馬車一〇輛、人力車一、七九九輛	
(八)	京都市招待會(十八日) 八坂倶樂部	自動車四五輛、馬車五輛、人力車一、五七二輛 自動車三七輛、馬車二〇輛、人力車五〇輛	
(九)	還幸當日(二十七日)	自動車二七輛、馬車八輛、人力車二七〇輛	

右ノ外伏見桃山御陵御親謁當日(二十五日)取扱ヒタル人　車百十九輛自動車七輛ナリキ

巡査	後藤宗次	巡査	市村倉之助
巡査	早川房吉	巡査	市成三郎
巡査	植村秀之助	巡査	栗倉榮槌
巡査	後藤要藏	巡査	前田淺吉
巡査	寺本清次郎	巡査	渡邊　順
巡査	位田義雄	巡査	足立小平
巡査	磯野芳雪	巡査	梅田忠治
巡査	越後儀作	巡査	桑畑儀作
巡査	石田保之助	巡査	伊達市治
巡査	井上庄太郎	巡査	出口長三郎
巡査	福岡宗太郎	巡査	小笠原　勝七
巡査	吉村宣弘	巡査	加治木福太郎
巡査	要　源吉	巡査	大野島吉
巡査	西野牧太郎	巡査	竹井伊七
巡査	渡邊　誠	巡査	巽　增治
巡査	慶松彦一		

計　百十五名

第五　車馬係規程

第一條　車馬係ハ左ノ職員ヲ以テ之ニ充ツ

警部五人、警部補五人、巡査部長十人、巡査百人

第二條　車馬係ハ大禮ニ關シ左ノ事務ヲ掌ル

一、各儀式當日參列員大禮事務關係者及奉送迎者乘用ノ馬車自動車及人力車置場ニ於ケル取締ニ關スル事項

二、依頼者ニ對スル人力車ノ供給ニ付指定請負人ノ監督ニ關スル事項

第三條　各當日警部中上席者ヲ以テ係長トス

第四條　係長ハ係員ノ配置ヲ定メ及取締上ノ指揮ニ任スルモノトス

第五條　警部、警部補、巡査部長及巡査ハ係長又ハ各上官ノ指揮ヲ受ケ其任務ニ從事スルモノトス

第六條　車馬係員ハ左ノ各項ニ注意スヘシ

一、諸車ノ切符ニ關スル事項

（1）卽位禮（十日）及卽位禮後一日賢所御神樂ノ儀（十一日）ノ場合

（一）從一位以上ノ諸員白札

（二）勳一等ノ諸員青札

（三）右以外ノ諸員赤札

（2）大嘗祭（十四日）及大饗（十六日、十七日）ノ場合

（一）勳一等以上ノ諸員、白札

（二）右以外ノ諸員赤札

（3）以上（1）（2）ノ場合ニ於ケル參列員ノ外ハ切符ノ制ナシ

（4）切符ハ大禮使ヨリ豫メ參列員ニ交付シ參列員ハ乘車ノ際其一半ヲ馭者、運轉手、車夫等ニ交付スルモノトス

二、諸車ノ置場及出入口ニ關スル事項

（1）卽位禮（十日）及卽位禮後一日賢所御神樂ノ儀（十一日）ノ場合

（一）從一位（白札）以上ノ諸員諸所門ヨリ入ル車ハ宣秋門ヨリ出テ同門外ニ置ク

（二）勳一等（青札）ノ諸員第二朝集所第二車寄ニテ降車ス車ハ仙洞御所北手ニ置ク

（二）右以外（赤札）ノ諸員第二朝集所第一車寄ニテ降車シ仙洞御所北手ヲ通過シテ第二朝集所東北方ニ置ク

（2）大嘗祭（十四日）ノ場合

（一）勳一等（白札）以上ノ諸員仙洞御所表正門ニテ降車ス車ハ同御所西南方ニ置ク

（二）右以外（赤札）ノ諸員右同所ニテ降車ス車ハ同御所南手及東南方ニ置ク

（3）大饗（十六日十七日）ノ場合

（一）勳一等（白札）以上ノ諸員東大手門ヨリ入ル車ハ北大手門ニ出テ北馬場ニ置ク

（二）右以外（赤札）ノ諸員南大手門ヨリ入リ同門ヨリ出ツ車ハ南馬場及西馬場ニ置ク

（4）京都驛奉迎送ノ場合

（一）烏丸通以東

同驛構內東方ノ一部、三哲通（東洞院以東）東洞院通及七條通道場跡間ノ條七條下ル等ニ置ク

（二）烏丸通以西

同驛構內西方ノ一部ニ置ク

三、諸車ノ待合セニ關スル事項

卽位禮（十日）卽位禮後一日賢所御神樂ノ儀（十一日）大嘗祭（十四日）及大饗（十六日十七日）ノ場合歸路使用ナキモノヲ除ク外ハ乘用者ノ退下迄一定ノ場所ニ於テ待合ハサシム

但大嘗祭（十四日）ノ場合ヲ除ク外ハ馬車、自動車ニ限リ乘用者ノ希望アルトキハ一時歸宅ヲ許ス

四、參列員ノ退下及乘車ノ順序

勳一等以上ノ諸員ハ其他位ニ應シ（一）自動車（二）馬車（三）人力車ノ順序ニ依ル

下位ニ在ル者ト雖モ自動車乘用者ハ馬車人力車乘用者ニ先タツ馬車ト人力車トノ關係亦同シ

五、參列員ノ退下口及乘車ノ場所

（1）乘車ノ場所

（一）勳一等以上ノ諸員ハ前項ノ順序ニ依リ門前又ハ門內ニテ乘車スルモノトス

（二）右以外ノ諸員ハ各日置場ニ到リテ乘車スルモノトス

（2）退下口

（一）卽位禮（十日）及卽位禮後一日賢所御神樂ノ儀（十一日）ノ場合

（イ）從一位（白札）以上ノ諸員清所門ニ車ヲ差廻ハス門內ニ於テ乘車シ宣秋門ヨリ出ツ

（ロ）勳一等（青札）ノ諸員第二朝集所第二車寄ニ車ヲ差廻ハス同所ニテ乘車ス

（ハ）右以外（赤札）ノ諸員同朝集所東北ノ出口ヨリ出テ置場ニ到ルモノトス

（二）以上何レモ建禮門前ヲ通行セシムヘカラス

（二）大嘗祭（十四日）ノ場合

（イ）勳一等（白札）以上ノ諸員仙洞御所表正門ニ車ヲ差廻ハス同所ニテ乘車ス南方ニ行カシムヘカラス

（ロ）右以外（赤札）ノ諸員仙洞御所表南穴門又ハ南西穴門ヨリ出テ置場ニ到ルモノトス

（三）大饗（十六日十七日）ノ場合

（イ）勳一等（白札）以上ノ諸員北大手門ヘ差廻ハス門內ニテ乘車シ同門ヨリ出ツ

（ロ）右以外（赤札）ノ諸員南大手門ヨリ出テ置場ニ到ルモノトス

第七條　車置場ハ別ニ圖面ヲ以テ明示ス

第五章　宿舍

第一節　宿舍ノ選定

大禮參列員ノ宿舍ハ最初普通民家ノミヲ以テ之ニ充ツルノ方針ニテ、內務部ニ於テ上下兩京區役所吏員ト協力シ調査ヲ遂ケタルモノ千有餘戶ニ上リシカ、貴衆兩院議員及府縣會議長等モ亦參列スルコトヽナリ其ノ數頗ル多キヲ加ヘシニ反シ、最初宿舍タルヲ快諾セシ民家中種々ノ事情ヲ訴ヘ承諾ヲ取消ス向モ尠カラス、然ルニ一方營業旅舘中之カ宿舍タルヲ希フ者多カリシヲ以テ市及附近郡部ニ於ケル旅舘ノ現狀ヲ調査セシ結果左ノ如シ。（第二十九號表參照）

（第三十九號表）　旅館調

等級	市郡	戸數	客室ノ等級	客室ノ數	客室ノ疊數	附屬室數	附屬室疊數
一等旅館	市部	五七	一等	二三四	一、七五七	八二	四二三
			二等	一四九	九一二	一〇	三八
			三等	七一	二七四	三	七
			小計	四五四	二、九四三	九五	四六八
	郡部	六	一等	二五	一九〇	—	—
			二等	二〇	一一七	—	—
			三等	一一	五〇	—	—
			小計	五六	三五七	—	—
	計	六三		五一〇	三、三〇〇	九五	四六八
二等旅館	市部	一一七	一等	三七〇	二、五二九半	四三	一五八
			二等	五〇七	三、〇二六	二七	九七
			三等	三五五	一、六八〇	一〇	三八
			四等	三三	一八五半	—	—
			小計	一、二六三	七、七二一	八〇	二九三
	郡部	一五	一等	五二	四一七	—	—
			二等	五七	三二三	—	—
			三等	二五	一一五半	—	—
			四等	三	三〇	—	—
			小計	一三七	八八四半	—	—
	計	一三二		一、四〇〇	八、六〇五半	八〇	二九三

等級	市郡	戸數	客室ノ等級	客室ノ數	客室ノ疊數	附屬室數	附屬室疊數
三等旅館	市部	五一八	一等	八九六	四、八五一半	二六	七九
			二等	一、一六四	一三、八六三半	二二	三六
			三等	一、五八三	六、九三八	一二	四〇半
			四等	一六八	九五九	—	—
			小計	三、八一一	二六、六一二	六〇	一五五半
	郡部	一一九	一等	一三九	八九〇	二	三
			二等	一五三	六六〇	二	四
			三等	三二四	一、八七七	二八	一四九
			小計	六一六	三、四二七	三二	一五六
	計	六三七		四、四二七	三〇、〇三九	九二	三一一半
通計		八三二		六、三三七	四一、九四四半	二六七	一、〇七二半

ホテル調

名稱	客室數
京都ホテル	一〇〇
都ホテル	一四〇
大佛ホテル	二二
也阿彌ホテル	一七
東洋亭ホテル	九
あづまやホテル	六
中村ホテル	三
計	二九六

備考　本表中郡部トアルハ伏見下鴨両警察署管内ノミヲ計上シタルモノナリ

一、二、三等ヲ通シテ八百三十二戸、六千六百零四室、四萬三千零十七疊ニ上リシカ、更ニ保安課及各警察署員両區役所幷宿屋組合員等ヲシテ左記事項ニ依リ實地調査ヲ爲サシメタル結果大禮參列員宿舍トシテ不都合ナシト認メラルヽモノ大約六百室ヲ得タリ。（第四十號表參照）

所在地		旅館名	氏名
門又ハ入口及玄關等ノ實景	最良、良、稍良	家屋ノ構造	最良、良、稍良
間取及疊數	階上、階下	電話架設	上中下番
浴場	上中下	洗面場	上中下
飲料水	上水引用　井水	庭園	坪數約上中下
待遇		備考	

（第四十號表）　大禮參列員等ヲ收容シ得ヘキ營業旅館ノ調査

管轄警察署	宿屋數	室數 特上	室數 上	室數 上ノ下	室數 計
川端	六	三	一六	二	二一
中立賣	一〇	七	二三	五	三五
上長者町	八	一〇	二八	四	四二
松原	三	二三	七七	四	一〇四

管轄警察署	宿屋數	室數 特上	室數 上	室數 上ノ下	室數 計
五等	九二	五〇	二六三	二四一	三三七
堀川	二三	九	七四	三	八六
七條	二五	二一	一〇三	一四	一三八
計	一八七	一二三	五八四	五六	七六三

備考　一、本表宿屋數ハ上等客室（卽チ本表ニ掲出セルモノ）ヲ有スルモノ而已ヲ計上ス

特上ハ門又ハ入口及玄關等ノ實況幷ニ家屋ノ構造良（上記調査標準）以上ニシテ浴場、洗面場ニモ中以上ノ設備ナルト上水ヲ引用シ電話ヲ架設シアルトヲ以テ要件トセリ。間取ハ階下トセハ庭園ニ面シ、二階以上ナルトキハ眺望、換氣採

光モ亦宜シキヲ得タル所ヲ以テコレニ充テタリ、疊數六疊内外ノ室ハ二、三疊以上ノ附屬室ヲ有シ、八疊以上ノ室ハ附屬室ナキモ可トシ、何レモ床押入等アリテ主賓ノ外ニ隨員一名位ヲ容レ得ヘク稀ニハ叙上ノ要件ヲ具備セサルモ特ニ清楚ニシテ雅致アル室ヲ選ヘリ。

上ハ六疊敷乃至八疊敷ノ室ニシテ床ヲ有シ疊建具等モ見苦シカラス庭園ニ面スルカ相當眺望アルカ否ラサルモ換氣採光等甚シク不良ナラサルモノヲ選ヘリ。

上ノ下ハ六疊敷内外ノ室ニシテ設備萬端ニ於テハ上ニ及ハサル點アルモ萬止ムヲ得サル場合ニハ上ノ補足トナルヘキモノヲ選ヘリ。

川端署部内上木屋町ハ席貸本位ナルト大學病院附近ハ入院患者ニ關係アル宿泊者多カルヘキヲ慮リ之ヲ省ケリ。

中立賣署部内澤文、柊屋、俵屋、松吉等ノ大旅館ハ行幸供奉員其ノ他宮内省關係ノ諸員ノ宿泊ニ充當セラルヽ豫定ナルヲ以テ又之ヲ除外セリ。

京都、都ノ両ホテルハ外國使節及其隨員ノ旅館ニ、其他也阿彌、大佛、中村、あづまや、東洋亭等ノ各ホテルハ外人ノ宿泊ニ充ツヘキモノト思料シ之ヲモ除キタリ。

而シテ其後内務部ニ於テ市及附近郡部ニ迄宿舍充當ノ民家借リ入レニ盡力セシヲ以テ前後通シテ普通民家千二百二十戸ヲ得、前記營業旅館ヲ合セテ實ニ千四百〇七戸ニ達セシカハ大禮使ヲ通シテ參列員ニ宿舍申込方ヲ通知シ、其ノ依頼ニ基キ割當テタルモノ及參列員自身ニ宿舍ヲ選ミ當府ヘ届出テラレシモノ等左ノ如シ。（第四十一號表參照）

（第四十一號表）　大禮參列員宿舍調

種別	市部		郡部			計
	上京區	下京區	愛宕郡	葛野郡	紀伊郡	
普通民家（當府割當自己決定）	三一七	四六三	一三	八	一五	五〇七
營業（當府割當自己決定）	五四	一五九	四七	三	二	二一〇
宿屋	三五	七四				
	一八三	一五六	一	一	一	三九九

種別	市部		郡部			計
	上京區	下京區	愛宕郡	葛野郡	紀伊郡	
自邸	一三	一	三	四	一	一八〇
計	一、一八	五五	八三	二四	四八	一、八三七

而テ前表ノ外特殊ノモノヲ擧クレハ

皇族御旅館	上京區河原町今出川下ル
伏見宮貞愛親王殿下	同
閑院宮載仁親王殿下	上京區烏丸中立賣下ル
東伏見宮依仁親王殿下	上京區南禪寺町谷川
伏見宮博恭王殿下	下京區智恩院山内
久邇宮邦彦王殿下	上京區荒神口東櫻町
梨本宮守正王殿下	上京區一條新町西入
朝香宮鳩彦王殿下	上京區室町竹屋町上ル
東久邇宮稔彦王殿下	下京區七條大和大路東入
北白川宮成久王殿下	上京區南禪寺町假山
竹田宮恒久王殿下	上京區油小路二條下ル
李埈公殿下	下京區間ノ町中珠數屋町下ル枳殻邸
外國使節宿舍	
露西亞大使及伊太利大使館	圓山公園
英國大使同隨員	烏丸夷川上ル
米國大使同隨員	河原町二條下ル
佛國大使	同
伯利西大使	同
西班牙大使	同
瑞典使節	同
支那使節	同
智利使節	同
白耳義使節	同
亞爾然丁使節	同
那威使節	同
和蘭使節	同
邏羅使節	同
丁抹使節	同
大臣宿舍	
内閣總理大臣宿舍	白川筋三條下ル
内務大臣宿舍	麩屋町姉小路下ル
外務大臣宿舍	河原町姉小路下ル東入
大藏大臣宿舍	南禪寺町谷川
陸軍大臣宿舍	八坂鳥居前
海軍大臣宿舍	御幸町三條上ル
司法大臣宿舍	三條粟田口
文部大臣宿舍	堺町竹屋町下ル
農商務大臣宿舍	竹屋町猪熊東入
遞信大臣宿舍	祇園下河原町
憲兵隊宿舍及護衛兵詰所	
伏見憲兵隊京都分置所	萬年寺堂町西入
憲兵宿舍	下寺町五條下ル
同司令官宿舍	蛸薬師富小路西入
憲兵宿舍	大宮蛸薬師下ル
歩兵聯隊本部	寺町廣小路上ル
騎兵隊本部	田中村
供奉近衛將校宿舍	衣笠村大字大北山
同	八木清八別荘
同	柊屋旅館
同	大澤善助
同	稻畑勝太郎
同	中村樓
同	松吉旅館
同	都ホテル
同	魯野作太郎
同	稻垣恒吉
同	川崎助太郎
同	本覺寺内
同	千切家
同	成圓寺内
同	清淨華院
同	智恩寺
同	柊屋別館

尚大禮園簿若ハ各儀ノ御式場跡拜觀ノ爲メ入洛スル團體ノ收容ニ便スル目的ヲ以テ京都幷伏見下鴨花園ノ各警察署部内ニ於ケル旅客ヲ收容シ得ヘク且其ノ設備アル社寺學校等ヲ調査シタルニ左ノ如シ。（第四十二號表參照）

（第四十二號表）社寺學校教會調査表

署別	神社	寺院	學校	教會	其他	室數	疊數
川端	一	三八	二	一		二八一	二、八八〇
中立賣	四	五四	八	二	一	六一一	五、〇八九
上長者町	二	一〇九	四	八	二	六三九	五、六一一
松原	四八	四八	四	二	二	二七五	二、一五二
堀川	三	九八	三	四	一	七一六	六、五八六 半六
五條	四	三八	一	四	三	二三一	二、三七五 半
計	一六	五二九	二〇	二九	八	一五三	一、二六五
						一九三	二〇一九
						一七七	一、六二〇
七條	一	二九	三	三	一	一七三	二、三一八
下鴨	一	二七	三	一			
花園		三〇					
伏見	一	五八					

第二節　係員勤務規程

宿舍ニ關スル係員勤務規程左ノ如シ

第一條　宿舍係ハ他ノ係員ト氣脈ヲ通シ大禮參列員及大禮使職員ノ宿舍ヲ警戒スルヲ以テ任務トス

但シ管轄警察署ト協力シ一般宿舍ノ取締ニ任スルコトアルヘシ

第二條　宿舍係長ハ係員中上席警部之ニ當リ係員ノ擔當事務ハ大約左表ニ依リテ係長之ヲ定ム（第四十三號表參照）

參列員若クハ大禮使職員三十人乃至五十人宿舍十五戶乃至二十五戶ヲ以テ一巡査ノ擔任トシ該擔任宿舍ノ存舍スル地域ヲ劃シテ何警察署部内第何號區域ト稱ス

第三條　宿舍係ノ事務所ハ警察部保安課ニ置キ左ノ書類ヲ備フ

一、日　誌

二、係員名簿

三、大禮參列員及大禮使職員宿舍一覽表

四、宿屋臺帳

五、臨時宿舍（寺院學校詰所等ヲ含ム）臺帳

六、宿舍關係書類綴

七、宿舍所在略圖

主任警部警部補巡査部長ハ係長ノ命ニ依リ前項事務所若ハ擔任區域管轄警察署ニ在リテハ宿舍ノ巡視及宿舍係巡査ノ監督ヲ爲スモノトス

第四條　宿舍係巡査ノ心得フヘキ事項左ノ如シ

一、本係員ハ制服（特ニ命令アルトキハ私服）勤務トシ特ニ言語動作ヲ愼ミ宿泊諸員ニハ固ヨリ舍主其ノ他ノ家人ニ對シテモ親切ヲ旨トシ苟モ權威ヲ弄シテ畏怖嫌忌等ノ念ヲ起サシムルカ如キコトナキヲ期スルコト

二、左記樣式ノ宿舍表及勤務表ヲ携帶シ每日午前及午後各一回以上適當ノ時間ニ於テ擔任區域内ノ宿舍ヲ巡回シ勤務表中相當欄ニ其ノ時間ヲ記入シ擔任監督者ヲ經テ翌朝事務所（第四十四號表第四十五號表參照）へ提出スルコト

三、擔任宿舍ニ異狀アルトキ若ハ宿泊諸員ニ於テ重大ナル疾病其ノ他ノ事故アルトキハ其ノ概要ヲ事務所及管轄警察署ニ即報スルコト

四、參列員乘用ノ車輛ハ豫メ準備ノ有無ヲ調査シ十一月五日迄ニ左表ニ依リ事務所ニ報告スルコト（第四十六號表參照）

五、參列員ノ着退京時間ハ敏速ニ聞知シ可成着發一時間前ニ事務所ニ報告スルコト

六、每日擔當區域内宿舍ニ於ケル宿泊人員數ヲ調査シ左表ニ依リ翌日午前九時迄ニ事務所ニ報告スルコト（第四十七號表參照）

（第四十三號表）宿舍係事務擔當表

係長	主任	補佐	擔任區域	擔任者 巡査部長	擔任者 巡査
			上長者町警察署部内	一	七
			中立賣警察署部内	一	一〇
			川端警察署部内	一	一〇
			松原警察署部内	一	一〇

警部一	警部二	警部補五		
			五條警察署部内	一 一〇
			堀川警察署部内	一 一〇
			七條警察署部内	一 一〇
			伏見警察署部内	一 一〇
			花園警察署部内	一 一〇
			下鴨警察署部内	一 一〇

（第四十四號表）　宿舍表　何署　第何號區域擔當巡査　氏名

大禮參列員大禮使職員	宿舍名	着京日時	退京日時

（第四十五號表）十一月　日　勤務表　何署部内第何號區域擔當巡査　何某

宿舍係	巡回時刻	事故（有リタルトキハ其件名及件數）
	午前	
	午後	

普通民家ハ參列員及大禮使職員ノ宿泊セルモノニ限ル社寺學校等團體宿泊者アルモノニ限ル

右係員勤務規程ヲ定ムルト同時ニ市部幷ニ伏見、下鴨、花園各警察署長ニ對シ左ノ通牒ヲ發セリ。

保第八〇七八號

大禮警衛本部警備部宿舍係勤務規程別紙ノ通相定メ警部補以上ノ係員ハ左ノ通ニ有之候條相互氣脈ヲ通シ大禮使職員及大禮參列員宿舍ノ警戒上遺憾ナキヲ期セラルヘク尚ホ擔任區域受持巡査ノ勤務上ニ就テハ相當便宜ヲ與フルト共ニ必要ニ應シテ監督ヲ加ヘラルヽ樣致度此段及通牒候也

大正四年十月二十七日

警察部

（第四十六號表）　參列員乘用車輛調

參列員氏名	宿舍名	乘用車輛別
		十月七日
		同十日
		同十一日
		同十四日
		同十六日
		同十七日
		同十八日
		同廿七日

備考　馬車ハ（馬）自動車ハ（自）京何號、人力車ハ小畑岩次郎請負ノモノハ（イ）特約專用車ハ（ト）宿舍ヨリ提供スルモノハ（ヤ）ト各符號ヲ以テ標記シ置クコト

（第四十七號表）　何月何日　宿泊人員調　何署部内第　號

宿舍種別	戸數	投宿數	出發數	滯在數
普通民家				
宿屋				
社寺學校諸所等				
計				

第三節　關係警察官吏

宿舍係員警察官ノ氏名及擔當區域ハ左記ノ如シ。（第四十八號表參照）

係長　警部　小寺儀太郎
警部　藤原佐々重
警部補　小林仙藏
警部補　乾政吉

（第四十八號表）　大禮宿舍係擔當區域表

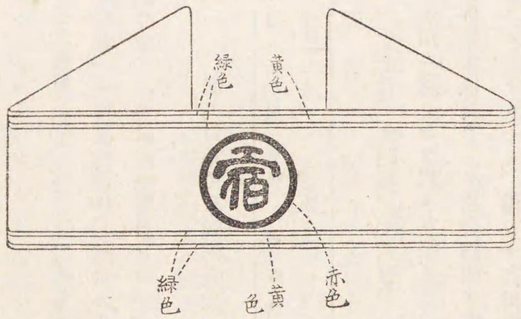
署名	警部補巡査部長	擔當區域巡査	氏名
川端警察署部内	今田松茂	一號	高林久太郎
同	松本常作	二號	吉谷鐵藏
同		三號	丸尾光治
同		四號	松崎吉兵衛
同		五號	小俣慶藏
同		六號	長谷川義順
同		七號	井上清次
同		八號	宮下豐次郎
同		九號	坂本次二郎
同		十號	武田熊司
同		十一號	菊岡昌幸
同		十二號	今海秀次郎
同		十三號	小林常次郎
同		一號	井田貞四
同		二號	井上音一

署名	警部補巡査部長	擔當區域巡査	氏名
同	中立賣警察署部内	三號	黒坂信行
同	小林仙藏	一號一	藤原德太郎
同	乾政吉	一號二	小川久一
同	近澤清重	二號	松田外次郎
同	中野萬次郎	三號	田部福三
同		四號一	雨林鹿麿
同		四號二	曾根明順
同		五號	萩原安藏
同		六號	藤田兼次郎
同		七號一	加里啓三郎
同		七號二	田中淺太郎
同		八號	朝子廣治
同		九號	宮田武市郎
同		十號	荒木乙吉
同		十一號	富永家彰

主任　警部　遠藤至道
補佐　警部補　船路彌七
警部補　白波瀨慶藏
警部補　今田松茂

同	十三號一	蒲田 鶴雄	五條警察署部内	一號 大槻彌一郎
同	十三號二	尾松 菊藏	同	二號 梅田作次郎
同	十三號一	田中熊之助	白波瀬鹿藏	三號 加地木賢助
同	十三號二	川北 忠吉	田中長藏	四號 日俣孫助
同	十三號外	横田 賢		五號 伊藤眞道
同	十四號	増田 治助		六號 岡島豐治
上長者町花園	一號	林 益藏		七號 高野政次郎
同	二號	芦田順三郎		八號 蹉川 敏
同	三號	永島勇吉		一號 大和常藏
同	四號	松田太七		二號 國分研一郎
同	五號	前田 清		三號 大本岩七
同	六號	齋藤龜次郎		四號 橋口尙喜
同	六號ノ一	桑島 萬吉		五號 並川高芳
松原警察署部内	一號	内藤泰次郎		六號 富岡林藏
同	二號	中村鍔造		七號 平岡仁之助
同	三號	三和七藏	庶務	慶松彦一
同	四號	矢野涙一	同	渡邊 誠
同	五號	西野傳治	同	巽 勘治
同	六號	山本與三郎	同	折田源次郎
堀川警察署部内	一號	星原喜作	七條伏見署部内	一號 大槻彌一郎
同	二號	清水佐夫	同	二號 梅田作次郎
同	三號	細見儀左衞門	同	三號 加地木賢助
同	十三號一	蒲田 鶴雄	同	四號 日俣孫助
同	十三號二	尾松 菊藏	同	五號 伊藤眞道
同	十三號一	田中熊之助	同	六號 岡島豐治
同	十三號二	川北 忠吉	同	七號 高野政次郎
同	十三號外	横田 賢	同	八號 蹉川 敏
同	十四號	増田 治助	京都停車場前京都府出張所日勤務	一號 大和常藏
上長者町花園	一號	林 益藏	同	二號 國分研一郎
同	二號	芦田順三郎	同	三號 大本岩七
同	三號	永島勇吉	同	四號 橋口尙喜
同	四號	松田太七	同	五號 並川高芳
同	五號	前田 清	同	六號 富岡林藏
同	六號	齋藤龜次郎	同	七號 平岡仁之助
同	六號ノ一	桑島 萬吉	庶務	慶松彦一
松原警察署部内	一號	内藤泰次郎	同	渡邊 誠
同	二號	中村鍔造	同	巽 勘治
同	三號	三和七藏	同	折田源次郎
同	四號	矢野涙一		
同	五號	西野傳治		
同	六號	山本與三郎		
堀川警察署部内	一號	星原喜作		
同	二號	清水佐夫		
同	三號	細見儀左衞門		

雛形



寸法　同上

宿舍係警察官ハ他ノ警衛員ト識別スルニ便ナルカ爲メ且ハ宿舍訪問ノ際ニ於ヲ宿舍主ノ感情如何ヲ慮リ上記雛形ノ徽章ヲ左腕ニ纏付セシメタリ。

第四節　係員執務狀況

十月二十六七ノ兩日係員タル警部補以上ノ打合會ヲ府廳内大禮事務室ニ開キ勤務方法等ヲ討議シ、同二十一日係員中ノ那部各署在勤者ヲ召集シ、松原通大宮西入ル專求寺ニ合宿セシム。

十一月一日幹部員ヲ會シ部署及執務上ニ關シ大要左ノ如キ協議ヲ爲シタリ

イ、巡査ノ執務時間ヲ午前八時ヨリ午後六時迄トシ毎日勤務トス

ロ、勤務時間外過勤ヲ爲サシメタルトキハ過勤手當ヲ支給スルコトヽス

ハ、府ニ於テ編纂シタル大禮參列員、其他關係諸員旅舘名簿ヲ基礎トシ、市內七警察署ノ區域ニ、花園警察署管內ノモノハ上長者町署區域ニ、下鴨警察署管內ノモノハ川端警察署區域ニ編入ス

ニ、參列員宿舍中ニハ旅人宿以外ニ參列員自身宿舍主ト隨意契約シタルモノト當府ヨリ宿舍主ニ交涉シ宿舍ト指定シタルモノトノ二樣アリ、此二者ニ對シ警察取締上營業者ト同一ノ方法ヲ以テ臨ムハ宿舍主ノ感情ヲ傷フノミナラス用車輛ヲ調查セシメシニ御着京當日ノ分ハ左ノ如キ數ヲ示セリ。

延テ參列員ニ不快ノ念ヲ生セシムル虞アルヲ以テ、係員ハ親切丁寧ヲ旨トシ、言語動作ヲ愼ミ、接待員ノ意味ニ於テ執務セシムルコトヽス

十一月二、三ノ兩日ヲ以テ警部補以下ノ係員ニ於テ大禮參列員及大禮使職員宿舍一覽表幷宿舍所在略圖ノ作成ヲ了シ、四日午前八時係員一同ヲ廳內判任官食堂ニ集メ、係長ヨリ勤務上ノ心得方ヲ訓示ス、同月四、五ノ兩日ヲ費シ參列員乘

參列員乘用車輛調查表

特約專用	宿屋提供	小畑請負	自動車	馬車	未定	計
一五三	二〇三	二九	五四	一六	一六四	八二三

爾後十日、十一日、十四日、十六日、十七日、十八日、二十七日、等ニ於ケル所要車輛數ハ各其ノ前日ニ於テ調查報告セシモ煩ニ過クルヲ以テ省略ス

十一月五日各擔當係員ヲシテ宿舍訪問ヲ開始セシメ、同二十七日迄特殊ノ命令ナキ限リハ規程ニ定ムル方法ヲ以テ每日警戒ニ從事スルコトヽセリ、而シテ吉田中野兩巡查部長ハ擔任區域監督ノ餘暇五日以後隔日ニ京都停車場前京都府出張所ニ詰切リ接待係員ノ車輛供奉等ニ對シ便宜ヲ與フルコトニ努メタリ。

十一月七日　聖上京都着御當日ハ全員午前六時ヨリ午後五時迄交代簿御通過御道筋ノ警衞警備ニ從事シ午後六時以後ニ於テ本係員トシテノ常務ニ復セリ。

參列員乘用人力車ノ供給ヲ請負ヒタル小畑岩次郎ヲシテ請負車輛數ノ調查上手違ナカラシメンコトヲ期シ、御卽位大禮御當日ノ前夜九日午後十時ヨリ總員御池通千本西ヘ入ル神泉苑町ナル車馬係出張所ニ集合シ、車馬係員ト協力シテ徹宵車輛ノ差立ニ從事シ、翌十日午前六時ヨリ各擔當區域內ノ各宿舍ニ就キ車輛ノ着否ヲ檢シ、參列時間ノ切迫スルモ差立車輛未着ノ向ニ對シテハ便宜其供給ニ力メ以テ定刻（午前八時）迄ニ參列員ヲシテ京都御所ニ參着セシムルヲ得タリ。

御卽位大禮當日ニ於ケル差立人力車ノ參列員宿舍ニ到着スルコトノ甚タ遲カリシヨリ乘用者ニ不安ノ念ヲ感セシメシコト勘カラサリシニ鑑ミ其翌十一日特ニ左（一）ノ通牒ヲ發シ乘用者ノ不安ノ念ヲ除却セシメタリ、次テ乘用車賃錢收受上ノ監督ヲ爲スノ要アルヲ慮リ、十二日左ノ（二）ノ通牒ヲ發シテ調查セシムル等各自熱心其ノ事ニ盡セシカハ一々乘用者ニ便セシノミナラス、車輛供給上ニ關スル批難ノ幾分ヲ緩和スルニ至レリ。

（一）　左記日時ニハ參列員左記場所ニ集合スヘク車馬係ヨリ人力車ヲ派遣スルニ付宿舍係員ハ定刻（參集スル）一時間前迄ニ受持區內ヲ一週シ人力車配布行屆キ居ルヤ否ヤヲ調查シ未着ノ向アラハ急速車馬係ニ交涉シ不都合ナキ樣相當便宜ヲ與フルコトニ相成度候

車馬係出張所（小畑ノ事務所）電話上 四、五七五番　四、五七六番

係員殿

宿舍係長　小寺警部

左記

十一月十四日	午後四時二十分	大嘗祭	
同　十六日	正午	大饗第一日	京都御所
同　十七日	午後六時	大饗第二日	二條離宮
同　十七日	午後九時	大饗夜宴	同
同　十八日	午前十時	京都市招待	同
			平安神宮

十一月十八日　午後五時　京都市招待　八坂倶樂部

(二)　大禮參列員乘用者ニシテ十一月七日以降ニ於テ小畑岩次郎ヨリ供給シタルモノ、自ラ命シタルモノ、又ハ宿舍係及警察署等ヨリ供給シタルモノ、引繼キ使用セシヤ否ヤヲ左表ニヨリ調査ヲ遂ケ上記括弧内ノ事由ハ備考欄ニ記入シ十三日午後五時迄ニ報告相成度此段及通牒候也

大正四年十一月十二日

各係員殿

宿舍係長　小寺警部

十一月　日　警察署巡査　氏名　㊞

大禮參列員乘用車調査表

參列者ノ氏名	宿所氏名	七日	八日	九日	十日	十一日	十二日	備考
何某	何町上ル又ハ下ル氏名	二人	一人	×二人・一人				
計								

記載例　臨時供給シタル人力車ハ表中ニ朱●點ヲ、乘用者自ラ命シ若クハ宿舍ヨリ命シタルモノハ×點ヲ付スヘシ、宿舍係員ニ於テ臨時供給シタル人力車ハ輓夫ノ氏名住所幷ニ乘客氏名ヲ別紙ニ記載シ添付スヘシ

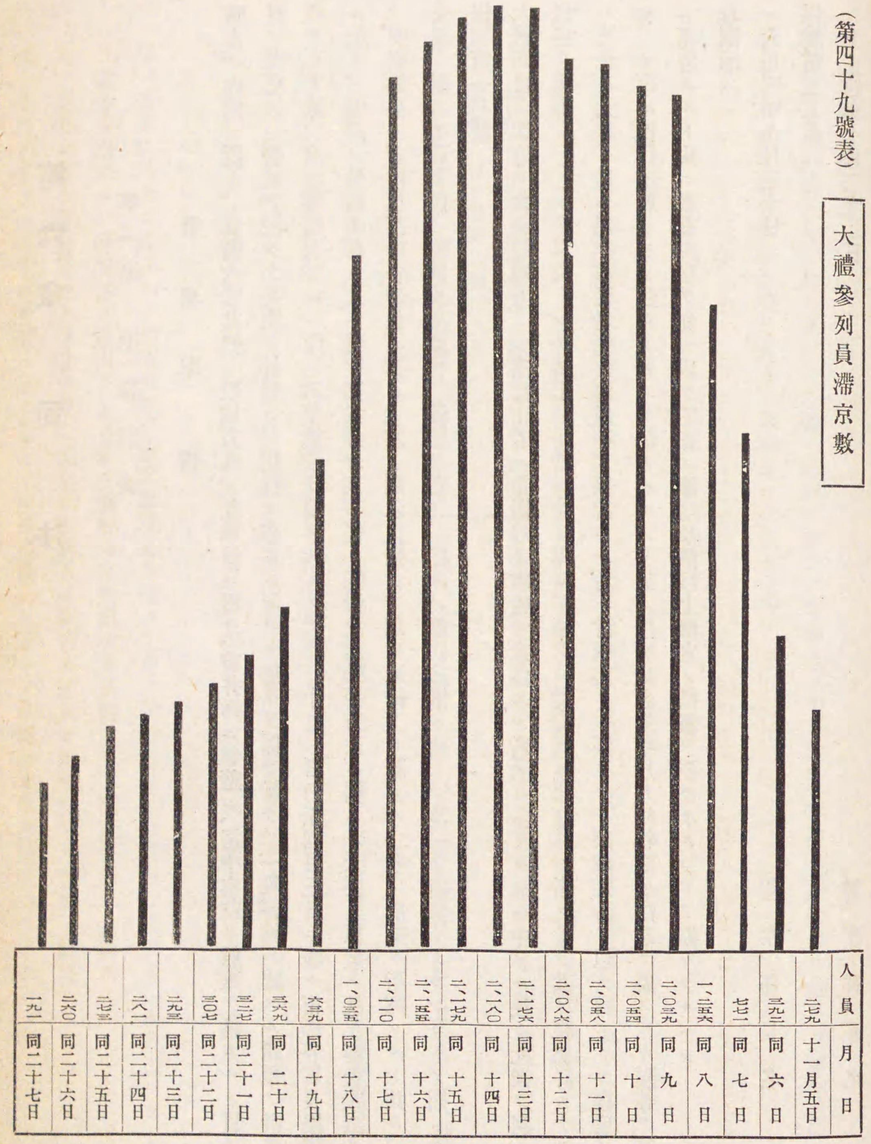
(註)參列者ノ氏名及宿所氏名ハ第一欄日付ノ上部ニ記入ノ事。

十一月十四日……大嘗祭當夜……午後五時警部補以下ノ係員全部ヲ府廳中庭ニ集メ主任警部ヨリ同夜ノ勤務法ヲ告ケ擔任區域内ノ宿舍ニ對シ徹宵火災ノ警防ニ從事シ十五日午前六時ニ至ル迄繼續シタリ。

係員ノ大部分ハ警衞警備ニ盡セシ外宿舍係トシテ日ハ終日夜ハ終夜煩雜ナル職務ニ執掌シタリ、參列員中ニハ大ニ其ノ勞ヲ多トシ揮毫等ヲ寄セラレタル人モアリタリ。二十七日　陛下御還幸後勤務ヲ解キ翌二十八日大禮各儀ノ式場ヲ拜觀ノ上夫々歸任セシムルニ至レリ。

本係員ノ宿舍警戒ニ從事セシ二十二日間ニ於ケル滯京參列者ノ數ヲ左表ニ示ス。(第四十九號表參照)

(第四十九號表)　大禮參列員滯京數



人員	月日
二七九	十一月五日
三九二	同六日
七二一	同七日
一、二五六	同八日
二、〇三九	同九日
二、〇五四	同十日
二、〇五八	同十一日
二、〇八六	同十二日
二、一七六	同十三日
二、一八〇	同十四日
二、一七九	同十五日
二、一五五	同十六日
二、一一〇	同十七日
一、〇三五	同十八日
六三九	同十九日
三六九	同二十日
三二七	同二十一日
三〇七	同二十二日
二九三	同二十三日
二八一	同二十四日
二七三	同二十五日
二六〇	同二十六日
一九二	同二十七日

第六章　司法

第一節　準備計畫

第一項　準備

曩古ノ大禮ニ際シ、貴顯大官其他一般地方人ノ往來日ニ滋ク、市井爲ニ雜踏シ、洛中空前ノ殷賑ヲ極ムルノ日ニ方リ、不良ノ輩巧ミニ警戒ヲ侵シテ其間ヲ徘徊シ、犯行ヲ恣ニスルコト無キヲ保シ難シ。一般警備ニ關スル諸種ノ計畫固ヨリ多種ナリト雖、刑事警察上特ニ一段ノ考察施設ヲ要スルモノアリ。十月一日乃至同月三日ニ渉ル市郡各署長協議會ノ席上ニ於テ、他課ノ警衞事務ト共ニ警察部幷各署刑事係ノ配置及其勤務方法ニ關スル大要ノ原案ニ就キ審査凝議スル處アリ。警察部長ハ市内及接續各署長ニ對シ、左ノ訓示ヲ發シ、刑事取締上ニ關スル一般ノ計畫ヲ指揮スルト共ニ、警察部保安課ニ屬スル刑事係ノ配置及其勤務ノ概要ヲ定メ、犯罪ノ豫防檢索ニ關シ、萬一ノ遺策ナカランコトヲ期シタリ。

保訓第一七號

大禮期日ノ切迫ト共ニ他地方ヨリ京都市若ハ市附近ノ町村ニ來住スル者漸ク多キヲ加ヘ中ニハ往々此機ヲ利シ不正ノ利益ヲ獲得センコトヲ目的トシテ轉來スル者ナキヲ保セス就テハ此際新ニ來住スル者ニシテ其ノ經歷詳カナラサル者ハ至急身元調ヲ爲シ犯罪被疑者視察内規等ニ該當スル者ハ當然其ノ手續ヲナシ該被疑者ヲ以テ目スヘキ程度ノ者ニ非サルモ苟モ性行不良ニシテ注意ヲ要スト認ムルモノハ其ノ住所氏名生年月人相特徴及注意ヲ要スヘキ點等ヲ記シ當部ニ報告スルト共ニ嚴重視察ヲ加ヘ以テ不正ノ豫防及摘發上機宜ノ措置ヲ誤ラサルコトヲ期セラルヘシ

右訓示ス

大正四年九月二十日

警察部長名

保訓第二二號

大正四年十月二十二日

警察部長名

市内及伏見警察署長

大禮期間中ハ多數ノ入洛者ヲ見ルヘク從テ犯罪モ著シク增加スヘキカ故ニ之カ豫防幷檢擧ニ付テハ深甚ノ注意ヲ以テ左記取締事項及刑事取扱事項ヲ遵守シ遺憾ナキヲ期セラルヘシ

右訓示ス

左記

第一　刑事取締事項

一、停車場、電車停留場、遊廓内等雜沓ノ場所ハ掏摸常習犯人增加スル虞アリ特ニ嚴重取締ヲ爲スコト

二、假出獄人、前科者等ノ刑事要視察者ニ對スル行動ヲ特ニ注意シ犯罪ノ豫防警戒摘發ヲ怠ラサルコト

三、山窩乞丐其他無宿浮浪ノ徒等ニシテ平素神社堂宇墓所等ニ宿リ窃盜ヲ爲ス疑ヒアルカ如キ者ニ對シテハ豫メ之カ檢索ヲ行ヒ取締ヲ勵行スルコト

四、貴顯紳士ノ邸宅及旅館等ニ對シテハ邸鄽師忍ビ、等ノ被害ナキ樣注意シ尚其不在ヲ窺ヒ其宅ニ至リ種々ナル口實ヲ設ケ金錢物品ヲ强請詐取スル者ナキ樣取締ルコト

五、入洛中ノ地方人ヲ欺キ諸種ノ贋造物ヲ賣付ケ不當ノ代價ヲ要求シ或ハ物品ノ押賣ヲ爲シ其他强談威迫ノ行爲ヲ以テ不正ノ利得ヲ得ントナスモノナキヲ保セス注意取締ヲ爲スコト

六、インチキ師、土砂流、蜂追其他富籤類似ノ射倖的行爲ノ取締ヲ嚴ニスルコト

七、平素贓品ノ取扱ヲナス疑ヒアル質屋古物商ハ勿論屑物買又ハ貴金屬商ノ如キモノニ對シ此際特ニ視察ヲ周到ナラシムルコト

八、湯屋營業者ニ對シテハ板場稼等ノ盜難豫防上ニ就テ注意ヲ促シ若シ被害發生シ尚未タ犯人退去セスト認メタル場合ニ於テハ一時浴客ノ退出ヲ止メ直ニ最寄巡査派出所又ハ警察署ヘ屆出テシムルコト

九、混雜ニ乘シ窃盜其他ノ目的ヲ以テ他人ノ住家ニ放火スルモノナキヲ保セス警戒ヲ嚴密ニスルコト

十、民家ノ軒下ニ車又ハ空箱ノ類ヲ置クトキハ盜賊ノ足場トナル虞アリ注意取除カシムルコト

第二　刑事取扱心得

一、微罪處分ニ附スヘキ違反者ニ對シテハ微罪取扱規程ノ運用宜シキヲ得失當ナキヲ期スルコト

二、卽決處分ニ附スヘキ反則者ハ此際可成說諭ニ止メ其情稍重キモノト雖可成引致セサル樣ニスルコト

三、犯人逮捕、引致等ノ際ニ於テモ特ニ注意穩當ノ手段ヲ用ヒ施繩セサルモ目的ヲ達スルモノハ之ヲナサヽルコト

トシ被告人證人關係人等ハ最モ丁寧ニ取扱ヒ猥リニ抑留スルカ如キコトナキ樣注意スルコト

四、卽報其他一般ノ報告ヲ遲滯セシメサル樣スルコト

五、殺人事件其他重大犯罪發生ニ際シテ止ムヲ得サル場合ヲ除ク外檢事及保安課刑事係員出張スルマテ可成現狀ヲ維持スルコト

六、被告人ノ看守巡查ハ人選ニ留意シ犯人ノ逃走其他非常事件ノ發生セサル樣注意セシメ同時ニ監督者ヲシテ留置場內ノ衞生狀態幷取扱ニ付キ留意スルコト

七、停車場勤務巡查ニ對シ豫メ勘合章ヲ交付シ置キ犯人ヲ追跡其他急遽ノ處置ニ支障ヲ生セサラシムルコト

八、電話係ヲ選擇シ其取扱ヲ迅速機敏ナラシメ不都合ナカラシムルコト

九、五拾圓以上ノ盜難被害ニ對シテハ卽報スルト同時ニ被害所轄署ヨリ各署ヘ手當互報ノコト（但其期間ハ十一月七日ヨリ同月二十七日迄トス）

但五拾圓未滿ノ被害ト雖被害者カ知名ノ士ナルトキハ之ニ準スルコト

一般施設ノ綱目ヲ指示スル所アリト雖、而モ實際ノ取扱上各部署ノ方針其途ヲ異ニシ、事務ノ執行區々ニ岐ルヽカ如キコトアランカ、到底司法警察ノ周到ヲ期ス可ラス。爰ニ於テカ、警察部長ハ市內七署及伏見警察署長ニ命シテ、各署ノ主任警部幷刑事專務巡查部長ヲ警察部ニ召集シ、執務上諸種ノ協議ヲ爲サシムルニ先シ、富田保安課長ヨリ前揭第二二號各項ノ要領ヲ敷衍シ、其足ラサルヲ補ヒ、疑議ヲ糺シ、以テ警備事務ノ統一ヲ圖ルト共ニ、掏摸其他特殊ノ犯罪常習者取締ニ關スル實際的計畫幷事件搜查上共助ノ方法等一般犯罪ノ防遏上特別ノ取扱ニ關シ、細密ナル協合熟議ヲ遂ケ、愈計畫事項ノ實施ニ着手セリ。

第二項　名簿整理幷常習犯人寫眞臺帳ノ作製

大禮警備上司法所屬ノ計畫ヲナスニ當リ、全國各府縣警察部ニ照會シ、現在ニ於ケル司法奏視察人中、掏摸、箱乘、邯鄲師、空巢其他ノ窃盜及詐欺常習者ノ通稱、氏名、年齡、人相、特徵幷平素專ラ徘徊セル地方ノ區域等ノ調查方ヲ依囑シ、其回答ヲ需メ、順次合綴編纂シテ之ヲ關東關西ノ二部ニ大別シ、更ニ府縣ノ別ニ從ヒ相當ノ索引ヲ附シ、尙掏摸ノ常習者ニ限リ特ニ別冊ヲ設ケテ便覽ニ容易ナラシメタルモノ、其數凡ソ五百餘名ヲ見ルニ至リタレハ、其各冊ヲ保安課司法主任ノ許ニ保管シ、各刑事係ノ參考ニ備ヘ、尙市內各署及伏見警察署ニ對シテ事件取扱上必要ノ際ハ努メテ之ヲ閱覽參照セシムヘキ樣通牒ヲ發セリ。

全國司法要視察人ノ名簿整理ノ結果、期間中檢擧シタル掏摸犯ニシテ其取調ヲナスニ當リ、被告人ノ前科度數、犯罪ノ特技等其名簿ニ記載ノ事實ニヨリ多大ノ利便ヲ得タリ、尙其名簿ニ附スルニ、此際警備上特ニ刑事係ノ來援ヲ得タル警視廳外十四府縣ニ於ケル要視察人中、特ニ注意ヲ要スヘキ人物ノ寫眞各一葉宛ノ回附ヲ依賴シ、蒐集シタル寫眞ヲ更ニ復寫シ、警察部ニ備付クルト共ニ各署ニ送附シテ犯人檢索上ノ參考トナシタリ。

第三項　隱語輯覽ノ編纂

盜犯、詐欺師、博徒其他一般不良者間ニ密用セラレツヽアル幾多ノ暗號符牒ノ如キ、交通機關發達スルニ隨ヒ、使用ノ範圍漸次擴大シテ今ヤ其地方ニ限ラス、隱語ノ起因亦時代ニ應シテ轉化セルモノアリ。此機ニ際シ、普ク各種ノ暗號ヲ調查蒐集シ以テ犯罪ノ搜查上參考ニ備ヘハ、其稗益スル處大ナルヘキヲ以テ、大禮警備上刑事事務ニ關スル施設事業ノ一トシテ、隱語輯覽編纂ノ計畫ヲナシ、大正四年五月其調查方ヲ汎ク全國各廳府縣ノ警察部、監獄並朝鮮總督府警務統監部及臺灣、關東都督府警務部、監獄ニ委囑シ、九月中旬既ニ各所ヨリ回答ヲ得タル語數凡ソ四萬五千語ノ多キニ達セリ。之ヲ編纂材料トシ、富田保安課長監修ノ下ニ巡查高芝熊ヲシテ專ラ編輯ノ事ニ從ハシメ、十一月十一日遂ニ『隱語輯覽』ノ發行ヲ見ルニ至レリ。

編纂ノ內容、類語ノ分類、釋義ノ記載並ニ表裝ノ體裁等概要左ノ如シ。

イ、編纂ノ內容ト體裁　各所ノ回示ニ依リ蒐集シ得タル隱語ノ意義並ニ由來等ヲ對照審查シ其重復セルモノ、又ハ俗

諺ノ範圍ニ屬スルモノヲ選擇除外シ、單一ナル語數凡ソ六千五百種ヲ採輯シテ本編ノ内容ヲ充タシ、尚附錄スルニ朝鮮總督府警務統監部、臺灣及關東都督府警務部ノ調査ニ係ル土着人又ハ馬賊社會ノ現行隱語ノ類ヲ聚輯シテ『特殊隱語』ト題シ第二附錄『暗號』ノ部ニ於テ東西各地ノ囚徒、犯人間ニ於ケル諸種ノ形容符牒ヲ一括シ、其表示ノ方法ヲ詳說セリ。而シテ本書ノ表裝體裁ハ、用紙ニラフ紙ヲ用ヒ、菊版四十裁ノ大サニテ、濃紺色總クロースノ脊ニ金文字ヲ現シ、總頁數七百頁ノ各類ニ色紙ヲ以テ隔ヲナシ、紙製ノ秩ニ納メタリ。

ロ、類語ノ分類　本書編纂ノ内容ヲ左記ノ七類トシ、一ツハ以テ探出ノ便ヲ計リ、一ツハ類語ノ對質ニ容易ナラシメンコトヲ期シタリト雖モ、語ノ意義廣汎ニシテ區別明確ナラサルカ如キ、或ハ二樣ノ意義ニ通スルカ如キ單語ハ、採テ各類ニ重載セシメタリ。

第一類　天文事變（日月、晴雨其他天然ノ現象並ニ社會的變動ノ一般）
第二類　人物風俗（老若男女、犯人ノ別、官職身分ノ異同並人體局部ノ名稱衣服飾等）
第三類　犯罪行爲（各種犯罪ノ態稱ニ因ル罪名ノ別並計畫豫備、未遂ノ狀態、其他刑罰法令ニ違反ノ行爲一般ノ類聚）
第四類　言語動作（身體各部ノ擧止動靜ノ言語形容等意思表示ノ方法手段ニシテ、前項ノ所謂犯罪行爲ニ屬セサル一般）
第五類　一般建物（官公署、住家、倉庫、其他獨立セル一個ノ建造物並一般從屬的建物、設備、特別ノ裝置アル工作物等ニ對スル全般及部分的名稱）
第六類　器具食物（犯罪供用ノ器具、文房具、什器等一切並ニ日常ノ飮食物及其原料品）
第七類　雜纂（各項ニ分類シタル天文、人事以外ノ拾遺ニシテ山河港灣都市ノ名稱等地理並動物、數量計算稱呼等其他）

ハ、釋義ノ記載　各部ノ隱語ニ附シタル註釋ノ記載ハ各地回答ノ要領ヲ綜合對照シテ其中庸ヲ捉ヘ、努メテ通俗簡易ノ文字ヲ用ヒ、隱語ノ母字ヲ五十音ノ順序ニ分チテ、ん、つノ如キ捉聲ノ音ト共ニ字數ノ少キモノヨリ初メ、前後ノ順、可成語ノ意義近キモノヨリ排列シ、既ニ一般ニ用ヒラルヽモノ、或ハ語意ノ自ラ推考シ得ル處ニ從ヒ、隱語ニ當テタル漢名ヲ附記シテ其註解ノ一助トナシタリ。而テ本書編纂ノ計畫ヲ行フヤ、各部門ノ類別ヲナスト共ニ之カ地方ノ區別ヲ明カニセンコトヲ期シタリト雖モ、各地ノ調査自ラ精粗ノ差アルヲ免レス、殊ニ、單調ナル一地方ノ俗諺ト其類ヲ異ニシ、共通ノ區域甚タ廣邊ナルモノアルカ故ニ、其語必ラスシモ調査シ得タル地方ノモノニ限ラス、調査ノ回答ニ漏レタルモノ、又必ラスシモ其地方ニ於テ行ハレスト信スヘカラサルモノアルヲ以テ、一般地方ノ區別ヲ明記スルコトヲ廢シ、同一音辯ノ語ニシテ、東西土地ヲ異ニシ、其意義ノ異ナルモノ、又ハ、特ニ其地ニ限リ行ハルヽコトヲ想像シ得ルモノニ限リ註釋ノ末尾ニ地名ヲ揭ケ、以テ研究者ノ會得ニ容易ナラシメタリ。又卷頭ニ『編纂ノ梗概』ヲ、卷尾ニ『類語一覽』ヲ附記シ以テ對照研究ニ便セリ。

ニ、發行頒布　本書ノ未タ編纂ヲ了ラサルニ先チ、各地ノ關係官署ヨリ分配方依賴ヲ受ケタルモノ尠カラス、故ニ豫メ本書ノ内容體裁等ヲ示シ、之カ製本送料等ニ要スヘキ實價ヲ以テ特ニ分配スヘキコトヲ通知シ、希望者豫約ノ申込ヲ徵シタルニ、其應募部數約二千冊ニ達セリ。警察部ニ於テ豫定ノ必要部數ト合シ、之ヲ上梓ニ附シテ編纂ヲ完成シ、直ニ一般ノ申込所ニ宛テ遞送ノ手續ヲナスト共ニ、曾テ本書ノ材料ヲ蒐集回附セラレタル他府縣ノ警察部、監獄ニ對シ、其一部宛ヲ寄贈シテ本書ノ發行ヲ紀念シ、尚他府縣ヨリ來援中ノ刑事巡査ニ各一部ヲ頒チテ永久執務ノ參考ニ資セシメ、管内市郡ノ各署ニ一部宛ヲ備附シテ俱ニ司法警察事務ノ便覽資料タラシメタリ。

第四項　大禮期間報告事項通牒

大禮期間中警衛警備ニ關スル諸般ノ警察事務繁劇ニ伴ヒ、自然刑事々件ノ增發スヘク各署相互ノ連絡ヲ保持シ、通報ノ敏活ヲ計ル爲メ、市内及伏見警察署ヨリ左ノ報告ヲ徵シ、被害幷檢擧事件ノ對照比較ヲナシ、就中被害事件ノ日報ハ、之ヲ總括合表シテ―（第五十號表其一）被害事件日報

（第五十號表其一）被害事件日報

罪質	被害日時	場所	被害者住所氏名（被害金品價格又ハ被害程度）	犯罪方法手段要	檢擧未檢擧ノ別
殺人				大	

強盜
掏摸
一般窃盜
詐欺取財
何々

（附言）
一、本表ノ報告ハ毎日午前十時迄ニ前日接受シタル事件ヲ記載シ、保安課別室ニ送附スヘシ
一、即報規定ニ基キ被害ノ際即報シタル事件ト雖モ尚本表ニ記載報告ノコト
一、刑事取扱心得第九項ノ規程及一般即報規程ニ基キ報告スヘキ範圍ノ事件ニアラスト雖犯罪ノ手段方法等異例ニ屬スル事件ハ本表ノ報告以前ニ於テ電話其他便宜ノ方法ニ據リ報告ヲ要ス
一、本表罪質ノ欄内ニ表記シタル罪名ハ其二三ヲ例示シタルニ過キス
一、本表ノ報告ハ十月二十五日ヨリ始ム、廢止ノ時期ヲ定メス

（第五十號表其(二)）　犯罪件數及檢擧人員日報

罪名	犯罪件數	檢擧件數	現行犯		准現行犯		非現行犯		自首		合計	
			男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
刑法 何々												
陸軍刑法												
海軍刑法												
刑法以外罰金以上諸反則												
計（刑法及諸反則）												
省令警察犯												
府令警察犯												
拘留（諸犯則科料（府令反（警察犯ヲ除ク））												
計（警察犯以下拘留科料）												
合計												

（第五十號表其(三)）　犯罪事件日報

罪名	被害事件		檢擧事件			
	件數	被害金品價額	件數	人員	發見金品價額	
殺人						
強盜						
掏摸						
一般窃盜						
詐欺取財						
何々						
其他罰金以上ノ罪						
計						

（第五十號表其四）　救護檢束種別人員表

事項	檢束人員				越		救護檢束中犯罪發覺送致人員		
	男		女		男	女	男	女	
迷兒									
家出人									
泥酔者									
暴行爭鬪ノ虞アル者									
一般公安ヲ害スル虞アル者									
計									

備考

（附言）
一、犯罪件數及檢擧人員日報以下三種ノ報告期間ヲ十一月七日乃至同二十七日迄トシ期間終了後其件數ヲ合表報告スヘシ
一、第二表及第三表ハ其題目事項類ノモノニシテ或ハ重複セルモノニアラサルヤノ疑之無シトセサルモ檢擧人員、賍金品價額等ヲ詳知センカタメ更ニ第三樣式ノ犯罪事件日報ヲ徵スルコトヽセリ
一、第二表罪狀ノ欄内ニ於テ刑法ノ部ニ揭載スヘキ罪名ハ努メテ精細ニ區別スルコトヲ要ス

尙警察部長ハ各署長ニ對シ十月二十日以後十一月末日ニ至ル迄日々旅舍ノ屆出書類ヲ一括シ翌朝警察部保安課ニ宛テ回附方通牒ヲ發セリ。

大禮期間中市內旅客ノ宿泊及出發人員日計左ノ如シ(第五十一號表參照)

(第五十一號表)

月日	投宿人員	男女別 男	男女別 女	出發人員	男女別 男	男女別 女
十一月一日	九八九	七六九	二二〇	七五四	六一二	一四二
同　二日	九八四	七四五	二三九	九五九	七八六	一七三
同　三日	九七六	七八九	一八七	七一七	五七九	一三八
同　四日	一、〇三八	八〇九	二二九	一、〇九二	八二五	二六七
同　五日	二、三二九	一、九〇五	四二四	一、〇三五	八二三	二一二
同　六日	四、七三八	三、六二三	一、一一五	七六一	六三二	一二九
同　七日	三、三九四	二、七七二	六六二	二、三七五	一、八九七	四七八
同　八日	一、七二八	一、四三〇	二九八	三、八九八	三、三二〇	五七八
同　九日	二、六五〇	二、一六〇	五九〇	一、六八一	一、四二九	二五二
同　十日	一、九八六	一、五七四	四一二	一、八八九	一、三六六	二二三
同　十一日	一、三〇九	一、一〇六	二〇三	一、九三七	一、五四四	三九三
同　十二日	一、二二一	一、〇一二	二〇九	一、六五八	一、三四四	三一四
同　十三日	一、七〇五	一、二六〇	四四五	一、三六八	一、一九一	一七七
同　十四日	一、三二七	九四三	三八四	一、三七五	一、〇一七	三五八
同　十五日	一、九九一	一、五四四	四四七	一、一八一	九四五	二三六
同　十六日	一、八七四	一、五四七	三二七	一、七三〇	一、三六二	三六八
同　十七日	一、七二三	一、三五五	三六八	一、七五六	一、三六三	三九三
同　十八日	一、七三五	一、三五〇	三八五	一、五八九	一、三一二	二七七
同　十九日	一、七二二	一、五二一	二〇一	一、四一七	一、〇一二	二四〇
同　二十日	一、五二三	一、一七八	三四五	二、二〇二	一、七一五	四八七
同　二十一日	二、二五六	一、七四八	五〇八	一、五七九	一、二四四	三三五
同　二十二日	一、二二九	九二四	三〇五	一、三一八	一、〇二〇	二九八
同　二十三日	二、八六九	二、二二七	六四二	一、九四〇	一、四九七	四四三
同　二十四日	二、五六六	一、九六八	五九八	一、二〇四	九二七	二七七
同　二十五日	二、五四八	二、二八四	二六四	三、四五六	二、八六四	五九二
同　二十六日	七、一一九	五、一二三	一、九九六	一、五九三	一、一四四	四四九
同　二十七日	二、九九一	二、二九九	六九二	三、二七八	二、四五六	八二二
同　二十八日	二、九二一	一、九一三	一、〇〇八	二、四四一	一、八一九	六二二
同　二十九日	一、三四三	一、一八一	二六一	二、五一九	二、一〇四	四一五
同　三十日	一、八〇三	一、三九〇	四一三	一、三六〇	一、〇六四	二九六

第五項　大禮期前ノ執行事務

第一　掏摸及故買犯常習者ノ取締

掏摸犯常習者ニ對スル視察ノ勵行ハ、其犯罪ノ防壓上最モ必要ヲ感スルモノアルヲ以テ警察部長ハ管內ノ各署ニ對シ特ニ之カ制壓的監視ノ實行ヲ促シ、現在調査ノ結果ニ得タル司法要視察人ノ異動ヲ報告セシメタリ。而シテ、警衞本部刑事係ニ於テハ、右ノ調査報告ヲ基トシ、所屬刑事係ノ間接視察ニ得タル一般ノ狀況ヲ綜合シテ臺帳ノ整理ヲナシ、其謄本ヲ作製シテ之ヲ各署ニ配附シ、刑事々務ノ周密ヲ期シタリ。

既ニ之等ノ司法上要視察人ニ對スル視察ノ勵行ニ伴ヒ、更ニ一段ノ注意警戒ヲ要スヘキモノハ、平素盜品其他贓物ノ賣買交換ヲ以テ營業ノ常態トナセルカ如キ所謂故買常習者ノ監視ヲ密ナラシムルコトニシテ、贓物犯ノ前科アリ、又ハ其疑ヒアル質屋古物商其他ノ者ニ對スル平素ノ視察ハ系統的犯罪捜査ノ手段ニ缺クヘカラサルモノナルカ故ニ、故買嫌疑者ノ住所氏名其他ノ關係ヲ調査セシメ、其系統的連絡ノ方面ヲ詳カニシ、一層臨檢視察ヲ督勵セリ。

第二　全市非常線配置ノ準備幷ニ全市非常警戒ノ狀況

全市非常警戒ニ關シ市內各警察署ニ宛左ノ訓令ヲナセリ。

保訓第二〇號

全市非常線配置準備ニ關スル訓示

大正三年八月二十日附訓令第一七號ノ全市非常線配置規程ニ基ク計畫ハ未タ之ヲ實施シタルコトナキモ大禮期間中何時重大事件發生シ全市非常線配置ノ實施ヲ必要トスルヤ難計ニヨリ道路ノ實査人員ノ配置等豫メ其準備ニ注意シ遺憾ナキヲ期セラル可シ

大正四年十月二十日

警察部長名

左記ノ如ク全市非常警戒實施ニ關スル通牒ニヨリ一齊ニ全市非常警戒ヲ實施セリ。

警察本部刑事隊ノ配置ハ巡査部長以下ニ於テ、保安課在來ノ刑事係八名、府下十三名ノ外、他府縣來援者五十名ヲ合セ總計七十一名中二名ヲ電話ノ受發其他庶務ニ從ハシメ、八名ノ非常豫備員ヲ止メタル殘餘ノ六十一名ヲ市內七署ノ部

内ニ分チテ、各組員中一名ヲ保安課所屬ノ刑事巡査トシ、之カ地理ノ案内ヲ兼ネシメ、專ラ必要家宅ノ臨檢視察幷ニ擧動不審者ニ對スル檢索ノ任ニ當ラシメ、間接ニ各署部内ノ狀況ヲ偵察シ、其執行ノ周到ヲ期シタリ。（第五十一號表參照）

保秘第二六九號

左記ノ日時方法ニ依リ其署非番巡査全員ヲ非常召集ノ方法ニ依リ召集シ其部内ノ檢索ヲ執行スヘシ

一、日時　大正四年十月二十九日午前一時着手同四時終了

一、方　法

（イ）署内ニハ當務員ヲシテ取調其他庶務ニ從事セツメ一部ハ立番又ハ警邏及擧動不審者ノ檢索ニ從ハシメ他ノ一部ヲ以テ旅館貸座敷其他必要ト認ムル營業者ノ家宅ヲ臨檢視察セシメ賭博密賣淫等ノ疑ヒアル場所ノ探索ニ當ラシムルコト

（ロ）立番又ハ警邏ニ從事セシムヘキ巡査ノ配置ハ其距離ノ遠近檢索ノ區域ヲ適當ナラシメ巡査部長以上ヲシテ直接監督セシムルコト

（ハ）服裝ハ私服トス。但シ必要ニ應シ一部ヲ制服ノマヽ勤務セシムルコトヲ妨ケス

（ニ）警戒中取扱ノ事故ハ其種別、件數、人員幷現行、非現行、男女ノ區別ヲ明カニシ執行ノ終了後同日正午迄ニ書面其他　方法ヲ以テ狀況報告セラルヘシ

但執行中特別ノ事故アリタル場合ハ電話ヲ以テ卽報ノコト

（第五十二號表）　大正四年十月二十九日非常警戒成蹟表

事項	件數 現行	件數 非現行	人員 男	人員 女
竊盜	一	七	八	三
賭博				
密賣淫				
浮浪者	三		三	
不良少年		二	二	
其他	一九	一〇	三五	一
計	二三	一九	四九	一

擧動不審者誰何件數　二、九六四　　說諭人員　二九六

保護人員　九　　諸營業臨檢視察　四九〇

戸締油斷注意　二九三

第二節　大禮期間中刑事勤務幷宿舍

第一項　一般ノ配置幷勤務方法

十月二十六日府下ノ第一期應援員十三名及他府縣應援巡査五十名ヲ合シテ其總員七十一名ヲ刑事係事務所ノ一室ニ召集シ、永田警察部長ヨリ大禮警備ニ關スル一般勤務ノ心得ヲ訓示シ、富田保安課長ハ更ニ大禮ニ關スル司法上施設ノ大要ヲ述ヘ、犯罪ノ探索幷事件ノ取扱ニ就テ特ニ此際心得フヘキ必要ノ箇條ヲ擧ケテ以テ刑事各員ニ對シ注意及希望ヲ述ヘ。尙大谷警部ハ一般取扱上ニ於ケル希望ヲ述ヘテ日常執行務ノ大體方針ヲ說明セリ。

警衛本部刑事係ノ組織

一、係長　警視　富田愛次郎
一、刑事係主任　警部　大谷信清
一、治罪係　警部　村上憲
一、治罪係　警部補　澁谷爲太郎
一、警察部保安課詰刑事係
巡査部長　井口實藏　巡査部長　申川喜内
巡査部長　中村善藏　巡査部長　原口政吉
巡査　村田常造　巡査　美代哲太郎
巡査　谷内照永　巡査　高芝麗
巡査　楠瀨秀透　巡査　芦田利重
巡査　大槻敬吉　巡査　川崎與四郎
巡査　森井溪治　巡査　久保正三郎
巡査　藤田照二郎　巡査　森・太作
巡査　花房佐眞治　巡査　申島久次郎
巡査　野間清五郎　巡査　西込富吾
巡査　竹内源太郎

一、第二期府下應援刑事係（十一月十二日來援第一期來援者ト交代）
巡査部長　島田政次郎　巡査部長　片山小太郎
巡査部長　毛利信太郎　巡査部長　山口太三郎
巡査　森初太郎　巡査　麻田與吉
巡査　山田與三郎　巡査　前田福太郎
巡査　二谷次郎吉　巡査　木下喜平
巡査　安村友吉　巡査　早野春太郎
巡査　高橋元三郎

一、他府縣應援刑事係（十月二十五日來援）

（警視廳）巡查　藤倉治平　（警視廳）巡查　森吾郎一
（警視廳）巡查　德永元辰　（警視廳）巡查　吉川豐次郎
（警視廳）巡查　北川義孝　（大阪府）巡查　加藤角馬
（大阪府）巡查　大前正憲　（大阪府）巡查　兒玉十郎
（大阪府）巡查　栂喜太郎　（大阪府）巡查　夏目太三郎
（大阪府）巡查　田中駒吉　（大阪府）巡查　三木貞一
（大阪府）巡查　仙石徹　（大阪府）巡查　別役直馬
（大阪府）巡查　永野岩吉　（神奈川縣）巡查　杉山訒恭
（神奈川縣）巡查　西村熊太郎　（神奈川縣）巡查　中村利藏
（兵庫縣）巡查部長鷲野米太郎　（兵庫縣）巡查　日下嘉之吉
（兵庫縣）巡查　横山五郎　（兵庫縣）巡查　藤井清孝
（兵庫縣）巡查　田村勇男　（兵庫縣）巡查　久延槇平
（兵庫縣）巡查　井村益治　（兵庫縣）巡查　曾我忠教

刑事係規程

第一條　刑事係事務所ヲ巡查教習所内ニ設ク

第二條　刑事係ニ左ノ係及係員ヲ置ク

係長	警部	警部補	庶務	掏摸檢索係	旅舍臨檢及偵邏係	事故係	總計
警視	主任	治罪係					
一	一	一	一	四	五〇	一〇	七	七五

第三條　係長ハ刑事々務ヲ總括シ係員ヲ指揮監督ス

第四條　主任警部ハ係長ヲ補佐シ係長事故アルトキハ其事務ヲ代理ス

第五條　治罪係警部ハ犯人ノ取調、事件送致ノ事務ニ從事ス

第六條　警部補ハ治罪係警部ヲ補佐シ上官ノ命ヲ受ケ刑事々務ヲ掌ル

第七條　庶務係ハ書類ノ整理電話ノ發受、概算拂ヲ受ケタル郵便切手等ノ收支ノ事務ヲ掌ル

第八條　掏摸係ハ停車場、停留場、博覽會場等混雜ノ場所ニ於ケル掏摸ノ檢擧ニ從事ス

第九條　宿舍係ハ投宿出發届ノ調查宿舍ノ臨檢擧動不審者ノ視察ニ從事ス

第十條　偵邏係ハ夜間ニ於ケル現行犯ノ逮捕ヲ主タル任務トス

第十一條　事故係ハ各係ニ屬セサル事務ヲ掌リ事故發生シタルトキハ應援スルモノトス

第十二條　各係ノ勤務方法ハ別ニ係長之ヲ定ム（第五十二號表參照）

（第五十二號表）　掏摸檢索及旅舍係配置並勤務方法

區別	配置區域	人員	勤務方法
第一區	京都驛停車場、二條驛停車場	一〇	晝夜勤務トシ半數宛交代但二條驛ハ終列車限
第二區	四條京極、圓山公園方面	一〇	夜半引揚
第三區	市營及京電々車々内	一〇	晝夜勤務トシ半數交代
第四區	博覽會場及動物園内	一〇	閉館時刻ヲ限リトス
第五區	京阪及京津電車々内、停留場	一〇	晝夜勤務トシ半數交代
第一勤務	偵邏	六	晝夜勤務
第二勤務	旅舍	四	夜半引揚

但右五區ニ對スル取締ハ左記五組ヲ以テシ輪番隔日交代勤務セシム

組別	人員	組別所屬府縣別人員表
第一組	一〇	大阪府一〇
第二組	一〇	靜岡縣三、愛知縣三、山梨縣一、岐阜縣一、福井縣、
第三組	一〇	警視廳五、神奈川縣三、石川縣一、富山縣一、

組別	人員	組別所屬府縣別人員表
第四組	一〇	滋賀縣三、和歌山縣一、廣島縣二、山口縣二、岡山縣二、
第五組	一〇	兵庫縣一〇

前項第一及第二勤務ニ區別シタル偵邏及旅舍ノ臨檢視察專務ハ府下應援ノ刑事係十名ヲ以テ之ニ充テ、第一組ヲ四名、第二組ヲ六名トシ、勤務ノ方法ヲ第一勤務及第二勤務ノ二種トナス。但二組輪番交代勤務セシム。配置ノ時間割左ノ如シ。

（兵庫縣）巡查　光島美作夫　（兵庫縣）巡查　平井米藏
（愛知縣）巡查　中村與之助　（愛知縣）巡查　藤井勇城
（愛知縣）巡查　安部駒次郎　（靜岡縣）巡查部長三井寅松
（靜岡縣）巡查　大石貞隆　（靜岡縣）巡查　增田銀治
（山梨縣）巡查　功力作吉　（滋賀縣）巡查　出口次郎吉
（滋賀縣）巡查　藤岡寅吉　（滋賀縣）巡查　太田貞之助
（岐阜縣）巡查　富田富三郎　（岐阜縣）巡查　梅田太七
（福井縣）巡查部長松原留吉　（石川縣）巡查　織田小吉郎
（富山縣）巡查　堀田覺次郎　（岡山縣）巡查部長大岡喜五郎
（岡山縣）巡查　平松佐次郎　（廣島縣）巡查　田河平六
（廣島縣）巡查　古川序市　（山口縣）巡查　村岡芳晴
（山口縣）巡查　藤田熊吉　（和歌山縣）巡查　西本久吉

一、午前九時ヨリ同十二時迄　旅舎檢
一、午後一時ヨリ同五時迄　同上
一、午後六時ヨリ同九時迄　同上
一、午前一時ヨリ同五時迄　偵邏
一、午後一時ヨリ同六時迄　旅舎檢
一、午後六時ヨリ午前一時迄　同上

第一勤務
第二勤務

鹵簿御通過ノ御道筋ニ於ケル一般拜觀者ノ雜踏其他ノ乘スヘキ時機ナレハ、刑事係ハ全力ヲ傾ケテ其任務ヲ盡セリ。（第五十四號表參照）

（第五十四號表）　鹵簿警衛ニ關スル刑事係配置表

月日	警衛事項	監督者	警部	警部補	刑事係（巡査部長及巡査）保安課	刑事係（巡査部長及巡査）府下他府縣應援	總人員	備考
十一月七日	京都停車場京都皇宮間鹵簿	二	一	八	一三	五〇	七四	警備ニ關スル刑事係ノ配置ハ其都度警衛本部ニ於テ刑事係主任警部係長指揮ノ下ニ適當配置ナリシ係長以下警部二名警部補一名其監督ニ當リタルモ十一月二十六日泉山各御陵御親謁ノ際并ニ二十七日仙還啓當日、本表中配置巡査ノ中ニ於テ二十六日ノ保安課六名及府下應援ノ九名ナ第五大隊ニ屬セシメ同隊ノ配置監督ノ下ニ置キ二十七日他府縣應援ノ五十名中八名ヲ第一大隊ニ二十八名ヲ第三大隊ニ尚八名ヲ第四大隊ニ分割配置セリ
十一月八日	東宮殿下行啓京都停車場二條離宮間御沿道警備	二	一	六	一二	三〇	五〇	
十一月九日	東宮殿下京都皇宮行啓御還行御道筋警備	二	一	六	一〇	一〇	二九	
十一月十日	同上	二	一	六	一〇	一〇	二九	
十一月十一日	同上	二	一	六	一〇	一〇	二九	
十一月十六日	東宮殿下御還啓二條離宮京都停車場間御道筋警備	二	一	六	一〇	一〇	二九	
十一月十六日	大饗宴當日二條離宮行幸還啓御沿道警備	二	一	六	一〇	一〇	二九	

月日	警衛事項	監督者	警部	警部補	刑事係（巡査部長及巡査）保安課	刑事係（巡査部長及巡査）府下他府縣應援	總人員	備考
十一月十七日	大饗夜宴當日二條離宮行幸還啓御沿道警備	二	一	六	一〇	三〇	四九	
十一月十九日	神宮御親謁ノ節京都皇宮京都停車場間鹵簿警備	二	一	七	一〇	五〇	七〇	
十一月廿二日	同御還幸京都停車場京都皇宮間鹵簿警備	二	一	七	一〇	五〇	七〇	
十一月廿四日	畝傍御陵御親謁ノ節行幸御還啓鹵簿警備	二	一	七	一〇	五〇	七〇	
十一月廿五日	伏見桃山御陵御親謁ノ節行幸御還啓鹵簿警備	二	一	七	一〇	三〇	五〇	
十一月廿六日	泉山各御陵御親謁ノ節行幸御還啓鹵簿警備	二	一	六	九	四〇	五八	
十一月廿七日	京都皇宮京都停車場間鹵簿	二	一	七	一〇	五〇	七〇	

第二項　應援刑事係宿舍幷臨時出張所設置

應援刑事係宿舍ニ付テハ、府廳構內ニ於ケル巡査教習所ヲ以テ臨時刑事係事務所トナシ、階下ノ各室ヲ區別シ、主任ノ執務室、保安課專屬刑事係控所、宿直員休憩所其他ニ割當テ、階上ノ十室ヲ以テ應援刑事六十三名（他府縣五十名、府下十三名）ノ宿舍トシ、電燈ノ裝置、寢具ノ借入、附屬賄方等一切ノ準備ヲナシ、十月二十五日以降全員ヲ十室ニ別チ、一縣ノ來援者二三名ニ過キサルモノハ他ノ府縣ノ應援者ト一室ニ合宿セシムルコトヽシ、各室ニ於ケル高給又ハ年長者ヲ以テ其室ノ幹事トシ、保安課專屬ノ刑事一名宛ヲ各室ニ配シテ共ニ相互ノ連絡ヲ保持シ、臨機應變ノ措置遺憾ナキヲ期シタリ。

臨時出張所ノ設置ニツキテハ市內下京方面ニ於ケル配置區域ノ中樞地點ナリト認ムル左記二戶ノ民家ヲ借入シ、衆人ノ視線ヲ避ケンカタメ、特ニ門標表札等ノ揭示ヲナサス、刑事ノ密議、休憩、犯罪取調ノ場所ニ充テタリ。

京都市下京區東高瀨五條下ル都市町百五十六番地　大久保力松所有　瓦葺二階建　一戶
同　市同　區四條通御旅町四十七番地　熊谷誠所有　瓦葺二階建　一戶

右出張所ハ十一月三十日警衛本部刑事隊ノ組織ヲ解除シ、各應援ノ刑事ヲ其任地ニ歸廳セシメタル日ニ於テ共ニ之ヲ閉鎖シ、刑事係事務所亦舊ニ復セリ。

第三節　成績統計幷諸表

大禮期間中ニ於ケル司法警察ノ計畫豫定ノ通リ着々其歩ヲ運ヒシカ、其活動ニヨリテ如何ナル成績ヲ擧ケ得タルヤハ左ニ揭クル統計諸表ニヨリテ其一般ヲ窺知スルニ足ラン。—（第五十五號表其一、其二、其三、其四、其五參照）

（第五十五號表其一）　大禮警備期間犯罪件數及檢擧人員表（大正四年十一月中）

罪名	犯罪件數	檢擧件數	現行犯 男	現行犯 女	現行犯 計	准現行犯非現行犯 男	准現行犯非現行犯 女	准現行犯非現行犯 計	總人員 男	總人員 女	總人員 計
殺人罪	二	二	二	—	二	—	—	—	二	—	二
放火罪	二	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

（第五十五號表其(一)）　大正二、三、四年中掏模被害檢擧件數及捕拿人員比較表

年次	被害件數	檢擧件數	捕拿人員
大正二年	一九二	一八	一五
大正三年	二九		
大正四年	四四		

本表ハ其期間中市内及伏見警察署幷警察部保安課ニ於テ取扱ヒタル件數ニ依ル

（第五十五號其(二)）　期間中行政檢束人員表

事項	七、八日	九日	十日	十一日	十二日	十三日	十四日	十五日	十六日	十七日	十八日	十九日	合計
迷兒 男	一												一
迷兒 女													
家出人 男	一	一											二
家出人 女													
泥醉者 男	五	一	一	二	一	一	一						一二
泥醉者 女													
暴行爭鬪ノ虞ア ル者 男													
暴行爭鬪ノ虞ア ル者 女													
一般公安ヲ害ス ル處アル者 男	一三	三	四	三	一	一	一	二	一	一	一	一	三二
一般公安ヲ害ス ル處アル者 女													
計 男	一九	五	八	一〇	二	一	一	二	一	一	一	一	四五
計 女	一六	一	一	二	一	一	一	一	一	一	一	一	一二

事項	七、八日	九日	十日	十一日	十二日	十三日	十四日	十五日	十六日	十七日	十八日	十九日	合計
強盜罪	一												一
窃盜罪	三五二	三三	二六	一	一三	五五	二	一	三八	四	九六	七	一〇一
詐欺取財罪	三三	八四	一	一	一	一六	一	一	一九	二	三六	三	二五
橫領罪	二〇	七〇	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	二九
過失傷害致死傷害罪	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一二
過失傷害罪	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一二
略取罪	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一二
賭博罪	五	五	三	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一四
其他	一〇	一二	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一四
合計	四三	四五	一三	一四	一四	一四	一四	一四	一四	一四	一四	一四	一四

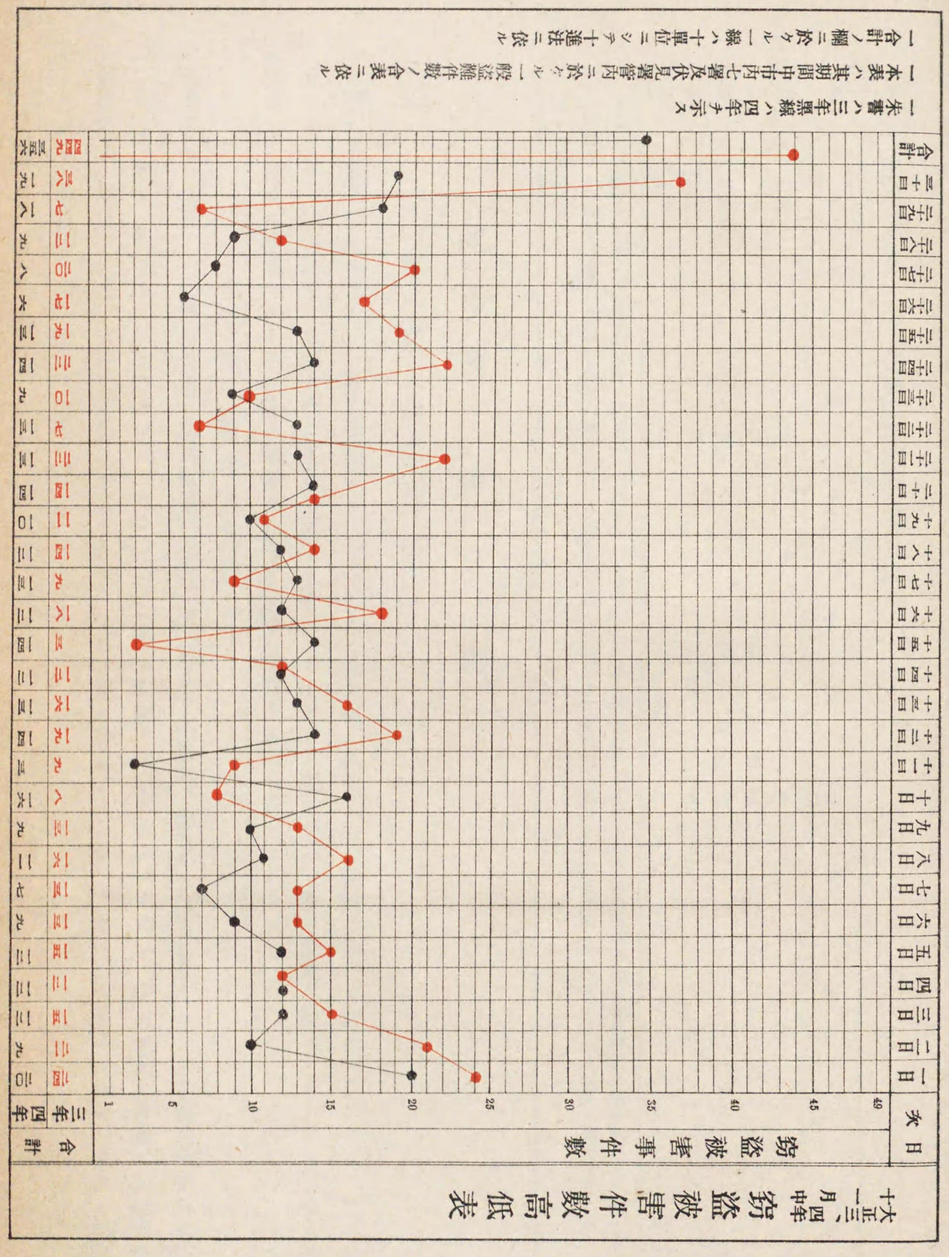
（第五十五號表其(四)）　大正三、四年中市内窃盜被害事件數高低表

一、本表ハ其期間中市内及伏見警察署ニ於ケル一般公安ヲ害スル處アル者ノ檢束人員合表ニ依ル

一、本書ニ於ケル一線ハ單位ニシテ十進ニ依ル

一、本書ニ黑線ハ四年ヲ表ス

一、合計ノ欄ニ於ケル一線ハ單位ニシテ十進ニ依ル



（第五十五號表其五）　刑事係嫌疑取調放還者人員表

件名	件數	人員	件名	件數	人員
掏摸	八七	九〇三	土砂流	五九	七三
箱乘	二三三	二三九	一般窃盗	一、一九八	一、二九六
置替	二三五	二三八	一般詐欺	三三八	三四二
攫漾	一九	一三	其他	九五五	九八九
郡	五五	五五	計	四、〇一九	四、二四六

本表ハ大禮警備ニ關シ司法上刑事係ノ勤務統一ヲ期センカタメ十一月七日以後同月二十七日至ル迄保安課刑事係及各署勤務ノ刑事專務係ニ於テ日日取扱タル事件中、檢擧ノ件數、人員及嫌疑取調ノ上刑事巡査限リ放還シタル事件及人員數ヲ所屬課署長ニ日報セシメタル結果ヲ蒐集シ之ニ依リ得タル件數人員ナリ

第七章　消防

第一節　消防警備

第一項　平常ノ警備

卽位ノ大禮ヲ行ハセラレ、聖上御駐輦アラセラルヽノ至リニシテ、殊ニ時恰モ天漸ク寒ク火氣ノ取扱ヒ多カラントスルノ際ナレハ一層ノ警戒ヲ要スルモノアリ、茲ニ於テ府民ヲシテ各自ニ警戒セシムルト共ニ消防組ニ於テ特別ノ警備ヲ爲スコトヽセリ。

大禮直接ニ關係アル京都市平常ノ消防組織ハ左表ノ通（第五十六號表、第五十七號表參照）ニシテ常備消防手及水管車等ノ數少ク應急ノ準備ニ不充分ナルヲ免レサルヲ以テ水管車七臺ヲ臨時增設スルト共ニ、總司令部ノ設置、（總司令部ニ警視以下ノ職員ヲ規定シ總司令部長ノ規定ヲ脫セルハ別ニ其ノ規定アルニ依ル）豫備消防手ノ召集幷ニ出火ノ場合ニ於ケル信號ノ制限等ニ關シ特別ノ規定ヲ設クルコトヽセリ。

（第五十六號表）人員配置表

組名	組頭	部名	小頭	常備消防手	豫備機關手	消防手	計
上京消防組	一	第一部　上長者町警察署	二	八	一	九三	一〇四
		第二部　中立賣警察署	二	八	一	九三	一〇四
		第三部　川端警察署	二	八	一	九三	一〇四
下京消防組	一	第一部　松原警察署	二	八	一	七三	八三
		第二部　五條警察署	二	八	一	八三	八三
		第三部　堀川警察署	二	八	一	七三	七三
		第四部　七條警察署	二	八	一	六三	七三

（第五十七號表）器具配置表

組名	組旗	組頭提燈	部名	蒸汽喞筒	腕用喞筒	部旗	纏	高張提燈	階梯	鎖付麻繩	鈎刺叉	掛矢	斧	鋸	水管車	鳶	水桶	水汲桶	小頭提燈	消防手提燈	喇叭	計
上京消防組	一	一	第一部　上長者町警察署	一	三	一	二	四	四	二	一	二	二	二	一	四〇	八	二	一	一	一	一二六
			第二部　中立賣警察署	一	三	一	二	四	四	二	一	二	二	二	一	四〇	八	二	一	一	一	一二六
			第三部　川端警察署	一	三	一	二	四	四	二	一	二	二	二	一	四〇	八	二	一	一	一	一二六
下京消防組	一	一	第一部　松原警察署	一	三	一	二	三	三	二	一	二	二	二	一	三〇	六	二	一	一	一	九八
			第二部　五條警察署	一	三	一	二	三	三	二	一	二	二	二	一	三〇	六	二	一	一	一	九八
			第三部　堀川警察署	一	三	一	二	三	三	二	一	二	二	二	一	三〇	六	二	一	一	一	九八
			第四部　七條警察署	一	三	一	二	三	三	二	一	二	二	二	一	三〇	六	二	一	一	一	九八

第二項　大禮期間中ノ警備

大禮期間中ノ消防警備規程ハ左ノ訓示ヲ以テ之ヲ定ム。

保訓第一九號

大禮期間中ニ於ケル消防警備規程左ノ通相定メタルニ付其ノ範圍内ニ於テ組員ノ勤務方法器具ノ配置等宜シキニ從テ之ヲ定メ消防警備上遺憾ナキヲ期セラルヘシ

右訓示ス

大正四年十月十六日

京都府警察部長　永田秀次郎

大禮期間中消防警備規程

第一條　大禮期間中警察部ニ消防總司令部ヲ置ク

第二條　消防總司令部ニ左ノ職員ヲ置ク

警視一人　警部二人　警部補三人　巡査四人

第三條　警視ハ總司令部長ノ命ヲ受ケ消防事務ニ從事シ總司令部長事故アルトキハ其ノ職務ヲ代理ス

第四條　警部警部補及巡査ハ各上官ノ指揮ヲ受ケ消防事務ニ從事ス

第五條　警部補一名巡査二名特別警戒ノ當夜總司令部ニ宿直セシム

第六條　十一月一日ヨリ同月二十七日迄上京消防組及下京消防組各部ニ每日豫備消防手五名ヲ特ニ召集ス

前項ノ消防手ハ午前七時ヨリ午後七時迄午後七時ヨリ翌日午前七時迄ノ十二時間ヲ以テ交代スルモノトス

第七條　御着京當日御卽位式當日鎭魂式當日大嘗祭當日大饗當日還幸當日ハ各警戒區域ヲ設ケ別表ニ定ムル消防組員ヲ以テ該區域内ヲ特ニ警戒スルモノトス

第八條　前條ニ依リ特別區域ニ配置スル消防手ニハ受持區域ヲ定メ巡回セシムルモノトス

但シ適當ノ休憩ヲ與フルコトヲ得

第九條　上京消防組及下京消防組各部ニ水管車一臺ヲ臨時增置ス

第十條　特別警戒區域内適當ノ場所ニ水管車若ハ蒸汽喞筒及必要ノ員數ノ消防手ヲ分置スヘシ

特別區域ヲ有セサル部ニ在リテハ前項ノ器具及消防手ヲ以テ特別警戒ニ屬スル部ヲ援助スヘシ

第十一條　前條ニ依リ配置スル場所概ネ左ノ如シ

第一　御着京當日

（一）　上京消防組第一部　中立賣通堀川附近

（二）　同　第二部　室町通上立賣附近

（三）　同　第三部　荒神橋西詰附近

第二編　保安　第七章　消防

（四）　下京消防組第一部　五條通高倉附近

（五）　同　第二部　蛸藥師通室町附近

（六）　同　第三部　松原通新町附近

（七）　同　第四部　高倉通下珠數屋町附近

第二　御卽位式當日

上京消防組第一部第二部及第三部同上

第三　鎭魂式當日

上京消防組第二部及第三部同上

第四　大嘗祭當日

（一）　上京消防組第一部　中立賣通堀川附近

（二）　同　第二部　相國寺門前附近

（三）　同　第三部　荒神橋西詰及寺町通石藥師附近

（四）　下京消防組第一部　丸太町通河原町附近

（五）　同　第二部　柳馬場通夷川附近

（六）　同　第三部　間ノ町通竹屋町附近

（七）　同　第四部　新町通丸太町附近

第五　大饗當日

（一）　上京消防組第一部　猪熊通丸太町附近

（二）　同　第三部　油小路通二條附近

（三）　下京消防組第三部　三條通大宮附近

第六　還幸當日

御着京ノ場合ニ準ス

前項ニ依ル配置場所ハ十月二十五日迄ニ報告スヘシ

第十二條　上京消防組第二部及第三部ハ御駐輦中警鐘ヲ鳴サヽルモノトス

大嘗祭當日（自十四日正午、至十五日午前七時）ハ上京消防組及下京消防組各部亦同シ

出火應援ヲ要スル場合ニハ電話其ノ他ノ方法ヲ以テ之ヲ求ムヘシ

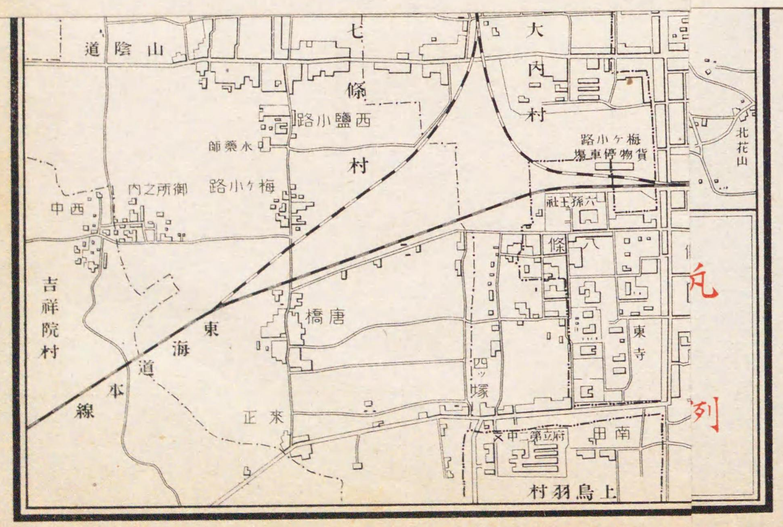
（第五十八號、第五十九號、第六十號表參照）

（第五十八號表）消防

	配置區域	消防組 組名	消防組 組頭	消防組各部 部名	小頭	機關手	消防手
御着京當日 自前日午後十時 至當日午後六時 烏丸區域ハ午後四時	御所區域 烏丸區域	上京消防組	一	第一部	—	—	—
				第二部	二	一	三五
				第三部	一	一	一一
				第一部	—	—	—
		下京消防組	一	第二部	二	一	二〇
				第三部	—	—	—
				第四部	二	一	二三
御即位當日 自午前八時 至午後五時	御所區域	上京消防組	—	第一部	—	—	—
				第二部	二	一	二八
				第三部	一	一	一一
		下京消防組	—	第一部	—	—	—
				第二部	—	—	—
				第三部	—	—	—
				第四部	—	—	—
鎭魂式當日 自午後六時 至午前六時	同上	上京消防組	—	第一部	—	—	—
				第二部	一	一	七
				第三部	一	一	三
		下京消防組	—	第一部	—	—	—
				第二部	—	—	—
				第三部	—	—	—
				第四部	—	—	—
		上京消防組	一	第一部	一	—	二〇
				第二部	二	—	六〇
				第三部	一	—	四〇

	配置區域	消防組 組名	消防組 組頭	消防組各部 部名	小頭	機關手	消防手
大嘗祭當日 自午後六時 至午前六時	同上	下京消防組	—	第一部	一	—	二〇
				第二部	一	—	二〇
				第三部	一	—	二〇
				第四部	一	—	二〇
	各部區域ノ全部（上京消防組第二部第三部ハ特別區域以外）	上京消防組	—	第一部	一	一	六八
				第二部	—	一	二八
				第三部	一	一	四八
		下京消防組	一	第一部	一	一	四七
				第二部	一	一	四七
				第三部	一	一	三七
				第四部	一	一	三七
大饗當日 第一日 自午前十一時 至午後七時 第二日 自午後三時 至午前三時	二條離宮區域	上京消防組	—	第一部	一	—	一四
				第二部	一	—	六
				第三部	—	—	—
		下京消防組	—	第一部	—	—	—
				第二部	—	—	—
				第三部	一	—	三
				第四部	—	—	—
還幸當日 自午前五時 至午前十時	御所區域 烏丸區域	上京消防組	一	第一部	—	—	—
				第二部	二	一	二五
				第三部	一	—	一一
		下京消防組	一	第一部	—	—	—
				第二部	二	一	二
				第三部	—	—	—
				第四部	二	一	二

備考　大嘗祭當日特別區域ニ配置スル消防手ニシテ下京消防組第一部ハ上京消防組第三部應援又ハ上第一部及下京消防組各部ハ上第二部ヲ應援スルモノトス



第二項　消防器具配置

第一　一般配置

一、上京消防組第一部
- (イ) 水管車　上長者町警察署　新シ町通姉小路角
- (ロ) 蒸汽喞筒　上長者町警察署
- (ハ) 腕用喞筒　上長者町警察署　今出川通千本東入嘉樂尋常小學校

二、上京消防組第二部
- (イ) 水管車　中立賣警察署　両替町通御池上ル龍池尋常小學校
- (ロ) 蒸汽喞筒　中立賣警察署
- (ハ) 腕用喞筒　中立賣警察署　柳馬場巡査派出所　櫛木町通釜座角

三、上京消防組第三部
- (イ) 水管車　川端警察署　荒神橋西詰
- (ロ) 蒸汽喞筒　川端警察署
- (ハ) 腕用喞筒　川端警察署　岡崎町新洞尋常小學校　荒神橋西詰

四、下京消防組第一部
- (イ) 水管車　松原警察署(二臺)
- (ロ) 蒸汽喞筒　松原警察署
- (ハ) 腕用喞筒　松原警察署　大佛前巡査派出所　古門前町巡査派出所

五、下京消防組第二部
- (イ) 水管車　五條警察署　綾小路通室町西入
- (ロ) 蒸汽喞筒　五條警察署
- (ハ) 腕用喞筒　五條警察署　綾小路通室町西入　新京極六角突當り誓願寺

六、下京消防組第三部
- (イ) 水管車　堀川警察署(二臺)
- (ロ) 蒸汽喞筒　堀川警察署
- (ハ) 腕用喞筒　堀川警察署　東堀川巡査派出所　九條巡査派出所

七、下京消防組第四部
- (イ) 水管車　室町通萬年寺上ル(二臺)
- (ロ) 蒸汽喞筒　室町通萬年寺上ル
- (ハ) 腕用喞筒　室町通萬年寺上ル　五條小橋下ル　柳馬場通五條下ル

第二　特別配置

一、御着京當日

(一) 上京消防組第一部
- (イ) 水管車　上長者町警察署　上京區役所
- (ロ) 蒸汽喞筒　上長者町警察署
- (ハ) 腕用喞筒　上長者町警察署　今出川千本東入嘉樂尋常小學校　新シ町通姉小路上ル

(二) 上京消防組第二部
- (イ) 水管車　中立賣警察署　両替町御池上ル龍池尋常小學校
- (ロ) 蒸汽喞筒　室町上立賣上ル室町尋常小學校
- (ハ) 腕用喞筒　中立賣警察署　釜座通櫛木町角　柳馬場通夷川上ル柳馬場巡査派出所

(三) 上京消防組
- (イ) 水管車　川端警察署前　荒神橋西詰
- (ロ) 蒸汽喞筒　川端警察署前　新東洞院通二條下ル　新洞尋常小學校　荒神橋西詰

(四) 下京消防組第一部
- (イ) 水管車　松原警察署　五條通柳馬場角
- (ロ) 蒸汽喞筒　松原警察署
- (ハ) 腕用喞筒　松原警察署　大和大路通正面角大佛前巡査派出所　白川筋古門前角古門前巡査派出所

(五) 下京消防組第二部
- (イ) 水管車　五條警察署前　蜻蛉師通室町角
- (ロ) 蒸汽喞筒　五條警察署前
- (ハ) 腕用喞筒　五條警察署前　新京極六角突當り誓願寺　綾小路通室町西入

(六) 下京消防組第三部
(イ) 水管車　室町通松原下ル　堀川警察署前
(ロ) 蒸汽喞筒　堀川警察署前
(ハ) 腕用喞筒　堀川警察署前　東堀川巡査派出所前
九條巡査派出所前
(七) 下京消防組第四部
(イ) 水管車　室町通萬年寺上ル　高倉通下珠數屋町角
(ロ) 蒸汽喞筒　室町通萬年寺上ル
(ハ) 腕用喞筒　室町通萬年寺上ル　五條小橋下ル　柳馬場通五條下ル

二、御卽位式當日
(一) 上京消防組第一部　御着京當日ニ同シ
(二) 上京消防組第二部　御着京當日ニ同シ
(三) 上京消防組第三部　御着京當日ニ同シ
(四) 下京消防組第一部
(イ) 水管車(二臺)松原警察署前
(ロ) 蒸汽喞筒及腕用喞筒　御着京當日ニ同シ
(五) 下京消防組第二部
(イ) 水管車(二臺)五條警察署前
(ロ) 蒸汽喞筒及腕用喞筒　御着京當日ニ同シ
(六) 下京消防組第三部
(イ) 水管車(二臺)堀川警察署前
(ロ) 蒸汽喞筒及腕用喞筒　御着京當日ニ同シ
(七) 下京消防組第四部
(イ) 水管車(二臺)室町通萬年寺上ル
(ロ) 蒸汽喞筒及腕用喞筒ハ御着京當日ニ同シ

三、魂鎭式當日
上京消防組及下京消防組各部共御卽位式日ニ同シ

四、大嘗祭當日
(一) 上京消防組第一部　御着京當日ニ同シ
(二) 上京消防組第二部
(イ) 水管車及蒸汽喞筒御着京當日ニ同シ
(ロ) 腕用喞筒　中立賣警察署　相國寺門前塔ノ段巡査派出所
樒木町通釜座角
(三) 上京消防組第三部
(イ) 水管車　寺町通石藥師京極尋常小學校　荒神橋西詰
(ロ) 蒸汽喞筒及腕用喞筒御着京當日ニ同シ
(四) 下京消防組第一部
(イ) 水管車　松原警察署　丸太町通寺町東入春日尋常小學校
(ロ) 蒸汽喞筒及腕用喞筒御着京當日ニ同シ
(五) 下京消防組第二部
(イ) 水管車　五條警察署　柳馬場通夷川上ル富有尋常小學校
(ロ) 蒸汽喞筒及腕用喞筒御着京當日ニ同シ
(六) 下京消防組第三部
(イ) 水管車　堀川警察署　間ノ町通竹屋町下ル竹間尋常小學校
(ロ) 蒸汽喞筒及腕用喞筒ハ御着京當日ニ同シ
(七) 下京消防組第四部
(イ) 水管車　室町通萬年寺上ル　丸太町通釜座角梅屋尋常小學校
(ロ) 蒸汽喞筒及腕用喞筒ハ御着京當日ニ同シ

五、大饗當日
(一) 上京消防組第一部
(イ) 水管車　大宮通押小路下ル教業尋常小學校
猪熊通丸太町角待賢尋常小學校
(ロ) 蒸汽喞筒及腕用喞筒ハ御着京當日ニ同シ
(二) 上京消防組第二部
(イ) 水管車　中立賣警察署　油小路通御池下ル油小路巡査派出所
(ロ) 蒸汽喞筒及腕用喞筒ハ御着京當日ニ同シ
(三) 上京消防第三部
(イ) 水管車　御着京當日ニ同シ

(四) 下京消防組第一部
(イ) 水管車　松原警察署(二臺)
(ロ) 蒸汽喞筒及腕用喞筒ハ御着京當日ニ同シ
(五) 下京消防組第二部
(イ) 水管車　五條警察署前　綾小路通室町西入
(ロ) 蒸汽喞筒及腕用喞筒ハ御着京當日ニ同シ
(六) 下京消防組第三部
(イ) 水管車　堀川警察署前(二臺)
(ロ) 蒸汽喞筒及腕用喞筒ハ御着京當日ニ同シ
(七) 下京消防組第四部
(イ) 水管車　室町通萬年寺上ル(二臺)
(ロ) 蒸汽喞筒及腕用喞筒ハ御着京當日ニ同シ

第四項　消防職員

甲、總司令部職員

總司令部長　警察部長　永田秀次郎
部員　警視　富田愛次郎
　警部　藤原佐々重
　警部　遠藤至道
　警部補　船路彌七
　巡査部長　田畑金吉
　巡査部長　寺師盛利
　巡査部長　吉川豊三
　巡査　杉浦全作
　巡査　慶松彦一
　巡査　巽　増治
　巡査　渡邊　誠

乙、司令部職員ノ主ナル者

一、上京消防組第一部司令部
司令部長　警視　兒玉利節
部員　警部　西田裏義
　警部補　塚田實一

一、上京消防組第二部司令部
司令部長　警視　木下總次郎
部員　警部　尾崎清吉
　警部補　田上四郎

一、上京消防組第三部司令部
司令部長　警部　小寺儀太郎
部員　警部　關　親賢
　警部補　高橋幹臣

一、下京消防組第一部司令部
司令部長　警視　柚木角衛
部員　警部　河村　潔
　警部補　井垣四郎

一、下京消防組第二部司令部
司令部長　警視　武盛仲太
部員　警部　松梁芳藏
　警部補　河村小太郎

一、下京消防組第三部司令部
司令部長　警部　金ヶ原武雄
部員　警部　北山三左衛門
　警部補　本鄕米次郎

一、下京消防組第四部司令部
司令部長　警部　吉村　盈
部員　警部補　赤尾龍太郎

丙、消防組幹部

(一) 上京消防組　組頭　小野寺末次郎

一、上京消防組第一部　小頭　平井嘉市
　同　沖本兼吉

一、上京消防組第二部　小頭　赤塚平三郎
　同　宮柳熊次郎

一、上京消防組第三部　小頭　勝島竹次郎
　同　佐々木秀次郎

(二)　下京消防組

一、下京消防組第一部　　組頭　清水太郎兵衛
　　小頭　長谷川竹次郎
　　同　　市村市與門
一、下京消防組第二部　　小頭　岩井喜助
　　同　　榮藤清次郎
一、下京消防組第三部　　小頭　横山卯之助
　　同　　黒田庄太郎
一、下京消防組第四部　　小頭　中村龜次郎
　　同　　姉川常吉

第二節　消防大演習幷豫行演習

大禮期間中消防警備ニ任セシムル消防組ニ對シ點檢ヲ爲スノ必要アリシヲ以テ、十月三十一日午前十時上京消防組及下京消防組ヲ平安神宮前ニ召集シ、左ノ方法ニ依リ消防演習ヲ行ヒ更ニ午後引續キ大嘗祭當夜御所警戒區域ニ對スル警戒ノ豫行演習トシテ消防警備規程第十一條ノ置場ニ器具幷ニ同規程第七條消防組員配置表中ノ消防員ヲ配置セシメ、警察部長ハ順次之ヲ檢閲シタル上命令ヲ發シテ御所苑内ニ集合セシメタルニ最モ早キモノハ五分最モ遲キモノハ十八分ヲ要シタリ。

保訓第二一號

大正四年十月三十一日(雨天ナラハ順延)午前十時ヲ期シ平安神宮前ニ於テ市部消防組ノ演習ヲ執行ス其順序方法ハ左ノ通心得ラルヘシ

右訓示ス

大正四年十月二十七日

京都府警察部長　永田秀次郎

市部各警察署長殿

第一　出場

各署長ハ所屬消防組員ニ對シ豫メ召集ノ日時ヲ告知シ置キ當日午前九時マテニ演習豫定地ニ參集スヘシ

第二　整頓

各署長ハ定刻前ニ所屬組員ヲ別紙第一圖ノ位置(第六十二號表參照)ニ整頓セシメ人員及器具ノ點檢ヲ行ヒ隊伍ノマヽ休憩セシメ警察部長ノ臨場ヲ待ツヘシ各署長ノ率フル警部以下消防事務關係ノ署員ハ第一圖ノ個所ニ在リテ靜肅ニ其ノ所屬組員ノ動作ニ注意スルヲ要ス

第三　檢閲

一、警察部長臨場セハ左ノ號令ヲ爲ス

氣ヲ付ケ(喇叭)

此號令ニテ隊伍一整ニ直立不動ノ姿勢ヲ取ルヘシ但シ組頭ハ各組豫備消防手ノ右翼ニ在リテ檢閲ヲ受クルモノトス

二、警察部長ハ列員ノ右端ヨリ順次全員及器具ノ檢閲ヲ行フ

三、前項ノ檢閲ヲ了レハ順次左ノ號令ヲ爲ス

一氣ヲ付ケ(喇叭)

一其儘右向ケ右

一前へ運メ

其號令ニテ常備消防手ヲ先頭ニ次テ上京消防組第一部ヨリ二列トナリ順次行進ヲ開始シ檢閲官ノ面前適當ノ地點ニ於テ各部ノ小頭ハ「頭左」ノ號令ヲ發ス(常備消防手ニハ上京第一部ノ小頭ノミ此號令ヲ爲スコト)此號令ニテ組員ハ頭ヲ左ニ向ケ注目ノ儘約二三歩ヲ過キ目迎目送シ應天門東入ヨリ第二圖ノ位置ニ就テ停止整列シテ休メノ姿勢ヲ取ルヘシ

四、常備消防手操練

(警察官吏ハ休憩所ニ入リ豫備消防手ハ現位置ニ在リテ靜肅ヲ保持スヘシ)

第四　訓示

一、集レ(喇叭)

此號令ニテ迅速第二圖訓示席ノ位置(第六十一號表參照)ニ集合整列スヘシ

(イ)警察部長　訓示
(ロ)保安課長　告辭
(ハ)組頭　答辭

二、分レ進メ

此號令ニテ一齊擧手ノ禮ヲ行ヒ警察官及組頭ハ休憩所ニ入リ小頭ハ所屬部隊ニ歸ルモノトス

右終リテ大禮記錄ノ材料トスヘキ寫眞撮影ノコト

第五　放水

一、放水準備セヨ(喇叭)

此號令ニテ各部消防手ハ消防車及喞筒ニ對シ放水ニ必要ナル準備ヲ整ヘ筒先係ハ管鎗ノ放口ヲ直上ヨリ稍内方ニ傾ケ之ヨリ迸出スル水ヲ疏水面ニ落下セシメ甚シク附近建造物ヲ浸潤セシメサル樣注意スヘシ(蒸汽喞筒ハ豫メ七十磅以上ノ汽壓ヲ生シ置クコト)

上京組頭ハ東岸下京組頭ハ西岸ノ各管鎗放口ノ位置ヲシテ出入高低ナカラシムルコトニ努メ全部整頓セシトキハ其ノ旨保安課長ニ報告スルコト

二、始メ

此號令ニテ一齊ニ放水スヘシ

三、止メ

此號令ニテ一齊ニ放水ヲ止メ機械器具ヲ收メテ整頓

スヘシ

第六　休　憩

休メ（喇叭）

此號令ニテ一同任意休憩スルモノトス

各署長ハ此間ニ於テ左號ニ關係ナキ組員ヲシテ該配置ニ要セサル器具ヲ持チ歸ラシムルモ妨ナシ

第七　配　置

第三節　一般警戒ニ關スル施設

第一項　市部及郡部

第一　各警察署長ニ對スル訓示

火災警防上各警察署長ニ對シ左ノ訓示ヲ發シタリ。

保訓第一三號

來ル十一月大典期間中ニ於ケル火災警防ニ付テハ深甚ノ注意ヲ拂ハサルヘカラス殊ニ時恰モ冬季ニ向ヒ火氣ヲ取扱フ者漸ク多カラントスルノ際ナレハ一層ノ警戒ヲ要スヘク就テハ宿屋料理屋劇場興行場觀物場湯屋及製造場等ノ各營業者ニ對シテハ左記事項ヲ勵行シ其他一般人家ニ對シテハ適當參酌ヲ加ヘ相當ノ設備ヲ爲サシメ以テ火災警防上遺憾ナキヲ期セラルヘシ

右訓示ス

大正四年八月十二日

火災警防ニ關スル注意事項

（一）一般人民ニ對スルモノ

（イ）竈其ノ他火ノ元ニ注意ヲ與ヘ完全ナル火消壺ヲ備付セシムルコト

（ロ）ランプハ金屬製ノ油壺ノモノヲ使用セシムルコト

（ハ）避難器　非常口

營業用家屋ニハ適當ナル避難器（避難綱若ハ繩梯子等）ヲ設ケシメ尚ホ出來得ル限リ此際相當ナル非常口ノ設備ヲ命スルコト

（三）劇場興行場及觀物場等ニ對スルモノ

（イ）消火器

宿屋料理屋ノ場合ト同シ

（ロ）劇場ニハ喞筒布製手桶蓄水器竹梯子長柄鳶口等ノ備付アルヤ及ヒ其ノ完全ナリヤ否ヤヲ調査スルコト

警察部長

（ハ）京都市及其ノ附近ノ電話開通セル町村ノ各戸ヘ警察部警察署及受持巡査派出所又ハ駐在所ノ電話番號ヲ印刷配附スルコト

（二）宿屋料理屋ニ對スルモノ

（イ）消火器ノ個數及備附ノ位置ノ檢査ヲ爲スコト

一、配置ニ着ケ（喇叭）

此號令ニテ各署長ハ本月十六日保訓第一九號中大嘗祭當夜御所區域ノ警戒ニ當ルヘキ人員及器具ノ配置ヲ爲シ現場ニ在リテ警察部長ノ命令ヲ待ツヘシ

第八

一、前號命令ニ依リ相當運動ノ上更ニ人員器具ノ點檢ヲ受ケ解散スルモノトス

（ホ）ランプハ金屬製ノ油壺ノモノヲ使用セシムルコト

家人ヲシテ使用方法ヲ熟知セシムルコト

規模小ナル宿屋ニ對シテモ此際備附セシムルコト

（ロ）ランプハ金屬製ノ油壺ノモノヲ使用セシムルコト

（ハ）避難器　非常口

營業用家屋ニハ適當ナル避難器（避難綱若ハ繩梯子等）ヲ設ケシメ尚ホ出來得ル限リ此際相當ナル非常口ノ設備ヲ命スルコト

（三）劇場興行場及觀物場等ニ對スルモノ

（イ）消火器

宿屋料理屋ノ場合ト同シ

（ロ）劇場ニハ喞筒布製手桶蓄水器竹梯子長柄鳶口等ノ備付アルヤ及ヒ其ノ完全ナリヤ否ヤヲ調査スルコト

（ハ）興行場及觀物場ニハ適當ナル消火器具ヲ備付セシムルコト

（二）非常口

常ニ開閉自在ナラシメ置クコト

傍ニ赤燈及非常口ト記シタル札ヲ付シテ所在ヲ明カニスルコト

（ホ）ランプハ金屬製ノ油壺ノモノヲ使用セシムルコト

（一）點燈（電氣瓦斯ニアラサル）ノ場所ニハ適當ナル防火ノ裝置ヲ爲サシムルコト

（ト）假設ノモノニ對シテハ（イ）（ハ）（二）（ホ）ヲ準備スルコト

（四）湯屋製造場ニ對スルモノ

（イ）煙突ノ掃除ヲ特ニ勵行スルコト

（ロ）煤煙飛散ノ虞アルモノニハ燃燒器ニ備付ヲ奬勵スルコト

九月一日各警察署長會議ノ際火災警防ニ關シ左ノ指示ヲ爲シタリ。

大禮ノ期日前後ハ火災漸ク多カラントスルノ季節ニ際シ萬一火災ノ發生ヲ見ル時ハ人命財產ニ多大ノ傷害ヲ與フルカ如キコトアルニ於テハ最モ遺憾トスル所ナルヲ以テ本月十二日保訓第十三號ノ訓示ヲ發シ又御駐輦中ニ於ケル消防ニ關シテハ別ニ計畫スル處アルモ戶口調查ノ際ハ勿論烈風等ノトキニ當リテハ隨時警察官吏消防夫等ヲシテ營業者其他ニ注意ヲ與ヘシメ警戒ヲ怠ラサラシムルハ勿論一面市部ニ於テハ公設消防組ハ固ヨリ在鄕軍人及靑年團體等ヲ利用シテ警防上遺算ナキヲ期セラルヘシ大嘗祭當夜ニ於ケル火氣ノ取扱ニツキ殊ニ注意ヲ喚起セシムル爲每戶ニ就キ之レカ注意ヲナスコトヲ要ス

第三　告　諭

大正四年十月二十七日大禮ニ關スル京都府告諭中火災警防ニ關スル事項ヲ加ヘタリ。（第八章參照）

第二項　市　部

第一　各警察署ニ對スル訓示

市部各警察署長ニ左ノ訓示ヲ發セリ。

保訓第第二三號

大典期間ニ於ケル交通上ノ安全火災盜難ノ警防其他不正商人ノ取締等ニ關シテハ夫々畫策實行セラレツヽアル處ナルカ左記各項ノ如キハ獨リ警察當局ノミナラス一面公同組合青年會等ノ如キ機關ヲシテ自衞的警戒ヲ爲サシムル樣取計ハルヘシ

右訓示ス

大正四年十月二十六日

京都府警察部長　永田秀次郎

記

公同組合ヲ通シテ一般ニ與フル注意事項

一、町名札文字不明ノモノ又ハ掲出漏レノ者ハ書換又ハ新設セシムルコト

一、適當ノ時期ニ於テ自身番ノ如キモノヲ設ケ火災盜難ノ豫防ニ充テシムルコト

一、自身番ヲ設置スル爲種々ノ名目ノ下ニ多額ノ費用ヲ各戸ヨリ徵收スルモノアル趣必要缺クヘカラサル費用ノ外猥リニ之カ徵收ヲナサヽルコト

一、各自火元ニ注意シ可成消火的設備ヲ爲サシムルコト

一、洋燈ヲ用フル者ニ對シ金屬製ノ油壺ノモノヲ使用セシムルコト

一、表札掲出ヲ怠ルモノ若ハ文字不明ノモノニ對シテハ書換又ハ新ニ掲出セシムルコト

一、各商店ヲシテ商品ニ正札ヲ付セシムル等ノ方法ニ依リ不當ノ利益ヲ計ラシメサルコト

一、鹵簿奉拜人心得ヲ各戸ヘ配付セシムルコト

第二　自身番設置ノ狀況調査方通牒

自身番設置ノ狀況調査ノ爲　市部各警察署長ヘ左之通牒ヲ發セリ。（但シ各警察署長ノ報告ハ省略）

保第八〇六六號

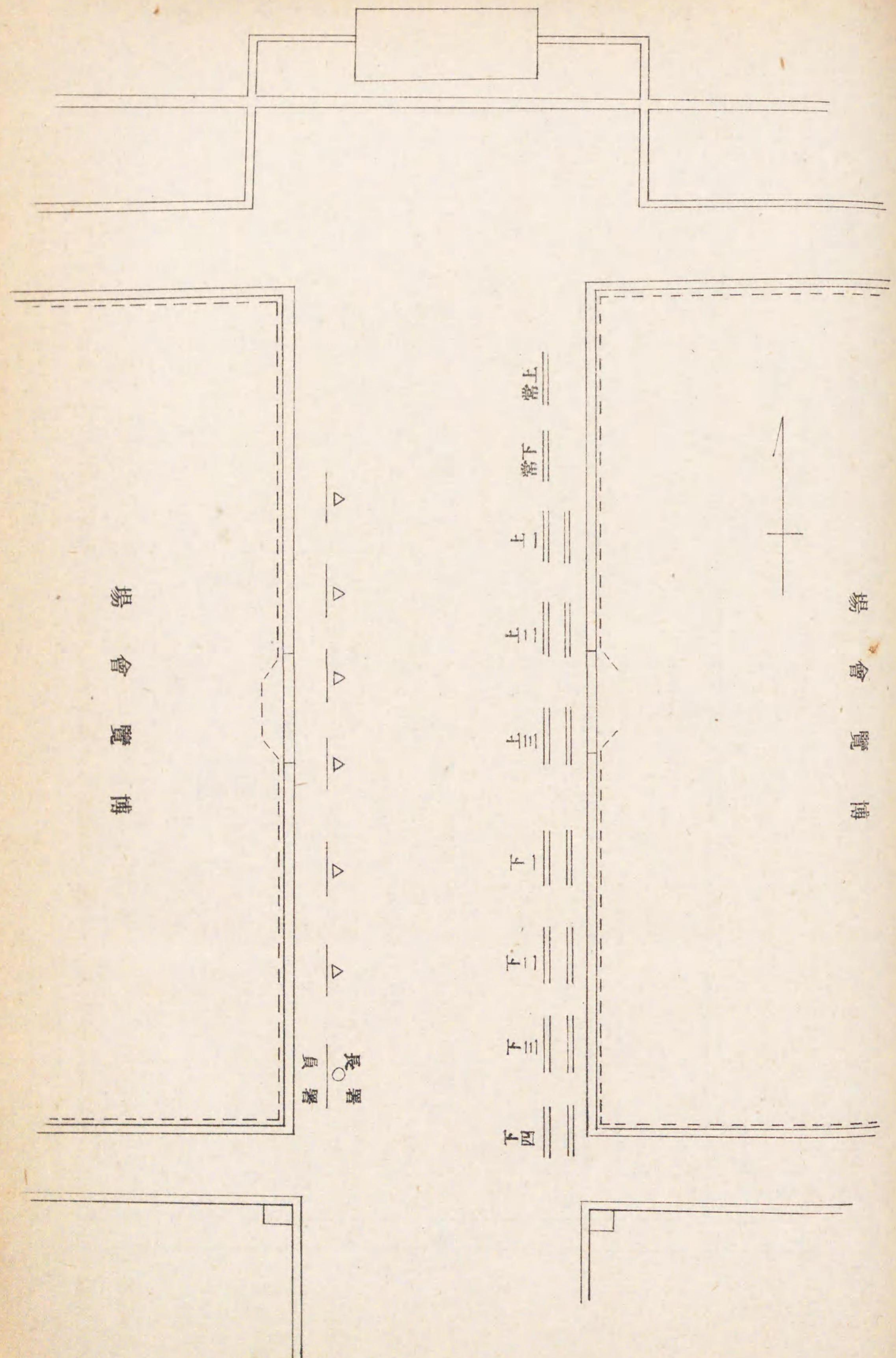
大禮期日ノ切迫ニ伴ヒ自身番ノ準備モ漸次相整フノ狀況ニ見受ケラレ候ニ付テハ左表ニ依リ調査ヲ遂ケ來ル本月末日迄ニ報告相成度此段及通牒候也

大正四年十月二十七日

警察部

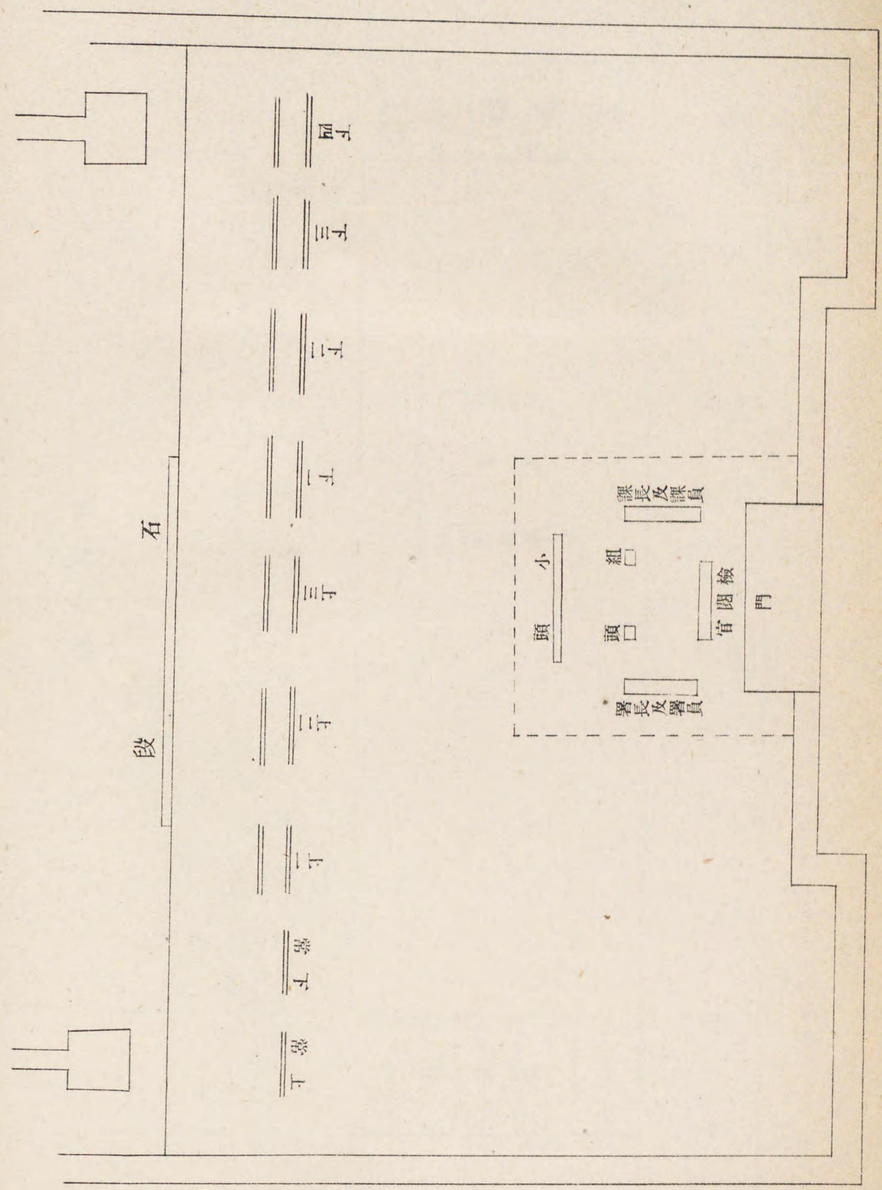
第三　自身番ノ設置及其ノ狀況

市部ニ於ケル施設トシテ大禮期間中自身番ヲ設ケ毎戸ヨリ各一名宛ヲ交代出所セシメ勤務スルモノニシテ各五名乃至八名ヲシテ一時間毎ニ交代晝夜間斷ナク其ノ町内ヲ巡視シ、殊ニ夜間ハ提燈鐵棒若ハ拍子木ヲ打鳴シ、火災盜難ノ警防ヲ如上ノ通リ自治的方法ヲ以テ警戒セリ、今自身番設置ノ狀況ヲ示セハ左表ノ如シ。（第六十三號表参照）



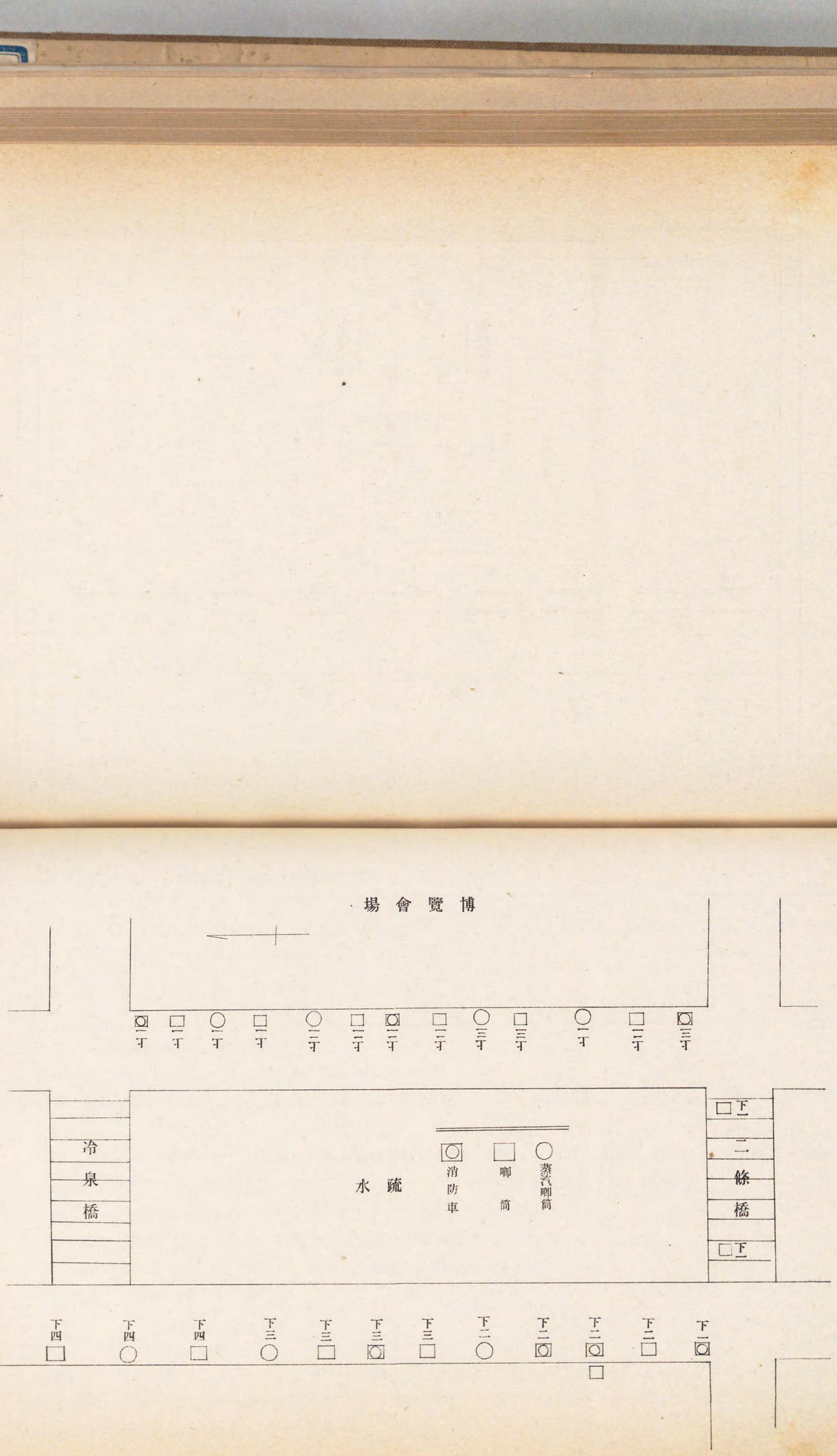
第六十號表（第一圖）

第二圖　號表六十案



第六十二號表　第二圖

博覽會場



（第六十三號表）　大禮期間中自身番ノ設置狀況表

警察署別	自身番設置ノ狀況			
	町數	戶數	期間	從事人員數
中立賣署	三六三	一二、九〇七	自七日間至廿七日	三三、八四四
上長者町署	三八五	一〇、六三八	同	一〇一、六四〇
五條署	二〇四	七、一五二	同	二六、九二八
松原署	二三九	一四、七三〇	同	二七、六五四
川端署	一五四	一〇、二九〇	自七日間至廿七日	一六、七六四
七條署	一一三	六、八二九	同	一七、五八〇
堀川署	三〇〇	一四、二三三	同	四一、四四九
合計	一、七七一	八六、八一八	同	二六四、八五九

第四　特種營業組合ノ自治的警戒

新京極興行組合ニ於テハ火災警防上左ノ施設ヲ爲シタリ。

（イ）　夷谷座本家ヲ夜警詰所トシ喇筒一臺ヲ常置シ夜警員六名監督二名交代勤務トシ毎日午後十一時ヨリ翌午前六時トス

（ロ）　夜警員ハ三名宛交代ニテ間斷ナク新京極各館場内全體ヲ巡視シテ火災ノ豫防ニ注意シ水道栓設備ノ場所ニハ「ホース」ヲ取付ケ置キ緩急ノ便ニ備フヘキモノトセリ其ノ夜警員出務ノ順序ハ左ノ如シ

第一日　歌舞伎座　富士館　八千代館　中央館　大正座　三友倶樂部

第二日　帝國館　朝日倶樂部　豐梅亭　蘆邊館　天活倶樂部　バテー館

第三日　第一勢國館　第二勢國館　福眞亭　笑福亭　夷谷座　明治座

第四日　京都座　第一日ノ分

第三項　郡部

第一　各郡長ニ對スル通牒

大禮期間中郡部在勤ノ警察官ハ警衞ノ爲、其ノ大部分召集セラルヽニ付テハ自然警察力薄弱トナルヲ以テ之カ補塡ノ必要上各郡長ニ對シ左ノ通牒ヲ發シタリ。

保第七八六一號

大禮期間中郡部各署警察官應援トシテ多數派遣セシムル見込ニ有之從テ郡部ノ警察力ハ薄弱トナルヘク此際警察署長トモ協議シ在鄉軍人青年會等ニ對シ自治的方法ヲ督勵シ受持巡査ノ應援出張期間中ハ夜警ヲナサシムル等相當措置ヲ命シ盜難火災ノ警防等治安保持ニ付遺憾ナキ樣御盡力相成度依命此段及通牒候也

大正四年十月二十日

内務部長
警察部長

第二　各警察署長ニ對スル通牒

右通牒ト同時ニ郡部各警察署長ヘモ左ノ通牒ヲ發セリ。

十月二十日付ヲ以テ別紙ノ如ク郡長ニ對シ依命通牒致シ候間御了知相成度尙ホ先般署長會議ノ節指示セシ次第モ有之在鄉軍人青年會等ヲシテ相當自治的方法ヲ講セラレツヽアル事ナラムモ最早大禮期間モ切迫セシニ付テハ未タ御計畫ナキ向ハ至急其ノ歩ヲ進メ本月末日迄ニ其ノ計畫一般御報告相成度此段及通牒候也

大正四年十月二十日

警察部長

第三　各警察署長ノ報告

右通牒ニ依リ郡部各警察署長ヨリ報告セル自治的火災警防ノ狀況ハ各郡共概子計畫同一ニシテ各町村共町村長監督ノ下ニ公設消防組員、在鄉軍人、青年會員等十名内外ヲ以テ大禮期間中每日交代ニテ其ノ町村内ヲ巡視シ、晝夜專ラ火災盜難ノ警防ニ從事シ、又郡部各町ニハ特ニ自身番ヲ置キ夜間間斷ナク町内ヲ鐵棒拍子木ヲ鳴ラシテ巡回シ、火災豫防ニ努メタルモノナリ。

第四項　大嘗祭當夜ノ火元注意書配附

大嘗祭當夜ニ於ケル火災豫防ニ付テハ深甚ノ注意ヲ拂ヒ既ニ自身番ノ制アリ、且ツ市部消防組員全部ヲ召集シテ警戒ニ當ラシメタル外、尙火災豫防上ノ注意ヲ喚起セシムル爲メ警察部ニ於テ左記火ノ元注意書十萬枚ヲ印刷シテ各警察署ニ分配シ自身番又ハ消防組員等ヲシテ當夜京都市及其附近郡部ヘ配附セシメタリ。（第六十四號表參照）

火ノ元注意

御大禮期間中ハオ互ニ火ノ用心ヲ第一トセネハナリマセンカ別シテ今日ノ午後四時二十分カラ翌午前五時マテニ亘リテ行ハセラレル大嘗祭ハ特ニ靜肅ヲ要スル極メテ御大切ナオ祭リテ昔ハ煙モ上ゲナイ程テアツタソウテスカラ万一ノ事カアリマシテハ恐レ多イ次第テアリマスカラ篤ト火ノ元ニ注意シ決シテ火災ナトヲ起サナイ樣ニセネハナリマセン

大四年十一月十四日　京都府

保第八六九〇號ヲ以テ市内及下鴨花園各警察署長ヘ左ノ通牒ヲ發セリ。

別紙「火の元注意」印刷物送附候條貴部内各戸ヘ無漏配布シ且ツ有効ナラシムルニ努メラレ度此段及通牒候也

（第六十四號表）　火ノ元注意印刷物送附表

署名	送附枚數	大正三年十二月末現在部數	署名	送付枚數	大正三年十二月末現在部數
川端警察署	一〇、五〇〇	一〇、二九〇	五條警察署	一一、〇〇〇	七、一五一
中立賣警察署	一六、〇〇〇	一三、九〇七	七條警察署	六、五〇〇	六、八一九
上長者町警察署	二三、五〇〇	二〇、六三八	下鴨警察署	四〇〇	八、五七六
松原警察署	一六、〇〇〇	一四、七三〇	花園警察署	六〇〇	五、四三四
堀川警察署	一六、五〇〇	一四、二八三	合計	一〇〇、〇〇〇	一〇〇、八二八

備考　花園、下鴨ノ分ハ京都市附近ノ戸數ニ配付シタルモノ

第四節　大禮期間中ニ於ケル消防警備成績

警防ノ設備周到ナリシ爲左表（第六十五號、第六十六號參照）ノ如ク大禮期間中例年ニ比シテ良好ノ成績ヲ得タリ。

（第六十五號表）　市部火災被害調査表

年月別	火災度數 直ニ消止タルモノ	火災度數 全燒又ハ半燒	火災家屋數 住家	火災家屋數 非住家	被害概價
大正二年十一月	一	六	六	三	一〇、八六〇・三三五円
大正三年十一月	四	一	五	一	一、八三三・三〇〇
大正四年十一月	四	一	一	三	四、八四〇・〇〇〇

備考　大正四年度被害額多キハ商品燒失ノ被害多額ナリシニ依ル

（第六十六號表）　郡部火災被害調査表

年月別	火災度數 直ニ消止タルモノ	火災度數 全燒又ハ半燒	燒失家屋數 住家	燒失家屋數 非住家	被害概價
大正二年十一月	八	一三	二	一八	一三、五〇一・八〇〇円
大正三年十一月	一〇	一四	二〇	一三	八、五〇八・〇〇〇
大正四年十一月	一	五	六	一	一、八四三・五〇〇

第八章　大禮ニ關スル告諭及告示

此ニ大禮ニ關シテ發セラレタル告諭及告示ヲ一括シテ掲ケ、參考トセン。

京都府告諭第二號

本年四月十二日告諭第一號ヲ以テ大禮ニ關シ府民ノ注意ヲ促ス所アリシカ今ヤ期日目睫ノ間ニ迫リ府下ノ衞生狀態尙太ク意ヲ安ンスヘカラサルモノアリ今後官民一層協心戮力以テ惡疫ノ鎭壓防遏ニ努メサルヘカラス而シテ大典ニ際シテハ御駐輦二旬ニ餘リ行幸數次ニ渡ラセラルヽヲ以テ內外ノ貴賓ヲ迎ヘ遠近ノ衆庶相聚リテ都下ノ熱鬧混雜蓋シ想像ニ餘リアルモノアラン此秋ニ方リ市內ノ安寧ヲ保チ沿道ノ秩序ヲ完ウセントスルニハ一ニ上下協同ノ力ヲ以テ和衷事ニ當リ指導其ノ宜キヲ得サルヘカラス若シ萬一ニモ放肆自ラ制スル所ナクシテ此慶事ニ際シ病傷者ヲ出スカ如キノ不祥アラハ恐懼措ク能ハサル所ナリ殊ニ大嘗祭ハ最モ重キ御神事ナレハ當日ニ於テハ嚴ニ火氣ヲ警メ謹愼靜肅苟モ過ナキヲ期スヘキナリ此際府民須ラク左記事項ヲ遵守シ善ク當該官吏ノ指示ニ從ヒ以テ曠古ノ盛儀ヲ奉祝スルニ於テ萬遺漏ナキニ努ムヘシ

右告諭ス

大正四年十月二十七日　　京都府知事大森鍾一

第一　火災豫防ニ關スル注意事項

一、大嘗祭當夜ニ於テ焚火ヲ爲シ又ハ炬燵煖爐火鉢等ヲ使用スル場合ニハ特ニ注意ヲ爲シ且ツ非常用ニ供スル爲可成容器ニ用水ヲ貯ヘ置クコト

二、焚火ヲ爲ストキハ其ノ場所ヲ離レサル樣ニシ烈風ノ際ハ可成焚火ヲ爲サヽルコト

三、竈風呂場等火焚場附近ニハ火ノ移リ易キ物件ヲ置カサルコト

四、火焚場燃料置場トハ相當ノ距離ヲ保タシメ又ハ其ノ間ニ不燃質物ヲ以テ相當ノ障壁ヲ設クルコト

五、灰置場ハ地中ニ設ケ且ツ完全ナル覆蓋ヲ爲スコト又火氣ノ殘リタル灰ヲ入レサルコト

六、完全ナル火消壺ヲ備ヘ附近ニ燃質物ノ存在セサル場所ニ置キ且ツ火ヲ入レタル際ニハ覆蓋ヲ爲スヲ忘レサル樣ニスルコト

七、洋燈ハ金屬製ノ油壺ノモノヲ用ヒ釣洋燈ニハ釣索去ハ釘等ニ注意シ墜落等ノ虞ナキ樣裝置スルコト

八、洋燈ハ就寢後點火シ置カサルコト

九、神佛ニ供スル燈火ノ附近ニハ神佛札其ノ他火ノ移リ易キ物件ヲ置カサルコト

十、松明等ノ裸火ハ火ノ移リ易キ物件ノ在ル附近ニ於テ使用セサルコト

十一、燐寸附木ノ燃ヘ殘リ又ハ蠟燭ノ芯等ヲ投棄スル場合ニハ火氣ノ殘リ居ラサル樣スルコト

十二、煙草ノ吸殼ヲ場所ヲ選ハス投棄セサルコト

十三、小兒ヲシテ火氣ヲ取扱ハシメサルコト

十四、燐寸其ノ他發火シ易キ物件ハ小兒ノ手ノ及ハサル場所ニ置クコト

十五、石油ハ火氣ノ及ハサル一定ノ場所ニ置キ且ツ日沒後ハ其取扱ヲ爲ササルコト

十六、煙突ヲ使用スル向ハ掃除ヲ勵行シ損所ハ細微ノモノト雖直チニ修理スルコト

十七、火鉢炬燵煖爐等ヲ用フル場合ニシテ外出セントスルトキハ火ヲ消シ置クコト

十八、可成消火器ヲ備ヘ置クコト

第二　行幸ニ對スル一般ノ心得

一、通御滊車沿道及御道筋ニ在リテハ

イ、建物看板其ノ他工作物ニシテ危險ノ虞アリ又ハ通行ノ妨害トナルヘキモノ若クハ甚シク不體裁ノ物件ハ豫メ修理取除又ハ掩蔽等相當ノ措置ヲ爲スコト

ロ、便所肥料溜塵芥溜其ノ他見苦シキ個所ニハ適當ノ目隱ヲ設クルコト

ハ、不潔ノ箇所ハ豫メ掃除スルコト

ニ、附近三丁以內ノ田畑ニハ通御二日前ヨリ臭氣ヲ發散スル肥料ヲ施ササルコト

ホ、通御道筋ノ各戶ハ豫メ掃除ヲ爲シ淸潔ニスルコト

二、通御當日滊車沿道御道筋附近ニ在リテハ

イ、塵芥ノ飛散スヘキ物件ノ取扱又ハ運搬ヲ爲シ若クハ塵芥ノ燻燒ヲ爲サヽルコト

ロ、見易キ場所ニ襁褓襤褸汚物等見苦シキ物品ヲ置カサルコト

ハ、袒裼裸體其ノ他不體裁ノ行爲ヲ爲サヽルコト

ニ、製造工場等煙突ヲ使用スルモノニ在リテハ通御當時甚シキ煤煙ノ發散ヲ止ムルコト

ホ、御道筋ニ沿ヒタル製造場工場等ニシテ甚シキ惡臭又ハ劇シキ音響ヲ發スルモノハ通御當時之ヲ止ムルコト

ヘ、狩獵等ノ爲發砲セサルコト

ト、御道筋ノ各戶ニ揭揚スル國旗提燈等ハ通御ノ障害トナリ又ハ顚倒スル等ノコトナキ樣スルコト

チ、御道筋及其ノ附近ノ家畜飼養者ハ家畜ノ放逸セサル樣相當ノ措置ヲ爲スコト

リ、御道筋ハ丁寧ニ掃除ヲ爲シ且ツ塵埃ノ飛散セサル樣時々適度ニ淨水ヲ撒布スルコト

三、白痴瘋癲其ノ他精神ニ異狀アル者ハ保護者ニ於テ嚴重保護ヲ加ヘ外出セシメサルコト

四、幼兒ニハ必ス迷子札ヲ附シ置クコト

第三　鹵簿奉拜人ノ心得

一、一般ニ亘ル注意事項

イ、服裝ハ淸潔ナルモノヲ用ヒ容儀ヲ整ヘ苟モ不體裁ナラサルコト

ロ、老者幼者病者姙婦癈疾者酩酊者又ハ幼兒ヲ伴ヒタルモノハ混雜ノ場所ニ立入ラサルコト

ハ、癲疹流行性感冒、流行性腦脊髓膜炎其ノ他傳染性疾患ニ罹レル者ハ奉拜ヲ遠慮シ且ツ御道筋附近ニ立寄ラサルコト

ニ、他人ノ嫌惡スヘキ皮膚病等身體外部ノ疾患アルモノハ奉拜ヲ遠慮スルコト

ホ、車馬ニ乘リタル者及車馬ヲ牽引シタル者ハ混雜ノ場所ニ立入ラサルコト

ヘ、旌旗杖等ハ自他ニ危害ヲ及ホス虞アルカ故ニ各自　之ヲ携帶セサルコト

ト、多額ノ金錢又ハ貴重品(寶石、指輪、時計、有價證券等)ヲ携帶セサルコト

チ、道路ハ特ニ指示セラレタル場合ノ外總テ左側ヲ通行スルコト

二、家ヲ出ツル時ノ注意事項

イ、擧家同時ニ鹵簿ヲ奉拜セントスルトキハ雜沓ヲ增スノミナラス留守宅ハ火災盜難ノ虞アリ而シテ今回ハ渡御數次ニ涉ラセラルヘキ儀ニ付可成家族交互日ヲ異ニシテ奉拜スルコト

ロ、履物ハ可成靴又ハ草履等脫ケ易カラサルモノヲ用フルコト

ハ、特別公式鹵簿ノ際ハ適宜辨當及水筒等ヲ携帶スルコト

ニ、雨天ノ節ハ雨具ヲ用フルコトヲ得ヘキモ可成他人ノ迷惑ニナラサルモノヲ選フコト

三、御道筋ヘ到ル途中ニ於ケル注意事項

イ、御道筋附近ハ御一定ノ時間前ニ交通遮斷ヲ行フカ故ニ奉拜人ハ其ノ以前ニ入リ居ルコト

ロ、御苑內芝生地ハ指定シアル諸員ノ外入場セサルコト

ハ、特別ノ奉拜區域ハ豫メ繩張及標札ヲ以テ區畫シアルカ故ニ此ノ內ニ立入ラサルコト

四、御道筋ニ於テ通御ヲ待ツ間ニ於ケル注意事項

イ、警察官吏ノ制止シタル場所ニテ奉拜セサルコト

ロ、群集ヲ押分ケ前面ニ出テ又ハ後方ヨリ押サヽルコト

ハ、御道筋及其ノ附近ニ於テ紙片其ノ他不潔物ヲ投棄セサルコト
ホ、負傷又ハ發病者アルトキハ警察官吏ニ申告シ救護ヲ受クルコト

五、通御ノ際ニ於ケル注意事項

イ、鳳輦通御ノ際ハ鹵簿先驅通過ノ時鳳輦ニ對シテ敬禮ヲ爲シ徐々ニ姿勢ヲ復シテ奉拜スルコト
ロ、萬歳ノ發聲ハ鹵簿内馬匹ノ驚逸スル虞アルカ故ニ爲サヽルコト
ハ、靜肅ヲ旨トシ喧囂騒擾其ノ他苟モ不敬ニ渉ル行爲ナキコト
ニ、帽ヲ冠リ又ハ覆面等ヲ爲サヽルコト　但シ洋裝ノ婦人其ノ他冠帽ヲ以テ禮トスル者ハ此限ニアラス
ホ、鹵簿又ハ御召列車ヲ指シ若ハ手ヲ翳シテ望見セサルコト
ヘ、小兒ヲ肩上ニ乘セ又ハ擔荷負荷ヲ爲シタル儘奉拜セサルコト
ト、喫煙又ハ飲食セサルコト
チ、屋上階樓棧敷車上其ノ他高所（板塀柵欄樹木等）ニ於テ奉拜セサルコト

六、通御後ニ於ケル注意事項

イ、警察官吏ノ指揮アル迄ハ其ノ位置ヲ動カサルコト
ロ、退散スルトキハ混雜ヲ來ス虞アルカ故ニ順次ニ歩行シ先ニ行ク者ヲ追越サヽルコト
ハ、退散スルトキハ鹵簿進行ノ反對方向ニ次ノ街角横道ヘ順次解散スルコト

京都府告示第五三四號

大禮期間中交通遮斷及電車運轉制限ニ關スル件左ノ通相定ム

第一　交通遮斷ニ關スル規定

（一）　總　則

第一條　大禮行幸ニ付京都ヘ着御（十一月七日）及東京ヘ還幸ノ日（十一月二十七日）及大饗第一日（十一月十六日）同第二日（十七日）ニ於テハ雜沓ヲ防止スル必要上御道筋附近其ノ他一定ノ地域ヲ限リ交通遮斷ヲ行フ前項ノ交通遮斷線ハ別紙圖面朱線ノ地點トス

第二條　交通遮斷施行ノ時間ハ各本條ニ規定ス　但シ交通ノ狀況ニ依リ之ヲ伸縮スルコトアルヘシ

第三條　交通遮斷施行ノ始期ハ之ヲ二回ニ分チ第一次ニ於テハ牛馬諸車ノ交通ヲ遮斷シ第二次ニ於テハ人ノ交通ヲ遮斷ス但シ場合ニ依リ同時ニ行フコトアルヘシ

第四條　前條ノ交通遮斷ハ交通ノ狀況ヲ斟酌シテ交通遮斷線配置ノ警察官吏之ヲ行フ

第五條　交通遮斷ヲ行ヒタル後ハ左ニ記載スル者ノ外交通遮斷線内ニ立入ルコトヲ得ス

一、大禮便職員
二、一定ノ徽章ヲ附シタル府市吏員救護班及人夫
三、一定ノ徽章ヲ附シタル新聞雜誌記者寫眞業者
四、郵便電話集配人
五、其ノ他警察官吏ニ於テ必要ト認メタル者

第六條　前條ノ交通遮斷線内ニ立入ルコトヲ得ル者ト雖警察官吏ノ許可ヲ得ルニアラサレハ通御一時間前ヨリハ御道筋ニ入ルコトヲ得ス

第七條　交通遮斷ヲ行ヒタル後左ニ記載スルモノハ交通遮斷線内指定道路ニ限リ通行スルコトヲ得

一、大禮參列員
二、京都停車場ニ於テ奉迎送ナナス有資格者
三、鹵簿奉拜ノ場所ヲ指定セラレタル學校團體其ノ他ノ者但シ入場切符ノ際其通路及時間ヲ指定ス

（二）　京都着御及東京ヘ還幸當日（十一月七日　同二十七日）

第八條　京都着御及東京ヘ還幸ノ當日（十一月七日同二十七日）ニ於ケル交通遮斷ハ鹵簿通御約六時間前ヨリ鹵簿通過後約一時間之ヲ行フ

第九條　交通遮斷後ト雖左ノ道路ハ東西ニ通行スルモノニ限リ鹵簿通御前約一時間迄左ノ通通行ヲ許ス

一、二條通　松原通　但シ西ヨリ東ヘノ通行ニ限ル
二、押小路通　五條通　但シ東ヨリ西ヘノ通行ニ限ル
三、三哲通

第十條　交通遮斷後御所ニ出入スル者ハ左ノ通路ニ依ルヘキモノトス

一、烏丸通以東ノ者ハ交通遮斷線外便宜ノ通路ヲ經テ寺町通ニ出テ今出川通ヲ經テ今出川門ヘ
二、烏丸通以西ノ者ハ交通遮斷線外便宜ノ通路ヲ經テ西洞院通ニ出テ丸太町通釜座通下立賣通室町通ヲ經テ中立賣通ヨリ中立賣門ヘ

第十一條　京都停車場ニ於テ奉迎奏送スル者ハ左ノ通路ニ依ルヘキモノトス

一、構内御通路東側ニ於テ奉迎奉送スルコトヲ許サレタル者ハ交通遮斷線外便宜ノ通路ヲ經テ七條通ニ出テ東洞院通ヲ順路同停車場ヘ
二、構内御通路西側ニ於テ奉迎奉送スルコトヲ許サレタル者ハ交通遮斷線外便宜ノ通路ヲ經テ新町通ヨリ順路停車場ヘ

第十二條　京都停車場ニ於テ汽車ニ乘ラントスル者ハ高倉通三哲ノ辻ヲ經テ東洞院ヲ南ヘ順路同停車場ヘ

第十三條　京都停車場ニ下車シタル者ハ同停車場構内順路ヲ經テ西洞院ニ出ツルモノトス

（三）　大饗第一日及第二日（十一月十六日同十七日）

第十四條　大饗第一日及第二日（十一月十六日同十七日）ハ鹵簿通御約二時間前ヨリ鹵簿通御後約三十分迄之ヲ行フ

第十五條　交通遮斷後ト雖左ノ道路ハ南北二通過スルモノニ限リ鹵簿通御前約一時間迄左ノ通通行ヲ許ス

一、衣棚通　但シ北ヨリ南ヘノ通行ニ限ル
二、新町通　但シ南ヨリ北ヘノ通行ニ限ル

第十六條　大饗ニ召サレタル者ハ左ノ通路ニ依ルヘキモノトス

一、交通遮斷線ノ東方又ハ南方（堀川通以東）ニ在ル者ハ交通遮斷線外便宜ノ通路ヲ經テ

（イ）　馬車乘用者

三條通ニ出テ東堀川通ヨリ御池橋ヲ渡リ西堀川通ヲ順路東大手門又ハ南大手門ヘ

（ロ）　自動車乘用者

四條通ヲ西ヘ東堀川通ヲ北ヘ、（イ）ト同一通路

第三編　保安　第八章　大禮ニ關スル諭告及告示

（ハ）　人力車乘用者及歩行者

姉小路通ニ出テ東堀川通ヨリ（イ）ト同一通路

二、交通遮斷線ノ西方北方又ハ南方（堀川通以西）ニ在ル者ハ交通遮斷線外便宜ノ通路ヲ經テ千本通又ハ御池通ニ出テ御池通ヨリ

（イ）　馬車自動者乘用者

西堀川通ヲ北ニ一ノ（イ）ト同一通路

（ロ）　人力車乘用者及歩行者

（1）　東大手門ヨリ入ル者ハ西堀川通北ヘ
（2）　南大手門ヨリ入ル者ハ猪熊通ヲ北ヘ　但シ北方ノ者ニシテ第十四條ノ特別通路ヲ經タル者ハ一ノ例ニ依ルモノトス

第十七條　北大手門ヨリ入ル者ハ交通遮斷線外便宜ノ通路ヲ經テ猪熊通ヲ南ヘ

第二　電車ノ運轉制限ニ關スル規定

第二條　京都着御及東京ヘ還幸ノ當日（十一月七日同二十七日）ハ左ノ通電車ノ運轉ヲ中止スルモノトス

一、烏丸通線
下立賣以南ハ午前五時ヨリ午後五時迄下立賣通以北ハ交通遮斷ヲ行ヒタルトキヨリ午後五時迄

二、今出川通線（市電）
室町通以東ハ（一）ノ下立賣通以北ニ同シ
三、下立賣通線
室町通以東ハ（一）ノ下立賣通以北ニ同シ
四、丸太町通線
室町通以東新烏丸以西ハ午前五時ヨリ午後五時迄
五、寺町通線
夷川通以北白梅圖子以南ハ交通遮斷ヲ行ヒタルトキヨリ午後五時迄　但シ交通遮斷線内ニ停車セサルトキハ此限リニ非ス
六、四條通線及七條通線
四條通線ニアリテハ新町通以東高倉通以西七條通線ニアリテハ新町通以

東間ノ町通以西ハ鹵簿通御約一時間前ヨリ鹵簿通御後約一時間　但シ交通遮斷後ハ交通遮斷線内ニ於テ停車スルコトヲ得ス

七、三哲通線

西洞院通以東高倉通以西鹵簿通御約二時間前ヨリ鹵簿通御後二時間　但シ交通遮斷後ハ交通遮斷線内ニ於テ停車スルコトヲ得ス

本線ノ運轉ハ場合ニ依リ許サヽルコトアルヘシ

第二條　大嘗祭當日（十一月十四日）ニ於テハ左ノ通電車ノ運轉ヲ制限スルモノトス

一、寺町通線

今出川通丸太町通間十四日午後四時ヨリ十五日午前六時迄運轉ヲ中止ス

二、丸太町通線及烏丸通線

丸太町線ニアリテハ烏丸通寺町通間烏丸通線ニアリテハ丸太町通線以北十四日午後四時ヨリ十五日午前六時迄徐行スヘシ

第三條　大饗第一日及第二日（十月十六日同十七日）於テハ左ノ通電車ノ運轉ヲ中止スルモノトス

一、丸太町通線

猪熊通以東富小路以西鹵簿通御二時間前ヨリ鹵簿通御後一時間

二、堀川通線

下立賣通以南三條通以北同上

三、烏丸通線

第九章　雜錄

第一　大嘗祭當夜寺院ノ梵鐘及歌舞音曲等取締

大嘗祭當夜ノ取締トシテ市部並ニ下鴨、花園ノ各署長ヘ左ノ通牒ヲ發セリ。

保第八五七六號

大禮期間中大嘗祭當夜ハ別シテ靜肅ヲ要スヘキ儀ニ有之候條十四日午後五時ヨリ十五日午前五時迄ノ間ニ於テハ佛教各宗寺院ノ梵鐘並ニ基督教會ノ鐘ヲ撞カサル樣豫メ諭達相成候樣致度此段及通牒候也

大正四年十一月十三日

警察部長殿

追テ工場ニ對シテモ同時間中ニ汽笛ヲ鳴ラサヽル樣注意ヲ加ヘラレ度申添候

警察部

大正四年十一月十一日

右通牒ト同時ニ尙歌舞音曲遠慮方ノ件ニ付テモ市内各警察署ニ宛（一）（二）ノ通牒ヲ發セリ

（一）　保第八一四九號

大嘗祭當夜一般興行ヲ差控ヘシムルヤ否ヤニ付テ伺出ノ向有之候處右ハ十四日午後六時ヨリ十五日午前五時迄差控ヘシムル樣御注意相成度此段及通牒候也

大正四年十一月十三日

警察部

市部各警察署長殿

（二）　保第八六七九號

來ル十一月十四日ニ於テ行ハルヽ大嘗祭ノ儀ハ森嚴ノ御神事ナレハ靜肅ヲ旨トスヘキハ勿論ノ儀ニ有之曩ニ保第八五一八號第八一四九號ヲ以テ佛教各宗寺院ノ梵鐘並ニ基督教會ノ鐘工場ノ汽笛興行等遠慮方通牒相成候處尙貸座敷宿屋料理屋飮食店待合茶屋等ニ於テハ歌舞音曲ヲ差控フル樣夫々通達相成度尙提燈行列廣告樂隊等喧噪ニ渡ルモノハ相當告示御取締相成度此段及通牒候也

大正四年十一月十三日

警察部

第二　煙火打揚

市奉祝煙火打揚場所ノ豫定地ヲ定ムル爲市長ヨリ左記場所ヲ選定シテ伺出テタルカ、出町橋東二丁郡役所裏畑地ハ御所ニ近ク、二條停車場構外畑地ハ二條離宮ニ近キヲ以ヲ右二ケ所ニ於テハ煙火打揚ヲ禁止スルコトヽシ、他ハ之ヲ許可セリ。

（一）　東　インクライン發電所裏（十日、二十日）

（二）　東北　出町橋東二丁郡役所裏畑地（十日、二十日）

（三）　西北　衣笠村附近（十日、二十日）
（四）　西南　島原附近（十日、二十日）
（五）　南　加茂川堤防鐵道線路擴小路ノ間
（六）　北　船岡山附近
（七）　西　二條停車場構外畑地（七日、十日、十八日、二十日、二十七日）

第三　外國文字使用看板

大禮ニ關シ公衆ノ眼ニ觸ルヘキ場所ニ掲出セル外國文字使用ノ看板竝ニ商店ノ名稱ニ外國文字ヲ使用スルモノニ付テハ之レカ調査ニ着手シ誤謬アルモノニ對シテハ直チニ訂正セシメタリ其結果左表ノ如シ。（第六十七號表參照）

（第六十七號表）　外國文字使用看板調査表

警察署名	總數	誤ナキモノ	誤リシモノ	警察署名	總數	誤ナキモノ	誤リシモノ
下鴨	二七	二〇	七	總數	二四〇	二一四	二六
松原	二〇	一六	四	郡部	一四五	一二四	二一
川端	二九	二四	五	宮津	一四	一二	二
中立	二四	一九	五	福知山	三五	二四	一一
七條	二六	二一	五	舞鶴	三〇	二六	四
五條	二四	一八	六	伏見	三五	二四	一一
上京	二四	一八	六	綾部	二七	二三	四
川端	二五	一九	六	向日町	二五	二一	四
龜岡	二五	一九	六	新井崎	二	一	一
園部	二五	一九	六	鶴ヶ岡	三	二	一
計	二七五	二一四	六一	計	二四〇	二一四	二六

備考
一、二、使用文盛ハ英文最モ多ク羅馬字佛蘭西語、獨逸語、西班牙語、露語之ニ次ク
誤謬ノ甚キモノハ直ニ例ヲ示シテ之レカ訂正ヲ命シ其ノ他ノモノニ付テモ何レモ其ノ誤ヲ說示シ訂正スル樣懇諭シ置キタリ

1. PURE EGGS!!
CHICKEN!
SANJO OMIYA NISHI,
KYOTO
KONDO CHICKEN
BREEDING.

2. COUS ON MILK

3. TOBACCO

4. ALL COUNTRIES SEVERAL
BIRDS AND ANIMAL SHOP.
ALL KIND OF CHIN

5. NAPNADOTOK

6. CIGARETTES. CARP. PLAY
PLAY CARO.

7. HIGHEST BARBER
H. YAMANA,

8. MAKER OF ALL KINDS OF ANIMALS,
BIRDS STYLE, MODERN AND
ANCIENT MANNER PUPPET
KYOTO JAPAN

9. Phrenology palmistry
In inglish speake
Kiyoto Japan
Kosiro

10. IMPORT WINE
BOTTL IN BEST WINE
KETTLE OF FOOD
CARDINAL GOODS OF RESTRANT

11. EVERY KIKND'S
SIGH, BOARD
FOR ORDER.

第四　屋臺電車ノ運轉

京都市ニ於テハ前述ノ如ク御道筋其ノ他ニ對シ各種ノ裝飾ヲ施シタルカ、尙ホ大嘗祭ノ齋田悠基主基ニ因リタル悠紀標山主基標山ナル電車及囃電車等ヲ作リ、十一月九日以後各儀式當日之ヲ運轉シ、二十三日ニハ丸太町通京都府廳前ニ停留シ、兩皇子殿下ノ臺覽ニ供シタリ、而シテ其ノ形狀裝飾等ハ寫眞ノ如ク悠基標山及主基標山ノ考證弁ニ仕樣等左ノ如シ

屋臺電車

考證

續日本後記（天長十年二月二十八日淳和天皇位ヲ皇太子ニ讓ル同年三月六日卽位ス之ヲ仁明天皇ト爲ス）天長十一年戊辰御豐樂殿終日宴樂悠紀主基共立標其標悠紀則山上栽梧桐兩鳳集其上從其樹中起五色雲雲上懸悠紀近江四字其上有日像日上有半月像其山前有天老及麟像其後有連理吳竹

主基則慶山之上裁恒春樹樹上泛五色慶雲雲上有霞霞中掛主基備中四字且其山上有西王母獻益地圖及偸王母仙桃童子鸞鳳麒麟等像其下鶴立矣

悠紀標山

（イ）月　（ロ）桐　（ハ）鳳　（ニ）天　老　（ホ）連理吳竹　（ヘ）麒　麟　（ト）彩　霞　（チ）雲　幻　（リ）鶴

一、別紙寫眞ノ通適當ニ配置シ額ニ「悠紀標山」ノ四字ヲ肉持チ無地金ノ押繪貼リトス

二、幕、柱ノ結ヒ垂レ、車臺雲幻ハ總テ色縮緬トス

三、「ダッシユボード」ハ田植ノ押繪貼リトス

四、梧桐ハ行燈狀ニ造リ各箇ノ中ニ電球一個宛ヲ裝置ス

五、梧桐下ノ彩霞ハ枠ニ適當ノ薄キ絹織物ヲ貼リ其ノ內ニ電球ヲ裝置ス

六、左右兩側ノ勾欄ニハ造花ノ稻ヲ植ユ

七、車臺ハ全部色縮緬ヲ以テ包ム

八、適當ニ電光飾ヲ施ス

備考　悠紀標山ニ半月ノミヲ採用シタルハ悠紀殿ニ於テ半月御饌ヲ奉シタルニ由ル

主基標山

（イ）旭　日　（ロ）松　（ハ）鶴　（ニ）西王母　（ホ）童　子

（ヘ）麒　麟　（ト）彩　雲　（チ）雲　幻　（リ）鳳　凰

一、大體悠紀標山ニ同シ

二、「ダッシユボート」ハ收獲ノ圖ヲ押繪貼リトス

其他悠紀標山ニ同シ

囃電車　一基

車臺ノ四隅ニ布帛ヲ結ヒテ吊下シタル柱ヲ立テ之ニ朱塗リノ勾欄ヲ附シ天井ヲ設ク

車臺上ノ前後ノ兩部適當ナル位置ニ櫻橘ヲ樹立シ其ノ枝葉ヲ以テ天井ノ全部ヲ覆ハシメ、其ノ一半ヲ櫻花、他ヲ橘トス爲シ、其ノ棟上ノ前後ニ丸刻リ金箔塗ノ鸞鳳ヲ置ク

櫻樹ト橘樹トノ中間ニ舞樂太皷ヲ据エ、太皷臺ノ龍ハ書キ割トシ火焰ニ電氣飾ヲ施ス

其ノ他適宜ニ電光飾ヲ施ス

此囃電車ハ適宜ニ囃子ヲ座乘セシメ、吹奏シツヽ、運轉スルモノトス

第五　大禮奉祝餘興ノ狀況

大禮ヲ奉祝スル爲府下一般ニ各種ノ餘興ヲ爲シタルカ其ノ主ナルモノ左ノ如シ

一、京都市ノ奉祝

京都市ニ於テハ十一月七日十日十六日十七日二十日ニ左ノ方法ニ依リ提燈行列ヲ行ヒタリ

左記

（一）十一月七日十日十六日ハ各學區共堺町御門又ハ富小路頭若ハ主殿寮南手ヨリ御苑內ニ進行シ午後七時迄ニ建禮御門正面ノ通路ニ出テ進行ヲ停止シ列ヲ整ヘ市吏員ノ指揮ヲ受ケテ同御門前所定ノ參集所ニ至リ御所ニ向ヒ最敬禮ノ後市長ノ發聲ニ和シ萬歲ヲ三唱シ終テ同御門前通路ヲ西ヘ御所ニ沿ヒ北ヘ尙ホ東ヘ石藥師御門內ヲ南ヘ進行シ七日、十日ニ於テハ淸和院御門ヨリ寺町ニ出テ十六日ニ於テハ同御門內ヲ西ヘ大宮御所ニ沿ヒ南ヘ仙洞御所ニ沿ヒ東ヘ寺町御門外ニ出ツ但シ場合ニ依リテハ七日、十日ハ石藥師御門十六日ハ淸和院御門ヨリ出

テシムルコトアルヘシ

御門外ニ出テタルトキハ左ノ順序ニ依ル

（イ）七日ニ於テハ各所屬學區ニ復歸シ其ノ學區内ヲ便宜巡行シテ後解散スルコト

（ロ）十日ニ於テハ寺町ヲ南ヘ丸太町ヲ東ヘ博覽會場ヲ萬歳塔下ニ至リ萬歳ヲ三唱シ次キニ圓山公園ニ至リ萬歳ヲ三唱シテ解散シ其ノ他ノ學區ハ任意解散スルコト但シ特定セサル學區ニ參加スルコトヲ得

（八）十六日ニ於テハ其ノ指定ノ學區（第六十八號表參照）ハ他學區ヲ代表シ皇族殿下御邸又ハ御旅館若ハ外國使節旅館ノ門前ニ至リ敬禮ノ後萬歳ヲ三唱シテ解散シ其ノ他ノ學區ハ任意解散スルコト但シ特定セサル學區ト雖豫メ所屬區長ト協議シ指定ノ學區ニ參加スルコトヲ得

（二）十一月十七日ハ各學區ヨリ東堀川通下立賣以南姉小路以北ノ道路ヲ除クノ外ノ道路ヲ進行シ三條通又ハ姉小路通ヨリ東堀川ニ出テ午後九時以後十時迄ノ間ニ於テ二條離宮前ニ至リ同離宮ニ向ヒ最敬禮ノ後萬歳ヲ三唱シ直チニ北進シ丸太町ヲ東ヘ應天門前ヲ南ヘ萬歳塔下ニ至リ萬歳ヲ三唱シテ後解散スルコト

（三）十一月二十日ハ各學區ヨリ應天門通萬歳塔以南ノ道路及青蓮院前智恩院山門前ノ道路ヲ除ク外ノ道路ヲ進行シ午後七時ヨリ八時迄ノ間ニ萬歳塔下ニ至リ萬歳ヲ三唱シ次キニ圓山公園ニ至リ萬歳ヲ三唱シテ後解散スルコト

（四）各學區ニ於テハ所定ノ場所ニ向フ以前行列ニ參加スヘキ者ヲ所屬學校ニ集メタル後進行ヲ開始スルコト

（五）進行中ハ四列縱隊トナリ先頭ニ大提燈ヲ立テ其ノ側ニ公同組合正副幹事（公同組合ナキ學區ハ學務委員）附添フ但シ道路狹隘ナルトキハ二列縱隊トナスコトヲ得

（六）御苑内ニハ午後九時以後ハ入ルヲ得サルコト但シ御苑内ニアル者ハ該時間迄ニ御苑外ニ出ツルコト

（七）各宮殿下御邸又ハ御旅館若ハ外國使節旅館ニ至リ萬歳ヲ唱フルハ午後十時限リトス

（第六十八號表）　十一月十六日皇族殿下ノ御邸又ハ御旅館若ハ外國使節旅館前ニ參向スヘキ提燈行列區分表

實名	御宿所	所在地	參向スヘキ指定學區
伏見宮殿下	御別邸	上京區河原町今出川下ル	二、九、十七學區
久邇宮殿下	御本邸	上京區荒神口河原町東入上ル	二、九十七學區
閑院宮殿下	後川文藏	上京區烏丸中立賣下ル	三、七、十三學區
梨本宮殿下	三井元之助	上京區一條新町西入	一、四、八學區
東伏見宮殿下	市田彌枝	上京區南禪寺町字谷川	二十七、二十八學區
北白川宮殿下	山中定次郎	上京區南禪寺町字假山	二十七、二十八學區
朝香宮殿下	三井高保	上京區室町竹屋町上ル	十四、十六、十八學區
竹田宮殿下	三井八郎右衛門	上京區油小路二條下ル	十五、二十一、二十二學區
英國使節	商業會議所	上京區烏丸東川上ル	五、六、十、十一、十二、十九學區
外國使節（英、露、伊國ヲ除ク）	京都ホテル	上京區河原町御池	二十、二十三、二十四、二十五、二十六學區
伏見若宮殿下	得浄明院	下京區智恩院山内	六、七、八、十三學區
東久邇宮殿下	賀陽宮御本邸	下京區	二十一、二十七、二十八、三十一學區
李埈公殿下	東本願寺枳穀邸	下京區	二十三、二十五、二十六、三十學區
露國、伊國使節	圓山長樂館	下京區	十四、十五、二十、二十二學區

二、各學校ノ奉祝

十一月二十六日府廳員一同ノ提燈行列ヲ爲スコトヽナルヤ、京都市内ニ於ケル尋常小學校（六學年生ノミ）以上高等學校以下ノ各學校ノ職員生徒等同時ニ之ヲ行フコトヽナリ、其數約三萬、同日午後六時御所御苑内ニ集合シ建禮門前ニテ大森知事發聲ノ下ニ一同萬歳ヲ三唱シテ解散シタルカ、大部分ハ堺町門ヨリ丸太町通ニ出テ、烏丸通四條通ヲ經テ圓山公園ニ到レリ。

三、其ノ他ノ奉祝

以上ノ外市郡ニ於ケル各種ノ行列アリタルカ煩ヲ避ケ其ノ團體ノ數ヲ擧クレハ概子左表ノ如シ。（第六十九號表第七十號表參照）

（第六十九號表）　大禮奉祝餘興調

月日	種類	川端署 團體	川端署 人員	中立賣署 團體	中立賣署 人員	上長者町署 團體	上長者町署 人員	松原署 團體	松原署 人員	堀川署 團體	堀川署 人員	五條署 團體	五條署 人員	七條署 團體	七條署 人員	計 團體	計 人員
十一月七日	提燈旗行列	八	二、四〇〇	一五	四、五〇五	一三	三、九〇〇	九	二、七〇〇	一〇	三、〇〇〇	一〇	三、〇〇〇	六	一八、〇〇〇	七一	三一、三〇〇
	假裝行列	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
八日	提燈旗行列	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	假裝行列	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
九日	提燈旗行列	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	假裝行列	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
十日	提燈旗行列	八	二、四〇〇	一七	六、六〇五	一三	三、九〇〇	九	二、七〇〇	一〇	三、〇〇〇	一一	三、一五〇	一	一、八〇〇	七四	二三、五五五
	假裝行列	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
十一日	提燈旗行列	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	假裝行列	一	二五〇	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
十二日	提燈旗行列	五	二、一一〇	七	一、九〇〇	四	一、六〇〇	五	八八〇	五	二、一五〇	一	六〇〇	一	一五〇	二八	九、三九〇
	假裝行列	一	二五〇	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
十三日	提燈旗行列	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	假裝行列	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
十四日	提燈旗行列	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	假裝行列	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
十五日	提燈旗行列	—	—	—	—	—	—	—	—	二	二〇〇	二	四〇〇	一	六五〇	五	一、二五〇
	假裝行列	—	—	—	—	—	—	—	—	二	三八〇	—	—	一	二一八	三	二五六
十六日	提燈旗行列	八	二、四〇〇	九	五、〇七〇	一三	三、九〇〇	九	二、七〇〇	一五	五、六〇〇	一一	三、一〇五	六	一、八〇〇	七一	二四、五七五
	假裝行列	一	五〇〇	二	一三〇	三	二〇〇	—	—	四	七五〇	一	六〇	一	四〇〇	一二	一、二三〇
十七日	提燈旗行列	一〇	四、九〇〇	一七	四、七六〇	一六	四、二二〇	九	二、七〇〇	一八	五、〇三〇	一〇	三、〇〇〇	六	一、八〇〇	八六	二六、四一〇
	假裝行列	一	五〇〇	一	六〇	三	二一〇	—	—	五	四五二	二	三七五	二	一一〇	一四	一、二五七
十八日	提燈旗行列	—	—	五	七一五	一	四〇	一	一五〇	五	五八四	一	三五	—	—	一三	一、五二四
	假裝行列	二	一一〇	四	三〇〇	六	五九〇	五	三六九	六	五七九	四	二七六	二	八一	二九	二、三〇五
十九日	提燈旗行列	二	二、三〇〇	一	一、五〇〇	三	七〇	一	一五〇	一	一〇〇	一	三五	—	—	九	四、一五五
	假裝行列	一	二五〇	五	五〇〇	七	一、一〇〇	九	一、〇八二	一〇	八七六	九	一、二五〇	—	—	四二	五、〇五八
二十日	提燈旗行列	八	二、四〇〇	一六	四、五八五	一六	四、〇七〇	一〇	二、八五〇	一六	五、一二〇	一一	三、〇三五	六	一、八〇〇	八三	二三、八六〇
	假裝行列	四	七〇〇	六	八五〇	一三	一、六五〇	一〇	九八七	一六	一、四五四	一二	一、二五〇	—	—	六二	六、八九一
二十一日	提燈旗行列	—	—	—	—	二	九〇	—	—	—	—	—	—	—	—	二	九〇
	假裝行列	二	四五〇	一〇	一、二四〇	一六	一、五八〇	四	三〇〇	一八	一、七〇〇	一二	二、一一〇	四	三五〇	六七	七、七三〇
二十二日	提燈旗行列	—	—	—	—	一	四〇	—	—	四	二三六	—	—	—	—	五	二七六
	假裝行列	三	五五〇	七	九四〇	一三	一、〇六〇	八	一、〇六〇	一三	九七二	一六	二、三八〇	四	三〇三	六四	七、二六五
二十三日	提燈旗行列	一	二〇〇	—	—	一	六〇	—	—	—	—	—	—	—	—	二	二六〇
	假裝行列	七	一、四五〇	三	二五〇	二〇	一、四二三	八	一、〇六〇	一九	一、五三五	一九	二、〇六〇	五	五三〇	八一	八、三〇〇
二十四日	提燈旗行列	一	三〇〇	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	一	三〇〇
	假裝行列	八	一、一五〇	六	九五〇	一六	一、一四五	五	六三〇	一四	一、〇一九	一二	二、二七〇	五	四二〇	六六	七、五一四
二十五日	提燈旗行列	—	—	—	—	二	九五	—	—	二	一七〇	—	—	—	—	四	二六五
	假裝行列	四	一、一五〇	四	四二〇	一三	八二五	四	五五〇	一九	一、四六九	一三	一、七〇〇	四	三八五	五九	六、四九九
二十六日	提燈旗行列	九	七、三〇〇	一四	一、〇〇〇	一三	三〇〇	九七	二七〇	一三	三六〇	一一	四〇〇	四	一二〇	七一	九、八一〇
	假裝行列	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
計	提燈旗行列	六〇	二六、七一〇	一〇一	三〇、六三五	九七	二三、四四五	六二	一五、一〇〇	一〇〇	二五、五五〇	六九	一六、七六〇	三六	九、九二〇	五一五	一四七、一二〇
	假裝行列	三六	六、四一〇	四八	五、六四〇	一一〇	九、七八三	五三	六、〇三〇	一二六	一〇、八四四	一〇〇	一三、七三一	二八	二、四三七	五〇一	五四、八八三

備考　本表ハ各警察署ニ屆出タルモノニ限リ各個人的ノ踊ノ如キハ計上セス

（第七十號表ハ別表ニアリ）

第六　大禮期間中ニ於ケル汽車電車乘降客調査

十一月六日卽位ノ大禮御擧行ノ爲メ　陛下親シク御駕ヲ京都ニマケサセ給ヒ、內閣ハ臨時出張所ヲ設ケ、政治ノ中心ハ一時此地ニ移リ、內外ノ貴顯陸續トシテ入洛シ京洛ノ森羅萬象嬉々トシテ御代萬歲ヲコトホキ奉ルヤ民衆又千歲ニ比類ナキ盛儀ヲ拜セントモノト競ヒテ此地ニ集リ、汽車ノ到着毎ニ大河ノ決開スルカ如キ勢モテ數萬ノ乘客ヲ吐キ出シ、電車又之ヲ吸收シテ、歡聲天地ヲ震撼セリ、今汽車、電車ノ乘降客ヲ調査スレハ左ノ如シ。（第七十一號表、第七十二號表第七十三號表參照）

（第七十一號表）大正三年／大正四年自十一月六日至同二十八日汽車乘降人員日別表

日別	京都驛 大正三年 乘客	京都驛 大正三年 降客	京都驛 大正四年 乘客	京都驛 大正四年 降客	二條驛 大正三年 乘客	二條驛 大正三年 降客	二條驛 大正四年 乘客	二條驛 大正四年 降客	稻荷驛 大正三年 乘客	稻荷驛 大正三年 降客	稻荷驛 大正四年 乘客	稻荷驛 大正四年 降客
六日	三、五九六	三、八六〇	三、一五〇	一九、七〇九	六七九	六三六	五五八	二、六六六	二七六	三八九	一三七	三三四
七日	四、七六三	四、八二九	七、〇二〇	一三、一一六	七二七	七二五	九五九	二、二〇六	二一〇	三八一	二三一	三八四
八日	四、九二六	六、〇六五	七、五〇三	五、三一〇	一、〇八四	一、〇〇一	一、〇四六	七二〇	二八九	五一一	二〇八	二六五
九日	三、六一五	三、九四八	五、二九八	八、八七一	五八〇	四九四	九〇八	八八八	二五二	一九〇	一四三	二〇三
十日	三、四五六	三、六四四	四、五七八	八、〇四三	五七七	五七七	七四二	八四一	一七八	二一一	一五五	二〇五
十一日	三、七一三	三、四七五	六、三三五	四、九〇六	五八三	五八二	九八九	七四七	一八三	三八九	二三四	二〇一
十二日	四、〇二五	三、七八〇	五、六三三	五、一八〇	一、〇一八	七四一	八二九	七四六	一八二	二一三	一八九	二三四
十三日	三、九八三	四、〇八九	六、二七八	七、四一九	七二二	五七七	九九四	七八六	一五四	二四五	一八四	二三〇
十四日	六、四四七	五、〇三八	六、七二三	九、四八五	六八五	七三六	一、三三三	一、三六九	三四一	三七三	二九〇	三〇九
十五日	八、〇七六	四、九三八	六、九九二	七、七九七	一、〇一〇	一、〇二三	一、四〇九	一、三三八	二一八	四六二	一八七	一八五
十六日	四、三九〇	六、四三二	九、一二三	一三、一三〇	八一五	七八四	一、三一五	一、九五九	四三八	四一一	二三二	二五七
十七日	五、〇〇九	六、四八六	七、四二三	七、八九八	六九〇	五一八	一、〇五四	一、一八六	二二九	二五一	二三三	二一四
十八日	四、〇四六	三、六〇〇	六、四八二	五、六二三	六五四	六〇八	一、〇三七	八二〇	二三一	二三四	二一五	一八九
十九日	三、三九九	三、五〇四	五、五四六	五、七六七	六二四	五四〇	九六四	七四九	一七九	三九六	二四一	一八三
二十日	四、五六六	五、〇二八	六、九一六	六、七八九	六九四	六三九	七六九	八四一	一七三	二〇一	二〇一	二三一
二十一日	五、二〇六	五、三四九	六、四七七	七、五七五	八四九	七九四	一、〇二五	一、九三五	一八八	二二三	二七二	三〇三
二十二日	五、三四二	六、六九三	四、八四六	六、四六一	一、一七一	一、〇八六	八三八	一、〇一八	二九三	三七九	一九〇	二四五
二十三日	五、〇六〇	五、七一〇	五、二五六	六、六三九	九九〇	八六一	九〇四	七七九	二四一	三六六	二一二	二七八
二十四日	三、五六四	四、七二六	四、三七九	八、〇六二	四八〇	五六〇	七四二	一、二八九	五六〇	二六七	一八五	二八九
二十五日	四、四二七	五、六二一	五、六四七	一一、三三二	七〇七	六六九	八三九	二、五四五	二一二	一九九	二三二	三一九
二十六日	四、二三六	六、四四九	五、八三九	二三、三〇六	五二五	五六四	一、一〇一	五、四一六	二三三	二五六	三八六	三五六
二十七日	四、二三三	五、七五五	一一、五三三	一三、四八四	四八五	七五三	二、六五九	一、八〇[illegible]	三一二	二四一	四一一	二六六
二十八日	五、一〇二	四、三八四	一〇、三三九	五、六四六	五四二	五〇五	二、三八〇	九一五	二七〇	二五九	四五八	二七二
合計	一〇五、一六九	一二四、四〇三	一四九、三一五	二〇九、五四八	一六、八九一	一五、九七三	二五、三八四	三三、五六〇	五、八三一	七、〇四六	五、四一五	五、九二三

（第七十二號表）大正三年／大正四年自十一月六日至同二十八日電車乘客日別表

日別	京都市營電鐵 大正三年	京都市營電鐵 大正四年	京都電鐵 大正三年	京都電鐵 大正四年
六日	五四、〇八〇	一五八、七〇九	三九、七三二	八七、五二一
七日	五九、三一五	八〇、九六二	四二、〇四二	六四、七五〇
八日	四一、四二三	八七、七五九	五四、三三三	六八、四四八
九日	一六四、五五〇	七六、八九四	四〇、五五七	五七、〇三一
十日	一一一、九一五	一三二、四〇七	三六、七七七	八〇、八四三
十一日	九一、九八六	一〇五、七八六	三五、三六六	六八、〇二七
十二日	八四、七五四	九九、五七五	三九、〇四七	六八、〇六一
十三日	六六、七八七	九三、四四三	三四、六六一	六〇、三五八
十四日	六六、五一三	九八、五三〇	四一、九〇三	七三、三八〇
十五日	六八、六二六	一〇六、四四三	五〇、四九二	七四、四二八
十六日	五三、九二八	一二七、七一六	四五、八七六	七八、九五八
十七日	五二、二〇二	一〇三、六二四	三七、二四九	六二、五六〇
十八日	四二、九〇九	九八、九一八	三六、一八一	六三、一九四
十九日	四八、二五九	一〇四、八六〇	三四、六四九	六一、一五五
二十日	五〇、七〇三	九三、一〇七	三五、二七六	六一、三四九
廿一日	五三、三二五	一〇六、六三〇	四四、一四六	七一、〇九六
廿二日	四九、六七一	九五、二三七	四一、九四八	五八、四五二
廿三日	四七、八八二	八六、三三三	四二、九七三	五五、八四〇
廿四日	四〇、三一二	八七、〇二四	四〇、二七七	六二、二四七
廿五日	五三、〇七五	九九、〇〇七	五二、六四九	七八、三六四
廿六日	四五、七七七	一〇八、五〇〇	三九、九二〇	七九、一七五
廿七日	四六、〇二五	一三八、八二一	四二、五九三	一〇〇、六一二
廿八日	四七、五七一	九六、二九八	三八、七三一	六八、八六〇
計	一、八一二、五八七	二、三八六、五八二	九四七、三七八	一、六〇四、六九五

（第七十三號表）大正三年／大正四年自十一月六日至同二十八日電車乘客日別表（京都市内ニ屬スル停留場ノ分）

日別	京阪電鐵 大正三年	京阪電鐵 大正四年	京津電鐵 大正三年	京津電鐵 大正四年
六日	四、三五〇	九、六九〇	二、五八一	四、四六八
七日	四、三七九	一二、〇四一	三、三八三	三、一三四
八日	七、〇七三	八、七五三	二、七五八	二、二四一
九日	四、三九八	六、七一〇	二、四〇六	二、二四〇
十日	三、六三八	一二、九六八	三、三五二	六、一〇八
十一日	四、六五二	九、八二八	二、〇二〇	三、三六一
十二日	四、二七四	九、〇〇八	二、五五〇	二、八二七
十三日	四、一六〇	九、二八四	一、六二八	二、九二七
十四日	五、四一七	一一、五四七	二、〇八五	四、六二五
十五日	八、八八一	一三、九二九	一、七八二	三、四八四
十六日	七、八八四	一三、〇六一	二、九四三	五、〇四二
十七日	五、五八四	八、三五九	二、六〇八	四、〇一八
十八日	四、五七八	八、四六一	二、二七一	二、八三五
十九日	四、五三七	八、一九七	一、四九九	二、七八九
二十日	三、七六四	八、四三一	三、五七三	三、六四五
廿一日	三、七〇六	九、〇六三	一、八一六	四、一一五
廿二日	五、四三五	八、二〇八	三、〇〇四	二、九五六
廿三日	五、九二六	七、三二六	一、八六四	二、一七二
廿四日	五、一五九	六、六七〇	二、六四七	三、五四二
廿五日	四、〇九七	七、七二六	一、九一五	三、六二四
廿六日	五、〇一三	一〇、八九四	二、三九一	四、九六一
廿七日	五、一三三	一七、〇八四	一、五八五	六、〇〇九
廿八日	四、六五四	一一、四〇四	五、五七〇	三、六二四
計	一一六、六二三	二三七、六四三	五八、二二九	八四、七四七

……野 人員	—	—	—	—	—	—	—	—
久美濱 團體	—	—	—	—	—	—	—	—
久美濱 人員	—	—	—	—	—	—	—	—
合計 團體	一三	—	二	—	—	—	一	—
合計 人員	七、六五〇	—	二、七九〇	—	—	—	五六五	—

第四編　衛生

第一章　衛生ニ關スル綱領

大正元年十一月六日、明治天皇御百日祭ヲ行ハセラレ國民一般第三期ノ喪ニ服スルニ至リシ以來一時沈衰ノ極ニ達シタル世上ノ人氣モ稍ヤ恢復ノ兆ヲ現ハシ千古ノ大典ヲ迎フヘキ準備トシテ如何ナル施設ヲ爲スヘキヤヲ考究セントスルニ至レリ、惟フニ大禮ノ準備事項ハ頗ル多岐多様ニ分カレ一々枚擧スルニ遑アラス、然リト雖モ就中最モ緊要ニシテ且ツ最モ急施ヲ要スルモノハ衞生ノ施設ニアリトス、若シ　大禮御擧行ノ秋ニ方リ萬一傳染病ノ流行ヲ見ルカ如キ不祥事ノ起ルアランカ實ニ恐懼ニ堪ヘサル結果ヲ生スルヤモ圖ルヘカラス而シテ京都市ハ惡疫ニ對シ果シテ安全ノ地域ナリヤト云フニ之ヲ既往ニ徵スルモ年々幾多ノ傳染病患者ヲ出タシ加フルニ市民ノ衞生思想未タ充分ナラス指示誘導宜シキニ俟ツモノ今尙甚タ多キヲ占ム、殊ニ衞生ノコトタル他ノ事項ト趣ヲ異ニシ事前ニ實行スルニアラサレハ効果甚薄キニ依リ當府ニ於テハ大正元年十一月初旬ヨリ徐々　大禮衞生ノ計畫ニ着手シ屢會議ヲ催シテ實行方法ヲ凝議シタリ、今其大要ヲ列擧スレハ事務ノ分擔方法、衞生思想鼓吹ノ方法、飲食物幷飲食物用器具等ノ檢査方法、各種營業者ノ取締方法、清潔保持ノ方法、傳染病豫防ノ方法其他各般ノ衞生事務ニ渉リ特ニ其勵行ヲ期スル方針ニシテ愼重審議大正二年三月ヨリ實行ノ計畫ヲ立テタリ、又一面京都市ニ於テモ之レト相前後シテ大禮準備調査會ヲ組織シ尋テ臨時衞生費拾貳萬六千圓ノ支出ヲ決議シ、汚物ノ掃除、公設便所ノ改築修繕及傳染病豫防費等ニ充テントシ、且ツ此ノ機會ニ於テ京都市立傳染病院ノ移轉改築ヲ必要トシ之レニ要スル費用參拾七萬貳千九百參拾四圓九拾五錢ヲ支出(三ケ年繼續事業)スルコトヲ議決シ、大正三年八月則チ傳染病流行ノ季節迄ニ其全部ヲ竣工スル計畫ヲ立テ尙別ニ河川ノ掃除費壹萬四千參百七拾參圓ヲモ決議セル等着々其進行ヲ見ルニ至レリ、大正二年三月七日京都市衞生主任、同市醫長、上下京區役所衞生主任、市部幷下鴨花園伏見各警察署ノ衞生專務等ヲ當廳ニ召集シ當府衞生當局者及檢疫委員等ト共ニ　大禮準備ニ關スル衞生事務ニ付重要ナル會議ヲ開キ後屢々會同シテ漸次具體的ニ計畫ヲ立テ益々其歩ヲ進ムルニ至レリ、同年七月三十日　明

治天皇御一年祭ヲ行ハセラレ玆ニ諒闇全ク明ケ著シク人氣ノ挽回ヲ致セリ、時恰モ傳染病ノ流行期ニ向ヘルヲ以テ一層深ク注意ヲ拂ヒ衞生上取締ヲ要スル營業者ノ如キハ屢之ヲ召集シテ特別ノ警告ヲ加ヘ學校會社工場等ニ對シテモ夫々自衞ノ途ヲ講セシメ其他貧民部落ノ注意消毒班ノ訓練、隔離病舍ノ整理等有ユル方面ニ力ヲ盡シ府民ノ至情ト相俟ツテ衞生上ノ設備略整頓セリ、大正二年十一月　大禮使官制ヲ發布セラルヽヤ益々府氏ノ頭腦ヲ刺戟シ僻陬ノ地ニ至ル迄能ク衞生ニ心ヲ注キ最モ喜フヘキ現象ヲ呈セリ、大正三年一月十七日　大禮御擧行ノ期日ヲ定メサセラレ親シク御奉告ノ御儀アリ同時ニ一般國民ニ其趣ヲ發表セラル、玆ニ於テ更ニ注意ヲ喚起スル爲メ府民ニ對シ告諭ヲ發シ且ツ衞生機關ヲシテ其萬全ヲ期セシムヘク詳細指示スル所アリタリ、同月二十六日ヨリハ　大禮御擧行ノ際御用宿舍ニ供スヘキ各戸ノ巡視ヲ開始シタリ、二月二十五日河原町共樂館ニ京都全市ニ於ケル衞生幹事ヲ召集シ一齊ニ活動スヘキ方針ヲ定メタリ。

三月二十七日　皇太后陛下突如御不例ノ悲報アリ四民驚愕措ク所ヲ知ラス均シク御平癒ノ速カナランコトヲ禱ラサルハナカリシニ四月九日遂ニ御重態ト成ラセラレ同月十一日宮內省告示ヲ以テ大故ヲ發表セラルヽニ至ル、玆ニ於テ世ハ再ヒ諒闇ニ入リ萬民憂愁ノ深淵ニ陷レリ。

大正二年七月十九日　昭憲皇太后御百日祭ヲ行ハセラレ國民一般第三期ノ喪ニ服スルニ至リシヲ以テ再ヒ　大禮準備トシテ最モ先鞭ヲ着ケサルヘカラサル衞生ノ發展ニ努メタリ閒ムルニ至ラス八月二十三日　大詔ノ喚發トナリテ遂ニ兵火ヲ交ヘシ以來益々人氣鎭沈セリ、時適々傳染病ノ流行スル時期ニ際シ當局ノ苦心其極ニ達シタリ、十一月七日青島陷落ノ快報アリ國民ノ歡喜例フルニモノナク人氣大ニ引立テリ、玆ニ於ラ機會ヲ逸セス徐々衞生ノ發展ヲ圖リ特ニ迎ヘントスル　大禮ニ際シ京都市ヲ中心トシ苟クモ關係アル地方ニ於ケル保健防疫ノ計畫ニシテ毫モ遺算ナカラシメンコトヲ期シ、既往ノ實驗ト隨時ノ狀況ニ依リ着々其進行ヲ圖ラシムルコトヽナセリ、大正四年二月一日警察署長會議ヲ開キ翌二日ヨリ更ニ郡市長ヲ召集セシモ衆議院議員總選擧ヲ目前ニ控フルニ依リ　大禮準備ニノミ偏倚スルコトヲ許サス、同月八日內務省衞生局長ハ安東防疫官ヲ從ヘテ入洛シ翌九日ヨリ十日ニ渉リ樓上大禮使事務室ニ於テ當府衞生當局者ト共ニ　大禮準備ニ關スル衞生事項ノ計畫ヲ審議ス、三月一日　大禮ニ關係アル各府縣衞生技術官會議內務省ニ召集セラル、本會議ハ同月四日迄續行シ宮內省ヨリハ近藤總務ヒ長、鐵道院ヨリハ坂野囑託員等參會シ準備事項ノ詳細ニ渉リ最モ愼重ニ審議ヲ重ネ以テ其大綱ヲ定ムルニ至レリ、故ニ當府ハ之等ノ事項ヲ標準トシ且ツ當時ノ趨勢、土地ノ狀況等ヲ斟酌シ之ヲ實地ニ應用スルニ當リ萬遺憾ナカランコトヲ期シ再三再四熟議ヲ重ネ、四月六日ヲ以テ最終ノ審査ヲ了ヘ以テ時期ノ至ルヲ待テリ、超エテ四月十一日　昭憲皇太后御一年祭ヲ行ハセラレ玆ニ全ク諒闇終リ翌十二日大禮使官制發布セラル、玆ニ於テ當府モ亦曠古ノ　大典ヲ迎フルニ當リ府民ノ心得ヘキ事項ヲ示シ更ニ衞生機關ヲシテ萬全ノ策ヲ講セシムル爲メ告諭、訓令、訓示ヲ發シ銳意畫策其衝ニ當リ天祐神助ト相俟ツテ大過ナキヲ得ルニ至レリ、其詳細ニ渉リテハ以下部門ニ從ヒテ敘述スル所アラントス。

第二章　衞生設備計畫ノ大綱

抑モ衞生ノ普及ヲ圖ルハ最モ至難ノ事項ニ屬シ、之カ成果ヲ期スルハ偏ニ官民一致ノ努力ニ俟タサルヘカラス、殊ニ曠古ノ大典ヲ迎ヘ衞生上遺憾ナキヲ期セントスルニハ其畫策準備ニ關シ最モ周到ナル注意ト愼重ナル研究ヲ爲サヽルヘカラス、故ニ既往ニ行ハレタル大演習又ハ博覽會ノ如キ苟クモ參考トナルヘキ事項ハ最モ廣ク調査ヲ遂ケ、其功過ヲ查察シ數回ノ審議ヲ重ネ漸ク其ノ計畫ヲ定メタリト雖モ尙設備ノ進行ニ伴ヒ齟齬ヲ來セシモノ若クハ新タニ追加セシモノ等尠少ナラス、左レト玆ニハ其最初ノ計畫タル告諭訓令訓示等ヲ敘述シ各章ニ記載セル實施上ノ成績ト相俟ツテ他日ノ參考ニ資セントス。

京都府告諭第一號

今秋御擧行ノ大禮ハ洵ニ空前ノ盛儀ニシテ國體ノ精華ヲ內外ニ發揮スヘキ好機ナレハ國民タルモノ深ク奉公ノ至誠ヲ致シ倶ニ此慶典ヲ祝福セサルヘカラス殊ニ　大典御擧行地タルノ光榮ヲ有スル我京都府ニアリテハ一層　聖旨ノ深キニ感激シ府民一致協力以テ百般ノ準備ヲ完フシ苟クモ　大典御擧行上支障ナク來スコトナキヲ期セサルヘカラス就中衞生狀態ヲ完全ニシ惡疫ヲ未前ニ豫防スルハ最モ緊要ノコトナリトス然ルニ府下ノ實況ニ依レハ赤痢、窒扶斯、猩紅熱ノ如キ常ニ各所ニ散發シ加フルニ客年以來狂犬病ノ流行アリテ今尙擾

滅スルニ至ラス加之我國ト常ニ交通頻繁ナル香港及上海ニハ「ペスト」痘瘡等蔓延シ何時病毒ヲ輸入スルヤモ計リ難ク顧ル寒心スヘキ狀態ニアリ故ニ此際各自最モ周密ナル注意ヲ拂ヒ相警メテ自衞ノ途ヲ竭サヽルヘカラス由來衞生ノコトタル協同一致ノ力ニ依ラスンハ完全ノ効果ヲ收ムルコト難キニヨリ今ヨリ府民心ヲ一ニシ銳意左記事項ノ實行ヲ期シ以テ　大典ニ際シ苟クモ遺憾ナキヲ期スヘシ

右告諭ス

大正四年四月十二日　　京都府知事　大森鍾一

注意事項

一　邸宅ノ内外ヲ掃除シ塵芥其他不潔物ヲ散亂又ハ堆積セサル樣常ニ注意ヲ怠ラサルコト

二　井戸流、臺所流、下水溝、便所等ハ特ニ其清潔ヲ持續スル樣注意スルコト

三　家屋内ハ常ニ日光ノ射入ヲ圖リ且ツ換氣ノ方法ヲ怠ラサルコト

四　道路ノ掃除及撒水ハ一齊ニ爲スニアラサレハ其効力薄キニ依リ近隣相謀リ成ルヘク一定ノ時間ニ勵行スル樣注意スルコト

五　撒水ハ淨水ヲ選ヒ且ツ泥濘ナラサル程度ニ撒布スル樣注意スルコト

六　空地、物置、空屋其他家屋ノ側面等ハ常ニ不潔ニ流レ易シ特ニ掃除ニ注意スルコト

七　汚物掃除法ヲ實施セル地域ニアリテハ覆蓋アル完全ノ塵芥容器ヲ備付スヘキ筈ナルモ往々破損セルモノヲ使用シ衛生上有害ナルノミナラス雨水ノ侵入ニ依リテ重量ヲ增加シ撒出力ニ影響セル等障害少ナカラサルニ依リ之等ノ注意ヲ怠ラサルコト

八　塵芥瓦礫其他不潔物ヲ河川溝渠ニ濫棄セサル樣注意スルコト

九　府令ニ依ル清潔方法ノ施行ハ最モ周到ナラサルヘカラサルハ勿論實施後ニ於テモ其清潔狀態ヲ持續スル樣常ニ注意ヲ怠フサルコト

十　水ノ異香ハ消化器傳染病、寄生虫病其他一般保健ニ關シ至大ノ關係ヲ有スルコト世人ノ周知スル所ナルモ上水ヲ除クノ外ハ土地ノ盛衰季節ノ變化等ニ依リ絕エス異水ヲ得ルコト難シ故ニ上水道ノ設アル土地ニ於テハ速ニ之ヲ引用シ其他ニアリテハ時々適切ナル檢査ヲ受ケ常ニ異水ヲ使用スル樣注意スルコト

十一　上水道ヲ使用セサルモノハ常ニ周密ナル注意ヲ拂ヒ井戸側、流シ場、下水溝等ノ破損セル個所ハ速ニ修理ヲ施シ且ツ其汲上ハ成ルヘク喞筒裝置ト爲スコト

十二　流水ヲ飲料ニ供シ又ハ飲食物及飲食物用器具類ヲ洗濯シ其他洗面ニ爲スカ如キハ病毒ヲ感受スル虞アルニ依リ之ヲ使用セサル樣注意スルコト

十三　市内其他人家稠密ノ場所ヲ流下セル細流ヲ利用シ魚介類又ハ野菜等ヲ洗濯シ之ヲ販賣スル者多シ衛生上最モ危險ナルニ依リ安全ナル異水ヲ使用スル樣注意スルコト

十四　炊事場ハ常ニ清潔ヲ保持シ且ツ採光換氣ニ努ムルコト

十五　調理シタル飲食物ハ防蠅防塵ノ方法ヲ講シ且ツ蠅ノ驅除ヲ怠ラサルコト

十六　常ニ飲食ニ注意シ腐敗其他衛生上有害ノ虞アルモノヲ攝取セサル樣注意スルコト

十七　宴會等ヨリ持歸リタル飲食物ハ更ニ炙煮スルニアラサレハ飲食セサル樣注意スルコト

十八　飲食物ヲ販賣シ其他公衆衛生ト密接ノ關係アル營業ヲ爲スモノハ各般ノ事項ニ渉リ常ニ周到ノ注意ヲ怠ラサルコト

十九　急性傳染病ト雖モ早期醫療ヲ受クルトキハ容易ニ治癒シ得ルノミナラス病毒豫防ノ上ニ於テ最モ有利ナルモノナリトス然ルニ既往ノ統計ニ依レハ比較的死亡率ノ高キヲ示セリ之レ素ヨリ種々ナル原因アルヘシト雖モ就中醫療ヲ受クルノ時期後ルヽニ基因スルモノ多キカ如シ深ク注意ヲ拂フヘキコト

二十　赤痢、窒扶斯、猩紅熱等ニシテ往々輕症ノモノアリ之等ヲ普通腸加答兒又ハ感冒ノ如ク輕視シ其手當ヲ爲サヽル爲メ遂ニ病毒ヲ傳播スルニ至リタル實例多シ故ニ輕微ト雖モ異常ノ感覺アルモノハ速ニ醫療ヲ求ムヘキコト

廿一　消化器傳染病流行ノ際ハ會合飲食ヲ爲サヽルコト

廿二　檢疫委員ヲ設置シタル地域ニテ死亡者アリタルトキハ成ルヘク速ニ其届出ヲ爲スコト

廿三　傳染病ノ疑アル患者發生シタル家ニ在リテハ主治醫ノ指示シタル豫防消毒方法ノ勵行ヲ怠ラサルコト

廿四　「ペスト」豫防ノ爲メ專ラ鼠族ノ驅除ニ努メ且ツ多數ノ斃鼠ヲ發見シタルトキハ手ヲ觸レサル以前ニ於テ警察官署ニ申告シ其指揮ヲ受クヘキコト

廿五　痘瘡豫防ノ爲メ家族傭人ニ至ル迄種痘ニ洩ルヽモノアラサル樣注意スルコト

廿六　目下狂犬病流行ニ付常ニ飼犬ヲ繫留シ又ハ口綱ヲ附スル等豫防上ノ注意ヲ怠ラサルコト

廿七　近時飼犬ニシテ狂犬病ニ罹ルモノ多キニ依リ常ニ犬ノ健康狀態ニ注意シ苟クモ疑シキコトアリタルトキハ速ニ獸醫ノ診斷ヲ求ムルコト

廿八　狂犬病ニ懼リ又ハ其疑アル犬ニ咬傷セラレタル者ハ成ルヘク速ニ豫防劑ノ注射ヲ受クルコト

廿九　狂犬病ニ懼リ又ハ其疑アル犬ニ咬傷セラレタル犬ハ速ニ警察官署ニ提出スルカ若クハ之ヲ撲殺スルコト

三十　特ニ必要アルモノヽ外仔犬ヲ育テサル樣注意スルコト

京都府訓令第十三號

郡役所
警察署
市役所
町村役場

今秋即位ノ大典ヲ行ハセラルヽニ付テハ之カ準備ニ關シ計畫施設スヘキコト甚多シ然リト雖モ就中衛生狀態ヲ改善シ惡疫ヲ未前ニ豫防スルハ最モ緊要ノ事項ナリトス此時ニ方リ個人ノ衛生思想ヲ顧ルニ尚未タ幼稚ニシテ指示誘導宜シキヲ得ルニアラサレハ其萬全ヲ期スルコト甚タ難シト謂ハサルヘカラス然ルニ目下我府下ニハ赤痢、窒扶斯、猩紅熱ノ如キ絕エス各所ニ散發シ加フルニ狂犬病ノ流行アリテ病毒既ニ一市七郡ニ蔓延シ益々猖獗ノ兆アルノミナラス我國ト交通常ニ頻繁ナル香港及上海ニハ「ペスト」痘瘡等流行シ頗ル寒心ニ堪ヘサルモノアリ故ニ此際周密ナル豫防方法ヲ畫策シ其勵行ヲ期スルニアラサレハ如何ナル不幸ヲ招致スルヤ計リ難シ而シテ衛生ノコトタル常ニ官民一致ノ歩調ヲ執リ且ツ事前ニ實行スルニアラサレハ其目的ヲ達スルコト難キニ依リ特ニ一般ニ告諭センカ次第ナレハ深ク其主旨ヲ體シ周ネク府民ノ注意ヲ促カシ專ラ自衛ニ努メシメ同時ニ各種機關ノ聯絡ヲ密ニシ一面醫師會其他ノ公益團體トモ氣脈ヲ通シ臨機適切ナル方法ノ下ニ左記事項ノ勵行ヲ期シ以テ一般ニ衛生ヲ重ンスルノ風ヲ鼓吹シ毫モ遺憾アラサル樣一層力ヲ効スヘシ

大正四年四月十二日　京都府知事　大森　鍾一

第四編　衛生　第二章　衛生設備計畫ノ大綱

施設事項

一　衛生思想ヲ鼓吹スル爲メ成ルヘク廣ク講話會ヲ開催スルコト

衛生講話ハ土地ノ狀況ニ應シ臨機適切ナル話題ヲ選フヘキコト勿論ナルモ常ニ其統一ヲ謀リ必要條件ヲ逸セサル樣特ニ注意ヲ加フルコト

職工其他多數ノ人ヲ使傭スル會社工場等ニ對シ衛生講話會ノ開催ヲ促カシ專ラ自衛ノ途ヲ講セシムルコト

二　個人ノ義務ニ屬スル道路ノ掃除及撒水ハ成ルヘク一齊且ツ適切ニ實施セシムル樣努力スコト

三　市町村ノ義務ニ屬スル道路橋梁等ノ掃除及撒水ハ適切ニ之ヲ施行スルコト

四　汚物掃除法ヲ實施セル地域ニ於テハ芥塵燒却場、塵芥置場及假置場等ヲ整頓シ汚物ノ處分ニ差支ヘサル樣豫メ設備スルコト

五　公設便所ノ掃除及其汲取ヲ勵行シ且ツ群集ノ場合ニ於ケル制限時間外臨時撤出ノ準備ヲ整フルコト

六　河川溝渠ノ清潔保持ニ努ムルコト

七　一般民家ニ於ケル清潔方法ノ持續ニ付其取締ヲ勵行スルコト

八　上水道ノ使用ヲ奬勵スルコト

九　不良ナル飲料水又ハ便用水ノ改良方法ヲ奬勵スルコト

十　流水便用ノ弊風ヲ矯正スルニ努ムルコト

十一　公衆衛生上密接ノ關係アル營業者ノ取締ヲ勵行スルコト

十二　衛生組合ノ活動ヲ促シ清潔保持其他一般衛生ノ普及ニ力メシメ及傳染病患者ノ早期發見ニ努力セシムルコト

十三　警察署ニ於テハ檢病調査ヲ勵行シ衛生組合ノ施設ト相俟ッテ傳染病患者ノ早期發見ニ勵ムルコト

十四　開業醫ト氣脈ヲ通シ傳染病患者ノ早期診斷ヲ勵行セシムルコト

十五　死體檢案及急性病者ノ檢診ヲ勵行スルコト

十六　京都市及伏見町ニ於テハ防疫掛及防疫人夫ヲ增員シ且ツ豫メ適當ノ教養ヲ爲シ傳染病患者發生ノ場合最モ敏活ニ豫防方法ヲ實行シ得ラルヽ樣準備スルコト

十七　紀伊郡深草村堀内村柳原町東九條村愛宕郡田中村下鴨村大宮村葛野郡衣笠村朱雀野村大内村ニアリテハ前項ニ準シ斟酌適當ノ準備ヲ爲スコト

十八　傳染病院隔離病舍ヲ整頓シ患者ノ收容ニ差支ヘサル準備ヲ爲スコト

十九　種痘ヲ勵行スルコト

二十　傳染ノ地域ニ於テハ實布的里亞血清ノ準備ヲ怠ラサルコト

廿一　狂犬病豫防ニ關シ適切ナル施設ヲ勵行スルコト

衞訓第四號

來ルヘキ　大典ハ振古未曾有ノ盛儀ニシテ親シク此盛典ヲ擧ケサセラルヽ土地ニ住シ　皇室ノ御緣故淺カラサル府民ニ於テハ至誠奉公ノ念殊更ニ深カルヘキヲ信スト雖モ府下ノ衞生狀態ハ最モ注意ヲ拂フヘキ實況ナレハ今ヨリ諸般ノ準備ヲ整ヘ專ラ警戒ヲ嚴密ニシ苟クモ遺漏ナキヲ期セサルヘカラス、故ニ一般府民ニ對シ特ニ告諭ヲ發セラレ一面施設事項ヲ訓令セラレシ次第ナレハ極力主旨ノ徹底ヲ圖リ其目的ヲ貫徹スルニ力ムヘキハ勿論ナルモ抑モ衞生ノコトタル至難ノ事項極メテ多ク從テ各種機關ノ協力ニ依ルニアラサレハ完全ノ効果ヲ收ムルコト難キニ依リ夙ニ心ヲ茲ニ注キ銳意、其衝ニ當ラルヘシ、而シテ施設ノ大要ハ左ニ示ス如クナルモ之カ進行ニ伴ヒ更ニ指示スル所アルヘク尙土地ノ狀況ト實際ノ必要ニ應シ臨機心要ノ注意ヲ拂ヒ其執行ニ當リテハ常ニ寬嚴宜シキヲ得努メテ個人ノ覺醒ヲ促カシ取締向キ遺憾ナキヲ期セラルヘシ、

右訓示ス

大正四年四月十二日　　京都府警察部長　永田秀次郎

第一　大禮ニ關シ御用ヲ命セラレタル者ノ取締ニ關スル件

一　御所及離宮ノ造營調度品ノ製作又ハ其他ノ御用ヲ命セラレタル者ニ對シテハ其家族同居者、傭人等ニ至ル迄專ラ攝生ニ注意セシメ且ツ之ヲ監視スルコト

二　御用商人其他ニシテ御用ヲ命セラレタルトキ亦前項ニ同シ

三　前二項ニ該當スル者ノ通知ヲ受ケ又ハ之ヲ知リタルトキハ大正二年十一月衞訓第九號訓示ノ主旨ニ依リ速ニ適當ノ方法ヲ講スルコト

四　御用乳ノ上納ヲ命セラレタル者ニ對スル取締向キ、假ヘハ乳牛ノ選定乳質檢査、乳牛牛乳取扱上ノ注意及其家族同居者傭人ノ健康診斷施行方法等ハ別ニ之ヲ定ム

五　御用人力車、荷車、其他運搬用器具類ノ清潔方法ハ御用前豫メ之ヲ施行セシメ且ツ車夫及仲仕等ノ健康診斷ハ最モ綿密ニ實施スルコト

第二　衞生機關ノ增設ニ關スル件

一　大正四年四月ヨリ同年十二月迄ノ間ニ於テ左ノ機關ヲ增設シ傍健丼防疫ノ衝ニ當ラシム但其人員及配置方法ハ別ニ之ヲ定ム

（イ）　醫員若干名ヲ增員シ防疫丼救護ノ事務ニ從事セシム

（ロ）　藥劑師及獸醫若干名ヲ增員シ衞生上ノ檢査丼ニ其取締ニ從事セシム

（ハ）　警部補、巡査部長、巡査若干名ヲ增員シ專ラ衞生ノ衝ニ當ラシム

（ニ）　看護婦若干名ヲ增員シ消化器傳染病ニ對スル可檢物ノ採取丼傷病者ノ救護ニ從事セシム

（ホ）　書記小使若干名ヲ增員シ庶務丼雜役ニ從事セシム

第三　救護ニ關スル件

一　傷病者救護ノ爲メ必要ノ時期ニ於テ左ノ設備ヲ爲スモノトス

（イ）　樞要ノ場所ニ臨時救護所ヲ設クルコト

（ロ）　臨機必要ニ應シ巡回救護班ヲ設クルコト

（ハ）　樞要ノ場所ニアル巡査派出所又ハ駐在所ニ急救函ヲ備付ムルコト

（ニ）　豫メ病院又ハ開業醫ト交渉シ傷病者ノ收容ニ差支ナキ樣準備ヲ爲スコト

（ホ）　公益團體其他有志者ニシテ特志救護ニ從事スルノ申出アリタルトキハ相當助力ヲ求ムルコト

第四　衞生思想ノ鼓吹ニ關スル件

一　衞生思想ヲ鼓吹スル爲メ成ルヘク廣ク衞生講話會ヲ開催シ專ラ自衞ノ途ヲ講セシメ且ツ永遠ニ良習慣ヲ存置セシムル樣努力スルコト

第五　飲料水ニ關スル件

一　京都市ニ於テハ水道ノ普及ヲ圖ル爲メ特ニ奬勵ノ方法ヲ設ケ道路敷ニ屬スル工事費ハ全部市ノ負擔トシ且ツ工費即納ノ場合ハ其一割ヲ減免シ

及四ケ年分納ノ便法ヲ設ケ一面衞生組合ヲシテ責任募集ノ途ヲ立テシメ專ラ其普及ニ努メ居レリ、左レト一層其完全ヲ期セシムル爲メ衞生講話等ノ場合ニハ必ス之ヲ話頭ニ上ホセ以テ一般ニ其使用ヲ奬勵シ且ツ衞生上取締ヲ要スル各種營業者ニハ特ニ其使用ヲ實行セシムルコト

二　市部接續ノ村落ニハ配水管ノ敷設シタルモノナシト雖モ市內ノ幹線ヨリ分岐線ヲ敷設シ給水シ得ラルヽ場所多ク且ツ水源豐富ニシテ供給ニ應スルコト容易ナレハ成ルヘク廣ク其使用ヲ奬勵スルコト

三　水道ヲ使用セサル家ニ對シテハ水質ノ檢査ヲ行ヒ成績不良ナルモノハ改良方法ヲ圖ラシムルコト

四　井戶側及流シ場等ノ破損セル個所ハ修理ヲ促カシ且ツ其汲上ケハ成ルヘク喞筒仕掛ヲ奬勵スルコト

五　流水ヲ飮料ニ供シ又ハ之ヲ使用シテ飮食物及飮食用器具類ヲ洗滌シ其他洗面ヲ爲ス等ハ危險ノ虞アルニ依リ特ニ注意ヲ加フルコト

第六　清潔保持ニ關スル件

一　街路ノ掃除ハ成ルヘク時間ヲ定メ一齊ニ施行セシムル方法ヲ講シ且ツ塵芥瓦礫其他不潔物ヲ散亂又ハ堆積シ皆クハ街路ヨリ見透シ得ヘキ場所ニ置カシメサルコト

二　空地、物置、空屋其他住家ノ側面等ハ常ニ不潔ニ流レ易シ、故ニ義務者ヲ督勵シ其掃除ヲ怠ラシメサルコト

三、各戶ニ備付スル塵芥容器及其覆蓋ハ往々破損セルモノヲ使用シ衞生上有害ナルノミナラス雨水ノ侵入ニ依リテ重量ヲ增加シ搬出力ニ影響スルコト多キニ依リ此際綿密ニ之ヲ調査シ洩ナク修理セシムルコト

四　河川溝渠ニ塵芥瓦礫其他不潔物ヲ濫棄セシメサル樣嚴重ノ取締ヲ爲スコト

五　屎尿運搬時間ノ勵行ヲ期スルコト、但必要ノ時期ニ當リ特ニ其制限時間ヲ短縮スルモノトス

六　各戶ニ諭示シ邸宅內外ノ掃除就中流シ下、下水溝ノ清潔ヲ持續的ニ實行セシメ且ツ常ニ換氣ノ方法ニ努メシムルコト

七　府令ニ依ル清潔方法ハ特ニ緻密ニ之ヲ施行シ且ツ引續キ清潔保持ニ努メシムルコト

八　市街地ニ於ケル屎尿ノ汲取ハ個人ト契約シ臨時必要ニ應シ搬出セシムル習慣ナルモ多衆入洛ノ場合ハ一時ニ多量ノ汚物ヲ生シ加フルニ秋冬ノ頃ハ農家ノ需要最モ薄キ季節ナレハ其搬出ニ關シテハ豫メ適當ノ方法ヲ講セシムルコト

九　京都市ニ於テハ大要左ノ事項ヲ實施スルコトヽナリ居レルヲ以テ其實行ノ狀況ニ付常ニ視察ヲ怠ラサル事

（イ）　公共溝渠ノ浚渫

京都市ノ全部ニ渉リ四月中旬ヨリ着手シ約百ケ日ノ豫定ヲ以テ浚渫施行ノ計畫ニシテ其延長約三十二萬八千四百三十八間ニ渉リ爾後掃除巡視ニ於テ持續的ニ巡檢シ汚物及汚水等ノ停滯スルカ如キコトアラサル樣注意スル營

（ロ）　河川ノ掃除

四月初旬ヨリ浚渫ニ着手シ十月末日迄ニ一大清掃ヲ實施スル豫定ニシテ其個所左ノ如シ

鴨川	延長	三千間	堀川	延長	四千二百間
白川	延長	八百間	音羽川	延長	六百間
一ノ橋川	延長	三百五十間	二ノ橋川	延長	四百間
三ノ橋川	延長	三百間			

（ハ）　公設便所ノ設備丼其掃除

公設便所新築三個所、改築三十三個所、修繕七十六個所、新築及改築ハ既ニ前年中之ニ着手シ修繕ハ四月初旬ヨリ工事ヲ起シ何レモ九月末日迄ニ完了ノ見込

（ニ）　必要アリト認ムルトキハ豫メ樞要ノ場所ニ假設便所ヲ設置スル營

（ホ）　樞要ノ位置ニアル公設便所ニハ特ニ番人ヲ附シ清潔保持ニ努ムル營

（ヘ）　公設便所ハ講員入ニ命シ每日一回以上汲取ラシメ且ツ掃除巡視ナシテ充溢ノ有無ヲ視察セシメ必要ノ場合ハ何時ニテモ汲取リ得ラルヽ樣臨時人夫其他運搬器等ノ準備ヲ爲スヘキ營

（ト）公設便所ノ掃除ハ常傭夫ヲシテ毎日之ヲ施行セシメ特ニ雜踏スル等必要ノ場合ハ臨時人夫ヲ使役シ掃除又ハ臨時汲取ヲ爲サシメ且ツ其實施ヲ監視スル爲メ一名ノ巡視ヲ專屬セシメ自轉車ヲ應用シ全市ニ渉リ毎日二回以上巡視セシムル筈

（チ）公設便所ニハ點燈設備ヲ完全ナラシメ且ツ清潔保持上必要ナル注意事項ヲ平易ナル文句ニテ揭示セシムル筈

（リ）公設便所ハ必要ニ應シ消毒方法ヲ行ハシムル筈

（ヌ）多衆入洛ニ件ヒ塵芥汚物ノ增加スルハ必然ナレハ掃除人夫ヲ增員スルト同時ニ之ニ件ヒ必要ナル器具類ノ準備ヲ爲スヘキ筈

（ル）鹵簿ヲ拜觀セントスル者ハ豫メ場所ヲ選ヒ其位置ヲ固守スルニアラサレハ目的ヲ達スルコト能ハサルニ依リ辨當携帶、數時間以前ヨリ參集スルモノ多カルヘク之等ノ退散シタル後ニ於テハ折箱、竹皮、紙包其他汚物ノ散亂スルコト必然ナレハ之ニ對スル臨時掃除ノ計畫ヲ爲スヘキ筈

（ヲ）塵芥燒却場及塵芥置場ノ設備不充分ナラサル樣準備スル筈

十　京都市幷接續町村ニ於ケル道路ノ撒水ハ成ルヘク時間ヲ定メ一齊且ツ泥濘ナラサル樣適度ニ淨水ヲ撒カシムルコト

十一　京都市及京都電氣鐵道株式會社ヲシテ左ノ設備ヲ爲サシムル筈ニ付其實行ヲ監視スルコト

（イ）人車馬道ノ區別アル街路ニ於ケル車馬道ノ撒水ハ京都市ニ於テ撒水用馬車ヲ使用シ季節晴雨風勢等ニ應シ臨機適當ニ實行セシムル筈、

（ロ）京都市及京都電氣鐵道株式會社ノ經營ニ係ル電車軌道ノ撒水ハ市又ハ會社ニ於テ撒水用電車ヲ運轉シ其用ニ充テシムル筈

（ハ）撒水用電車ノ運轉度數ハ季節晴雨又ハ風勢等ニ依リ其繁閑ヲ加減セシムル筈

十二　紀伊郡伏見町、堀内村、深草村、柳原町、東九條村、愛宕郡出中村、下鴨村、大宮村、葛野郡栄雀野村、衣笠村、大内村等ニ對シテハ京都市ノ施設ニ準シ必要ノ程度ヲ斟酌シテ適當ノ設備ヲ爲サシムルコト

第七　衛生上取締ヲ要スル各種營業者ニ關スル件

一　宿屋料理屋飲食店貸座敷

（イ）家族同居、傭人及通勤者家族ノ健康ニ注意シ苟クモ異常ヲ感シタルトキハ必ス醫師ノ診斷ヲ求メシムルコト

（ロ）業務多忙ノ爲メ臨時傭入ヲ爲サントスルトキハ豫メ醫師ノ診斷ヲ求メ其健康ヲ確メタル後傭入レシムルコト

（ハ）宿泊人ノ健康ニ注意シ「ペスト」又ハ虎列剌病ノ流行地ヲ發シ若クハ通過シ來リタル旅人アルトキハ特ニ速ニ屆出テシムルコト

（ニ）飲食物材料ヲ精撰シ且ツ可成其購入系統ヲ明ナラシムルコト

（ホ）調理シタル飲食物ニハ防蠅及防塵ノ方法ヲ怠ラシメサルコト

（ヘ）飲食物用器具類ハ有害性物質ヲ含有セサルモノヲ撰ヒ且ツ常ニ最モ清潔ニシ及客ニ疾病アルカ又ハ其疑アリタルトキハ之ニ使用シタル器具類ノ煮沸消毒ヲ怠ラシメサルコト

（ト）炊溜ヲ爲シ又ハ殘物ヲ容膳ニ供スルカ如キコトアラサル樣注意セシムルコト

（チ）炊事場ハ常ニ清潔ヲ保持シ採光換氣ヲ充分ナラシメ且ツ防蠅防鼠防塵ノ設備ヲ爲シ及蠅ノ驅除ニ努メシムルコト

（リ）炊事場ノ地盤及下水溝ヲ完全ニシ汚水ノ滲透セサル樣豫メ設備セシムルコト

（ヌ）魚鳥ノ内臟其他廢物ハ覆蓋アル容器ニ收メ每日搬出セシムルコト

（ル）料理人其他炊事ニ從事スルモノハ可成淸潔ナル白地ノ被服ヲ纏ヒ除爪其他身體ノ不潔ナラサル樣充分ニ注意セシムルコト

（ヲ）容室ノ内外ヲ淸潔ニシ採光換氣ニ注意セシムルコト

（ワ）洗面場、手洗場、浴場及附屬容器等ハ常ニ最モ淸潔ナラシメ且ツ其用水ニシテ上水ニアラサルモノハ覆蓋アル容器ヲ用ヒ成ヘク流出裝置ト爲サシムルコト

（カ）手拭齒楊子ノ類ヲ貸與セシメサルコト、但一客每ニ更新スルモノハ此限ニアラス

（ヨ）唾壺ノ配置ヲ周到ナラシメ且ツ每日其掃除及消毒ヲ怠ラシメサルコト

（タ）灰吹ハ唾壺ニ代用セラルヽコト多キニ依リ每日其掃除ヲ怠ラシメサルコト

（レ）座布團其他敷物類ハ屢々日光ニ曝シ常ニ淸潔ナラシムルコト

（ソ）夜具類ハ最モ淸潔ナルモノヲ擇ヒ且ツ屢日光ニ曝サシムルコト

（ツ）布團ノ掛襟枕掛及敷布ニハ白布ヲ用ヒ常ニ淸潔ナラシムルコト

（ネ）客用ノ寢衣ハ常ニ最モ淸潔ナラシメ病者又ハ其疑アル者ニ貸與シタルトキハ消毒ヲ行ヒタル後ニアラサレハ之ヲ他ニ使用セシメサルコト

（ナ）便所ノ淸潔ヲ保持セシムルコト

（ラ）便池内容物ノ排除ニ注意シ充溢ヲ來タスカ如キコトアラサル樣豫メ注意セシムルコト

二　御用宿舍ノ衛生設備ハ別ニ之ヲ指示ス

三　淸凉飲料水製造販賣營業

（イ）製造業者ニ對シテハ業務ノ繁劇ナラサル時期ニ於テ製造用器具機械原料等ヲ精撰シ其他諸般ノ準備ヲ整ヘシムルコト

（ロ）從業者ノ健康ニ注意シ傳染性疾患者ナシテ營業ニ從事セシメサルコト

（ハ）營業場ノ淸潔、容器其他所要器具類ノ洗淨及防蠅防塵ノ方法ヲ怠ラシメサルコト

（ニ）販賣店ニアリテハ陳列、貯藏、飲用器具類ノ洗淨ヲ怠ラシメサルコト

（ホ）品質異常ノ有無ニ注意シ苟クモ疑ハシキモノヲ販賣セサル樣注意セシムルコト

四　牛乳搾取幷販賣營業

（イ）營業場内ハ常ニ汚物ノ排除ニ努メ其淸潔ヲ持續セシムルコト

（ロ）畜牛ノ健康ニ注意シ苟クモ異常アリト認ムルトキハ速ニ獸醫ノ診斷ヲ受ケシムルコト

（ハ）病牛ノ隔離ヲ勵行シ且ツ其飼糧等ハ常ニ嚴重ニ區別セシムルコト

（ニ）飼料ノ購入方ニ注意シ且ツ腐敗ニ傾ケルモノヲ給與セサル樣注意セシムルコト

（ホ）畜牛ノ運動ヲ勵行セシムルコト

（ヘ）乳牛ハ搾乳前必ス臀部、尾端等ヲ淸潔ニシ且ツ乳房ハ特ニ叮寧ニ拭淨セシムルコト

（ト）搾取者ハ搾取前必ス手指ヲ洗淨シ且ツ淸潔ナル搾取服ヲ着用セシムルコト

（チ）乳汁ノ濾過ハ完全ナル器械ヲ使用スルモノヽ外淸潔ナル白布ヲ用ヒ屢之ヲ取換ヘシムルコト

（リ）乳汁容器ノ洗淨及消毒ヲ怠ラシメサルコト

（ヌ）乳汁取扱室ニハ必要以外ノ物品ヲ持入レサルハ勿論防蠅防塵ノ設備ヲ爲シ且ツ蠅ノ驅除ニ努メシムルコト

（ル）運搬車ノ見苦シキモノハ之ヲ改造シ車内ハ每日一回以上熱湯ヲ以テ洗滌シ其淸潔ヲ保持セシムルコト

（ヲ）從業者ノ健康ニ注意シ傳染性疾患ニ罹リタル者ハ營業ニ從事セシメサルコト

五　山羊乳營業者ハ牛乳營業者ニ準シ其必要ヲ斟酌シ適當ノ取締ヲ爲スコト

六　屠場

（イ）屠場内ハ血液汚水其他不潔物ノ排除ニ努メ常ニ淸潔ナラシムルコト

（ロ）所要器具器械ノ淸潔ヲ持續セシムルコト

（ハ）屠夫ハ身體ヲ淸潔ニシ且ツ屠殺用被服ノ洗濯ヲ怠ラサル樣注意セシムルコト

（ニ）屠夫其他屠室ニ出入スル者ハ其入口ニ於テ履物ヲ取換ヘシムルコト

（ホ）屠肉運搬器具ハ常ニ淸潔ヲ主トシ且ツ肉片ヲ外部ニ露出シ又ハ血液ヲ漏洩スルカ如キコトアラサル注意セシムルコト

（ヘ）屠場ニ牽入ルヽ獸畜ハ豫メ淸潔ニ掃除セシムルコト

（ト）屠畜購入ノ際ハ其出所及徑路ヲ明確ナラシムルコト

(チ) 獸疫流行地ヨリ獸畜ノ購入ヲ爲サシメサルコト
(リ) 從業者ノ健康ニ注意シ傳染性疾患ニ罹リタル者ハ業務ニ從事セシメサルコト

七　鳥獸肉販賣業

(イ) 店舖、置場、容器、俎板等ノ清潔ヲ持續シ且ツ防蠅防塵ノ裝置ヲ爲シ及蠅ノ驅除ニ努メシムルコト
(ロ) 骨其他食料トナラサル部分ハ成ヘク速ニ他ヘ搬出スルノ方法ヲ講シ就中夏期ニアリテハ最モ迅速ニ其處分ヲ爲サシムルコト
(ハ) 竹皮其他包用品ノ拭淨ヲ怠ラシメサルコト
(ニ) 肉類ノ運搬容器ハ常ニ最モ清潔ニシ且ツ運搬中血液ヲ漏洩シ又ハ肉片ノ外部ニ露出セルカ如キコトアラサル樣注意セシムルコト
(ホ) 從業者ニシテ傳染性疾患ニ罹リタルトキハ營業ニ從事セシメサルコト

八　飮食物販賣業者(店舖ヲ有スル者、露店、夜店、行商等)

(イ) 飮食ヲ販賣スル者ハ特ニ身體衣服ヲ清潔ニシ就中爪其他手指ノ洗淨ヲ怠ラシメサルコト
(ロ) 販賣品ハ其原料ヲ精撰シ及腐敗ニ傾キタル物品ヲ販賣セシメサルコト
(ハ) 其儘飮食スヘキ物品ニハ防蠅防塵ノ方法ヲ怠ラシメサルコト
(ニ) 飮食物用器具類ノ洗淨ヲ勵行セシムルコト
(ホ) 飮料氷ハ勿論飮食物用器具類ノ洗淨ニ要スル水ハ其水ヲ選ヒ且ツ其更新ヲ怠ラシメサルコト
(ヘ) 店頭ノ撒水ヲ怠ラシメサルコト
(ト) 露店夜店ニアリテハ店舖撤退時ニ於ケル跡掃除ヲ怠ラシメサルコト

九　湯屋

(イ) 浴場內外ノ清潔ヲ保持セシムルコト
(ロ) 客用ノ戶棚其他容器類ノ清潔ヲ持續セシムルコト
(ハ) 每朝浴場、浴槽、小桶ノ掃除ヲ行ヒ不潔ナラサル樣注意セシムルコト
(ニ) 常ニ溷湯ノ設備ヲ怠ラシメサルコト
(ホ) 櫛又ハ手拭類ハ一客每ニ更新シ又ハ消毒ヲ爲シタルモノニアラサレハ之ヲ貸與セシメサルコト
(ヘ) 藥湯若クハ溫泉等ト稱シ認可以外ノ日時ニ渉リテ古湯ヲ使用シ又ハ他人ノ嫌惡スヘキ病者ヲ入浴セシメサルコト
(ト) 汚水ノ排除ヲ勵行セシムルコト
(チ) 唾壺ノ配置ヲ充分ナラシメ且ツ其消毒ヲ怠ラシメサルコト

十　理髮業

(イ) 營業場ハ常ニ清潔ナラシメ且ツ撒水ヲ怠ラシメサルコト
(ロ) 營業用器具器械竝附屬品ノ清潔ヲ持續シ及消毒方法ヲ勵行セシムルコト
(ハ) 營業ニ從事スル者ノ健康ニ注意シ傳染性疾患ニ罹カレル者ヲシテ其業務ニ從事セシメサルコト
(ニ) 客ノ健康狀態ニ注意シ傳染性疾患ニ罹レルモノヽ作業ヲ爲シタルトキハ之ニ使用シタル器具類ノ消毒ヲ怠ラサル樣注意セシムルコト
(ホ) 不良水ヲ使用セサル樣注意セシムルコト

十一　劇場、興行場、觀物場、勸誘場等

(イ) 場內ノ清潔及換氣ニ注意シ常ニ不潔ニ渉ラサル樣注意セシムルコト
(ロ) 販賣用ノ飮食物ハ其品質ヲ精撰シ腐敗又ハ不潔ニ渉レル物品ヲ販賣セサル樣注意セシムルコト
(ハ) 其儘飮食スル物品ニハ防蠅防塵ノ裝置ヲ怠ラシメサルコト
(ニ) 唾壺ノ配置ヲ充分ニシ且其消毒ヲ怠ラシメサルコト
(ホ) 座布團其他敷物類ハ屢之ヲ日光ニ曝シ其清潔ヲ持續セシムルコト
(ヘ) 場內ニ履物類ヲ持入ラシメサルコト
(ト) 手洗水ハ上水ニアラサルモノハ覆蓋アル容器ヲ用ヒ且ツ成ルヘク流出裝置ト爲サシムルコト
(チ) 共用手拭ヲ備付セシメサルコト

(リ) 便所ハ特ニ清潔ヲ持續セシムルコト
(ヌ) 便池內容物ノ排除ニ努メ充溢スルカ如キコトアラサル樣注意セシムルコト

十二　菓子、餅、饅頭、豆腐ノ類ヲ製造シ又ハ之ヲ販賣スル營業者ニ對シテハ前各號ニ準シ掛酌其取締ヲ爲スコト

十三　陶磁器又ハ玩具ノ類ニシテ粗製セシモノハ往々一時ニ色素ヲ剝離シ人體ニ危害ヲ及ホスコト勘ナカラサルニ依リ之等ノ營業者ニ對シテハ相當ノ取締ヲ怠ラサルコト

十四　貸夜具營業者

(イ) 營業用ノ寢具類ハ常ニ清潔ヲ旨トシ且ツ屢日光ニ曝サシムルコト
(ロ) 病者ニ使用シタル寢具類ハ適當ノ消毒ヲ行ヒタル後ニアラサレハ他ニ使用セシメサルコト

十五　市場

(イ) 市場ニハ掃除人ヲ常設シ清潔保持ニ努メシムルコト
(ロ) 汚物ノ搬出ヲ勵行セシムルコト
(ハ) 水道ヲ布設シタル地域ニアリテハ必ス之ヲ使用セシメ然ラサル場所ニ於テハ優良ナル井水ヲ使用セシムルコト、但井戶ノ構造ハ汚水汚物塵埃等ノ侵入ヲ防キ且ツ喞筒ヲ裝置セシムルコト
(ニ) 便所ハ特ニ清潔ヲ保持セシメ且ツ屎尿ノ充溢セサル樣注意セシムルコト
(ホ) 濕獲地方ニ於テ虎列剌病發生シタルトキハ魚介類ノ購入系統ヲ明カナラシムルコト

第八　交通機關ノ取締ニ關スル件

一　電車

(イ) 車內ノ清潔ヲ持續シ且ツ乘客ニシテ叨リニ痰唾ヲ咯出スルモノアルトキハ車掌ヲシテ相當ノ取締ヲ爲サシムルコト
(ロ) 車內ノ撒水ヲ適當ニ施行セシムルコト
(ハ) 鈎紐ハ成ヘク籐製ニ改造シ且ツ每日一回以上拭淨セシムルコト

第四編　衞生　第二章　衞生設備計畫ノ大綱

(ニ) 車掌運轉手ノ健康診斷ハ市醫又ハ囑託醫ヲシテ施行セシメ傳染性疾患者ヲシテ業務ニ從事セシメサルコト
(ホ) 乘車券ヲ齒間ニ咬持シ其他乘客ノ嫌忌スヘキ行爲ヲ爲サシメサルコト
(ヘ) 乘客待合所ノ清潔ヲ持續シ適度ノ撒水ヲ怠ラシメサルコト
(ト) 待合所ノ便所ハ常ニ最モ清潔ナラシメ便池ノ內容物ハ其汲取ヲ速ニシ充溢セシムルカ如キコトアラサル樣注意セシムルコト

二　自動車

車掌運轉手ノ健康ニ注意シ傳染性疾患者ヲシテ業務ニ從事セシメサルハ勿論車體及附屬品ノ清潔ヲ持續セシムルコト

三　人力車及輓夫

(イ) 車體及附屬品ノ清潔ヲ持續シ且ツ破損ノ個所ハ其都度修理セシムルコト
(ロ) 輓夫ノ健康狀態ニ注意シ傳染性疾患者ヲシテ營業ニ從事セシメサルコト
(ハ) 客待中膝掛ヲ腰間ニ纏ヒ又ハ之ヲ着用スル等客ノ嫌忌スル行爲ヲ爲サシメサルコト
(ニ) 輓夫ノ着衣ハ清潔ヲ旨トシ且ツ見苦シキ行裝ヲ爲サシメサルコト

四　鐵道停車場ノ衞生設備ニ付テハ豫メ驛長ト協議スルコト

第九　會社工場等ノ衞生設備ニ關スル件

一　職工其他多數ノ人ヲ使傭スル會社工場等ニ對シテハ其首長又ハ管理人ヲ督勵シ衞生上ノ注意ヲ爲サシメ特ニ左ノ事項ヲ實行セシムルコト

(イ) 工場及寄宿舍內外ノ掃除ヲ勵行シ清潔保持ニ努メシムルコト
(ロ) 工場內ニハ安全ナル飮料水ヲ豐富ニ供給セシムルコト
(ハ) 工場、寄宿舍其他必要ノ箇所ニ於ケル唾壺ノ配置ヲ周到ナラシムルコト
(ニ) 炊事場ハ採光換氣ヲ充分ナラシメ地盤及下水溝ヲ完全ニシ汚水ノ滲透セサル樣注意セシムルコト
(ホ) 炊事人ニハ可成清潔ナル白キ被服ヲ着用セシムルコト

（ハ）炊事人ニ對シ時々健康診斷ヲ施行セシムルコト

（ト）常ニ炊事場及食堂ニ於ケル蠅ノ驅除ニ努メ殊ニ調理シタル飲食物ニ對シテハ防蠅防塵ノ設備ヲ爲サシムルコト

（チ）寢具類ハ清潔ヲ旨トシ時々日光ニ曝サシムルコト

（リ）職工其他使用人ノ健康狀態ニ注意シ傳染病ノ疑アルトキハ速ニ診斷ヲ受ケシムルコト

（ヌ）傳染病ノ疑アルモノヽ隔離方法ヲ講セシムルコト

（ル）成ルヘク工場醫ヲ設ケシムルコト

二　小工場（家庭工場ヲ含ム）ニ對シテハ可成前各號ニ準シ相當ノ施設ヲ爲サシムルコト

第十　傳染病豫防ニ關スル件

一　傳染病早期發見ノ方法

（イ）警察署ニ於ケル檢病調査ハ事務ノ都合ニ依リ當直又ハ非直巡査ヲシテ反覆之ヲ實施セシメ衛生組合ノ施設ト相俟ツテ病者ノ發見ニ努ムルコト

（ロ）京都市並紀伊郡伏見町、柳原町、深草村、堀内村、東九條村、愛宕郡田中村、下鴨村、大宮村、野口村、鞍馬口村、修學院村、上賀茂村、八瀨村、大原村、葛野郡衣笠村、朱雀野村、嵯峨村、七條村、大内村、桂村ニ於テハ衛生組合ヲ督勵シ左ノ施設ヲ爲サシムルコト

但前記以外ノ町村ニ於テハ便宜必要ニ應シ適宜ノ施設ヲ爲サシムルモノトス

1　衛生員委ハ每日受持區内ヲ巡視シ病者及其疑アル者ハ「ペスト」虎列剌等ノ有病地ヨリ歸來シタルモノヽ有無ヲ調査シ衛生幹事又ハ衛生組長ニ申告スルコト

但直接警察官署ニ申告スルモ妨ナシ

2　衛生幹事又ハ衛生組長ハ委員ノ報告ヲ調査シ必要ト認ムル每ニ速ニ巡査派出所駐在所又ハ警察署ニ申告スルコト

（ハ）死體檢案ハ病類ノ如何ヲ問ハス死者ノ全部ニ渉リ綿密ニ施行スルコト、但醫師タル檢疫委員ヲ配置セサル町村ニ於テハ傳染病又ハ其疑アル患死者アルトキハ町村醫ナシテ其衝ニ當ラシムルモノトス

（ニ）急性肺炎、原因不明ナル皮膚ノ炎症、急性淋巴腺腫ニ熱發ヲ兼タル患者其他傳染病ニ疑ハシキモノアルトキハ洩ナク檢診ヲ行フコト但醫師タル檢疫委員ヲ配置セサル町村ニ於テハ町村醫ナシテ其衝ニ當ラシムルモノトス

（ホ）虎列剌、赤痢、腸窒扶斯「パラチフス」等ノ患者アリタル場合ハ其家族同居者及之等ト關係アル者ノ健康診斷ヲ施行シ必要アリト認ムルトキハ可檢物ヲ採取シ細菌檢査所ニ送付スルコト但（ロ）ニ揭ケタル市町村以外ニアリテハ隨時狀況ヲ卽報シ指揮ヲ待ツテ其手續ヲ爲スヘキモノトス

二　傳染病豫防消毒ノ方法

（イ）傳染病患者ノ屆出ヲ速ナラシメ且ツ其報告ヲ遲延セサルコト

（ロ）傳染病ノ系統調査ハ從來不明ニ終リタルモノ頗ル多シ努メテ其徑路ヲ明確ナラシムルコト

（ハ）患家ニ對スル豫防消毒方法ノ指示ハ最モ適切ニシテ且ツ確實ナラシムルコト

（ニ）食料品市場ニ於ケル取引系統ヲ調査シ成ルヘク常ニ明確ナラシムルコト

（ホ）「ペスト」豫防ニ關シテハ從來示達ノ方法ヲ持續シ其勵行ヲ期スルコト

（ヘ）痘瘡豫防ノ爲メ種痘ノ勵行ヲ期セシムルコト

（ト）交通不便ナル町村ニハ實布的里亞血清ノ準備ヲ怠ラシメサルコト

（チ）京都市並ニ伏見町ニ於テハ消毒班ヲ增置シ及消毒ニ從事スル人夫ノ教養ヲ勵行セシムルコト

（リ）傳染病院並ニ隔離病舍ヲ整頓シ患者ノ收容ニ差支ヘサル樣豫メ準備セシムルコト

第十一　法定傳染病以外ノ傳染性疾患並ニ流行病ノ豫防ニ關スル件

一、鼠族豫防ノ方法

（イ）浮浪徘徊セル癩患者ノ取締ヲ一層嚴重ニ施行スルコト

（ロ）自宅治療ヲ爲セル患者及其義務者ニ諭示シ消毒方法ヲ勵行セシムルコト

（ハ）自宅治療ヲ爲セルモノハ德義ヲ重ンシ群集ノ場所ニ出入セサル樣心得シムルコト

二、肺結核

公衆ノ集合ヲ目的トスル場所又ハ電車自動車等ノ停留所待合所ニ於テハ唾壺以外ニ咯痰セシメサル樣注意書ヲ揭示シ且ツ適當ノ取締ヲ爲サシムルコト

三、癩疹、流行性感冒、流行性腦脊髓膜炎

（イ）癩疹、流行性感冒又ハ流行性腦脊髓膜炎ニ罹レル者ノ屆出ヲ怠ラシメサルコト

（ロ）癩疹、流行性感冒又ハ流行性腦脊髓膜炎ニ罹レル者ハ其全治ニ至ル迄公衆トノ交通ヲ遠慮セシムルコト

四、花柳病

（イ）密賣淫者ノ取締ヲ勵行スルコト

（ロ）貸座敷業者ニ命シ娼妓ヲシテ自衞的局部洗滌ヲ勵行セシムル管ナレハ其實行ヲ督勵スルコト

五、宮内傳染病豫防法令規定ノ疾病ニシテ本設備事項ニ記載セサルモノヽ取扱方ハ別ニ之ヲ指示スルモノトス

第十二　狂犬病豫防ニ關スル件

（一）京都市並愛宕郡田中村、下鴨村、大宮村、野口村、鞍馬口村、葛野郡衣笠村、朱雀野村、大内村、紀伊郡柳原町、東九條村、深草村、伏見町、堀内村ニ於テハ當分ノ内引續キ所有主ナキ犬ヲ捕獲シ當府繫留所ニ送致スルコト

（二）前項以外ノ町村ニ於テハ適宜ノ方法ニ依リ當分ノ内引續キ所有者ナキ犬ノ撲殺ヲ行フコト

（三）捕獲又ハ撲殺ハ其ノ進行ニ伴ヒ益々困難ヲ感スルニ至ルヘキヲ以テ豫メ青年會等ノ活動ヲ促カシ又ハ懸賞方法ヲ設ケ其目的ヲ達スル樣努ムヘキコト

（四）牝犬ノ飼養者ニ注意シ所要以外ノ仔犬ヲ育テサル樣洩ナク警告ヲ與フルコト

（五）犬籍ヲ整理スルコト

（六）近時飼犬ニシテ狂犬病ニ罹ルモノ漸ク多キヲ加フルニ依リ犬ノ檢病調査ヲ勵行シ本病ノ早期發見ニ努ムルコト

（七）狂犬病ニ罹リ又ハ其疑アル犬ニ咬傷セラレタル者ノ有無ニ注意シ其被害者ハ洩ナク豫防劑ノ注射ヲ受ケシムル樣注意スルコト

（八）豫防劑ノ注射ハ當府細菌檢查所又ハ京都帝國大學醫科大學附屬醫院ニ於テ無料施術ヲ受ケ得ラルヘキコトヲ一般ニ周知セシムルコト

第十三　公益團體ニ關スル件

一、醫師會、齒科醫師會、藥劑師會等ニ對シテハ左ノ方法ニ依リ相當助力ヲ求ムルモノトス

（イ）本設備事項中關係アル事項ノ施行ニ關シ其活動ヲ求メ尙必要ト認ムル件ニ付テハ之ヲ當該官公署ニ申告セシムルコト

（ロ）衞生講話會等ヲ開催シ其事業ヲ襄贊セシメ衞生思想ノ啓發ニ努メシムルコト

二、日本赤十字社京都支部、看護婦會、青年會、在鄉軍人會其他各種ノ婦人會等ニ對シテハ前項ニ準シ相當助力ヲ求ムルモノトス

第十四　叙上ノ設備ノ大綱ニシテ各項ニ對スル內容ノ詳細及設備ノ進行ニ伴フ必要事項ハ隨時指示スヘキ方針ナルモ特ニ必要ト認ムル事項アリタルトキハ細大洩サス卽報ヲ怠ラサルコト

備　考　本訓示事項ハ郡市長ニ通達シタルモノトス

第三章　衞生機關ノ增設

大禮準備ノ爲メ特ニ增置シタル衞生機關ハ醫師三十六人、藥劑師十三人、獸醫三人、警部補一人、巡查六十一人、看

護婦十九人、雇員十八人、小使七人、人夫延千四百四十八人（自大正四年四月至同年十二月）ニシテ大部分　大禮費ノ支辨ヲ受ケ大正四年四月ヨリ同年十二月迄ノ間ニ於テ各要所ニ之ヲ配置シ夫々主管ノ事務ニ從事セシメタルモノトス、然レトモ其間自ラ事務ニ繁閑アリシカハ該期間ヲ四期ニ區別シ別表所載ノ如ク隨時必要ノ人員ヲ配置シタリ、就中巡査ニアリテハ其全員ヲ專務トナシ衞生事務ニ關與セシメタルモノニシテ他ノ事務トハ趣ヲ異ニシ專門ニ屬スル事項多キニ依リ之ヲ採用スルニ當リテハ撰擇上大ニ腐心スル所アリシト雖モ、尙萬一ヲ慮リ同年五月一日ヨリ之ヲ甲乙二部ニ區分シ成ルヘク事務ニ差支ヘサル程度ニ於テ當府專門技術者ヲシテ必要事項ノ講習ヲ爲サシメ及　大禮準備トシテ將ニ實施セントスル衞生設備ノ內容ヲモ詳シク方針ノアル所ヲ會得セシメ、六月十八日ヲ以テ其全部ノ講習ヲ終リ爾後一齊ニ活動セシムルコト、爲セリ、又醫師藥劑師獸醫ノ如キモ多クハ官途ノ經歷ヲ有セス從テ事務ノ執行ニ當リ齟齬ナキヲ保シ難シ、故ニ之等ニ對シテハ左ニ列擧スル如ク各種ノ執務心得ヲ定メ之ニ依リテ其秩序ヲ保チ常ニ其統一ヲ圖リタルモノトス。

京都市ニ於テモ臨時市醫及防疫吏員ヲ增員セシカ其內容ハ載セテ別表ニアリ。

衞生係勤務心得

第一條　平素規律ヲ重ンシ同心戮力任務ニ服シ事ニ當リ親切ニシテ敏捷且ツ周到ナルヘシ苟クモ怠慢放恣ニ流レサル樣注意スヘシ

第二條　常ニ相互ノ聯絡ヲ保チ緩急相助ケ一身ノ功ヲ貪ルカ如キコトアルヘカラス

第三條　人ニ接スルニハ懇切叮嚀ヲ旨トシ苟クモ傲慢不遜ノ言動アルヘカラス

第四條　衞生事務ハ其關係極メテ廣ク且ツ重大ナル任務ナレハ特ニ責任ヲ重ンシ非常勤務ノ心得ヲ以テ其衝ニ當ルヘシ

第五條　日誌ヲ備ヘ每日取扱タル事故ヲ記載スヘシ

衞生ニ關スル臨檢心得

一、臨檢ノ際ハ特ニ言行ヲ愼シミ、嚴正己ヲ持シ苟クモ營業者ト狎恍シ威信ヲ傷ツクルカ如キコトアルヘカラス

二、說諭又ハ指示事項ハ適法ニシテ寬嚴宜シキニ適ヒ營業者ヲシテ信服實行セシムル樣努ムヘシ

三、說諭又ハ指示シタル事項ハ其遂行ニ至ル迄連續視察スヘシ

四、說諭又ハ指示事項ハ區々ニ渉ラサル樣注意シ且ツ五ニ氣脈ヲ通シ協力其目的ヲ達スルコトニ努ムヘシ

五、臨檢ノ要旨ハ營業ノ種類ニ依リテ一樣ナラス臨機遽切ナル方法ヲ撰フヘキコト勿論ナルモ大要左記事項ヲ參照シ取締向キ遺憾ナキヲ期スヘシ

清潔保持

一、道路ノ掃除ハ一齊ニ行屆ケルヤ

二、空地空屋物置其他住家ノ側面等モ能ク掃除行屆ケルヤ

三、道路又ハ道路ヨリ見透シ得ヘキ場所ニ汚泥塵芥等ヲ堆積シアラサルヤ

四、道路又ハ道路ニ面シタル場所ニ於テ塵埃ヲ飛散セシムルモノナキヤ

五、道路ニ於テ屎尿ノ移替ヲ爲スモノナキヤ

六、道路ニ屎尿等ノ汚汁ヲ漏洩セシムルモノナキヤ

七、制限時間外屎尿ヲ運搬スルモノナキヤ

八、各戶ニ備付セル塵芥容器ニシテ覆蓋其他破損セルモノアラサルヤ

九、河川溝渠等ニ塵芥瓦礫其他不潔物ヲ投棄スルモノアラサルヤ

十、家屋內ノ下水其他河川溝渠ノ掃除行屆ケルヤ

十一、公設便所ノ掃除行屆ケルヤ且汲取不充分ノ個所アラサルヤ

十二、塵芥燒却場及置場假置場ノ管理不充分ナラサルヤ

撒水

一、道路ノ撒水ハ一齊ニ行ハルヽヤ

二、撒水多量ニ失シ又ハ稀薄ニ流ルヽ等ノコトナキヤ

三、汚水ヲ撒クモノアラサルヤ

四、住家ノ側面等ニモ撒水能ク行屆ケルヤ

旅人宿下宿木賃宿

一、邸宅內外ノ掃除行屆ケルヤ

二、炊事場及調理所ハ採光換氣ニ缺クルナキヤ

三、炊事場及調理所ノ地盤ハ完全ナリヤ

四、飮料及使用水ノ良否如何

五、排水設備ノ可否如何

六、調理所ニ於ケル防蠅防塵ノ設備不備ナキヤ

七、飮食物用器具類ニ有害性物質ヲ含有スルモノナキヤ

八、調理人ノ着衣清潔ニシテ且ツ適當ナリヤ

九、飮食物原料ノ精選充分ナリヤ

十、調理シタル飮食物ニ防蠅防塵ノ設備ヲ爲セルヤ及腐敗ニ傾キタルモノアラサルヤ

十一、飮食器具ハ一客每ニ能ク洗滌スルヤ

十二、魚鳥內臟等ノ廢物處分ニ缺クルナキヤ

十三、從業者ニシテ傳染性疾患ニ罹レルモノナキヤ

十四、從業者ハ身體着衣ノ清潔ニ注意シ居ルヤ

十五、唾壺ノ配置充分ナルヤ

十六、敷物類ハ清潔ナリヤ

十七、便所ノ掃除及不潔物ノ汲取行屆ケルヤ

十八、手洗場ノ設備及使用水ニ不備ノ點ナキヤ

十九、消毒及防臭藥ノ備ヘアルヤ

二十、店舖ノ掃除及撒水行屆ケルヤ

二十一、浴場洗面所便所ノ設備不完全ナラサルヤ

二十二、貸手拭類ハ一客每ニ更新シ居レルヤ

二十三、便所ノ掃除行屆ケルヤ

二十四、便池不潔物ノ汲取充分ナルヤ

二十五、消毒及防臭藥ノ備アルヤ

料理屋飮食店其他飮食物ヲ販賣スル業營者

一、炊事場及調理所ハ採光換氣ニ不備ナキヤ

二、炊事場及調理所ノ地盤完全ナリヤ

三、飮料及使用水ハ不良ナラサルヤ

四、排水設備充分ナリヤ

五、調理所ニ於ケル防蠅防塵ノ設備行屆ケルヤ

六、調理人ノ身體着衣ハ清潔ナリヤ

七、飮食物用器具類ハ有害ノモノナキヤ

八、飮食物ノ原料ハ不良ナラサルヤ

九、調理シタル飮食物ニ防蠅防塵ノ設備アルヤ及取扱上ノ心得行屆ケルヤ

十、腐敗ニ傾キタルモノアラサルヤ

十一、飮食器具ハ一客每ニ能ク洗滌スルヤ

十二、魚鳥內臟等ノ廢物處分ニ缺クルナキヤ

十三、從業者ニシテ傳染性疾患ニ罹レルモノナキヤ

十四、從業者ハ身體着衣ノ清潔ニ注意シ居ルヤ

十五、唾壺ノ配置充分ナルヤ

十六、敷物類ハ清潔ナリヤ

十七、便所ノ掃除及不潔物ノ汲取行屆ケルヤ

十八、布團ニハ白地ノ掛襟アルヤ

十九、傳染性疾患アル客ニ使用シタル夜具類ノ消毒ヲ怠ラサルヤ

二十、浴場洗面所便所ノ設備不完全ナラサルヤ

二十一、便所手洗場ノ用水ハ流出裝置ナリヤ

二十二、貸手拭類ハ一客每ニ更新シ居レルヤ

二十三、便所ノ掃除行屆ケルヤ

二十四、便池不潔物ノ汲取充分ナルヤ

二十五、消毒及防臭藥ノ備アルヤ

料理屋飮食店其他飮食物ヲ販賣スル業營者

一、炊事場及調理所ハ採光換氣ニ不備ナキヤ

二、炊事場及調理所ノ地盤完全ナリヤ

三、飮料及使用水ハ不良ナラサルヤ

四、排水設備充分ナリヤ

五、調理所ニ於ケル防蠅防塵ノ設備行屆ケルヤ

六、調理人ノ身體着衣ハ清潔ナリヤ

七、飮食物用器具類ハ有害ノモノナキヤ

八、飮食物ノ原料ハ不良ナラサルヤ

九、調理シタル飮食物ニ防蠅防塵ノ設備アルヤ及取扱上ノ心得行屆ケルヤ

十、腐敗ニ傾キタルモノアラサルヤ

十一、飮食器具ハ一客每ニ能ク洗滌スルヤ

十二、魚鳥內臟等ノ廢物處分ニ缺クルナキヤ

十三、從業者ニシテ傳染性疾患ニ罹レルモノナキヤ

十四、從業者ハ身體着衣ノ清潔ニ注意シ居ルヤ

十五、唾壺ノ配置充分ナルヤ

十六、敷物類ハ清潔ナリヤ

十七、便所ノ掃除及不潔物ノ汲取行屆ケルヤ

十八、手洗場ノ設備及使用水ニ不備ノ點ナキヤ

十九、消毒及防臭藥ノ備ヘアルヤ

二十、店舖ノ掃除及撒水行屆ケルヤ

飮食物販賣業者（店舖ヲ有スル者、露店、夜店、行商等）

一、營業者ハ其被服身體就中手指等清潔ナリヤ
二、飮食物ノ原料不良ナラサルヤ
三、飮料及使用水純良ナルヤ
四、飮食用器具類ノ洗滌ニ要スル水ノ更新ヲ怠ラサルヤ
五、其儘飮食スル物品ニ對シ防蠅防塵ノ設備行屆ケルヤ
六、店舖ノ掃除及撒水行屆ケルヤ
七、營業者ニシテ傳染性疾患ニ罹レルモノナキヤ
備考　菓子、餠、饅頭等ヲ販賣スルモノニ對シテハ本項ニ準シ適當ノ取締ヲ爲スコト

清凉飮料水

一、製造所ノ構造設備ニ破損ノ個所ナキヤ
二、檢査後私ニ構造設備又ハ用水ヲ變更シ居ラサルヤ
三、採光換氣ノ方法充分ナリヤ
四、塵埃又ハ昆虫類ノ豫防設備充分ナリヤ
五、器具又ハ容器類ニシテ有害ノモノヲ使用シ居ラサルヤ
六、認可ヲ受ケシテ製造方法ヲ變更シ居ラサルヤ
七、傳染性疾患者ヲシテ調製又ハ小分ヲ爲サシメ若クハ其場所ニ立入ラシムルコトアラサルヤ
八、人口甘味質又ハ防腐劑ヲ混和シ居ラサルヤ
九、有害性物質又ハ不良品ヲ使用シ居ラサルヤ
十、沈澱物又ハ夾雜物アラサルヤ
十一、封緘票紙ニ虛僞ノ記載ヲ爲サヽルヤ
十二、販賣所ニ於ケル陳列貯藏ノ方法適當ナルヤ

氷雪營業

一、採取製造又ハ貯藏場ノ構造設備ヲ叨リニ變更シ居ラサルヤ
二、叨リニ用水ヲ變更シ居ラサルヤ
三、外用氷雪ヲ飮料ニ販賣シ又ハ密ニ貯藏スルモノアラサルヤ

牛乳搾取場

一、構造設備ハ檀ニ變更シ居ラサルヤ
二、破損箇所ノ修繕ヲ怠リ居ラサルヤ
三、牛舍及運動場ノ掃除行屆ケルヤ
四、不潔物溜ノ整理行屆ケルヤ
五、乳牛種牡牛犢牛ノ外飼養スルモノナキヤ
六、畜牛ノ運動缺クルナキヤ
七、牛體ノ掃除行屆ケルヤ
八、牛舍内ニハ乳牛及種牡牛等所要事項ヲ揭示シアルヤ
九、病牛ノ隔離不都合ナキヤ及其消毒方法ハ完全ニ行ハレアルヤ
十、耳環ノ脫落シタルモノナキヤ
十一、牛乳及乳製品取扱所ハ常ニ清潔ヲ保持セルヤ
十二、採光換氣充分ナリヤ
十三、肺結核、癩、黴毒、其他傳染性疾患者ノ業務ニ從事スルモノナキヤ又ハ之等ノモノヲ場内へ出入セシメ居ラサルヤ
十四、牛乳又ハ乳製品取扱者ノ衣服ハ常ニ清潔ナルモノヲ使用シ居レルヤ
十五、擦取ノ際乳房尾端等ノ洗拭及手指ノ洗淨行屆ケルヤ
十六、牛乳ノ濾過法適當ナリヤ
十七、容器又ハ量器ニ有害性物質ヲ使用シ居ラサルヤ
十八、容器類ノ消毒及洗淨方法行屆ケルヤ
十九、容器ノ封緘正確ナリヤ

牛乳販賣所

一、營業所ノ構造設備破損ノ個所ナキヤ
二、營業所ノ清潔行屆ケルヤ
三、採光換氣充分ナリヤ
四、昆虫類及塵埃豫防ノ方法行屆ケルヤ
五、營業ニ從事スル者ニシテ傳染性疾患ニ罹レルモノアラサルヤ
六、有害性物質ヲ含有スル容器器具類ヲ使用シ居ラサルヤ
七、牛乳容器其他取扱器具ノ消毒及洗淨等不充分ナラサルヤ
八、腐敗又ハ他物ヲ混入シタルモノヲ販賣シ居ヲサルヤ

九、認可以外ノ名稱ヲ附シ販賣シ居ラサルヤ
十、牛乳取扱室以外ニ於テ詰替ヲ爲スコトナキヤ
十一、封緘票紙ニ虛僞ノ記載ヲ爲シ居ラサルヤ

屠場

一、許可後檀ニ構造設備ヲ變更シ居ラサルヤ
二、場内ノ掃除行屆ケルヤ
三、給水幷ニ排水上支障ナキヤ
四、屠室内屠物ノ設備完全ナリヤ
五、血液汚水汚物ノ處置適當ナリヤ
六、病畜屠殺後ノ消毒行屆ケルヤ
七、運搬器ニ不備ノ點ナキヤ
八、作業衣ハ清潔ナリヤ
九、肺結核癩其他傳染性疾患者ヲ使役シ居ラサルヤ

獸肉販賣

一、獸肉ニ檢印アリヤ
二、販賣所ノ掃除適切ナリヤ
三、獸肉ノ種類ヲ詐稱シ若クハ腐敗又ハ不良ノモノナキヤ
四、取扱者ニシテ肺結核、癩、黴毒、皮膚病其他傳染性疾患ニ罹レルモノナキヤ
五、肉覆ノ布片ニ血痕其他ノ不潔物汚染シ居ラサルヤ
六、塵埃昆虫類ノ附着セサル樣適當ノ裝置又ハ包被ヲ爲シアルヤ
七、器具及包用品ニ不潔ナルモノヲ使用シ居ラサルヤ
八、行商者ハ規定ノ標札ヲ携帶シ且ツ容器等適切ナリヤ

理髮業

一、營業場ノ構造不備ノ點ナキヤ
二、營業場内ノ清潔行屆ケリヤ
三、採光換氣ニ障害ナキヤ
四、耳水ヲ使用シ居レルヤ
五、消毒器具、消毒藥、消毒方法等ニ不備ノ點ナキヤ

六、毛除複、頸卷及肩掛等ハ清潔ナル白布ヲ用ヒ居レルヤ
七、枕當ハ白紙ヲ用ヒ居レルヤ
八、清潔ナル白地筒袖ノ作業衣ヲ用ヒ居レルヤ
九、器具幷ニ附屬品ノ消毒行屆ケルヤ
十、傳染性疾患アル客ニ使用シタル器具其他附屬品ノ消毒行屆ケルヤ
十一、從業者ニシテ肺結核、癩、傳染性皮膚病、黴毒「トラホーム」精神異常癲癇ニ罹リ其他作業危險ト認ムヘキモノナキヤ
十二、呼吸器使用ヲ怠リ居ラサルヤ
十三、消毒ノ手拭類ヲ使用シ又ハ貸與スル等ノコトナキヤ
十四、電氣其他理髮用以外ノ器具機械類ヲ使用シ居ラサルヤ
十五、理髮料其他所定ノ揭示アルヤ

湯屋

一、場内ノ掃除行屆ケルヤ
二、戸障子等破損シ外部ヨリ浴場ヲ透見スル等ノコトナキヤ
三、脫衣場ニ唾壺ノ設備アリヤ
四、客用ノ戸棚容器ノ類ハ清潔ニシテ不備ノ點ナキヤ
五、排水設備充分ナリヤ
六、櫛又ハ手拭類ヲ貸與シ居ラサルヤ
七、規定ノ小桶ヲ備付シアルヤ
八、浴槽、洗場、小桶ノ掃除充分ナリヤ
九、澁湯設備充分ナリヤ

貸夜具

一、營業用ノ蒲團、敷布、枕、枕掛ノ類ハ清潔ナリヤ
二、營業用夜具類ノ日光乾燥ヲ怠ラサルヤ
三、營業用夜具類ノ運搬幷ニ取扱ハ不都合ナキヤ
四、病者ニ使用シタル夜具類ノ消毒ヲ怠リ居ラサルヤ
五、貸夜具營業者ニシテ他ノ地方ヨリ借入ルヽトキハ其取引先ハ何レノ地方ナルヤ

化製場

一、許可後叨リニ構造設備ヲ變更シ又ハ破損ノ個所アラサルヤ
二、場内ノ掃除行屆ケルヤ
三、汚水ノ停滯スルコトアラサルヤ
四、化製場外ニ汚物ヲ露出スルカ如キコトアラサルヤ
五、原料ノ運搬容器ハ不備ノ點アラサルヤ
六、屠畜又ハ獸肉販賣業者ト結托ノ實ナキヤ
七、獸畜密殺ノ疑ナキヤ
八、食料ニ供スル爲メ筋肉、内臟類ヲ持出スコトナキヤ

劇場與行場寄席勸商場其他

一、場内掃除行屆ケルヤ
二、換氣ノ方法充分ナリヤ
三、唾壺ノ配置及消毒行屆ケルヤ
四、座布團其他敷物類ハ清潔ヲ保持シ及時々日光ニ曝セルヤ
五、場内ヘ履物類ヲ持入ラシムルコトナキヤ
六、便所ハ清潔ニシテ消毒藥防臭藥ヲ備ヘアルヤ
七、便池ノ汲取充分ナルヤ
八、手洗水ハ流出裝置ナルヤ
九、共用手拭ヲ備付シ居ラサルヤ

人力車及駐車場

一、車體及附屬品ハ清潔ナリヤ及破損ノ個所ナキヤ
二、輓夫ノ着衣ハ不潔ナラサルヤ
三、輓夫ニシテ癩、傳染性皮膚病危險ナル眼疾其他人ノ嫌忌スル疾病ニ罹レルモノアラサルヤ
四、不潔物其他惡臭ヲ留ムヘキ物品ノ運搬ヲ爲サヽルヤ
五、傳染病患者ヲ乘車セシメ消毒ヲ爲サヽルモノナキヤ
六、駐車場ノ掃除及撒水行屆ケルヤ

電車及待合所

一、車内ノ掃除充分ナリヤ及撒水行屆ケルヤ
二、車掌運轉手ニシテ傳染性疾患ニ罹レルモノアラサルヤ
三、待合所ノ掃除行屆ケルヤ及唾壺ノ配置缺クルナキヤ
四、待合所ノ便所ハ清潔ナリヤ

諸會社工場

一、採光換氣上不都合ナキヤ
二、工場及寄宿舍ノ掃除行屆ケルヤ
三、工場内ノ飲料水ハ安全ニシテ且ツ豐富ナリヤ
四、工場及寄宿舍其他必要ノ場所ニ於ケル唾壺ノ配置充分ナリヤ
五、炊事場ノ採光換氣充分ナリヤ
六、炊事場ノ地盤破損シ居ラサルヤ
七、炊事人ノ着衣清潔ナリヤ
八、炊事人ノ健康上異狀ナキヤ
九、炊事場及食堂ニハ防蠅防塵ノ設備アリヤ
十、寢具類ハ清潔ナリヤ及時々日光ニ曝セルヤ
十一、職工其他使用人中疑ハシキ患者ナキヤ
十二、傳染病ノ疑アルモノ、隔離方法ヲ設ケアルヤ
十三、便所及下水溝ノ掃除行屆ケルヤ
十四、消毒藥及消毒器具ノ準備アルヤ
十五、工場醫ノ設アルヤ

私宅監置精神病者

一、監置室ニ破損ノ個所ナキヤ
二、檻ニ構造ヲ變更シ居ラサルヤ
三、室ノ鍵ハ一定ノ場所ニ保管シアルヤ
四、室内ハ清潔ナリヤ
五、便器ハ清潔ニ掃除シアリヤ
六、病症ニ依リ飲食器具ハ危險ナルモノヲ使用シ居ラサルヤ
七、飲食器具ハ清潔ナリヤ
八、衣食ヲ適當ニ給シ營養ニ缺クルナキヤ
九、寢具ハ清潔ニシテ適當ナリヤ
十、身體ノ沐浴ヲ缺カサルヤ
十一、理髮ハ適當ニナシアルヤ
十二、主治醫ノ治療ヲ缺キ居ラサルヤ
十三、燐寸及物類ヲ室内ニ置カサルヤ
十四、室ノ近傍ニ引火シ易キモノ又ハ危險ノ物品ヲ藏置シアラサルヤ
十五、許可ヲ得スシテ猥リニ發監置者ヲ外出セシムルコトナキヤ
十六、許可ヲ受ケスシテ監置セシモノアラサルヤ

傳染病院隔離病舍

一、清潔方法幷消毒方法行屆ケルヤ
二、病舍ノ構造設備ニ缺點ナキヤ
三、病室ノ設備不充分ナラサルヤ
四、患者用器具類ニ不備ノ點アラサルヤ
五、患者及死體運搬用器具ニ不備ノ點アラサルヤ
六、消毒所ノ設備不充分ナラサルヤ
七、醫師ノ回診行屆ケルヤ
八、看護婦ヲ雇入レ居ルヤ及無免許看護婦ヲ使役シ居ラサルヤ
九、患者待遇上缺點ナキヤ
十、病毒地域内ニ於テ炊事ヲ爲サシメ居ラサルヤ
十一、炊事場ノ設備不充分ナラサルヤ
十二、飲食用器具類ノ消毒行屆ケルヤ
十三、料理屋飲食店等ヨリ辨當ノ類ヲ差入レシメ居ラサルヤ
十四、飲料水幷使用水ハ不充分ナラサルヤ及之ニ及ホス危險ナキヤ
十五、叨リニ物品ノ差入レヲ許シ居ラサルヤ
十六、未消毒ノ物品ヲ搬出スル等ノコトナキヤ
十七、叨リニ附添人ノ交替ヲ許シ又ハ患家其他ト往復セシメ居ラサルヤ
十八、叨リニ患者ト面會ヲ許シ居ラサルヤ
十九、叨リニ病毒地域内ニ出入セシメ居ラサルヤ
二十、叨リニ家畜又ハ家禽ノ類ヲ飼養シ居ラサルヤ

檢疫委員（醫師）執務心得

一、御所及離宮ノ造營、調度品ノ製作又ハ其他ノ御用ヲ命セラレタル者及其家族、同居者、傭人等ノ檢診ヲ爲ス場合ハ宮内傳染病豫防法令ニ依リ法定九種傳染病ハ勿論麻疹、流行性感冒、流行性腦脊髓膜炎、肺結核、癩、丹毒、トラホーム、膿漏性結膜炎及傳染性皮膚病等ノ諸症ニ注意シ若シ叙上ノ疾病及其疑似症ヲ發見シタルトキハ卽時檢疫委員長ニ報告スルコト
二、自動車運轉手、馭者、馬丁、人力車夫、仲仕等ノ健康診斷ニ際シテハ傳染性疾患ハ勿論脚氣、心臟病、四肢ノ畸形、視力障害、精神異常ノ如何等其業務ニ不適當ト認ムヘキ疾患ノ有無ニ注意スルコト
三、傳染病患者發生シ之ヲ臨檢スル時ハ左ノ各項ニ注意スルコト

（イ）患者發生ノ原因

例之ハ飲食物、飲料水、使用水等ノ關係ニアラサルヤ或ハ交通關係ニ依ルカ若シクハ保菌者ノ媒介ナルヤ又ハ消毒不完全ノ爲メ前患者ノ病毒尙存在シタルニアラサルヤ等ニ注意スルカ如シ

（ロ）患家ニ於ケル消毒方法ハ其疾病ニ應シ理想的ニ施行セラルヽヤ

例之ハ消化器傳染病ニ對シテハ飲食物、井水、便所等ニ重キヲ置キ實布垤里亞ノ如キ呼吸器疾患ニ對シテハ飲食器具、寢具、手巾、衣服、玩具類等主眼トシテ糞池内ノ消毒ヲ省略スルカ如シ

（ハ）消毒藥ノ調製法適當ナルヤ

（ニ）消毒作業ハ親切ニシテ且ツ綿密ニ行ハルヽヤ

（ホ）消化器傳染病ニ付テハ保菌調査ノ方法如何

四、傳染病院隔離病舍ヲ視察スルトキハ左ノ各項ニ注意スルコト

（イ）病院舍内外ニ於ケル清潔方法施行ノ適否

（ロ）正規ノ免許ヲ得タル看護婦ヲ雇入レアルヤ且ツ看護婦ノ員數不足ナキヤ

（ハ）醫師ハ每日一回以上診察ヲナシ居レルヤ且投藥上不備ノ點ナキヤ

（ニ）附添人ニ對スル豫防上ノ注意行屆キ居ルヤ

（ホ）一般ノ消毒ハ完全ニ行ハレツヽアリヤ

（ヘ）消毒藥ノ貯藏ニ不足ナキヤ

（ト）飲料氷ノ真否（外觀及周圍ノ關係）及供給上不足ナキヤ

（チ）患者ノ隔離ニ對シ取締充分ニ行ハレ居ルヤ

（リ）患者用飲食器具及牛乳瓶、投藥瓶等ノ消毒完全ニ行ハレアルヤ

（ヌ）病院病舍ノ消毒夫ハ適當ナルモノヲ專用シ居ルヤ

五、死體檢案并ニ明治三十八年十二月府令第四七號ニ現定セル疾患者ノ檢診ニ就テハ此際省略スルコトナク全部ノ臨檢ナラシ各種傳染病ノ有無ニ付綿密ニ注意スルコト

六、學校、會社、工場等ニ傳染病患者ヲ發生シ之レカ臨檢ヲ爲ス場合ハ左ノ各項ニ注意ヲ爲シ且ツ其實行ヲ期セシムルコト

（イ）患者ヲ速ニ一定ノ場處ニ隔離スルコト

（ロ）職工其他使用人ニ對シ工場醫ヲシテ健康診斷ヲ施行セシメ若シ疑ハシキモノアルトキハ速ニ一定ノ場處ニ隔離シ其經過ヲ視察セシムルコト

（ハ）健康診斷ハ疾病ノ種類ニ依リ每日又ハ隔日一回之ヲ施行シ且ツ相當期間繼續實施セシムルコト

（ニ）保菌調查ノ必要アリト認ムルトキハ本部ト協定ノ上其檢查ヲ爲サシムルカ又ハ可檢材料ノ採收ヲ命シ當府細菌檢查所ヘ送付セシムルコト

但消化器傳染病ニシテ患者ト密接ノ關係アルカ又ハ炊事係等ナルトキハ直ニ着手セシムルモ妨ナシ

（ホ）消毒ヲ完全ニ行ハシムルコト

（ヘ）便所ノ手洗水ハ消毒藥ヲ使用セシムルコト

（ト）飲料水ニシテ上水道ニアラサルカ又ハ汲上方喞筒裝置ニアラサルトキハ可成井戸ノ消毒ヲ行ヒ且當分ノ內必ス煮沸水ヲ使用セシムルコト

七、宮內傳染病豫防法令其他必要ノ法規ヲ研究シ事ニ臨ミ躊躇スルカ如キコトアラサル樣豫メ注意スルコト

八、勤務日誌ヲ備ヘ取扱タル事項ハ細大洩サス之ヲ記載シ大典記事ノ資料ニ供スルコト

九、其他一般衛生狀態ニ注意スルコト

十、以上事項ヲ執行スルニ當リテハ關係官公署ト氣脈ヲ通シ物議ヲ招ク等ノコトナキ樣注意スルコト

衛生機關ノ組織及配置表（第一乃至第四號表參照）左ノ如シ。

（第一號表）

衛生部長　井堤衛生課長　藤田警部

科名	係	員	事務分擔
第一科	係長	井堤技師	御料水及御用乳ノ細菌檢查ニ關スル件
		百島防疫官補	皇族貴賓ノ御旅舘其他御用宿舍ノ健康診斷ニ關スル件
		高野瀨技手	御用商人職工人夫雜役夫車夫仲仕等ノ健康診斷ニ關スル件
		小笠原檢疫委員	菌調查ニ關スル件
		黑住檢疫委員	前項以外ノ細菌檢查ニ關スル件
		倉橋書記	
		吉原雇	
		奧村雇	
第二科	係長	山方技師	皇族貴賓ノ御旅舘其他御用宿舍ノ健康診斷ニ關スル件
	兼	百島防疫官補	御用商人職工人夫雜役夫車夫仲仕等ノ健康診斷ニ關スル件
	兼	山田警部	御道筋其他一般健康診斷ニ關スル件
	兼	矢能技手	傳染病早期發見ニ關スル件
	兼	石田技手	死體檢案ニ關スル件
	兼	今江警部補	傳染病豫防消毒ノ普及ニ關スル件
		山內檢疫委員	
		久家巡查部長	

代決者	藤田警部

第三科	係長	藤田警部	傷病者ノ救護ニ關スル件
	係長	佐藤技師	御料水ノ化學的檢查ニ關スル件
		大塚技手	飮食物及飮食物用器具類ノ檢查并其取締ニ關スル件
		中山技手	防腐劑人工甘味有害性着色料等ノ檢查并其取締ニ關スル件
	兼	遠藤技手	藥品類ノ取締ニ關スル件
	兼	宮本技手	前各項以外ノ化學的檢查ニ關スル件
		石田技手	
		飛田技術員	
		吉松技術員	
		宮田技術員	
		伊藤技術員	
		大石雇	
第四科	係長	秋山技師	御用乳肉ノ選定并乳肉檢查ニ關スル件
	兼	藤田警部	屠場取締ニ關スル件
		松田屠畜檢查技手	牛乳搾取所取締ニ關スル件
		中澤屠畜檢查技手	乳肉檢查并其取締ニ關スル件
		後藤衛生技術員	獸疫豫防ニ關スル件
		木村衛生技術員	
		安永衛生技術員	
		高濱衛生技術員	
	兼	大石雇	
第五科	係長	藤田警部	大禮使其他諸官公署ト交涉ニ關スル件
	兼	山田警部	御道筋ノ衛生設備ニ關スル件
	兼	大塚技手	公益團體ト交涉ニ關スル件
	兼	中澤屠畜檢查技手	救護所ノ設備ニ關スル件
		今江警部補	救護員ノ配置ニ關スル件
		佐藤書記	一般應接ニ關スル件
		藤佳巡查部長	會計事務ニ關スル件
	兼	久家巡查部長	
	兼	小田巡查部長	
		山下書記	
		大竹雇	
第六科	係長	山田警部	御料水井御用乳ノ警備ニ關スル件
	兼	藤田警部	皇族貴賓供奉員參列員其他御用宿舍ノ衛生設備ニ關スル件
	兼	中山技手	檢病調查及健康診斷施行上ノ計畫及其整理ニ關スル件
	兼	松田屠畜檢查技手	統計報告ニ關スル件
	兼	今江警部補	庶務ニ關スル件
	兼	藤佳巡查部長	
	兼	小田巡查部長	
	兼	久家巡查部長	
	關書記		
	兼	田代雇	
	兼	藤田雇	

（第二號表） 大禮ニ關スル衛生技術員配置表 京都府

第一期 大正四年四月以降六月迄

區分	醫師 ○	醫師 △	藥劑師 ○	藥劑師 △	獸醫 ○	獸醫 △	看護婦 ○	看護婦 △
本廳	一	三	一三	五	一	四	一	―
市部警察署 川端	一	―	―	―	―	―	―	―
中立賣	―	一	―	―	―	―	―	―
上長者町	―	一	―	―	―	―	―	―
松原	―	一	―	―	―	―	―	―
五條	一	―	―	―	―	―	―	―
堀川	―	一	―	―	―	―	―	―
七條	一	―	―	―	―	―	―	―
計	三	四	―	―	―	―	―	―
郡部警察署 下鴨	―	―	―	―	―	―	―	―
花園	―	―	―	―	―	―	―	―
向日町	―	―	―	―	―	―	―	―
伏見	一	一	―	―	―	―	―	―
醍醐	―	―	―	―	―	―	―	―
宇治	―	―	―	―	―	―	―	―
井手	―	―	―	―	―	―	―	―
木津	―	―	―	―	―	一	―	―
龜岡	―	―	―	―	―	一	―	―
園部	―	―	―	―	―	―	―	―
綾部	―	―	―	―	―	一	―	―
福知山	―	―	―	―	―	一	―	―
舞鶴	―	―	―	―	―	一	―	―
新舞鶴	―	―	―	―	―	一	―	―
宮津	―	―	―	―	―	一	―	―
計	一	一	―	―	―	七	―	―
合計	五	八	一三	五	一	一一	一	―

第二期 大正四年七月以降九月迄

區分	醫師 ○	醫師 △	藥劑師 ○	藥劑師 △	獸醫 ○	獸醫 △	看護婦 ○	看護婦 △
本廳	一	三	一二	五	三	四	二	―
市部警察署 川端	一	―	―	―	―	―	―	―
中立賣	―	一	―	―	―	―	―	―
上長者町	―	一	―	―	―	―	―	―
松原	―	一	―	―	―	―	―	―
五條	一	―	―	―	―	―	―	―
堀川	―	一	―	―	―	―	―	―
七條	一	―	―	―	―	―	―	―
計	三	四	―	―	―	―	―	―
郡部警察署 下鴨	一	―	―	―	―	―	―	―
花園	一	―	―	―	―	―	―	―
向日町	一	―	―	―	―	―	―	―
伏見	一	―	―	―	―	―	―	―
醍醐	一	―	―	―	―	―	―	―
宇治	一	―	―	―	―	―	―	―
井手	一	―	―	―	―	―	―	―
木津	一	―	―	―	―	一	―	―
龜岡	一	―	―	―	―	一	―	―
園部	一	―	―	―	―	―	―	―
綾部	―	一	―	―	―	一	―	―
福知山	―	一	―	―	―	一	―	―
舞鶴	―	一	―	―	―	一	―	―
新舞鶴	―	一	―	―	―	一	―	―
宮津	―	一	―	―	―	一	―	―
計	一〇	五	―	―	―	七	―	―
合計	一四	一二	一二	五	三	一一	二	―

第三期 大正四年十月以降十一月迄

區分	醫師 ○	醫師 △	藥劑師 ○	藥劑師 △	獸醫 ○	獸醫 △	看護婦 ○	看護婦 △
本廳	一九	三	五	五	三	四	一九	―
市部警察署 川端	一	―	―	―	―	―	―	―
中立賣	―	一	―	―	―	―	―	―
上長者町	―	一	―	―	―	―	―	―
松原	―	一	―	―	―	―	―	―
五條	一	―	―	―	―	―	―	―
堀川	―	一	―	―	―	―	―	―
七條	一	―	―	―	―	―	―	―
計	三	四	―	―	―	―	―	―
郡部警察署 下鴨	一	―	―	―	―	―	―	―
花園	一	―	―	―	―	―	―	―
向日町	一	―	―	―	―	―	―	―
伏見	一	―	―	―	―	―	―	―
醍醐	一	―	―	―	―	―	―	―
宇治	一	―	―	―	―	―	―	―
井手	一	―	―	―	―	―	―	―
木津	一	―	―	―	―	一	―	―
龜岡	一	―	―	―	―	一	―	―
園部	一	―	―	―	―	―	―	―
綾部	―	一	―	―	―	一	―	―
福知山	―	一	―	―	―	一	―	―
舞鶴	―	一	―	―	―	一	―	―
新舞鶴	―	一	―	―	―	一	―	―
宮津	―	一	―	―	―	一	―	―
計	一〇	五	―	―	―	七	―	―
合計	三二	一二	五	五	三	一一	一九	―

第四期 大正五年一月以降三月迄

區分	醫師 ○	醫師 △	藥劑師 ○	藥劑師 △	獸醫 ○	獸醫 △	看護婦 ○	看護婦 △
本廳	四	三	四	五	三	四	五	―
市部警察署 川端	一	―	―	―	―	―	―	―
中立賣	―	一	―	―	―	―	―	―
上長者町	―	一	―	―	―	―	―	―
松原	―	一	―	―	―	―	―	―
五條	一	―	―	―	―	―	―	―
堀川	―	一	―	―	―	―	―	―
七條	一	―	―	―	―	―	―	―
計	三	四	―	―	―	―	―	―
郡部警察署 下鴨	―	―	―	―	―	―	―	―
花園	―	―	―	―	―	―	―	―
向日町	―	―	―	―	―	―	―	―
伏見	―	一	―	―	―	―	―	―
醍醐	―	―	―	―	―	―	―	―
宇治	―	―	―	―	―	―	―	―
井手	―	―	―	―	―	―	―	―
木津	―	―	―	―	―	一	―	―
龜岡	―	―	―	―	―	一	―	―
園部	―	―	―	―	―	―	―	―
綾部	―	―	―	―	―	一	―	―
福知山	―	―	―	―	―	一	―	―
舞鶴	―	―	―	―	―	一	―	―
新舞鶴	―	―	―	―	―	一	―	―
宮津	―	―	―	―	―	一	―	―
計	―	一	―	―	―	七	―	―
合計	七	八	四	五	三	一一	五	―

備考

一 第一期及第二期ノ配置ハ專ラ大禮ノ準備トシテ各般ノ衛生事務ヲ擔當セシメ第三期ハ大禮御擧行期ニ當レルヲ以テ特ニ人員ヲ增加シ以テ其周到ヲ謀リ第四期ニ至リテハ主トシテ御所幷ニ二條離宮拜觀者ノ救護其他ニ從事セシメタルモノトス

二 費用區分ノ内○印ハ大禮費支辨ニ屬シ△印ハ府費ノ支辨トス

（第三號表） 衛生專屬警察官其他配置表 京都府

第一期 大正四年四月以降六月迄

區分	警部 ○	警部 △	警部補 ○	警部補 △	巡査 ○	巡査 △	雇員 ○	雇員 △
衛生課	―	二	一	―	三	―	三	二
川端	―	―	―	―	七	二	―	―
中立賣	―	―	―	―	八	二	―	―
上長者町	―	―	―	―	八	二	―	―
松原	―	―	―	―	八	二	―	―
五條	―	―	―	―	七	二	―	一
堀川	―	―	―	―	七	二	―	―
七條	―	―	―	―	八	二	―	―
下鴨	―	―	―	―	一	一	―	―
花園	―	―	―	―	一	一	―	―
伏見	―	―	―	―	三	一	―	―
合計	―	二	一	―	六一	一七	三	二

第二期 大正四年七月以降九月迄

區分	警部 ○	警部 △	警部補 ○	警部補 △	巡査 ○	巡査 △	雇員 ○	雇員 △
衛生課	―	二	一	―	三	―	五	二
川端	―	―	―	―	七	二	―	―
中立賣	―	―	―	―	八	二	―	―
上長者町	―	―	―	―	八	二	―	―
松原	―	―	―	―	八	二	―	―
五條	―	―	―	―	七	二	―	―
堀川	―	―	―	―	七	二	―	―
七條	―	―	―	―	八	二	―	―
下鴨	―	―	―	―	一	一	―	―
花園	―	―	―	―	一	一	―	―
伏見	―	―	―	―	三	一	―	―
合計	―	二	一	―	六一	一七	五	二

第三期 大正四年十月以降十二月迄

區分	警部 ○	警部 △	警部補 ○	警部補 △	巡査 ○	巡査 △	雇員 ○	雇員 △
衛生課	―	二	一	―	三	―	一八	二
川端	―	―	―	―	七	二	―	―
中立賣	―	―	―	―	八	二	―	―
上長者町	―	―	―	―	八	二	―	―
松原	―	―	―	―	八	二	―	―
五條	―	―	―	―	七	二	―	―
堀川	―	―	―	―	七	二	―	―
七條	―	―	―	―	八	二	―	―
下鴨	―	―	―	―	一	一	―	―
花園	―	―	―	―	一	一	―	―
伏見	―	―	―	―	三	一	―	―
合計	―	二	一	―	六一	一七	一八	二

第大正以降四五月一期年迄	警部	警部補	巡査	計
雇員	△○	△○	△○	△○

備考

一　第一期及第二期ノ配置ハ專ラ大禮ノ準備トシテ衞生上各般ノ取締及庶務ニ從事セシメ第三期ハ大禮御擧行期ニ當レルヲ以テ特ニ人員ヲ增加シ以テ其周到ヲ計リ第四期ニ至リテハ主トシテ御所幷ニ二條離宮拜觀者ノ取締及大禮ニ關スル各種ノ殘務ヲ取扱ハシメタルモノトス

二　費用區分ノ內○印ハ大禮費支辨ニ屬シ△印ハ府費支辨トス

（第四號表）　衞生關係公吏配置表

京都市

種別	京都市役所	上京區役所	下京區役所	計
主事	一			一
書記	一一	三四	三五	一〇
書記補	一一	三四	三五	一〇
市醫	一	一	一	三
臨時市醫	三六			三六

種別	京都市役所	上京區役所	下京區役所	計
臨時防疫吏員	一			一
掃除監督	一〇	七	一	一八
掃除巡視	七	四四	一	五二
合計	一八	六二	二	八二

備考　本表中臨時市醫及臨時防疫吏員ハ大禮ニ關シ特ニ增員シタルモノトス

第四章　衞生思想ノ皷吹

府民ノ衞生思想ハ年ト共ニ革マリ其成績見ルヘキモノアリト雖頗ル幼稚ナル點ナキニアラス、然ルニ四圍ノ狀況ハ交通機關ノ整備ニ伴ヒ病毒侵入ノ徑路ヲシテ益々錯雜ナラシムルモノアリ、斯クテ事物ノ進運ト衞生ノ進步トハ常ニ相一致セス動モスレハ迷信ノ餘弊等ヨリ豫防消毒ノ途ヲ謬マリ傳染病ヲ流行セシムルニ至リシカ如キハ其實例ニ乏シカラス、又既往ノ實驗ニ依ルモ府下ニ發生シタル傳染病患者ハ每年二千五百乃至三千人ヲ下ラサル等頗ル寒心スヘキ狀態ニアリ、故ニ大禮御擧行地タルノ光榮ヲ辱メサラントスルニハ豫メ府民ヲシテ衞生ニ重キヲ置カサルヘカラサル所以ヲ知ラシメ專ラ衞生狀態ノ改善ヲ圖リ以テ完全無缺ノ健康地域トナサヽルヘカラス、而シテ之レカ方法トシテ時ニ或ハ告諭ヲ發シ又ハ衞生機關ヲシテ時々必要ナル指導ヲ爲サシメ常ニ其啓發ニ努メツヽアリト雖モ之等ノ多クハ或ル一定ノ階級ニ限局セラレ婦女雇人ニ至ル迄徹底スルコト殆ト稀ナリ、然ルニ消化器傳染病ノ如キ多クハ炊事ノ關係ヨリ其病毒ヲ傳播スル等寧ロ之等ノ責任アル婦女ノ衞生思想乏シキニ原因スルモノ少ナカラスト云フヲ得ヘシ、故ニ廣ク衞生講話會ヲ開催シテ之ヲ啓發スルニ至ラハ其効果空シカラサルヘキヲ思ヒ大正二年四月ヨリ　大禮御擧行ノ時期ニ至ル迄屢々各所ニ講話ヲ爲サシメ別表（第五號表參照）所載ノ成績ヲ得衞生思想ノ內容ハ土地ノ狀況業務ノ關係其他種々ナル事情ニ依リ臨機適切ナル話題ヲ擇フヘキコト勿論ナルモ常ニ其統一ト意思ノ徹底ヲ期スル爲メ大要左ノ如キ標準ヲ設ケ主トシテ之ニ據ラシメタリ。

大正四年九月ニ至リ私立京都府衞生會ヲシテ衞生劇ヲ開催セシメ主トシテ貧民ノ觀覽ニ供シ以テ衞生思想ノ啓發ニ力メタルカ是亦著明ノ効果アリタリ、清涼飲料水營業者ノ俄カニ不振ヲ稱ヘタルカ如キハ不良ナル飲料水ノ傳染病ヲ誘發スルニ至リタル實例ニ鑑ミ之ヲ飲用スルモノ頓ニ減少シタル結果ニシテ衞生思想向上ノ一例ナリト云フヲ得ンカ。（第六號表參照）

敘上ノ外衞生警察上特ニ其取締ヲ要スル營業者ニ對シテハ隨時必要ニ應シ召集シテ最モ有益ナル講話ヲ爲シ營業狀態ノ改善ト衞生思想ノ注入ニ努力セシモノ勘ナカラス、之等ノ詳細ニ至リテハ後ニ說ク所アラントス。

衞生講話標準

保健幷防疫ニ關スル通俗講演ハ辯士各自ノ任意ナリト雖モ成ルヘク左ノ事項ヲ意味シ之カ實行ニ努力スヘキ樣說述セラレンコトヲ望ム。

一、土地及家屋ノ不潔ニ由ツテ生體（人畜）ニ及ホスヘキ有害ノ理由ヲ說キ常ニ淸潔保持ノ必要ナルコト幷ニ之カ實行ヲ爲スヘキ樣演述スルコト

二、人畜ノ生活ニ於テ生スヘキ排泄物ノ大要ヲ說キ之カ處置ニ關シ常ニ適當ノ注意ヲ用ヒサレハ生命上ノ危害ヲ將來ス

ルト同時ニ清潔持續ノ目的ヲモ達スルコト能ハサルヲ演述スルコト

三、衣服寢具其他家事用一般ノ物ニ對シ衞生上注意スヘキ要點及其處置方法ノ大要ヲ演述スルコト

四、生體(人畜)ニ於ケル水ノ生理的必要ヲ説キ之レカ良否ニ依リ健康上ノ利害關係、法定消化器傳染病幷ニ寄生虫卵ノ傳染系路ニ及ホシ不完全ナル井戸水、流水ノ危險ヲ會得セシメ上水ノ必要ナルコトヲ知ラシムルコト

備考　當府ニ於テハ法定傳染病中消化器病ニ罹リタル家ニシテ井水ヲ使用シ居ルモノハ其周圍ノ關係等ニ依リ之ヲ消毒スヘキ方針ニアリ

五、飮食物ニ因リ疾病ノ傳染スヘキ概要ヲ述ヘ特ニ法定傳染病ノ之ニ依リテ來リタル古今ノ實例等ヲ示シ常ニ之カ注意ヲ爲ス様懇篤ニ説示スルコト

六、日光及新鮮ナル空氣ノ生體(人畜草木)ニ有益ナル大意ヲ説キ且ツ之カ清潔及消毒ノ應用等ヲ演述スルコト

七、當府特ニ京都市ニ於ケル猩紅熱及實布的里亞ハ歳次增加ノ傾向アル實況ヲ示シ之等疾病ノ輕症者ヲシテ速ニ醫治ヲ請ハシムルノ必要ヲ説キ且ツ其傳染系路ト消毒物品ノ適否等ヲ演述スルコト

八、「ペスト」ニ就テハ香港、上海及東京市ノ實況ヲ述ヘ次テ鼠族ノ關係ヨリ其豫防方法ノ緊要事項ヲ演述スルコト

九、痘瘡豫防トシテハ尙ホ一層種痘ヲ勵行シ朝鮮等ノ如キ同病流行地ヨリ病毒ノ襲來スルアルモ地方傳染ノ虞ナキ様充分注意スヘキヲ演述スルコト

十、各地ヨリ入洛スル人畜ニ就テハ常ニ其健康狀態ニ注意スルハ勿論貨物等ニ在テモ之カ發着及運送地方ニ鑑ミ卽チ人畜或ハ物品ヲ介シ病毒ノ襲來セサル様注意スヘキコトヲ演述スルコト

十一、叙上ノ目的ヲ達セントスルニハ各人各戶之ヲ實施スルノ要アルコト則チ一家ノ健康ヲ保持スルハ其一町ノ健康ヲ圖リ其一町ノ健康ハ其市ノ健康ニアルコトヲ心ロシ隣保互ニ氣脈ヲ通シ衞生組合役員等ノ注意ヲ等閑ニ附セス衞生組合役員モ又組合ヲシテ他人視スルコトナク一家同炊ノ思ヲ以テ相互相援ケ前代未聞ノ盛儀ニ際シ至誠奉公ノ誠ヲ効サンコトヲ演述スルコト

十二、其他一般保健衞生ニ關シテハ時々ノ實況ニ鑑ミ適當ノ演述ヲ爲スコト

(第五號表)　大禮衞生思想鼓吹講話會署別成績順表

警察署別	戶數	開會度數	講師數	會同人員	戶數一戶ニ對スル會同人員	內譯 大正二年 度數	大正二年 講師	大正二年 會同人員	大正三年 度數	大正三年 講師	大正三年 會同人員	大正四年 度數	大正四年 講師	大正四年 會同人員
川端	一一、九二八	二〇	五三	一〇、四七二	〇、八八	二	六	七六四	一	一	四九八	一七	五三	九、二一〇
中立賣	一四、五四二	二七	六〇	八、四七六	〇、五八	一	二	一五〇	一	一	三五〇	二五	六〇	七、九七六
上長者町	二二、〇三三	四七	六四	一九、五八六	〇、八九	一〇	一九	二、三八一	二一	四二	二、六四二	一六	六四	一四、四八〇
松原	一六、一三六	三九	八四	二〇、〇四九	一、二五	八	一五	四、二一三	—	—	—	三一	八四	一五、八三六
五條	一〇、五八一	一八	三一	八、八八八	〇、八四	五	一一	一、〇五二	一	一	二八〇	一二	三一	七、五五六
堀川	一六、七九三	五四	七〇	二七、二四四	一、六二	一一	二五	六、六六六	一七	四三	三、〇四三	二六	七〇	一七、五三四
七條	六、八二八	一三	二四	四、六七九	〇、七一	八	一八	一、九二九	—	—	—	五	二四	二、七五〇
市計	九九、八二一	二一八	三八五	九九、三九四	一、〇一	四五	九六	一七、一五五	四一	八八	六、八一三	一三二	三八五	七五、三四二
下鴨	八、五七六	三九	一三五	七、六五一	〇、八五	五	一一	一、三五一	一三	四九	二、六七一	二一	七五	三、六五一
花園	七、一九六	四〇	一一九	九、五九六	一、三三	一五	二五	二、八五六	六	一六	八七三	一九	七八	五、八六七
伏見	一一、一四六	二四	六二	一一、八六二	〇、九八	六	一四	三、二七〇	四	一四	一、六一〇	一四	三四	六、九八二
向日町	四、〇二五	九	一一	二、九六六	〇、七五	八	一〇	二、九〇〇	一	一	六六	—	—	—
醍醐	三、七一七	二〇	六七	二、四九五	〇、六七	二	四	七七	六	一二	五〇八	一二	五一	一、九一〇
宇治	四、七八四	二〇	二三	五、三八〇	一、一三	—	—	—	—	—	—	二〇	三三	五、三八〇
井手	七、三九五	二〇	二九	四、七一六	〇、六四	三	八	三〇〇	三	八	三〇〇	一四	二三	四、一一六
木津	八、八五七	二五	四七	五、二〇〇	〇、五九	四	九	一、〇八〇	二	五	四三〇	一九	三三	三、六八八
龜岡	七、三二〇	四七	一二二	九、八四一	一、三四	一三	一三	二、四五五	—	—	—	三四	一〇九	七、三八六
周山	四、三一七	三三	五五	三、六八五	〇、八五	—	—	—	一	一	一六〇	三三	五四	三、五二五
園部	一〇、八一〇	六一	一八六	二一、〇三四	一、九五	一五	四一	六、一一〇	二四	八〇	五、〇三七	二三	六五	九、八八七
福知山	一三、二三八	八三	一六四	二四、一二五	一、八二	三八	六三	六、〇七一	二三	四五	八、六〇九	二二	五六	九、四四五
綾部	九、三八〇	一〇二	一六八	九、一〇〇	〇、九七	一三	三一	二、七五七	三	三	六一三	八六	一三四	五、七三〇
舞鶴	九、九二三	六四	一六八	一七、六八一	一、七七	一〇	三二	三、五六〇	二一	四一	五、四四二	三三	九五	八、六六九
新舞鶴	八、五七七	四四	一〇五	八、一五〇	〇、九五	六	一三	八五八	一七	四七	二、九一五	一五	四五	四、三七七
宮津	一一、四八一	二六	七三	六、〇一一	〇、五二	—	—	—	三	五	五八〇	二三	六八	五、四三一

峰山	四、六五八	一三	三四	四、三一三	〇、九三	—	—	—	一	四	四〇〇	一三	三〇	三、九一三
網野	六、一一六	六一	一六〇	七、九九一	一、三一	一	二	一五〇	一九	五〇	二、四三〇	四一	一〇八	五、四一一
久美濱	三、四六三	二七	八五	三、九一六	一、一三	—	—	—	七	一五	四五五	二〇	七〇	三、四六一
郡計	一四四、九六二	七五七	一、八一三	一六五、七一三	一、一四	一三九	二七六	三三、七九五	一五四	三九六	三三、一〇九	四五九	一、一五〇	九八、八二八
合計	二四四、七八八	九七五	二、一九七	二六五、一〇六	一、〇八	一八四	三七二	五〇、九五〇	一九五	四八四	三九、九二三	五九一	一、五三五	一七四、一六〇

（第六號表）　衛生劇入場人員表

月日	位置	劇場名	入場券配付數	入場人員	月日	位置	劇場名	入場券配付數	入場人員
九月十二日	上京區上立賣通淨福寺東入	岩神座	一、六〇〇	一、二一三	九月二十日	上京區三條通千本東入	國技舘	四、五〇〇	一、二一八
九月十三日	上京區上立賣通淨福寺東入	岩神座	一、六〇〇	一、五〇五	九月二十一日	上京區三條通千本東入	國技舘	四、〇〇〇	二、七七七
九月十四日	上京區上立賣通淨福寺東入	岩神座	一、九〇〇	一、五一七	九月二十二日	上京區三條通千本東入	國技舘	四、七〇〇	四、五三九
九月十五日	上京區上立賣通淨福寺東入	岩神座	一、九〇〇	一、八三四	九月二十三日	上京區三條通千本東入	國技舘	四、九〇〇	四、三一三
九月十六日	上京區上立賣通淨福寺東入	岩神座	二、〇〇〇	一、七一六	九月二十四日	上京區三條通千本東入	國技舘	四、一〇〇	二、八九六
九月十七日	下京區四條通大和大路西入	南座	二、五〇〇	二、三八一	九月二十五日	上京區三條通千本東入	國技舘	四、三〇〇	三、八三八
九月十八日	下京區四條通大和大路西入	南座	二、五〇〇	二、六九七	九月二十六日	上京區三條通千本東入	國技舘	四、一五〇	三、八四九
九月十九日	下京區四條通大和大路西入	南座	二、一〇〇	二、五七三	合計			四六、七五〇	三八、八六五

備考　本劇ハ京都府私立衞生會ノ主催ニ係ルモノニシテ專ラ衞生組合等ノ援助ヲ得無料觀覽セシメタルモノ

第五章　御用水幷御用乳其他ノ取締

第一節　御用水檢査

御所幷二條離宮内ニ於ケル御用水ハ　聖上陛下ノ御料ヲ始メ凡テノ御用ニ至ル迄悉ク上水道水ヲ使用セラル、コトナリシヲ以テ大正四年十月二十日ヨリ前後四回ニ渉リテ採酌シ擔任技術員ヲシテ最モ細密ナル化學及細菌學的各試驗ヲ實施セシメ左表（第七乃至第一七號表參照）ノ如ク良好ノ成績ヲ得タリ、尙萬一ニ備フル爲メ二條離宮内ノ井水試驗ヲモ施行セシカ其成績（第一八號表參照）充分ナラス本水質ハ從來數回試驗セシコトアリシト雖モ曾テ好成績ヲ得タルコトナシ、思フニ周圍ノ御濠水浸入スルモノナランカ。

因ニ　聖上陛下ノ御料水ニ上水道水ヲ上リシハ今回ヲ以テ嚆矢トス、故ニ京都市ニ於テハ之ヲ無上ノ光榮トナシ御駐輦中水源其他ノ取締ハ頗ル嚴重ニ之ヲ施行シ當府モ亦技術者ヲシテ絶エス其監督ヲ爲サシメ晝夜適度ノ放水ヲ爲シ上水ノ潴溜スル等アラサルヲ期シタリ。

（第七號表）　御所内上水道水化學的試驗成績書（大正四年十月三十日採酌）

種別	御所御臺所第一號	同第二號	同第四號
外觀	清澄	同上	同上
臭味	異狀ナシ	同上	同上
同加溫	異狀ナシ	同上	同上
同煮沸	異狀ナシ	同上	同上
反應	弱アルカリ性	同上	同上
炭酸	僅微	同上	同上
硫酸	僅微	同上	同上
硝酸	檢出セス	同上	同上
亞硝酸	檢出セス	同上	同上
燐酸	檢出セス	同上	同上

種別	御所御臺所第一號	同第二號	同第四號
硅酸	痕跡	同上	同上
硫化水素	檢出セス	同上	同上
アンモニア	檢出セス	同上	同上
マグネシア	痕跡	同上	同上
石灰	僅微	同上	同上
鐵	檢出セス	同上	同上
クロール	〇、四九二一〇	〇、四九二一〇	〇、四九二一〇
カメレオン消費量	〇、一五八〇〇	〇、一八九六〇	〇、一五八〇〇
固形物總量	四、二一〇〇〇	四、一〇〇〇〇	四、一五〇〇〇
全成績	良	良	良

右含有量ハ檢水十萬分中ノ「グラム」量トス

大正四年十一月一日

京都府技師　佐藤捨三郎

（第八號表）　御所内上水道水化學的試驗成績書（大正四年十一月一日採取）

種別	御臺所第參號	同第五號	同第六號	同第七號
外觀	清澄	同上	同上	同上
臭味	異狀ナシ	同上	同上	同上

同加溫	異狀ナシ	同上	同上	同上
同煮沸	異狀ナシ	同上	同上	同上
反應	弱アルカリ性	同上	同上	同上
炭酸	僅微	同上	同上	同上
硫酸	僅微	同上	同上	同上
硝酸	檢出セス	同上	同上	同上
亞硝酸	檢出セス	同上	同上	同上
燐酸	檢出セス	同上	同上	同上
硅酸	痕跡	同上	同上	同上
硫化水素	檢出セス	同上	同上	同上
アンモニア	檢出セス	同上	同上	同上
マグネシヤ	痕跡	同上	同上	同上
石灰	僅微	同上	同上	同上
鐵	檢出セス	同上	同上	同上
クロール	〇、四六〇八五	〇、四六〇八五	〇、四六〇八五	〇、四六〇八五
カメレオン消費量	〇、一五八〇〇	〇、一二六四〇	〇、一二六四〇	〇、一二六四〇
固形物總量	四、七〇〇〇〇	四、四〇〇〇〇	四、六五〇〇〇	〇、八五〇〇〇
全成績	良	良	良	良

右含有量ハ檢水十萬分中ノ「グラム」量トス

大正四年十一月二日

京都府技師　佐藤拾三郎

京都府技手　遠藤美文

（第九號表）

御所內上水道水細菌學的檢査成績書　第一報告

可檢水採取場所	採取月日	培養基種類	培養時間	細菌數	細菌種類
御所御臺所第一號	十月三十日	16% 寒天扁平	約二十六時間	一三	桿狀菌屬 二種
同上第二號	同	同	同	八	桿狀菌屬 一種 球狀菌屬 一種
同上第四號	同	同	同	一八	桿狀菌屬 二種

參考

一、本培養ノ細菌數ハ可檢水一、cc中ニ含有セルモノナリ

二、該可檢水ハ「グラチン」扁平培養ヲ行ヒタルモ其發育ハ一定時間ヲ要ス然レトモ殊更急場ノ要トシテ寒天扁平培養ヲ試ミ三十七度ノ孵卵器中ニ於テ叙上時間ニ發育セシメ後「コロニー」ヲ「ルーペ」ニテ計算シ同時ニ「コロニー」ニ就キテ形態及運動等ヲ檢査セシモノナリ

三、細菌種屬中病原菌ヲ認メス

四、作業中ノ氣溫ハ一九度ヲ示セリ

大正四年十一月一日

防疫官兼京都府技手　井堤騰一

（第十號表）

御所內上水道水細菌學的檢査成績書　第一報告

可檢水採取場所	採取月日	培養基種類	培養時間	細菌數	細菌種類
御所御臺所第三號	十一月一日	16% 寒天扁平	約廿五分ト三十分	一五	桿狀菌屬 一種 球狀菌屬 一種
同上第五號	同	同	同	二〇	桿狀菌屬 二種 球狀菌屬 一種
同上第六號	同	同	同	一〇	桿狀菌屬 一種 球狀菌屬 一種
同上第七號	同	同	同	二〇	桿狀菌屬 三種

參考

一、本培養ノ細菌數ハ可檢水一、cc中ニ含有セルモノナリ

二、該可檢水ハ「グラチン」扁平培養ヲ行ヒタルモ其發育ハ一定時間ヲ要スルニ急ヲ要スル場合ナレハ殊更寒天扁平培養ヲ試ミ三十七度ノ孵卵器中ニ於テ叙上ノ時間ヲ發育セシメ後チ「コロニー」ヲ「ルーペ」ニテ計算シ同時ニ各「コロニー」ニ就キテ形態及運動等ヲ檢査セリ

三、細菌種屬中病原菌ヲ認メス

四、作業中ノ氣溫ハ攝氏十七度ヲ示セリ

大正四年十一月二日

防疫官兼京都府技師　井堤騰一

（第十一號表）

御所內上水道水細菌學的檢査成績書　第二報告

可檢水採取場所	採取月日	培養基種類	培養時間	細菌數	細菌種類
御所御臺所第一號	十月三十日	19% ゲラチン扁平	約七十時間	三六	桿狀菌屬 三種
同上第二號	同	同	同	一九	桿狀菌屬 二種 球狀菌屬 一種
同上第四號	同	同	同	二八	桿狀菌屬 三種

參考

一、本培養ノ細菌數ハ可檢氷一、cc中ニ含有セルモノナリ

二、細菌種屬中病原菌ヲ認メス

三、培養溫度ハ攝氏十九度ヲ保タシム。

四、作業中ノ氣溫ハ攝氏十七度ヲ示セリ

大正四年十一月三日

防疫官兼京都府技師　井堤騰一

（第十二號表）　御所内上水道水細菌學的檢査成績書　第二報告

可檢水採取場所	採取月日	培養基種類	培養時間	細菌數	細菌種類
御所御臺所第三號	十一月一日	19％グラチン扁平	約八十時間	一七	桿狀菌屬二種 球狀菌屬一種
同第五號上	同	同	同	三	桿狀菌屬三種 球狀菌屬一種
同第六號上	同	同	同	三	桿狀菌屬一種 球狀菌屬一種
同第七號上	同	同	同	三	桿狀菌屬三種

參考

一、本培養ノ細菌數ハ可檢水一、cc中ニ含有セルモノナリ
二、細菌種屬中病原菌ヲ認メス
三、培養溫度ハ攝氏十九度ヲ保タシム
四、作業中ノ氣溫ハ攝氏十七度ヲ示セリ

大正四年十一月四日

防疫官兼京都府技師　井堤疇一

（第十三號表）　二條離宮内上水道水化學的試驗成績書（大正四年十月二十日採酌）

種別	魚清所	御調理場	侍醫寮西中坪	侍醫寮東中坪	御湯殿	御廁	御洗面所
外觀	清澄	同上	同上	同上	同上	同上	同上
臭味	異狀ナシ	同上	同上	同上	同上	同上	同上
同加溫	異狀ナシ	同上	同上	同上	同上	同上	同上
同煮沸	異狀ナシ	同上	同上	同上	同上	同上	同上
反應	弱アルカリ性	同上	同上	同上	同上	同上	同上
炭酸	僅微	同上	同上	同上	同上	同上	同上
硫酸	僅微	同上	同上	同上	同上	同上	同上
硝酸	檢出セス	同上	同上	同上	同上	同上	同上
亞硝酸	檢出セス	同上	同上	同上	同上	同上	同上
燐酸	檢出セス	同上	同上	同上	同上	同上	同上
硅酸	痕跡	同上	同上	同上	同上	同上	同上
硫化水素	檢出セス	同上	同上	同上	同上	同上	同上
アンモニア	檢出セス	同上	同上	同上	同上	同上	同上
マグネシア	痕跡	同上	同上	同上	同上	同上	同上
石灰	僅微	同上	同上	同上	同上	同上	同上
鐵	檢出セス	同上	同上	同上	同上	同上	同上
クロール	〇、七四六五五	〇、七四六五五	〇、七四六五五	〇、七四六五五	〇、七四六五五	〇、七二一〇〇	〇、七八二〇
カメレオン消費量	〇、一七三八〇	〇、一七三八〇	〇、一七三八〇	〇、一七三八〇	〇、一七三八〇	〇、一七三八〇	〇、一七三八〇
固形物總量	四、七〇〇〇〇	四、四五〇〇〇	四、三五〇〇〇	四、六五〇〇〇	四、五五〇〇〇	四、七五〇〇〇	四、五〇〇〇〇
全成績	良	良	良	良	良	良	良

右含有量ハ檢水十萬分中ノ「グラム」量トス

大正四年十月二十二日

京都府技師　佐藤捨三郎

（第十四號表）　二條離宮内上水道水細菌學的檢査成績書　第一報告

可檢水採取場所	採取月日	培養基種類	培養時間	細菌個數	細菌種類
二條離宮内上水魚清場	十月二十日	16％寒天扁平	約二十六時間	一〇	桿狀菌屬一種
同御調理場上	同	同	同	七	桿狀菌屬一種
同侍醫寮西中坪上	同	同	同	九	桿狀菌屬一種
同侍醫寮東中坪上	同	同	同	一五	桿狀菌屬一種 球狀菌屬一種
同御湯殿上	同	同	同	一三	桿狀菌屬一種 球狀菌屬一種
同御洗面場上	同	同	同	一八	桿狀菌屬二種 球狀菌屬一種
同御廁上	同	同	同	三	桿狀菌屬一種 球狀菌屬一種

（第十五號表）

二條離宮内上水道水細菌學的檢査成績書

可檢水採取場所	採取月日	培養基種類	培養時間	細菌個數	細菌種類	參	考
二條離宮内上水	大正四年十月二十日	寒天	四十八時	一、〇〇〇	球狀菌屬　一種	一、本培養ノ細菌數ハ可檢水一CC中ニ含有セルモノナリ 二、該可檢水ハクロラチン殘留量平均〇、〇〇〇一瓦ナリ 三、細菌種屬中病原菌ヲ認メス 四、作業中ノ氣溫ハ二〇度ヲ示セリ	防疫兼京都府技師　井堤　驥一

（第十六號表）

二條離宮大饗宴場御調理場上水道水化學的試驗成績書　大正四年十一月二日採

可檢水採取場所	採取月日	培養基種類	培養時間	細菌個數	細菌種類	參	考
二條離宮内上水	大正四年十月二十日	寒天	四十八時	一、〇〇〇	球狀菌屬　一種	一、本培養ノ細菌數ハ可檢水一CC中ニ含有セルモノナリ 二、該可檢水ハクロラチン殘留量平均〇、〇〇〇一瓦ナリ 三、細菌種屬中病原菌ヲ認メス 四、作業中ノ氣溫ハ二〇度ヲ示セリ	防疫兼京都府技師　井堤　驥一

第二報告

（第十六號表）

二條離宮大饗宴場御調理場上水道水化學的試驗成績書　大正四年十一月二日採

種別	全固形殘物	カク鐵	石灰	マグネシア	硫酸	硅酸	燐酸	亞硝酸	硫化水素	炭酸	反應	同上煮沸後	臭氣	外觀
第一號	一瓦ニ付百分ノ一瓦	檢出セス	檢出セス	檢出セス	檢出セス	檢出セス	檢出セス	檢出セス	檢出セス	檢出セス	弱アルカリ性	弱アルカリ性	異狀ナシ	清澄
第二號	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	異狀ナシ	同上
第三號	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	異狀ナシ	同上
第四號	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	異狀ナシ	同上
第五號	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	異狀ナシ	同上
第六號	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	異狀ナシ	同上
第七號	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	異狀ナシ	同上
第八號	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	異狀ナシ	同上

（第十七號表）　二條離宮內大饗宴場御調理場上水道水細菌學的檢査成績書

可檢水採取場所	採取月日	培養基種類	塔養時間	細菌個數	細菌種類	可檢水採取場所	採取月日	培養基種類	培養時間	細菌個數	細菌種類
二條離宮大饗宴場御調理場東第一號	十一月二日	19%ケラチン扁平	約九十時間	三	桿狀菌屬　二種	同第五號上	同	同	同	二	桿狀菌屬　二種
同第二號上	同	同	同	一六	桿狀菌屬　二種	同第六號上	同	同	同	三	桿狀菌屬　二種
同第三號上	同	同	同	一八	桿狀菌屬　三種	同第七號上	同	同	同	三	桿狀菌屬　二種 球狀菌屬　一種
同第四號上	同	同	同	一六	桿狀菌屬　二種	同西御厠上	同	同	同	三〇	桿狀菌屬　二種 球狀菌屬　二種

參考

一、本培養ノ細菌數ハ可檢水一、CC中ニ含有セルモノナリ
二、細菌種屬中病原菌ヲ認メス
三、培養溫度ハ十九度ヲ保タシム
四、作業中ノ氣溫ハ攝氏十六度ヲ示ス

大正四年十一月六日

防疫官京都府技師　井堤疇一

（第十八號表）　二條離宮內井水化學的試驗成績書（大正四年十月二十日採酌）

種別	本丸內玄關北內	本丸東部	種別	本丸內玄關北內	本丸東部
外觀	蛋白石濁	同上	硫酸	僅微	同上
臭味	異狀ナシ	同上	硝酸	僅微	痕跡
反應	中性	弱アルカリ性	亞硝酸	檢出セス	同上
炭酸	微量	同上	燐酸	檢出セス	同上
硅酸	微量	同上	鐵	檢出セス	同上
硫化水素	檢出セス	同上	クロール	〇、五三三二五	〇、六七五四五
アンモニア	檢出セス	同上	カメレオン消費量	〇、二二一二〇	〇、三三一八〇
マグネシア	僅微	同上	固形物總量	六、六〇〇〇〇	二三、五〇〇〇〇
石灰	微量	少量	全成績	蛋白石濁ヲ呈スルヲ以テ良好ト稱シ難シ	同上

右含有量ハ檢水十萬分中ノ「グラム」量トス

大正四年十月二十二日

京都府技師　佐藤捨三郎

第二節　御用乳牛ノ選定、乳質檢査幷ニ其奉進

大正四年九月三十日京都御所ニ於テ其筋ヨリ御料乳牛ヲ選定スヘキ內命アルヤ、直ニ之カ協議ニ移リ受命者ハ多年業務ノ經驗アリテ信用アリ且ツ既往一ケ年內其家族使用人及牧場附近ニ傳染病患者ナク場所ハ位置高燥ニシテ周圍淸潔、使用水豐富ニシテ水質ノ善良、乳牛ハ健康ニシテ發育良好性質溫順惡癖ナク「ツベルクリン」注射反應及臨床診斷ニ依リ結核病ノ疑ヲ有セス、年齡四歲以上十二歲未滿分娩後二ケ月乃至六ケ月ニシテ泌乳量中等度乳質善良脂肪比重ニ過不足ナキヲ條件トン嚴密ナル調査ヲ遂ケ府下葛野郡太秦村字安井、森田梅吉ノ所有スル乳牛ヲ選定シタリ而シテ其成績（第十九乃至第二十一號表參照）ハ尤モ良好ナリシニ依リ十月十二日宮內省ニ具申セリ、超エテ同月二十三日源氏車號ヲ御料牛ニ第三伊丹號ヲ豫備牛ニ御決定ノ通報アリ、茲ニ於テ直ニ御用牛舍ニ隔離ヲ命シ他人ノ出入ヲ禁止シ晝夜ノ別ナク看守ヲ附シ最モ嚴重ニ其注意ヲ爲サシメタリ。

御用牛舍ハ總建坪二十坪附屬運動場六十五坪二合ヲ有シ普通牛舍及運動場ト區劃ヲ異ニシ別ニ通路ヲ設ケ周圍ニ墻塀アリテ外部ノ交通ヲ遮斷スルニ最モ便ナリ。

森田梅吉方ニ於テハ名譽ノ內命ニ接スルヤ恐懼措ク所ヲ知ラス末代迄ノ光榮トナシ一家擧ツテ衷心ヨリ奉公ノ誠ヲ效サンコトヲ誓ヒ特ニ御料乳ノ完全ヲ期スル爲メ俄ニ其取扱室ヲ新築セントシ日夜兼行工事ヲ急キ十月末日遂ニ之ヲ竣成シタリ。

御料乳取扱室ハ準備室三坪七合五勺、搾取室六坪二合五勺、檢査室三坪五合、取扱室五坪、傳廊下一坪五合、總建坪二十坪ノ洋館ニシテ構造最モ理想ニ適シ塵埃侵入ノ豫防、室内ノ洒掃等意ノ如クナラサルハナク頗ル完全ナリト云フヲ得ヘシ。

牛乳搾取ノ場合ハ係員ハ沐浴更衣ヲ爲シ御用牛舍ヨリ廊下ヲ經テ乳牛ヲ準備室ニ牽入レ茲ニ裝置セル米國式繫留枠ニ之ヲ繫キ温湯ヲ以テ牛體ノ洗淨ヲ爲シ次ニ搾取室ニ入レ更ニ蒸汽ヲ應用シテ作リタル殺菌微温湯ヲ以テ乳房ヲ拭淨シ係員ハ再ヒ手指ノ酒精消毒ヲ爲シ茲ニ始メテ搾乳ニ着手ス、搾取ノ方法ハ最初各乳頭ノ潴乳ヲ第一罐ニ搾取シ次ニ濾過裝置アル第二ノ搾取罐ニ搾取ス、搾取終レハ速ニ取扱室ニ搬入シ特製ノ金屬濾過器ヲ以テ之ヲ濾過シ「パーフエクトクーラ」ニテ冷却シ一定ノ檢査ヲ經テ監督官之ニ封印シ納乳係之ヲ奉持シ警察官吏警護ノ下ニ納入スヘキ順序トナセリ。

御用乳牛ノ飼育搾乳其他苟クモ之ニ關係アル業務ニ從事スルモノハ豫メ之ヲ特定シ各分擔ヲ定メ毫モ他人ヲシテ關與セシメサル方針ヲ執リ尙其健康狀態ノ視察ハ最モ重大ナルヲ以テ當府直屬ノ醫員ヲシテ其衝ニ當ラシメ一面警察官吏ヲシテ牛舍ノ警衞ニ從事セシメタリ。

御用乳ノ奉進ハ大正四年十一月六日ニ始マリ同月二十七日ニ了ル奉進日數二十二日其間　東宮殿下ノ御用命アリ、殊ニ納乳時刻ノ夜ニ入ルモノアリシヲ以テ之ニ從事スルモノヽ苦心譬フルニモノナク擔任技術員ノ如キハ日夜詰切リテ從事セシカ誠心誠意何レモ能ク任務ヲ果タシ毫モ不都合ナカリシハ大ニ多トスル所ナリ御用乳牛幷ニ乳質ノ成績ハ左ノ如シ。

（第十九號表）　乳牛成績表

御料乳牛	源氏車號	牛乳成績					
胤種	エーアシヤ雜種	搾取日時	搾乳量	反應	色澤臭味稠度	比重	脂肪含量	試驗日時
生年月	明治四十三年二月生	十月八日午前一時	一二、七	弱酸性	普通	一、〇三一二	三、四	十月八日午前八時
毛色	褐白斑色							
特徵	額白	同　午前七時	一〇、〇	同	同	一、〇三〇〇	三、五	同
體尺	四尺一寸六分	同　午後二時	一〇、〇	同	同	一、〇三一二	三、五	同　午後三時
產地	自家	十月九日午前一時	一二、七	同	同	一、〇三一二	三、四	十月九日午前八時
血統	父エーアシヤ種 母短角雜種 御料牧場系	同　午前七時	一〇、〇	同	同	一、〇二九九	三、五	同
最近ノ分娩	大正四年七月五日	同　午後二時	一〇、〇	同	同	一、〇三〇四	三、五	同　午後三時
種付	ナシ	十月十日午前一時	一二、七	同	同	一、〇三一二	三、三	十月十日午前八時
現在一日ノ泌乳取	三二磅七	同　午前七時	一〇、〇	同	同	一、〇三〇一	三、五	同
既往一ヶ年ノ狀態	健全ニシテ疾病ニ罹リタルコトナシ	同　午後二時	一〇、〇	同	同	一、〇三〇四	三、五	同　午後三時
臨床診斷	結核病其他ノ病徵ヲ認メス							
ツベリクリン注射反應	反應ナシ							

（第二十號表）　乳牛成績表

豫備乳牛	第三伊丹號	牛乳成績					
胤種	エーアシヤ雜種	搾取日時	搾取量	反應	色澤臭味稠度	比重	脂肪含量	試驗日時
生年月	明治四十一年六月	十月八日午前一時	九、六	弱酸性	普通	一、〇三三三	三、三	十月八日午前八時
毛色	褐毛	同　午前七時	八、〇	同	同	一、〇三三三	三、三	同
特徵	乳房部白	同　午後二時	九、〇	同	同	一、〇三二七	三、四	同　午後三時
體尺	四尺六分	十月九日午前一時	九、六	同	同	一、〇三三三	三、三	十月九日午前八時
產地	自家	同　午前七時	八、〇	同	同	一、〇三一二	三、三	同
血統	父エーアシヤ種 母短角雜種	同　午後二時	九、〇	同	同	一、〇三二七	三、四	同　午後三時
最近ノ分娩	大正四年八月十七日	十月十日午前一時	九、六	同	同	一、〇三二二	三、三	十月十日午前八時
種付	ナシ	同　午前七時	八、〇	同	同	一、〇三一二	三、四	同
現在一日ノ泌乳量	二六磅六	同　午後二時	九、〇	同	同	一、〇三二七	三、四	同　午後三時
既往一ヶ年ノ狀態	健全ニシテ疾病ニ罹リタルコトナシ							
臨床診斷	結核病其他ノ病徵ヲ認メス							
ツベルクリン注射反應	反應ナシ							

（第二十一號表）　乳牛成績表

萬一ニ備フル爲メ更ニ第二ノ豫備トシテ選定シタル乳牛	第二ホワイトリ、一號
胤種	ホルスタイン、アリシアン種
生年月	明治三十九年二月
毛色	黑白斑毛
特徵	額白
體尺	四尺三寸八分
產地	自家
血統	父ホルスタイン種 母ホルスタイン種
最近ノ分娩	大正四年七月五日
種付	大正四年九月十三日
現在一日ノ泌乳量	二九瓩七
既往一ケ年ノ狀態	健全ニシテ疾病ニ罹リタルコトナシ
臨床診斷	結核病其他ノ病徵ヲ認メス
ツベルクリン注射反應	反應ナシ

牛乳成績

搾取日時	搾乳量	反應	色澤臭味稠度	比重	脂肪含量	試驗日時
十月八日午前一時	一一、〇（瓩）	弱酸性	普通	一、〇三二三	三、三	十月八日午前八時
同　午前七時	九、〇	同	同	一、〇三一三	三、三	同
同　午後二時	九、七	同	同	一、〇三〇六	三、三	同　午後三時
十月九日午前一時	一一、〇	同	同	一、〇三〇一	三、二	十月九日午前八時
同　午前七時	九、〇	同	同	一、〇三一二	三、三	同
同　午後二時	九、七	同	同	一、〇三〇六	三、四	同　午後三時
十月十日午前一時	一一、〇	同	同	一、〇三〇一	三、二	十月十日午前八時
同　午前七時	九、〇	同	同	一、〇三二三	三、三	同
同　午後二時	九、七	同	同	一、〇三〇六	三、四	同　午後三時

第六章　御用從事者ノ取締

第一節　各種ノ被命者

御所幷離宮ノ造營、調度品ノ製作其他各種ノ御用ヲ命セラレ之ニ從事シタルモノハ其數最モ多カリシカ之ニ對スル衞生上ノ取締ハ獨リ本人ニ止マラス家族、同居者、使用人ノ全部ニモ之ヲ及ホシ以テ其目的ヲ達セサルヘカラス、然ルニ之等ノ召集區域及作業ノ場所等ハ常ニ最モ廣濶ニシテ殆ント郡市ノ全部ニ涉リ加フルニ材料ノ供給ハ之ヲ他府縣ニ仰クモノ等尠ナカラス、大正二年十一月始メテ受命者ノ現ハルヽヤ當府ハ衞訓第九號及同第五號（別記參照）ヲ以テ之ニ對スル取締ノ方針ヲ示シ專ラ其普及ヲ圖ラシメタリ、然リト雖モ異動最モ頻繁ニシテ動モスレハ脫漏ヲ生スル虞アル等取締上頗ル困難ヲ極メタリ、加之　大禮御擧行ノ當時ニ至リテハ衞生上最モ注意ヲ要スヘキ飮食物ノ調進ヲ命セラルヽモノ甚タ多ク之等ニ對スル取締ハ他ノ被命者ト趣ヲ異ニシ特ニ綿密ナル視察ヲ要シ加フルニ健康診斷ノ如キモ絕エス之ヲ繰返シ且ツ之等ノ御用命者ト取引關係アルモノハ凡テ同一ノ取締ヲ要セシ等其複雜ナリシコト言辭ノ能ク盡クス所ニアラス、其他人力車夫ノ如キハ所要人員ノ多數ナルト命令ノ突急ナルモノ甚タ多ク而カモ彼等ノ集散常ナラスシテ正確ナル調査ヲ爲スニ頗ル苦心ヲ重ネタリ今左ニ大正四年中ノ成績（第二十二號乃至第二十七號表參照）ヲ揭ケ後日ノ參考ニ供セントス。

衞訓第九號

大典ニ關シ調度品ノ製作又ハ其他ノ御用ヲ命セラルヽ者ノ衞生上取締方ニ付主殿寮京都出張所ヨリ照會ノ次第モアリ其筋ノ準備漸次進捗スルニ從ヒ被命者益々多カルヘク、從テ一層警戒ヲ加フヘキ必要ヲ生シタリ、故ニ之等ハ當部ニ於テ成ルヘク詳細ニ知得スルノ方法ヲ講シ其都度通知スヘキ方針ナルモ絕體ニ遺漏ナキヲ保シ難キニ依リ各署ニ於テモ綿密之レカ注意ヲ拂ヒ直接間接ヲ問ハス御用上關係アリト認ムルモノアルトキハ速ニ報告シ其全部ニ對シ左ノ標準ニ依リ健康診斷ヲ施行シ一面防疫上必要ナル視察ヲ遂ケ毫モ遺憾アラサル樣專ラ努力セラルヘシ

右訓示ス

大正二年十一月三日

京都府警察部長　永田秀次郎

取扱標準

一、健康診斷ハ署屬檢疫委員タル醫師ヲシテ御用ヲ命セラレタル者及其家族同居者等ノ全部ニ施行セシムルコト

一、健康診斷ハ御用ヲ了ルニ至ル迄繼續スヘキ必要アレハ大約七日每ニ繰返シ施行スルコト

一、健康診斷上發見シタル傳染性疾患者ニシテ法令ノ規定ニ依リ病院病舍ニ收容セサルモノハ說諭ヲ加ヘ直ニ御用ヲ遠慮セシメ一面之レヲ報告ス

一、健康診斷上傳染病若クハ其疑似症トシテ注意スヘキ病類左ノ如シ（宮內傳染病豫防法令參照）

（甲）「ペスト」、虎列刺、赤痢（疫痢ヲ含ム）膓窒扶斯、「パラチフス」、痘瘡（假痘ヲ含ム）、發疹窒扶斯、猩紅熱、

實布的亞（格魯布ヲ含ム）

（乙）　痲疹、流行性感冒、流行性腦脊髓膜炎

（丙）　肺結核、癩、丹毒、「トラホーム」、膿漏性結膜炎、傳染性皮膚病

一、前項（甲）ノ病類ニ關シテハ尙左ノ事項ヲモ調査スルコト但本調査ハ衞生專務巡査部長及巡査ニ於テ施行スルモノトス

（イ）　傳染病ニ罹リタル者ト同一ノ場所ニアリタル者ニアラサルヤ否

（ロ）　病毒ニ汚染シ又ハ汚染ノ疑アル物件ニ接シタル者ニアラサルヤ否

（ハ）　病毒ニ汚染シ又ハ汚染ノ疑アル家ニ立寄タル者ニアラサルヤ否

（ニ）　傳染病豫防法ニ依リ隔離處分ヲ受ケタル者ニアラサルヤ否

一、一般健康狀態ニ付特ニ注意スヘキモノ左ノ如シ

心臟疾患又ハ腦疾患ヲ有シ作業上危險ノ虞アルモノ精神異常ノ狀態ニアルモノ

一、御用被命者中ニハ下請業者ヲシテ其一部又ハ全部ヲ爲サシムルモノアリ之等ハ勿論同樣ノ視察ヲ要スルコト

一、御用被命者中ニハ通勤セル獨身者等アリテ飮食店又ハ賄業者ヨリ飮食ノ供給ヲ受ケ居レルモノアリ之等ノ營業者ハ被命者ト同樣ノ視察ヲ爲シ及其賄所ニ於ケル清潔方法ニモ注意スルコト

一、通知ヲ受ケタル以外ニ於テ御用ヲ命セラレタル者ヲ發見シタルトキハ其住所、氏名、職業及御用ノ大要ヲ報告シ速ニ視察ニ着手スルコト

一、所轄內ニ於テ御用ヲ命セラレタルモノアルトキハ其人名簿ヲ調製シ各別ニ餘白ヲ存シ事故アル每ニ洩ナク之ヲ記入スルコト

一、本件ニ付テハ其成績ヲ徵スルコトアルヘキニ依リ健康診斷檢病調査ノ度數人員病者ノ有無病類及之レカ處分ノ方法等ハ常ニ明瞭ナラシムルコト

一、健康診斷及檢病調査ノ施行ニ際シテハ御用命ノ大切ナルヲ全家族ニ諭示シ保健其他ノ注意ハ獨リ本人ノミナラス

一家擧ツテ之ヲ嚴守シ終始一貫能ク其誠ヲ効スヘキ樣注意スルコト

衞訓第五號

御用從事者幷ニ御用品製作者視察方ニ關シテハ大正二年十一月衞訓第九號ヲ以テ訓示スル所アリシカ今回更ニ主殿寮出張所ヨリ別紙寫ノ通照會ノ次第モアレハ自今該當者アルトキハ右ニ依リ相當處置シ且ツ其旨報告セラルヘシ

右訓示ス

大正四年四月十五日　　京都府警察部長　永田秀次郎

主殿寮出張所警往第七四號

大正四年四月八日　　皇宮警視　荒木虎象

京都府警察部長　永田秀次郎殿

御大禮工事從事ノ者及御用品製作者等傳染病關係ノ有無調査ノ儀追々御依賴及候處別紙甲ニ該當ノ者有之候節ハ本人參入ヲ差止メ實布垤利亞、痲疹、流行性感冒ニ在ツテハ單ニ其事ヲ御通報有之度此段更ニ及御依賴候也

御用從事者參入停止期間表左ノ如シ

宮內傳染病豫防令參入停止期間表

（甲）普通參入シ得サル期間

（乙）常御殿御座所等ヘ參入スヘキ者普通期間ノ外參入シ得サル期間

一　虎列刺、赤痢、腸窒扶私ニ付テハ厠圖又ハ飮料ニ係ル井水ヲ共用スル者ハ患者ト同居セサルモ仍ホ二號ニ依ル

傳染病ノ種類	參入シ得サル期間							
	期間ノ區別	第一號	第二號	第三號	第四號	第五號	第六號	第七號
ペスト	甲	傳染病ニ罹リタル者全治ノ翌日ヨリ	患者ニ接シ又ハ之ト同居シタル者別居ノ翌日ヨリ	宮中參入中又ハ退出後傳染病ニ罹リタル者ト同一ノ場所ニ在リタル者其最終ノ日ヨリ	病毒ニ汚染シ又ハ汚染ノ疑ヒアル者ニ接シタル者接シタル翌日ヨリ	患者ノ在ル家其他病毒ニ汚染シ又ハ汚染ノ疑アル家ニ立寄タル者立寄タル翌日ヨリ	隔離ノ處分ヲ受ケタル者解除ノ翌日ヨリ	有病地ヲ發シ又ハ之ニ立寄タル者發程又ハ最終ノ日ヨリ
	乙	十日	十日	十日	十日	十日	十日	十日

傳染病ノ種類	參入シ得サル期間							
	期間ノ區別	第一號	第二號	第三號	第四號	第五號	第六號	第七號
虎列刺	甲	傳染病ニ罹リタル者全治ノ翌日ヨリ	患者ニ接シ又ハ之ト同居シタル者別居ノ翌日ヨリ	宮中參入中又ハ退出後傳染病ニ罹リタル者ト同一ノ場所ニ在リタル者最終ノ日ヨリ	病毒ニ汚染シ又ハ汚染ノ疑ヒアル者ニ接シタル者接シタル翌日ヨリ	患者ノ在ル家其他病毒ニ汚染シ又ハ汚染ノ疑アル家ニ立寄タル者立寄タル翌日ヨリ	隔離ノ處分ヲ受ケタル者解除ノ翌日ヨリ	有病地ヲ發シ又ハ之ニ立寄タル者發程又ハ最終ノ日ヨリ
	乙	十四日	五日	五日	五日	五日	五日	七日

赤痢（疫痢ヲ含ム）	甲	十四日	五日	五日	五日	—	—	—
	乙	七日	五日	五日	五日	五日	五日	七日
腸窒扶私（パラ窒扶私ヲ含ム）	甲	十四日	七日	七日	七日	—	—	—
	乙	七日	七日	七日	七日	—	—	十四日
痘瘡（假痘ヲ含ム）	甲	十四日	七日	七日	七日	—	—	—
	乙	七日	七日	七日	七日	十四日	—	十四日
發疹窒扶私	甲	十四日	十四日	十四日	十四日	七日	七日	—
	乙	七日	七日	七日	七日	七日	七日	十四日
猩紅熱	甲	十四日	三日	三日	三日	—	—	—
	乙	七日	四日	四日	四日	七日	—	七日
實布垤利亞（格魯布ヲ含ム）	甲	—	—	—	—	—	—	—
	乙	—	七日	七日	七日	—	—	—
痳疹	甲	—	—	—	—	—	—	—
	乙	七日	十四日	十四日	十四日	十四日	—	—
流行性感冒	甲	—	—	—	—	—	—	—
	乙	七日	—	—	—	—	—	—
流行性腦脊髓膜炎	甲	—	五日	五日	五日	—	—	—
	乙	—	二日	二日	二日	—	—	—

（參考）

御用織物工場ニ對スル衞生設備指示事項

一、工場及寄宿舍ノ掃除ハ必ス毎日一回以上施行スルコト

二、工場及寄宿舍ハ常ニ採光換氣ヲ充分ナラシムルコト

三、工場寄宿舍其他必要ノ場所ニハ適當個數ノ唾壺ヲ配置スルコト

四、常用ノ衣類寢具類ハ時々日光ニ曝スコト

五、工場内ノ諸器物ハ常ニ之レヲ整頓シ且其清潔ヲ保持スルコト

六、職工其他家族全部ニ至ル迄特ニ身體被服ノ清潔ヲ保ツコト

七、工場内ハ叨リニ他人ヲ出入セシメ又ハ不淨ノモノヲ持チ入レシメサルコト

八、職工ハ就職中妻木ニ觸ルヽ部分ニハ特ニ清潔ナル白地ノ布片ヲ被ヒ櫛及手指ハ特ニ清潔ヲ保持スルコト

九、製品ハ他ノ物品ト混同セサル樣必ス清潔ナル一定ノ容器ニ收容シ又ハ運搬スルコト

十、工場主ハ原料ノ買入先又ハ製品ノ染色精練等ヲ爲サシムル家ニ對シ特ニ衞生狀態ニ付注意スルコト

十一、職工其他家族ノ全部ニ對シ大切ナル御用ナレハ特ニ衞生ヲ守リ身體ノ健康ヲ保持スル樣常ニ教養スルコト

十二、飲料水ハ必ス良水ヲ使用スルコト

十三、炊事場ハ常ニ清潔ヲ保持シ採光換氣ヲ充分ナラシメ且防鼠、防塵、防蠅ノ設備ヲ完全ニスルコト

十四、飲食物ハ特ニ新鮮ナルモノヲ撰擇スルコト

十五、新鮮ナル魚貝類ト雖モ可成刺身トシテ食用セサルコト

十六、調理シタル飲食物ニハ必ス防蠅、防塵ノ方法ヲ講シ且ツ炊溜ヲ爲サヽルコト

十七、便所ハ毎日下水溝ハ一ヶ月一回以上掃除シ其都度デシンフェクトールヲ撒布スルコト

十八、手洗水ハ良水ヲ用ヒ必ス流出裝置トナスコト

十九、職工其他家族ノ全部ニ對シ大約五日毎ニ健康診斷ヲ施行スルコト

二十、健康診斷上發見シタル傳染性疾患者ニシテ法令ノ規定ニ依リ病院病舍ニ收容セサルモノハ適當ノ場所ヲ設ケ之レヲ隔離シ看護人ヲ一定シ置クコト

二十一、健康診斷上傳染病若クハ其疑似症トシテ隔離スヘキ病類左ノ如シ

（甲）ペスト、虎列刺、赤痢（疫痢ヲ含ム）腸窒扶私、パラ窒扶私、痘瘡、（假痘ヲ含ム）發疹窒扶斯、猩紅熱、實布的里亞、（格魯布ヲ含ム）

（乙）麻診、流行性感冒、流行性腦脊髓膜炎、流行性皮膚病、

（第二十二號表）御用從業者調査表（大正四年中）

職名	命免別	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	合計
技術員	被命	—	—	—	二五	二	二五	三	八五	三九	三一	—	—	二三九
	解雇	—	—	—	—	一九	—	—	二一	—	二六	二九	一四四	二三九
事務員	被命	—	—	—	四	—	一	—	—	五	一	—	—	一一
	解雇	—	—	—	—	—	—	—	—	三	二	—	六	一一
木工	被命	—	—	四二	九七	一三四	一三四	四八四	二七一	三〇七	一六一	—	—	一、六三〇
	解雇	—	—	一三	—	一	三七	九五	一六一	一六	二〇七	二六	一、〇七四	一、六三〇
土工	被命	—	—	二六	五	三〇	五九	八二	四七	五四	一五	—	—	三〇八
	解雇	—	—	—	—	—	—	—	四八	七	一八	二九	一四三	三〇八
石工	被命	—	—	—	四	二六	八	五一	二三	一〇	九	—	—	一三一
	解雇	—	—	—	—	三	—	—	一三	—	三六	一八	六一	一三一
金屬工	被命	—	—	—	九	一三	一三	一六	—	四	六	—	—	六一
	解雇	—	—	—	—	二	—	—	一〇	一	八	一	三九	六一
鍍工	被命	—	—	六二	六	三	—	—	七	六	一九	—	—	一〇三
	解雇	—	—	七	—	—	—	—	七	—	一四	—	七七	一〇三
塗師工	被命	—	—	二九	—	—	二	二	一六	一	—	—	—	五〇
	解雇	—	—	二〇	—	一	—	—	—	二	一五	二	一〇	五〇
庭師	被命	—	—	一五八	—	一	四	一	一	四八	三	—	—	二一六
	解雇	—	—	二	—	五	—	—	一	一	三	八	一九六	二一六
鑄方	被命	—	—	一九	二五	一六	—	二三	三	二四	二	—	—	一一二
	解雇	—	—	—	—	—	三	一三	二五	—	四八	—	二三	一一二
人夫	被命	—	—	一三七	二七	二九一	一六四	一八五	七五	一一三	二三四	—	—	一、二二六
	解雇	—	—	—	—	二九	四三	九	六三	三七	五三	三四	九五八	一、二二六
衣紋方	被命	—	—	—	一二〇	—	—	—	—	—	—	—	—	一二〇
	解雇	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	一二〇	一二〇
物品被命者	被命	—	—	九	三	一五九	六八三	四、二三七	二、〇三〇	一、八〇五	—	—	—	八、九一六
	解雇	—	—	—	—	二	三八二	八三	四、八九三	一、五四五	一、七五一	—	二六〇	八、九一六
其他	被命	—	—	八	九	一四	三	七六	七三	四五一	九七	六二	—	七九三
	解雇	—	—	—	—	—	—	—	八	三	三八一	—	四〇一	七九三
計	被命	—	—	四八〇	三三四	六八九	一、〇九六	五、一六九	二、六三一	二、八六七	五七八	六二	—	一三、九〇六
	解雇	—	—	四二	—	六二	四六五	二〇〇	五、二三八	一、六一五	二、六二五	一四七	三、五一三	一三、九〇六

（第二十三號表） 御用從事者檢病調査成績表（自大正四年四月至同年十一月）

職業別	調査延戸數	調査延人員	內譯 健康者	內譯 普通病者	內譯 傳染病者
技術員	五〇五	二、六〇四	二、五九二	一二	—
事務員	三、九五三	一八、八〇七	一八、六四七	一五八	二
木工	一、四一二	五、四四五	五、四一四	三一	—
土工	二八二	一、三四七	一、三二五	二二	—
石工	二四九	一、二一九	一、二〇七	一二	—
鐵工	二〇三	一、一〇一	一、〇六一	四〇	—
錺工	六八	二九六	二九二	四	—
塗師工	八〇九	三、四一九	三、三七〇	四九	—
庭師	四九四	二、〇九九	二、〇七二	二七	—
鷹方	七、四四五	三〇、二八二	二九、七八六	四八五	一一
人夫	一、二九四	六、〇六六	六、〇三〇	三六	—
衣紋方	一、二三二	八、五三八	八、四三七	一〇一	—
御用商人	五三六	三、三二一	三、二七九	四二	—
其他	八、二三七	四六、六一〇	四五、九七一	六三二	七
合計	二六、七一九	一三一、一五四	一二九、四八三	一、六五一	二〇

（第二十四號表） 御用從事者健康診斷成績表（自大正四年四月至同年十一月）

職業別	檢診延戸數	檢診延人員	內譯 健康者	內譯 普通病者	內譯 傳染病者
技術員	二七三	一、一九二	一、一八五	七	—
事務員	七七	二四六	二四三	三	—
木工	二、五三七	二、七一八	二、五九一	一二四	三
土工	七九五	三、〇九一	三、〇五八	三三	—
石工	二四六	八三一	八一九	一二	—
鐵工	八六	四二一	四〇九	一二	—
錺工	四三	一九一	一八六	四	一
塗師工	一三	六九	六九	—	—
庭師	九四〇	三、六六六	三、六二九	三七	—
鷹方	七七六	二、八五七	二、八一五	四二	—
人夫	二六、七五九	三〇、七六一	三〇、三一五	四二八	一八
衣紋方	七六九	三、五〇七	三、四六五	四二	—
御用商人	九四二	五、八三四	五、七五七	六九	八
其他	八、四三四	八八、六二三	八七、六八九	七四四	一八九
合計	四二、六九〇	一五三、〇〇六	一五一、二三〇	一、五五七	二一九

（第二十五號表） 大膳職料理材料上納者調査表

納入品	住所	商號	氏名	從事人員 男	從事人員 女	健康者 男	健康者 女	普通病者 男	普通病者 女	傳染病者 男	傳染病者 女
鹹水魚	下京區錦小路高倉東入中魚屋町	鳥六	木村六右衞門	一〇	四	一〇	四	—	—	—	—
鹹水魚	下京區錦小路高倉東入中魚屋町	大新	鶴川喜三郎	五	三	四	三	一	—	—	—
鹹水魚	下京區錦小路柳馬場東入	金キ	藤井房吉	九	二	九	二	—	—	—	—
鹹水魚	下京區問屋町五條下ル	金岩	山口岩次郎	八	四	八	四	—	—	—	—
鹹水魚	下京區問屋町五條下ル	松藤	奈島藤助	一四	七	一三	七	一	—	—	—
淡水魚	下京區大和大路三條下ル二丁目	かれ政	藤居庄平	四	三	四	三	—	—	—	—
淡水魚	紀伊郡向島村字向島三丁目	井筒屋	平田民次郎	三	四	三	四	—	—	—	—
鳥類	下京區東木屋町團栗下ル	鳥彌三	平田金七	四	五	四	五	—	—	—	—
鳥類	下京區七條加茂川東入	鳥井	木村三郎	七	七	六	七	一	—	—	—
獸肉商	下京區區猪熊四條上ル	猪熊森田	森田卯之助	一〇	四	一〇	四	—	—	—	—
野菜類	上京區西堀川下長者町上ル	矢尾又	外山秀治郎	六	二	六	二	—	—	—	—
野菜類	上京區堀川出水上ル	午蒡新	竹下豐吉	三	二	三	二	—	—	—	—
野菜類	紀伊郡堀内村		桃山分場	一三	五	一三	五	—	—	—	—
野菜類壬生菜	葛野郡朱雀野村字壬生		八木爲三郎	三	三	三	三	—	—	—	—
野菜類壬生菜	葛野郡朱雀野村字西ノ京小字京職町		内國通運株式會社二條荷扱所	二	—	二	—	—	—	—	—
乾物	上京區姉小路柳馬場東入	松島屋	戸井田平兵衞	三二	九	三二	九	—	—	—	—
昆布	上京區釜座丸太町上ル	松前屋	小島文右衞門	五	三	五	三	—	—	—	—
調理	上京區椹木町油小路東入	堀五郎	堀五郎兵衞	一一	七	一一	七	—	—	—	—

運搬事務	下京區油小路魚棚下ル	安彦	安彦勘吉	男	八	八	—
				女	五	五	—
運搬事務	下京區大宮木津屋橋下ル		內國通運株式會社京都支店	男	六	六	—
				女	二	二	—
雞卵	葛野郡桂村		農事試驗場	男	三	三	—
				女	一	一	—
御所柿	南桑田郡吉川村		石田眞一	男	四	四	—
				女	四	四	—
豐岡柿	相樂郡加茂村字觀音寺		岡本耕一	男	四	四	—
				女	二	二	—
合計			二三	男	一七四	一七一	三
				女	八八	八八	—

（第二十六號表）　大禮使辨當調進者調查表

住所	商號	氏名	男女別	從事人員	內譯 健康者	內譯 普通病者	內譯 傳染病者
下京區錦小路西洞院西入	丹榮	坂本福太郎	男	一四	一四	—	—
			女	一八	一八	—	—
上京區御池富小路角	松清	加藤清八	男	一八	一八	—	—
			女	一三	一三	—	—
上京區椹木町小川西入	大市	大谷清次郎	男	一五	一五	—	—
			女	五	五	—	—
上京區姉小路東洞院角	八百三	中村三四郎	男	三六	三六	—	—
			女	七	七	—	—
上京區猪熊出水上ル	萬龜樓	小西嘉一郎	男	一〇	一〇	—	—
			女	五	五	—	—
下京區建仁寺町四條下ル	八百重	北村芳次郎	男	九	九	—	—
			女	四	四	—	—
下京區錦小路柳馬場西入	山市	山本庄次郎	男	一八	一八	—	—
			女	九	九	—	—
愛宕郡下鴨村	相撲屋	多田彌四郎	男	一五	一五	—	—
			女	四	四	—	—
合計		八	男	一三五	一三五	—	—
			女	六五	六五	—	—

（第二十七號表）　大嘗祭參列員辨當調進者調查表

住所	商號	氏名	男女別	從事人員	內譯 健康者	內譯 普通病者	內譯 傳染病
上京區丸太町川端東入	喜の枝	西村久吉	男	八	八	—	—
			女	六	六	—	—
上京區猪熊出水上ル蛭子町	萬龜樓	小西嘉一郎	男	一〇	一〇	—	—
			女	五	五	—	—
下京區祇園鳥井前	中村樓	辻重彦	男	一八	一八	—	—
			女	七	七	—	—
下京區圓山公園	平の家	北村粂藏	男	五	五	—	—
			女	八	八	—	—
下京區圓山公園	鳥井元	田畑篤次郎	男	一七	一七	—	—
			女	三	三	—	—
下京區祇園下河原南側	左阿彌	辻重右衞門	男	二八	二八	—	—
			女	一八	一八	—	—
下京區錦小路富小路西入	湖月亭	藤田幸太郎	男	二三	二三	—	—
			女	一二	一二	—	—
下京區錦小路高倉東入	魚清	西田清兵衞	男	五	三	—	—
			女	三	三	—	—
下京區四條烏丸西入	萬榮亭	橋本榮次郎	男	八	八	—	—
			女	六	六	—	—
合計		九	男	一二二	一二二	—	—
			女	六八	六八	—	—

第二節　御用宿舍

御用宿舍ノ選定ニ就テハ府郡市役所ト協議ヲ重ネ家屋ノ構造建具幷敷物類ノ良否、飲料水、使用水、洗面場、浴室、化粧室及便所ノ適否其他庭園ノ模樣車馬ノ交通關係等ニ至ル迄最モ詳細ニ調査ヲ爲シ宿泊人ノ階級ニ應シ適當ニ割當スヘキ方針ノ下ニ大正三年一月二十六日ヨリ京都市及市部隣接町村ニ於ケル民間有力者ノ家屋ノ調査ヲ開始シタリ、之レト同時ニ警察署ヲシテ宿屋營業者ノ家宅ニ就キ同樣調査ヲ實施セシメ何レモ其大部分ヲ終了セシカ大正三年四月圖ラスモ世ハ再ヒ諒闇トナリテ一時中止ノ止ムナキニ至レリ、大正四年更ニ之ヲ開始スルニ至リテハ事務分擔ノ都合上大體事

務ヲ委員ノ手ニ依リテ調査スルコトヽナリシカ衛生警察上ノ目的ヲ貫徹スル爲メ特ニ別個ノ手段ニ依リ飲食物ノ關係、清潔保持、家族及使用人ノ健康調査其他各般ノ事項ニ渉リ嚴密ナル取締ヲ爲サシメタリ、普通民家ニシテ御用宿舎ニ選定セラレタルモノヽ中ニハ少ナカラサル私費ヲ投シ誠心誠意其責ヲ全フセントスルモノ多クシテ而カモ經驗ニ乏シキ結果トシテ往々衛生ニ適セサル設備ヲ爲スモノ亦實ニ尠ナカラス、然レトモ之等ニ對スル取締ハ營業者ニ對スル如ク命令的ニ指示スルコトヽ能ハサル事情アレハ常ニ懇切ニ誘導シ以テ其目的ヲ達スルニ力メシメシト雖モ警察官吏ノ臨檢ハ動モスレハ誤解ヲ招キ頗ル苦心ヲ重ネタリ、左レトモ其大體ニ於テハ良好ナル成績ヲ收メ失態ノ者シキモノヽナカリシハ尚ニ儕倖ト云フノ外ナシ。

御用宿舎ニ對スル注意事項及皇族貴賓ノ旅館（第二十六號乃至第三十二號表）其他特別健康診斷成績（第三十三號表）等左ノ如シ。

御用宿舎ニ對スル注意事項及皇族貴賓ノ旅館

一、豫メ家屋ノ內外ヲ清潔ニシ御用數日以前ヨリハ一層之ヲ勵行シ時々戶障子ヲ開放シ室內ノ換氣ニ力ムルコト

二、下水溝、浮水溜ハ惨澹又ハ充溢セサル樣注意スルコト

三、塵芥容器ニハ覆蓋ヲ設ケ破損セルモノハ修理ヲ加ヘ汚物ノ收容ニ差支ヘサル樣注意スルコト

四、飲料水及使用水ハ上水ヲ使用スルモノヽ外水質檢査ニ合格シタル良水ヲ使用スルコト

五、調理場ハ特ニ清潔ヲ保持シ採光換氣ヲ充分ナラシメ且ツ蠅ノ繁殖ニ力ムルコト

六、調理場ノ地盤及下水溝ヲ完全ニシ汚水ノ停滯セサル樣設備スルコト

七、飲食物用器具類、蓆具、組板其他布巾ノ類ハ使用前必ス上水又ハ煮沸シ殺菌ヲ施スコト

八、煮沸水ノ容器ニハ覆蓋ヲ設クルコト

九、琺瑯又ハ鍍錫ノ器具類ハ使用後ハ直ニ洗滌ヲ施シ清潔ナル布巾ヲ以テ叮嚀ニ拭清スルコト

十、飲食物ノ材料ヲ購入シ又ハ調理スルニ當リテハ腐敗變質セルモノヽ混入セサル樣注意スルコト

十一、敷布掛襟枕掛ノ類ハ成ルヘク淸潔ナル白布ヲ用フルコト

十二、寢具類ハ成ルヘク日光ニ乾燥スルコト

十三、手洗水ニハ上水ヲ使用シ容器ニハ覆蓋ヲ用ヒ成ルヘク流水ヲ使用スルコト

十四、本注意事項ハ婢僕ニモ充分心得置カシムルコト

皇族御旅館調査表（第二十八號表）

皇族	季	賀陽宮殿下	竹田宮殿下	北白川宮殿下	東久邇宮殿下	朝香宮殿下	梨本宮殿下	久邇宮殿下	伏見宮殿下	閑院宮殿下	伏見宮殿下
御本邸又ハ御旅館		路下京區七條大和大	下京區油小路三條	山上京區南禪寺町假	路下東京區七條大和大	上京區鞍馬口通東入	上京區一條新町西	町上京區荒神口東褄	下京區御愚院山內	谷上川京區南禪寺町	下京區烏丸中立賣
		敷屋町ノ中	根	鼓	邸	根	邸	敷屋町ノ中	根	鼓	邸
		下京區烏丸通綾小路下ル	井入郎右衞門	中定矢郎	賀陽宮御本邸	三井元之助	三井高保	御本邸	得淨明院	川田瀰支	別藏枝
料理方住所氏名		下京區烏丸通綾小路下ル	川勘事川端末吉	飯田政矢	櫻亭店樓	中鷲村	八木小谷村	小谷音吉	左東福小林太源四郎	阿洋	彌亭七郎
別女男		女男	女男	女男	女男	女男	女男	女男	女男	女男	女男
事務入用員從		二	二	二	二	二	二	二	二	二	二
健康	丙	三	三	三	三	四	四	四	四	四	四
普通病		五	五	五	五	六	六	五	五	五	五
傳染病	譯	八	八	八	八	四	四	四	四	四	四

外國使節宿舍表（第二十九號表）

國別	露西亞大使同館員ノ	下京區圓山公園	下京區入江島居前
御用族館	長	川勘事川端末吉	辻ハル
	僚	飯田政矢	
	館	櫻亭店樓	
		中鷲村	
別女男		女男	女男
事務入用員從		二	二
健康	丙	三	三
普通病		五	五
傳染病	譯	八	八

伊太利大使同 隨員	下京區圓山公園	長樂館	下京區八阪鳥居前	辻 ハル	男	一八	一八	—
					女	一七	一七	—
英國大使同 隨員	上京區烏丸夷川上ル	京都商業會議所	上京區御幸町二條上ル	松谷吉兵衞	男	一〇	一〇	—
					女	一八	一八	—
米國大使同 隨員	上京區河原町二條下ル	京都ホテル	上京區河原町二條下ル	井上喜太郎	男	五三	五三	—
					女	二七	二七	—
佛國大使同 隨員	同	同	同	同	男	五三	五三	—
					女	二七	二七	—
伯利西大使同 隨員	同	同	同	同	男	五三	五三	—
					女	二七	二七	—
西班牙大使同 隨員	同	同	同	同	男	五三	五三	—
					女	二七	二七	—
瑞典使節同 隨員	同	同	同	同	男	五三	五三	—
					女	二七	二七	—
瑞西使節同 隨員	同	同	同	同	男	五三	五三	—
					女	二七	二七	—
支那使節同 隨員	同	同	同	同	男	五三	五三	—
					女	二七	二七	—
知利使節同 隨員	同	同	同	同	男	五三	五三	—
					女	二七	二七	—
白耳義使節同 隨員	同	同	同	同	男	五三	五三	—
					女	二七	二七	—
亞爾然丁使節同隨員	同	同	同	同	男	五三	五三	—
					女	二七	二七	—
那威使節同 隨員	同	同	同	同	男	五三	五三	—
					女	二七	二七	—
和蘭使節同 隨員	同	同	同	同	男	五三	五三	—
					女	二七	二七	—
暹羅使節同 隨員	同	同	同	同	男	五三	五三	—
					女	二七	二七	—
丁抹使節同 隨員	同	同	同	同	男	五三	五三	—
					女	二七	二七	—

（第三十號表）

本表ハ皇族貴賓ノ旅館其他御用宿舍ニ充ツル爲メ特ニ其調査ニ用ヒタルモノトス

項目	內容
氏名	
建築材料	最良 上等 中等 稍粗
門又ハ入口ヨリ玄關迄ノ距離及諸車ノ通否	距離約 腕車 自動車 馬車
門前又ハ入口迄諸車ノ往復便否	腕車 自動車 馬車
門又ハ入口及玄關等ノ實景	最良 良 可 稍可 不良
家屋ノ構造	最良高尚 最良美麗 良高尚 中等 稍粗 其他 / 新古 新古 新古 新古 新古
座敷及間取	圖面ト對照ノ 階上 階下 其他
敷物	疊 新 中古 新古混合 古 其他
建具	高尚 美麗 良 稍良 粗 其他
室內自然採光	光明 稍明 暗
室內夜光	特設電燈 普通電燈 瓦斯燈 石油燈 其他
室內採暖	
電話架設	番
浴場	和式 洋式 和洋折衷 無 其他
化粧室	其他
洗面場	
庭園	坪數約 其他
飲料水	上水引用 井水 其他 箇所
兩便所	和式 洋式 和洋折衷 洗水式 其他
備考	

（第三十一號表）　特別健康診斷成績（大正四年十一月中）

戸數其他	供奉員參列員宿舍	大膳職料理材料上納者	大饗宴料理材料上納者	大嘗祭料理材料上納者	大禮使辨當調進者	宮内省辨當調進者	宿屋（御用宿舍ヲ含ム）	料理店	飲食店	大禮使使用人力車夫	參列員使用人力車夫	其他	計
戸數	三九六	三六	四一	九五	一七	一七	九四六	四一八	一三七五	—	一二五	二六三	三七二九
人口	三三三〇	四三五	五〇七	九四〇	三七二	三七二	六七三五	三一四八	七一五一	七六四	二一二二	二一〇〇	二七九七六
健康者	三二六〇	四二五	四九九	九一一	三六一	三六一	六五五〇	三〇六五	六九八六	七六一	一九九六	二〇五二	二七二二七
普通病者	四九	四	六	二〇	六	六	一一七	六六	八九	二	三六	三二	四三三
法定傳染病患者 赤痢	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
腸窒扶斯	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
パラチフス	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
猩紅熱	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
實布垤里亞	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
發疹窒扶斯	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
痘瘡	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
虎列刺	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
ペスト	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
法定以外ノ傳染性患者 麻疹	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
流行性感冒	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
流行性腦脊髓膜炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
肺結核	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
癩	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
丹毒	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
トラホーム	一八	六	—	九	五	五	六四	一四	七一	一	九〇	一六	二九九
膿漏性結膜炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
傳染性皮膚病	三	—	二	—	—	—	三	三	四	—	—	—	一五
其他	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
計	二一	六	二	九	五	五	六九	一七	七五	一	九〇	一六	三一五

（第三十二表）　大禮參列員豫定宿舍中傳染病發生表

投宿豫定者 資格	氏名	宿舍所在地	宿主職業氏名	事故
退役陸軍少將	多田保房	下京區西洞院六角下ル	染吳服商 澤渡源兵衛	十月二日家族澤渡幸太郎パラチフスニ罹リタルニ依リ御幸町六角下ル坂田方ニ變更
衆議院書記官長	岡崎國臣外一人	下京區麩屋町四條上ル	旅館 高岡長兵衛	十一月六日烏取縣會議長安藤傳藏投宿肺結核ニテ死亡シタルニ依リ麩屋町四條上ル中野方ニ變更
大分縣理事官	本間則忠	上京區大宮寺ノ内上ル三丁目	旅館 中川宗太郎	二月二十九日家族中川八重子猩紅熱ニ罹リタルモ一定期間經過後ニ付變更セス
海軍中將	寺垣猪三	上京區大宮五辻上ル西入	矢田宗節	十月八日家族矢田治郎パラチフスニ罹リタルニ依リ下立賣智惠光院西入山中方ニ變更
法學博士	末廣重雄	上京區相國寺門前町	自邸	十一月五日家族末廣フシ赤痢ニ罹リタルニ依リ參列ヲ遠慮セラレタリ

第七章　飲料水ノ取締

第一節　上水道使用ノ奬勵

京都市ニ於ケル飲料水ハ俗間京ノ水ト稱ヘ凡テ良好ナルモノ、如ク謂ヒ傳ヘ衛生思想尚幼稚ナル民間ニアリテハ今尚之ヲ信スルモノ尠カラス、斯カル實況ナルヲ以テ上水道ノ工事就リ大正元年五月ヨリ一般ニ給水ヲ開始スルニ至リタリト雖モ容易ニ普及ヲ見ルコト難ク成績遲々トシテ振ハサリシハ頗ル遺憾トスル所ナリ、然ルニ大禮御擧行ノ爲メ飲料水ノ改善ヲ圖ルヘキ緊切ノ必要ヲ生シタルト共ニ住民ノ覺醒ヲ促ス上ニ於テ再ヒ得ルコト能ハサル最好機會ニ遭遇セリ、茲ニ於テ京都市ハ上水道普及ノ目的ヲ以テ特ニ奬勵ノ方法ヲ講シ道路敷ニ屬スル工事費ハ凡テ同市ノ負擔ト爲シ且ツ財政ノ豐カナラサルモノニハ四ケ年分納ノ便法ヲ設ケ工費即納者ニ對シテハ奬勵金トシテ其一割ヲ減免スル等專ラ需要者ノ便宜ヲ圖リ一面衛生組合ニ於テモ市役所ト協力シテ各分擔區域ヲ定メ責任募集ニ努メタリ、加之尤モ頻繁ニ開催シタル衛生講話會等ノ場合ニハ必ス之ヲ話頭ニ上ボセ各機關相呼應シテ大ニ之カ勸誘ヲ試ミ且ツ公衆衛生ニ密接ノ關係アル

營業者ニ對シテハ特ニ其使用ヲ勵行セシメ尙市部接續ノ町村ニ對シテモ亦同樣其使用ヲ獎勵シ以テ左ノ成績（第三十三號乃至三十八號表参照）ヲ得タリ。

（第三十三號表）　大正四年各月末現在上水道使用成績表　京都市

月次	市部 總戸數	市部 箇所數	市部 使用戸數	市部 戸數百ニ對スル使用戸數	防火栓 箇所數	防火栓 使用戸數	撒水栓 箇所數	撒水栓 使用戸數	市外 箇所數	市外 使用戸數	合計 箇所數	合計 使用戸數
一月	九一、一〇五	二〇、五四三	二八、二二六	三一、二三	四二三	四二三	三九	三九	六五八	一、四四六	二一、六六三	三〇、一三四
二月	九一、一〇五	二〇、八二四	二八、六一一	三一、四〇	四三三	四三三	四三	四三	六七二	一、四七五	二一、九七二	三〇、五六二
三月	九一、一〇五	二一、一八二	二九〇一〇	三一、九五	四四八	四四八	四三	四三	六八二	一、四九九	二二、三五五	三一、一〇〇
四月	九一、一〇五	二一、四六四	二九、四九五	三二、三七	四五六	四五六	四三	四三	六九四	一、五一八	二二、六五七	三一、五一二
五月	九一、一〇五	二一、八九一	三〇、〇六三	三三、〇〇	四六五	四六五	四五	四五	七〇七	一、五三五	二三、一〇八	三二、一〇八
六月	九一、一〇五	二二、三八二	三〇、七四二	三三、七四	四六九	四六九	四三	四三	七二六	一、五三八	二三、六二〇	三二、八三〇
七月	九一、一〇五	二三、一一四	三一、七五一	三四、八四	四七二	四七二	四五	四五	七五二	一、六二五	二四、三八三	三三、八九三
八月	九一、一〇五	二三、八一五	三二、七一二	三五、九一	四八〇	四八〇	四八	四八	七七五	一、六六八	二五、一一八	三四、九〇八
九月	九一、一〇五	二四、五二二	三三、九〇六	三七、二三	四八〇	四八〇	四八	四八	七八五	一、六九五	二五、八三五	三六、一二九
十月	九一、一〇五	二五、四〇三	三五、三四八	三八、八〇	四八六	四八六	四九	四九	七九八	一、七一七	二六、七三六	三七、六〇〇
十一月	九一、一〇五	二五、九一八	三六、一七九	三九、七一	四九二	四九二	四九	四九	八一六	一、七五九	二七、二七五	三八、四七九
十二月	九一、一〇五	二六、三八五	三六、九一〇	四〇、五一	五〇二	五〇二	五〇	五〇	八五七	一、八一九	二七、七九四	三九、二八一
備考	本表ハ大正四年中ノ成績ヲ掲ケタルモノトス											

（第三十四號表）　大正四年各月末現在上水道使用增加率調査表　京都市

月次	總戸數	大正四年 總使用戸數	大正四年 毎月增加數	大正四年 總戸數ニ對スル增率	大正三年 總使用戸數	大正三年 毎月增加數	大正三年 總戸數ニ對スル增率
一月	九一、一〇五	三〇、一三四	三八〇	〇、〇〇〇四二	一四、七七四	六二〇	〇、〇〇〇六八
二月	九一、一〇五	三〇、五六二	四二八	〇、〇〇〇四七	一五、六八七	九一三	〇、〇〇一〇〇
三月	九一、一〇五	三一、一〇〇	五三八	〇、〇〇〇五九	一七、三六〇	一、六七三	〇、〇〇一八四
四月	九一、一〇五	三一、五一二	四一二	〇、〇〇〇四五	一九、三一三	一、九五三	〇、〇〇二一四
五月	九一、一〇五	三二、一〇八	五九六	〇、〇〇〇六四	二〇、六六六	一、四五四	〇、〇〇一六〇
六月	九一、一〇五	三二、八三〇	七一六	〇、〇〇〇七九	二二、六〇五	一、九三九	〇、〇〇二一三
七月	九一、一〇五	三三、八九三	一、〇六九	〇、〇〇一一七	二四、四七六	一、八七一	〇、〇〇二〇五
八月	九一、一〇五	三四、九〇八	一、〇一五	〇、〇〇一一一	二五、八二八	一、一五二	〇、〇〇一二六
九月	九一、一〇五	三六、一二九	一、二二一	〇、〇〇一三四	二七、〇四一	一、二一九	〇、〇〇一三四
十月	九一、一〇五	三七、六〇〇	一、四七一	〇、〇〇一六一	二七、九一八	八七七	〇、〇〇〇九六
十一月	九一、一〇五	三八、四七九	八七九	〇、〇〇〇九六	二八、七六九	八五一	〇、〇〇〇九三
十二月	九一、一〇五	三九、二八一	八〇二	〇、〇〇〇八八	二九、七五四	九八五	〇、〇〇一〇八

備考
一、大正四年七、八、九、十、十一、ノ增加率高キハ臨時水質檢查ノ結果上水道使用ヲ獎勵シタルニ依ル
一、大正三年三、四、五、六、七、八、九ノ增加率高キハ上長者町警察署部内ニ腸窒扶斯流行シタル爲メ同署部内ノ上水道使用ヲ獎勵シタルト松原警察署部内ノ貸座敷業者共同シテ上水道使用テ申込ミタル結果ニ依ル其割合ハ上長者町警察署部内約四千松原警察署部内約三千内外ナリトス
一、總戸數ハ大正二年十二月末現在ヲ採リタリ

（第三十五號表）　公衆衞生ニ關係アル者ノ使用水一覽表（市部）（大正四年十月調査）

營業別	川端 總數	川端 上水	川端 井水	中立賣 總數	中立賣 上水	中立賣 井水	上長者町 總數	上長者町 上水	上長者町 井水	松原 總數	松原 上水	松原 井水	堀川 總數	堀川 上水	堀川 井水	五條 總數	五條 上水	五條 井水	七條 總數	七條 上水	七條 井水
宿屋	三一〇	一五五	一五五	四三	三八	五	五三	四八	五	九七	八九	八	九四	九〇	四	一四二	一三二	一〇	一五九	九四	六五
料理屋	二四	一九	五	六一	五五	六	四八	四四	四	五二	四五	七	二〇	一八	二	九二	九〇	二	二六	一四	一二
飲食店	一四九	八九	六〇	一七六	一三五	四一	二一四	一六〇	五四	二一六	一七五	四一	一六五	一五一	一四	二〇九	二〇一	八	一五〇	六一	八九
飲食物販賣業	一〇九	四三	六六	一〇〇	四四	五六	二一二	一二九	八三	四八	二八	二〇	一三五	四八	八七	一四	九	五	|	|	|
貸座敷	|	|	|	|	|	|	一三〇	一二二	八	九四三	八六二	八一	九五	九五	|	一五三	一五〇	三	二二〇	八〇	一四〇
清涼飲料水製造業	一	|	|	四	四	|	三	三	|	五	五	|	六	六	|	一	一	|	|	|	|
氷雪販賣業	一一四	三八	七六	二八五	一七三	一一二	四三	二七	一六	七	二	五	一八	一一	七	一〇	七	三	一〇	五	五
牛乳營業	四五	二三	二二	四八	三六	一二	二九	二四	五	二三	一五	八	二四	一六	八	二九	一二	一四	一二	七	五
餅菓子饅頭製造業	六〇	四四	一六	八一	四七	三四	三四八	一六二	一八六	七二	四四	二八	二一四	七九	一三五	九六	五二	四四	三三	二〇	一三
鳥獸肉販賣業	一二	七	五	三〇	一六	一四	三三	二四	九	一二	六	六	二七	七	二〇	一〇	五	五	一九	二	一七
豆腐製造業	二一	一三	八	四一	二一	二〇	七二	三九	三三	五六	二七	二九	四二	一五	二七	三一	一五	一六	一九	五	一四
酒酢醬油業	一一三	四一	七一	一五〇	六〇	九〇	二九六	一四四	一五二	一八	一〇	八	一七六	六七	一〇九	一〇二	四六	五六	一〇四	一八	八六
青物商	七九	三三	四六	七八	三三	四五	一三四	六一	七三	一〇五	五七	四八	一〇七	三九	六八	四〇	二一	一九	五九	一四	四五
魚市場	|	|	|	一	一	|	|	|	|	九	七	二	|	|	|	六三	一九	四四	二	二	|
湯屋	二九	一〇	一九	三四	一八	一六	五二	四五	七	四五	三七	八	二六	一一	一五	二四	一〇	一四	二六	九	一七

劇場寄席興業場	一	一	｜	二	二	｜	一二	一一	一	二	一	一	六	一	五	一六	一五	一	二	三	｜
醫師歯科醫師藥劑師藥種商	七八	六一	一七	二五一	一六五	八六	一三一	九六	三五	九二	五二	四〇	九二	六六	二六	一二六	九四	三三	六九	二〇	四九
理髮業	八一	三八	四三	一〇二	六〇	四二	一三八	九八	四〇	九三	五三	四〇	二一四	九四	一二〇	八一	五二	二九	四〇	一七	二三
其他	｜	｜	｜	三一	一五	一六	｜	｜	｜	二	一	一	一六〇	八九	七一	｜	｜	｜	二〇	五	一五
合計	一、二二五	六一六	六〇九	一、五一八	九二三	五九五	一、九四八	一、二三七	七一一	一、八九七	一、五一六	三八一	一、六二二	九〇三	七一八	一、三三六	九三一	三〇五	九七〇	三七五	五九五

備考　本表ハ公衆衞生ニ關係アル主ナル者ノ使用水ヲ揭ケタルモノトス

（第三十六號表）

上水道水試驗成績表

採取場所	採取月日	試驗執行月日	外觀	臭味	反應	アンモニア	硬度	硫酸	亞硝酸	クロール	カマンガン酸カリユーム	固形物	備考
千本寺ノ内上ル 上田九次郎	九月十三日	九月十五日	清澄	異狀ナシ	微アルカリ性	檢出セス	微量	僅微	檢出セス	〇、四六〇八五	〇、一二六四	三、〇〇〇〇	十日前ヨリ毎朝溷濁
新町頭 近藤爲治	同	同	同	同	同	同	同	同	同	〇、四九六三〇	〇、〇九四八	五、二〇〇〇	二十日程以前終日微ニ褐色ナリシ由
寺町頭 森元太郎	同	同	同	同	同	同	同	同	同	〇、四二五四〇	〇、一五八〇	六、五〇〇〇	昨年ハ時々微ニ溷濁セシモ本年ハ異狀ナシ
河原町廣小路下ル 中村梅之助	同	同	同	同	同	同	同	同	同	〇、五三一七五	〇、一二六四	五、五〇〇〇	初メヨリ異狀ナシ
府細菌檢査所	同	同	同	同	同	同	同	同	同	〇、三五四五〇	〇、〇九四八	四、四〇〇〇	時トシテ微ニ白濁スル事アリ
西堀川丸太町 藤井捨吉	同	同	同	同	同	同	同	同	同	〇、五三一八五	〇、〇九四八	五、八五〇〇	晝夜放水ノ爲メ不明
川端丸太町 久保忍	同	同	同	同	同	同	同	同	同	〇、六三八一〇	〇、〇九四八	五、〇〇〇〇	水道課員放水ノ場合微ニ白濁シ全氣水出スルコトアリ
岡崎町御所ノ内 杉田はつ	同	同	同	同	同	同	同	同	同	〇、五三一八五	〇、〇九四八	四、〇〇〇〇	上水引用以來異狀ナシ
聖護院町中川原 染見辰之助	同	同	同	同	同	同	同	同	同	〇、六三八一五	〇、一二六四	四、三〇〇〇	同
大宮四條西入 服部松次郎	同	同	同	同	弱アルカリ性	同	同	同	同	〇、三五四五〇	〇、〇三一六	五、八五〇〇	同
四條新町 沿水豐吉	同	九月十三日	同	同	同	同	同	同	同	〇、三五四五〇	〇、〇七九〇	五、五〇〇〇	同
四條大橋西 淺井安次郎	同	同	同	同	同	同	同	同	同	〇、三五四五〇	〇、〇六三二	五、八〇五〇	通水以來別狀ナシ
東山通四條西 中島祥雲	同	同	同	同	同	同	同	同	同	〇、三五四五〇	〇、〇四七四	五、九〇〇〇	同
大内村字八條 中村安次郎	同	同	同	同	微アルカリ性	同	同	同	同	〇、五六七二〇	〇、一五八〇	五、八五〇〇	今春數回微ニ白濁セル事アリシ由
東洞院上珠數屋町 林房次	同	同	同	同	同	同	同	同	同	〇、五六七二〇	〇、一二六四	四、三〇〇〇	通水以來別狀ナシ
七條大和大路東 堀川千鶴枝	同	同	同	同	同	同	同	同	同	〇、六三八一〇	〇、〇九四八	六、一〇三〇	同
本町四丁目 山本房次郎	同	同	同	同	同	同	同	同	同	〇、五六七二〇	〇、〇九四八	四、三六〇〇	同

備考　一、本表ハ京都市上水道各方面ニ於ケル給水栓ヨリ採酌試驗セシモノトス

（第三十七號表）

京都市水道細菌學的試驗成績表　第一回

採取月日	天候	氣溫	培養着手時間	採酌場所	使用者職業別	水栓種別	種菌聚落數	細菌種類
四月二日	曇	三、三	十二時五分	上京區千本通下立賣上ル	雜穀商	專用栓	一七	二
同	同	同	十二時八分	同區今出川通六軒町西入	鷄肉商	專用栓	一八	二
同	同	同	十二時十分	同區淨福寺通上立賣上ル	織物商	專用栓	一七	三
同	同	同	十二時十二分	同區東堀川通元誓願寺上ル	仕立商	共用栓	一三	二
同	同	同	十二時十四分	同區大宮通筋違橋町	無職	共用栓	一二	三
同	同	三、三	十二時十七分	同區新町通寺ノ内上ル	餅饅頭商	專用栓	一五	二
同	同	同	十二時二十分	同區中立賣通烏丸西入	料理商	專用栓	一七	二
同	同	同	十二時二十三分	同區一條通大宮東入	麵類商	專用栓	一八	三
同	同	同	十二時二十七分	同區中立賣通淨福寺東入	呉服商	專用栓	二三	三
同	同	同	十二時三十分	同區猪熊通出水北入	無職	專用栓	二〇	三
同	同	同	十二時三十五分	同區新町通竹屋町上ル	料理商	專用栓	二一	三
四月七日	小雨	八、六	十一時二十分	同區西堀川通丸太町上ル	蔬類商	專用栓	二一	二
同	同	同	十一時二十三分	同區烏丸通姉小路角	蔬類商	專用栓	一九	一
同	同	同	十一時二十五分	同區三條通堀川西入	蔬類商	專用栓	一五	三

四月七日	小雨	八、五	十一時二十九分	上京區丸太町通大宮東入	土木手傳請負	専用栓	二六	四
同	同	同	十二時三十二分	同　區大宮通下立賣上ル	糸商	専用栓	二八	四
同	同	同	十一時三十八分	同　區上長者町通千本東入	料理商	専用栓	一三	二
同	同	同	十一時四十二分	同　區六軒町通中立賣下ル	貸物商	専用栓	二三	三
同	同	同	十一時四十八分	同　區下立賣通御前通西入	青物商	専用栓	三三	四
四月十一日	雨曇	二、七	十二時二十五分	同　區竹屋町通東洞院西入	貸本商	専用栓	一一	二
同	同	同	十二時二十八分	同　區姉小路東洞院西入	料理商	専用栓	一三	二
同	同	同	十二時三十分	同　區數屋町通御池下ル	無職	共用栓	一六	二
同	同	同	十二時三十三分	同　區木屋町通御池下ル	無職	専用栓	一三	二
同	同	同	十二時三十四分	同　區新高倉通仁王門東入	石工商	専用栓	一〇	二
同	同	二、六	十二時三十七分	同　區岡崎公園	茶店	専用栓	一一	二
同	同	同	十二時四十分	同　區岡崎廣道一三〇	饅頭商	専用栓	一五	三
同	同	同	十二時四十二分	同　區岡崎御所內	車帳場	専用栓	一三	二
同	同	二、七	十二時四十五分	同　區聖護院通片木原	旅人宿商	専用栓	一〇	二
同	同	同	十二時四十七分	同　區吉田町字近衞	無職	専用栓	一五	二
同	同	同	十二時四十九分	同　區近衞通川端東入	料理商	専用栓	一三	二
同	同	同	十二時五十二分	同　區荒神口通御幸橋南	料理商	専用栓	一一	二
四月十五日	曇晴	九、三	午前十一時	同　區東三本木通丸太上ル	西洋料理	専用栓	九	二
同	同	同	十一時三分	同　區出町通桝形下ル	金物商	専用栓	八	二
同	同	同	十一時五分	同　區寺町通今出上ル	荒物商	専用栓	八	二
同	同	同	十一時八分	同　區上御靈神社前	醫師	専用栓	二三	三
同	同	同	十一時十三分	同　區寺町通今出川西入	質物商	専用栓	一〇	二
同	同	九、四	十一時十五分	同　區上立賣通烏丸角	青物商	専用栓	二一	二
同	同	九、五	十一時二十分	同　區下立賣通千本東入	菓子商	専用栓	一一	二
同	同	同	十一時二十三分	同　區下立賣通小川東入	會社員	共用栓	六	二
同	同	九、六	十一時二十五分	同　區油小路通三條東入	鳥肉商	専用栓	七	二
同	同	同	十一時二十八分	下京區六角通室町東入	砥石商	専用栓	二〇	二
同	同	同	十一時三十分	同　區四條通高倉西入	餅商	専用栓	四七	六

四月二十日	曇晴	一三、四	十二時三十五分	同　區富小路通三條西入	理髮業	専用栓	九	二
同	同	同	十二時三十八分	同　區寺町通三條下ル	煮豆商	専用栓	二三	三
同	同	同	十二時四十一分	同　區先斗町三條下ル	袋物商	専用栓	二〇	二
同	同	同	十二時四十四分	同　區木屋町通四條上ル	麩類商	専用栓	一〇	二
同	同	同	十二時四十八分	同　區河原町通三條上ル	酒商	専用栓	二四	三
同	同	一三、五	十二時五十二分	同　區新京極蛸藥師下ル	スシ商	専用栓	二三	二
同	同	同	十二時五十五分	同　區寺町通四條上ル	靴商	専用栓	三三	三
同	同	同	十二時五十八分	同　區東木屋町通松原上ル	料理商	専用栓	三〇	三
同	同	同	午後一時	同　區松原通高倉西入	砂糖商	専用栓	二〇	二
同	同	一三、六	一時三分	同　區西高瀨川筋五條下ル	精肉商	専用栓	一八	二
同	同	同	一時五分	同　區新寺町通正面角	旅人宿	専用栓	二〇	二
同四月二十四日	晴曇	九、九	十二時四十五分	同　區七條通加茂川西入	麩類商	専用栓	三八	五
同	同	同	十二時四十八分	同　區七條通鞘町西入	料理商	専用栓	一一	二
同	同	同	十二時五十分	同　區本町通七町目	川魚商	専用栓	一六	二
同	同	同	十二時五十三分	同　區七條通本町東入	襤褸屑物商	専用栓	一七	二
同	同	同	十二時五十五分	同　區建仁寺町通五條下ル	鮮魚商	専用栓	一〇	二
同	同	九、八	十二時五十七分	同　區宮川町通五條上ル	貸座敷業	専用栓	六	二
同	同	同	十二時五十九分	同　區宮川町通二丁目	貸座敷業	専用栓	九	二
同	同	同	午後一時二分	同　區四條通大和大路東入	貸座敷業	専用栓	一一	二
同	同	同	一時五分	同　區小堀通四條上ル	スシ商	専用栓	二八	三
同	同	同	一時七分	同　區三條通白川橋筋	川魚商	専用栓	一三	二
同	同	同	一時十分	同　區三條通繩手下ル	料理商	専用栓	二四	三

（第二十八號表）　京都市水道水細菌學的試驗成績表　第二回

採取月日	天候	氣温	培養着手時間	採酌場所	使用者職業別	水栓種別	細菌聚落數	細菌種類
九月十四日	晴曇	二四、六	午前十一時五分	下京區四條通室町東入	麩類商	専用栓	二九	三
同	同	同	十一時十分	同　區錦小路通西洞院西入	料理商	専用栓	四一	三

九月十四日	晴曇	二四、六	十一時十三分	下京區四條通堀川東入	むこしや	商專用栓	二	一八	二	二	
同	同	同	十一時十五分	區佛光寺通新町角	鰻類	商專用栓	二	二七	二	二	
同	同	同	十一時十八分	區烏丸通松原上ル	西洋料理	商專用栓	二	一九	二	二	
同	同	同	十一時二十分	區五條通西洞院西入	料理	商專用栓	二	一八	二	二	
同	同	二四、五	十一時二十二分	區西六條通油小路上ル	旅人宿	商專用栓	二	二〇	二	二	
同	同	同	十一時二十五分	區七條通新町西入	疊	商專用栓	二	二三	二	二	
同	同	同	十一時二十八分	區七條通停車場前	旅人宿	商專用栓	二	二三	二	二	
九月十七日	曇	二三、三	十二時二十五分	區油小路通三哲角	鰻類	商專用栓	二	二三	二	二	
同	同	同	十二時二十八分	區油小路通八條上ル	鐘紡工場社宅	共用栓	二	二三	二	二	
同	同	同	十二時三十分	區大宮通八條上ル	米	商專用栓	二	二四	二	二	
同	同	同	十二時三十二分	區七條通大宮角	味噌	商專用栓	二	二二	二	二	
同	同	二三、四	十二時三十五分	區西新屋敷中ノ町	貸座敷	商專用栓	二	二五	二	二	
同	同	同	十二時三十七分	區大宮通花屋町西入	左官	商專用栓	二	二四	二	二	
同	同	同	十二時四十分	區大宮通五條上ル	鰻類	商專用栓	二	二七	二	二	
同	同	同	十二時四十三分	區大宮通佛光寺下ル	鰻類	商專用栓	二	二〇	二	二	
同	同	同	十二時四十五分	區四條通大宮西入	無職	專用栓	二	九	二	二	
同	同	二三、二	十二時四十八分	區三條通猪熊西入	蒲鉾	商專用栓	二	八	二	二	
同	同	同	十二時五十二分	上京區御池通大宮西入	會社員	專用栓	二	一六	二	二	
九月二十日	曇少雨	三、五	十一時三十五分	同區河原町通荒神口下ル	牛乳	商專用栓	二	一六	二	二	
同	同	同	十一時三十八分	愛宕郡田中村西川原	縮緬	商專用栓	二	八	二	二	
同	同	同	十一時四十三分	郡大宮村藤ノ森	靴	商專用栓	二	七	二	二	
同	同	同	十一時四十五分	上京區今出川通御前通東入	料理	商專用栓	二	一一	二	二	
同	同	同	十一時五十分	區今小路通大宮西入	青物	商專用栓	二	一〇	二	二	
同	同	二三、四	十一時五十五分	下京區本町通六丁目	酒屋	商專用栓	二	五	二	二	
同	同	二四、三	十二時十五分	區廣道通小倉町	鰻類	商專用栓	二	九	二	二	
同	同	同	十二時二十分	下京區三條通白川橋上ル	貸フトン	商共用栓	四二	三	二	二	
同	同	同	十二時二十三分	區南禪寺町高岸	仕出シ	商專用栓	二三	二	二	二	
同	同	二三、二	十二時二十五分	區岡崎町福之川	鰻類	商專用栓	二	七	二	二	

第二節　井水檢查ノ施行

同	同	同	十二時二十八分	區吉田町越前	鰻類	商專用栓	二	一三	二	二	
同	同	同	十二時三十分	區下立賣通衣棚西入	洋服	商專用栓	二	一四	二	二	
九月二十八日	曇雨晴	二八、二	十二時三十分	區三條通千本東入	氷	商專用栓	二	五	二	二	
同	同	二八、一	十二時三十二分	下京區四條通大宮西入	饅頭	商共用栓	六	二	二	二	
同	同	同	十二時三十五分	區東寺門前	傘	商共用栓	一五	二	二	二	
同	同	同	十二時三十七分	區油小路通三哲上ル	生魚	商專用栓	一九	二	二	二	
同	同	同	十二時三十九分	區油小路通木津屋橋上ル	青物仲買	專用栓	四三	二	二	二	
同	同	二八、六	十二時四十二分	區新町通五條下ル	藥種	商專用栓	三一	二	二	二	
同	同	同	十二時四十五分	同區油小路通蛸藥師角	染屋	商專用栓	一三	二	二	二	
同	同	二八、五	十二時四十七分	上京區御池通新ヶ町東入	大正寫眞通信部	共用栓	一五	二	二	二	
同	同	二四、一	十一時十分	區室町通下長者町角	牛乳	商專用栓	一三	二	二	二	
同	同	同	十一時十三分	同區三條通烏丸東入	スシ	商專用栓	三	二	二	二	
同	同	同	十一時十九分	下京區松原通室町東入	無	職專用栓	一九	四	二	二	
同	同	同	十一時二十二分	區松原通一貫町西入	靴	商共用栓	二	三	二	二	
同	同	二四、〇	十一時二十五分	區大宮通六角角	生魚	商專用栓	一九	四	二	二	
同	同	同	十一時三十分	上京區二條通堀川東入	煮物	商專用栓	二	二	二	二	
同	同	二三、九	十一時三十二分	區土屋町通丸太町上ル	ミカン水	商專用栓	一七	二	二	二	
同	同	同	十一時三十五分	京都府細菌檢查所	培養室用	專用枠	八	二	二	二	
同	同	同	十一時四十分	京都府細菌檢查所	消毒室用	專用栓	二	二	二	二	
同	同	同	十二時	上水道吸引約二時間前	濾過前ノモノ	湖水	七、五六八	七			

備考

上水道原水ノ細菌檢查ノ濾過池ニ於テ日々之ヲ施行シツヽアル筈ナルモ當府ハ別ニ其菌種菌數等ヲ調查スル必要アルヲ以テ之カ檢查ヲ試ミタルモノニシテ作業多數ナラスト雖モ原水ノ濾過前ニ於ケル細菌平均數ハ七、五六八、ニシテ之カ濾過供給セラルヽ實地則チ給水栓ヨリ採酌シタルモノハ僅ニ一五四四强ニ相當シ原水中ニ存在スル細菌ノ平均數ニ比較スレハ殆ント五十分ノ一ニ減少セルモノニシテ之ヲ細菌學的飲料水試驗ノ繩規ニ依リ判定スルニ本水ハ實ニ成績完全ナルモノト認メタリ

前節述フルカ如ク京都市ニ於ケル上水道使用ノ奨勵ニ付テハ大ニ努力スル所アリシト雖モ、尙其効果ノ充分ナラサルヘキヲ慮リ、一面廣ク井水ノ檢査ヲ施行シ之ニ依リテ水質ノ良否ヲ知ラシメ、同時ニ之ヲ改善スルノ必要ヲ會得セシメンコトヲ期シ、之レカ調査ヲ行ヒタルニ飲料井戸約四萬ケ所ノ檢査ヲ爲サハ大抵京都市ノ全部ニ普及スヘキ見込ナリシヲ以テ之ヲ實行スルニ決シ、尙隣接町村ニシテ大禮ニ密接ノ關係ヲ生スヘキ場所ヲモ併セテ檢査スルコト、シ其數約一萬ケ所ノ見込ヲ以テ實施方針ヲ決定シタリ、而シテ從來ニ於ケル井水檢査ハ化學的試驗ニ依リテ水質ノ良否ヲ判定スルニ過キサリシカ土地ノ盛衰氣候ノ變化其他種々ナル事情アリテ一定不變ノ成績ヲ持續スルコト至難ナルノミナラス就中構造ノ良否ハ四圍ノ關係ト相俟ツテ水質ノ變化ニ影響スルコト最モ密接ナルモノアレハ這回施行セントスル檢査ニハ單ニ水質ノ良否ノミニ止マラス井戸ノ構造、使用ノ區別、汲取方法、周圍ノ關係、井戸ノ深淺等ニ至ル迄詳細之ヲ調査シテ最モ的確ナル成績ヲ求メントシ臨時水質檢査員服務心得及水質檢査準備事項ヲ別記ノ如ク定メタリ、斯カル方針ナリシヲ以テ、之レカ檢査ニ當リテハ特ニ多大ノ手數ヲ要スルニ依リ之ヲ衞生組合ニ謀リシニ、同組合ニ於テハ大正四年五月十日ヲ期シ下京區高倉通六角下ル日彰尋常小學校ニ全市ノ幹事ヲ召集シ當府ノ指示セル事項ニ付滿場一致ノ決議ヲ爲シ、檢査場ノ設備ヲ始メトシ一般受驗者ニ對スル注意事項ノ普及、可檢水汲取及井戸ノ構造調査等ニ至ル迄少ナカラサル助力ヲ爲シ且ツ組合ノ經費八百圓內外ヲ支出セシ等其活動著シキモノアリキ、斯クテ同年五月十二日ヨリ之ニ着手シ八月二十七日ヲ以テ全市ノ檢査ヲ終了シタリ、之ト相前後シテ市部接續ノ町村ニ於ケル水質檢査ヲ開始セシカ、當該町村ニ於ケル衞生組合ハ市部組合ノ施設ニ倣ヒ、殆ント同一ノ方法ニ依リテ銳意檢査ノ實施ヲ幇助シ茲ニ左ノ如キ成績（第二十九號表ノ一、第二十九號表ノ二參照）ヲ得タリ。

臨時水質檢査員服務心得

第一條　臨時水質檢査ニ從事スル技術員ハ每日午前八時ヨリ午後四時迄其事務ニ從事スルモノトス但必要ニ應シ其時間ヲ延長スルコトアルヘシ

第二條　病氣其他ノ事故ニ依リ缺勤セントスルトキハ豫メ其事由ヲ屆出ツヘシ

第三條　檢査員ハ日誌ヲ備ヘ取扱ヒタル事項其他必要ノ事項ヲ記載スヘシ

第四條　水質檢査ノ成績ハ朷リニ漏洩スヘカラス

第五條　水質檢査ノ成績ハ第一號樣式ニ依リ調製シ一日分每ニ之ヲ假綴シ市部ハ一組郡部ハ一町村ノ檢査ヲ了ル每ニ第二號樣式ニ依リ編纂シ速ニ進達スヘシ

第六條　水質檢査上必要ノ器具、器械、藥品類ハ成ルヘク三日以前ニ請求スヘシ

第七條　水質檢査ハ技術員、書記雜役夫各二名ヲ以テ一組トシ一組ノ檢査數ヲ一日平均百五十種以上トス

第八條　水質檢査ハ左ノ標準ニ依ルモノトス

一、外　觀

清澄、微濁、沈澱、浮游物ノ區別又ハ其有無ノ程度ヲ鑑別ス

二、臭　味

異臭味ノ有無ヲ鑑別ス

三、反　應

可檢水約五〇、ccヲ試驗管ニ採リ「ロゾール酸」一滴ヲ加ヘ（微酸、酸、微「アルカリ」「アルカリ」中性ノ區別ヲ鑑別ス

四、「アムモニア」

可檢水約五〇、ccヲ試驗管ニ採リ之ニ「ネスレル」氏試藥約一、ccヲ加ヘ能ク混和シ呈色反應ヲ試ムヘシ而シテ變化ナキモノハ「ナシ」微カニ淡黃色ヲ呈スルノミナレハ「痕跡」夫レ以上ハ呈色程度ニヨリ「僅微」「微量」「少量」「多量」等ヲ鑑別ス

土類金屬含有ノ爲メ「ネスレル」氏試藥ノ反應ヲ妨クルモノハ可檢水五〇、ccヲ試驗管ニ採リ之ニ「ナトロン」溜液十滴、炭酸曹達液一、ccヲ加ヘ混和靜置シ上澄液約二五、ccヲ採リ前記方法ニ準シ之ヲ試驗ス

五、石　灰

檢水五〇、ccヲ試驗管ニ採リ之ニ「修酸アムモニウム」液一、cc反「アムモニア」水少許ヲ加フヘシ而シテ其沈澱物ノ生スル程度ニ依リ「多量」「少量」「微量」「僅微」「痕跡」等ヲ鑑別ス

六、硫　酸

可檢水約五〇、ccニ「クロールバリウム」液約一、ccヲ加フヘシ反應ナキトキハ「ナシ」トシ其他ハ前項ノ鑑別方法ニ同シ

七、硝　酸

「ザエフエニールアミン硫酸」液約一、ccヲ陶製蒸發皿ニ採リ之ニ可檢水十滴ヲ加ヘ呈色スルヤ否ヤヲ檢スヘシ而シテ其結果ニヨリ「ナシ」「痕跡」「微量」「著明」等ヲ鑑別ス

八、亞硝酸

第四編　衞生　第七章　飲料水ノ取締

可檢水約五〇、ccヲ採リ之ニ「ヨード亞鉛澱粉」液一、cc稀硫酸五滴ヲ加ヘ能ク混和シ五分時ノ後藍色ヲ呈スルヤ否ヤヲ檢スヘシ而シテ其結果ニ依ル鑑別方法ハ硝酸ニ同シ

九、「クロール」

可檢水一〇〇、ccヲ「ベツヘル」ニ採リ「クローム」酸カリ液三滴ヲ加ヘ絕エス振盪シツヽ白色沈澱ノ微カニ類黃色ヲ呈スルマテ「百分ノ一硝酸銀」溶液ヲ滴加シ茲ニ消費シタル「硝酸銀」液ノ比數ヲ別表ニ對照シ「クロール」量ヲ求ムヘシ

十、「過マンガン酸カリウム」消費量

可檢水一〇〇、ccヲ「エルレンマイエル」氏壜ニ採リ之ヲ「稀硫酸」五、cc及百分一定規「カメレオン」溶液三、ccヲ加ヘ煮沸スルコト五分時ニシテ其變化ノ有無ヲ檢スヘシ此際硅色又ハ黃褐色トナルモノハ限度以上トシ其他ハ限內トス

第九條　可檢水ノ採取方法ハ左記各號ニ據ルヘシ

一、容器幷詰栓ハ他物ニ汚染セラレサルモノヲ擇ヒ且ツ可檢水ヲ以テ充分ニ洗滌シタル後採取セシムルコト

二、採取シタル可檢水ハ立會警察官吏ニ於テ封印シ第三號樣式ノ目標ヲ附シ直ニ檢査場ニ送付セシムルコト

三、可檢水ニシテ濾過シタルモノナルトキハ其目標ニ濾過水ナルコトヲ明記スルコト

第十條　井戸ノ調査方法ハ左記各號ニ依ルヘシ

一、井戸ノ種類　普通堀井戸、堀拔井戸、打込井戸、又ハ其他ノ區別

二、使用區別　專用又ハ共用等ノ區別

三、井戸側ノ構造　打下シ、石垣又ハ其他ノ區別

四、井戸側構造ノ完否　完全又ハ不完全其他汚水滲入ノ有無等

五、井戸ノ深淺　地面ト井底ノ距離及水深等

六、汲取方法　喞筒、釣瓶、拇杓、鎖、棕櫚繩、藁繩等ノ區別

七、周圍ノ關係　汚水溜、汲込、排水溝、便所ノ距離又ハ構造ノ完否等

前項ノ調査ハ警察官吏之ヲ行ヒ第一號樣式ニ記入シ技術員ニ交付スルモノトス

（第二十九號表ノ二）　檢水十萬分中ノ「クロール」對照表

百分CC數一	對應クロール量	百分CC數一	對應クロール量	百分CC數一	對應クロール量	百分CC數一	對應クロール量	百分CC數一	對應クロール量
〇・〇	〇瓦〇	一・一	〇瓦四	二・二	〇瓦八	三・三	一瓦二	四・四	一瓦六
〇・〇一	〇瓦〇一	一・一一	〇瓦四一	二・二一	〇瓦八一	三・三一	一瓦二一	四・四一	一瓦六一
〇・〇二	〇瓦〇二	一・一二	〇瓦四二	二・二二	〇瓦八二	三・三二	一瓦二二	四・四二	一瓦六二
〇・〇三	〇瓦〇三	一・一三	〇瓦四三	二・二三	〇瓦八三	三・三三	一瓦二三	四・四三	一瓦六三
〇・〇四	〇瓦〇四	一・一四	〇瓦四四	二・二四	〇瓦八四	三・三四	一瓦二四	四・四四	一瓦六四
〇・〇五	〇瓦〇五	一・一五	〇瓦四五	二・二五	〇瓦八五	三・三五	一瓦二五	四・四五	一瓦六五
〇・〇六	〇瓦〇六	一・一六	〇瓦四六	二・二六	〇瓦八六	三・三六	一瓦二六	四・四六	一瓦六六
〇・〇七	〇瓦〇七	一・一七	〇瓦四七	二・二七	〇瓦八七	三・三七	一瓦二七	四・四七	一瓦六七
〇・〇八	〇瓦〇八	一・一八	〇瓦四八	二・二八	〇瓦八八	三・三八	一瓦二八	四・四八	一瓦六八
〇・〇九	〇瓦〇九	一・一九	〇瓦四九	二・二九	〇瓦八九	三・三九	一瓦二九	四・四九	一瓦六九
〇・一	〇瓦一	一・二	〇瓦五	二・三	〇瓦九	三・四	一瓦三	四・五	一瓦七
〇・一一	〇瓦一一	一・二一	〇瓦五一	二・三一	〇瓦九一	三・四一	一瓦三一	四・五一	一瓦七一
〇・一二	〇瓦一二	一・二二	〇瓦五二	二・三二	〇瓦九二	三・四二	一瓦三二	四・五二	一瓦七二
〇・一三	〇瓦一三	一・二三	〇瓦五三	二・三三	〇瓦九三	三・四三	一瓦三三	四・五三	一瓦七三
〇・一四	〇瓦一四	一・二四	〇瓦五四	二・三四	〇瓦九四	三・四四	一瓦三四	四・五四	一瓦七四
〇・一五	〇瓦一五	一・二五	〇瓦五五	二・三五	〇瓦九五	三・四五	一瓦三五	四・五五	一瓦七五
〇・一六	〇瓦一六	一・二六	〇瓦五六	二・三六	〇瓦九六	三・四六	一瓦三六	四・五六	一瓦七六
〇・一七	〇瓦一七	一・二七	〇瓦五七	二・三七	〇瓦九七	三・四七	一瓦三七	四・五七	一瓦七七
〇・一八	〇瓦一八	一・二八	〇瓦五八	二・三八	〇瓦九八	三・四八	一瓦三八	四・五八	一瓦七八
〇・一九	〇瓦一九	一・二九	〇瓦五九	二・三九	〇瓦九九	三・四九	一瓦三九	四・五九	一瓦七九
〇・二	〇瓦二	一・三	〇瓦六	二・四	一瓦〇	三・五	一瓦四	四・六	一瓦八
〇・二一	〇瓦二一	一・三一	〇瓦六一	二・四一	一瓦〇一	三・五一	一瓦四一	四・六一	一瓦八一
〇・二二	〇瓦二二	一・三二	〇瓦六二	二・四二	一瓦〇二	三・五二	一瓦四二	四・六二	一瓦八二
〇・二三	〇瓦二三	一・三三	〇瓦六三	二・四三	一瓦〇三	三・五三	一瓦四三	四・六三	一瓦八三
〇・二四	〇瓦二四	一・三四	〇瓦六四	二・四四	一瓦〇四	三・五四	一瓦四四	四・六四	一瓦八四
〇・二五	〇瓦二五	一・三五	〇瓦六五	二・四五	一瓦〇五	三・五五	一瓦四五	四・六五	一瓦八五
〇・二六	〇瓦二六	一・三六	〇瓦六六	二・四六	一瓦〇六	三・五六	一瓦四六	四・六六	一瓦八六
〇・二七	〇瓦二七	一・三七	〇瓦六七	二・四七	一瓦〇七	三・五七	一瓦四七	四・六七	一瓦八七
〇・二八	〇瓦二八	一・三八	〇瓦六八	二・四八	一瓦〇八	三・五八	一瓦四八	四・六八	一瓦八八
〇・二九	〇瓦二九	一・三九	〇瓦六九	二・四九	一瓦〇九	三・五九	一瓦四九	四・六九	一瓦八九
〇・三	〇瓦三	一・四	〇瓦七	二・五	一瓦一	三・六	一瓦五	四・七	一瓦九
〇・三一	〇瓦三一	一・四一	〇瓦七一	二・五一	一瓦一一	三・六一	一瓦五一	四・七一	一瓦九一
〇・三二	〇瓦三二	一・四二	〇瓦七二	二・五二	一瓦一二	三・六二	一瓦五二	四・七二	一瓦九二
〇・三三	〇瓦三三	一・四三	〇瓦七三	二・五三	一瓦一三	三・六三	一瓦五三	四・七三	一瓦九三
〇・三四	〇瓦三四	一・四四	〇瓦七四	二・五四	一瓦一四	三・六四	一瓦五四	四・七四	一瓦九四
〇・三五	〇瓦三五	一・四五	〇瓦七五	二・五五	一瓦一五	三・六五	一瓦五五	四・七五	一瓦九五
〇・三六	〇瓦三六	一・四六	〇瓦七六	二・五六	一瓦一六	三・六六	一瓦五六	四・七六	一瓦九六
〇・三七	〇瓦三七	一・四七	〇瓦七七	二・五七	一瓦一七	三・六七	一瓦五七	四・七七	一瓦九七
〇・三八	〇瓦三八	一・四八	〇瓦七八	二・五八	一瓦一八	三・六八	一瓦五八	四・七八	一瓦九八
〇・三九	〇瓦三九	一・四九	〇瓦七九	二・五九	一瓦一九	三・六九	一瓦五九	四・七九	一瓦九九
〇・四	〇瓦四	一・五	〇瓦八	二・六	一瓦二	三・七	一瓦六	四・八	二瓦〇
〇・四一	〇瓦四一	一・五一	〇瓦八一	二・六一	一瓦二一	三・七一	一瓦六一	四・八一	二瓦〇一
〇・四二	〇瓦四二	一・五二	〇瓦八二	二・六二	一瓦二二	三・七二	一瓦六二	四・八二	二瓦〇二
〇・四三	〇瓦四三	一・五三	〇瓦八三	二・六三	一瓦二三	三・七三	一瓦六三	四・八三	二瓦〇三
〇・四四	〇瓦四四	一・五四	〇瓦八四	二・六四	一瓦二四	三・七四	一瓦六四	四・八四	二瓦〇四
〇・四五	〇瓦四五	一・五五	〇瓦八五	二・六五	一瓦二五	三・七五	一瓦六五	四・八五	二瓦〇五
〇・四六	〇瓦四六	一・五六	〇瓦八六	二・六六	一瓦二六	三・七六	一瓦六六	四・八六	二瓦〇六
〇・四七	〇瓦四七	一・五七	〇瓦八七	二・六七	一瓦二七	三・七七	一瓦六七	四・八七	二瓦〇七
〇・四八	〇瓦四八	一・五八	〇瓦八八	二・六八	一瓦二八	三・七八	一瓦六八	四・八八	二瓦〇八
〇・四九	〇瓦四九	一・五九	〇瓦八九	二・六九	一瓦二九	三・七九	一瓦六九	四・八九	二瓦〇九
〇・五	〇瓦五	一・六	〇瓦九	二・七	一瓦三	三・八	一瓦七	四・九	二瓦一
〇・五一	〇瓦五一	一・六一	〇瓦九一	二・七一	一瓦三一	三・八一	一瓦七一	四・九一	二瓦一一
〇・五二	〇瓦五二	一・六二	〇瓦九二	二・七二	一瓦三二	三・八二	一瓦七二	四・九二	二瓦一二
〇・五三	〇瓦五三	一・六三	〇瓦九三	二・七三	一瓦三三	三・八三	一瓦七三	四・九三	二瓦一三
〇・五四	〇瓦五四	一・六四	〇瓦九四	二・七四	一瓦三四	三・八四	一瓦七四	四・九四	二瓦一四
〇・五五	〇瓦五五	一・六五	〇瓦九五	二・七五	一瓦三五	三・八五	一瓦七五	四・九五	二瓦一五
〇・五六	〇瓦五六	一・六六	〇瓦九六	二・七六	一瓦三六	三・八六	一瓦七六	四・九六	二瓦一六
〇・五七	〇瓦五七	一・六七	〇瓦九七	二・七七	一瓦三七	三・八七	一瓦七七	四・九七	二瓦一七
〇・五八	〇瓦五八	一・六八	〇瓦九八	二・七八	一瓦三八	三・八八	一瓦七八	四・九八	二瓦一八
〇・五九	〇瓦五九	一・六九	〇瓦九九	二・七九	一瓦三九	三・八九	一瓦七九	四・九九	二瓦一九
〇・六	〇瓦六	一・七	一瓦〇	二・八	一瓦四	三・九	一瓦八	五・〇	二瓦二
〇・六一	〇瓦六一	一・七一	一瓦〇一	二・八一	一瓦四一	三・九一	一瓦八一	五・〇一	二瓦二一
〇・六二	〇瓦六二	一・七二	一瓦〇二	二・八二	一瓦四二	三・九二	一瓦八二	五・〇二	二瓦二二
〇・六三	〇瓦六三	一・七三	一瓦〇三	二・八三	一瓦四三	三・九三	一瓦八三	五・〇三	二瓦二三
〇・六四	〇瓦六四	一・七四	一瓦〇四	二・八四	一瓦四四	三・九四	一瓦八四	五・〇四	二瓦二四
〇・六五	〇瓦六五	一・七五	一瓦〇五	二・八五	一瓦四五	三・九五	一瓦八五	五・〇五	二瓦二五
〇・六六	〇瓦六六	一・七六	一瓦〇六	二・八六	一瓦四六	三・九六	一瓦八六	五・〇六	二瓦二六
〇・六七	〇瓦六七	一・七七	一瓦〇七	二・八七	一瓦四七	三・九七	一瓦八七	五・〇七	二瓦二七
〇・六八	〇瓦六八	一・七八	一瓦〇八	二・八八	一瓦四八	三・九八	一瓦八八	五・〇八	二瓦二八
〇・六九	〇瓦六九	一・七九	一瓦〇九	二・八九	一瓦四九	三・九九	一瓦八九	五・〇九	二瓦二九
〇・七	〇瓦七	一・八	一瓦一	二・九	一瓦五	四・〇	一瓦九	五・一	二瓦三
〇・七一	〇瓦七一	一・八一	一瓦一一	二・九一	一瓦五一	四・〇一	一瓦九一	五・一一	二瓦三一
〇・七二	〇瓦七二	一・八二	一瓦一二	二・九二	一瓦五二	四・〇二	一瓦九二	五・一二	二瓦三二
〇・七三	〇瓦七三	一・八三	一瓦一三	二・九三	一瓦五三	四・〇三	一瓦九三	五・一三	二瓦三三
〇・七四	〇瓦七四	一・八四	一瓦一四	二・九四	一瓦五四	四・〇四	一瓦九四	五・一四	二瓦三四
〇・七五	〇瓦七五	一・八五	一瓦一五	二・九五	一瓦五五	四・〇五	一瓦九五	五・一五	二瓦三五
〇・七六	〇瓦七六	一・八六	一瓦一六	二・九六	一瓦五六	四・〇六	一瓦九六	五・一六	二瓦三六
〇・七七	〇瓦七七	一・八七	一瓦一七	二・九七	一瓦五七	四・〇七	一瓦九七	五・一七	二瓦三七
〇・七八	〇瓦七八	一・八八	一瓦一八	二・九八	一瓦五八	四・〇八	一瓦九八	五・一八	二瓦三八
〇・七九	〇瓦七九	一・八九	一瓦一九	二・九九	一瓦五九	四・〇九	一瓦九九	五・一九	二瓦三九
〇・八	〇瓦八	一・九	一瓦二	三・〇	一瓦六	四・一	二瓦〇	五・二	二瓦四
〇・八一	〇瓦八一	一・九一	一瓦二一	三・〇一	一瓦六一	四・一一	二瓦〇一	五・二一	二瓦四一
〇・八二	〇瓦八二	一・九二	一瓦二二	三・〇二	一瓦六二	四・一二	二瓦〇二	五・二二	二瓦四二
〇・八三	〇瓦八三	一・九三	一瓦二三	三・〇三	一瓦六三	四・一三	二瓦〇三	五・二三	二瓦四三
〇・八四	〇瓦八四	一・九四	一瓦二四	三・〇四	一瓦六四	四・一四	二瓦〇四	五・二四	二瓦四四
〇・八五	〇瓦八五	一・九五	一瓦二五	三・〇五	一瓦六五	四・一五	二瓦〇五	五・二五	二瓦四五
〇・八六	〇瓦八六	一・九六	一瓦二六	三・〇六	一瓦六六	四・一六	二瓦〇六	五・二六	二瓦四六
〇・八七	〇瓦八七	一・九七	一瓦二七	三・〇七	一瓦六七	四・一七	二瓦〇七	五・二七	二瓦四七
〇・八八	〇瓦八八	一・九八	一瓦二八	三・〇八	一瓦六八	四・一八	二瓦〇八	五・二八	二瓦四八
〇・八九	〇瓦八九	一・九九	一瓦二九	三・〇九	一瓦六九	四・一九	二瓦〇九	五・二九	二瓦四九
〇・九	〇瓦九	二・〇	一瓦三	三・一	一瓦七	四・二	二瓦一	五・三	二瓦五
〇・九一	〇瓦九一	二・〇一	一瓦三一	三・一一	一瓦七一	四・二一	二瓦一一	五・三一	二瓦五一
〇・九二	〇瓦九二	二・〇二	一瓦三二	三・一二	一瓦七二	四・二二	二瓦一二	五・三二	二瓦五二
〇・九三	〇瓦九三	二・〇三	一瓦三三	三・一三	一瓦七三	四・二三	二瓦一三	五・三三	二瓦五三
〇・九四	〇瓦九四	二・〇四	一瓦三四	三・一四	一瓦七四	四・二四	二瓦一四	五・三四	二瓦五四
〇・九五	〇瓦九五	二・〇五	一瓦三五	三・一五	一瓦七五	四・二五	二瓦一五	五・三五	二瓦五五
〇・九六	〇瓦九六	二・〇六	一瓦三六	三・一六	一瓦七六	四・二六	二瓦一六	五・三六	二瓦五六
〇・九七	〇瓦九七	二・〇七	一瓦三七	三・一七	一瓦七七	四・二七	二瓦一七	五・三七	二瓦五七
〇・九八	〇瓦九八	二・〇八	一瓦三八	三・一八	一瓦七八	四・二八	二瓦一八	五・三八	二瓦五八
〇・九九	〇瓦九九	二・〇九	一瓦三九	三・一九	一瓦七九	四・二九	二瓦一九	五・三九	二瓦五九
一・〇	一瓦〇	二・一	一瓦四	三・二	一瓦八	四・三	二瓦二	五・四	二瓦六
一・〇一	一瓦〇一	二・一一	一瓦四一	三・二一	一瓦八一	四・三一	二瓦二一	五・四一	二瓦六一
一・〇二	一瓦〇二	二・一二	一瓦四二	三・二二	一瓦八二	四・三二	二瓦二二	五・四二	二瓦六二
一・〇三	一瓦〇三	二・一三	一瓦四三	三・二三	一瓦八三	四・三三	二瓦二三	五・四三	二瓦六三
一・〇四	一瓦〇四	二・一四	一瓦四四	三・二四	一瓦八四	四・三四	二瓦二四	五・四四	二瓦六四
一・〇五	一瓦〇五	二・一五	一瓦四五	三・二五	一瓦八五	四・三五	二瓦二五	五・四五	二瓦六五
一・〇六	一瓦〇六	二・一六	一瓦四六	三・二六	一瓦八六	四・三六	二瓦二六	五・四六	二瓦六六
一・〇七	一瓦〇七	二・一七	一瓦四七	三・二七	一瓦八七	四・三七	二瓦二七	五・四七	二瓦六七
一・〇八	一瓦〇八	二・一八	一瓦四八	三・二八	一瓦八八	四・三八	二瓦二八	五・四八	二瓦六八
一・〇九	一瓦〇九	二・一九	一瓦四九	三・二九	一瓦八九	四・三九	二瓦二九	五・四九	二瓦六九
一・一	一瓦一	二・二	一瓦五	三・三	一瓦九	四・四	二瓦三	五・五	二瓦七
一・一一	一瓦一一	二・二一	一瓦五一	三・三一	一瓦九一	四・四一	二瓦三一	五・五一	二瓦七一
一・一二	一瓦一二	二・二二	一瓦五二	三・三二	一瓦九二	四・四二	二瓦三二	五・五二	二瓦七二
一・一三	一瓦一三	二・二三	一瓦五三	三・三三	一瓦九三	四・四三	二瓦三三	五・五三	二瓦七三
一・一四	一瓦一四	二・二四	一瓦五四	三・三四	一瓦九四	四・四四	二瓦三四	五・五四	二瓦七四
一・一五	一瓦一五	二・二五	一瓦五五	三・三五	一瓦九五	四・四五	二瓦三五	五・五五	二瓦七五
一・一六	一瓦一六	二・二六	一瓦五六	三・三六	一瓦九六	四・四六	二瓦三六	五・五六	二瓦七六
一・一七	一瓦一七	二・二七	一瓦五七	三・三七	一瓦九七	四・四七	二瓦三七	五・五七	二瓦七七
一・一八	一瓦一八	二・二八	一瓦五八	三・三八	一瓦九八	四・四八	二瓦三八	五・五八	二瓦七八
一・一九	一瓦一九	二・二九	一瓦五九	三・三九	一瓦九九	四・四九	二瓦三九	五・五九	二瓦七九

一　檢查場ハ左記各號ニ依リ設備スルコト

（イ）室ハ成ルヘク土間トナルコト

（ロ）使用水ノ採酌ニ不便ナラサルコト

（ハ）可檢水ノ蒐集ニ便利ナルコト

（ニ）面積六坪以上ナルコト

（ホ）左ノ器具類ヲ準備スルコト

卓子、椅子各五脚
硯箱二個（附屬品共）
火鉢一個（約二尺角以上ノモノ）
桶又ハ壺ノ類一個（清水容器）
「バケツ」又ハ桶ノ類三個（試驗管洗濯用）

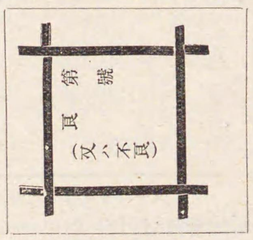
二　水分ニ堪ヘル左記雛形ノ紙札若干ヲ準備スルコト

針金

大正四年	月	日採酌
井戸ノ所在		
	氏	名
愛檢者住所		

縱　四寸内外
幅　一寸五分内外

三　成績ヲ標示スル爲メ左記雛形ノ厚紙札若干ヲ準備スルコト、但成績記入ノ上ハ衛生組合ニ於テ愛檢者ノ門戶其他適當ノ場所ニ掲示スルモノトス



縱橫各三寸二分

四　書記、雇役夫各一名ヲ備ヘ入ルヽコト

五　水質檢查施行區域ノ住民ニ豫メ其旨ヲ告知シ相當準備ヲ爲サシムルコト

六　汲取方法ハ左記各號ニ依ラシムルコト

（イ）容器及詰栓ハ可檢水ニヲ再三洗滌シタル後採酌セシムルコト

（ロ）採酌シタル可檢水ハ立會警察官吏之ニ封印シ所定事項ヲ記載シタル紙札ヲ附シ愛檢者ヲシテ檢查場ニ送致セシムルコト但可檢水ノ送致ハ成ルヘク力ナラシムルヲ要ス

七　衛生組合ハ左記事項ニ付遺憾ノ無キ方ヲ爲スコト

（イ）水質檢查準備上愛檢者ニ對シ指示其他必要ノ注意ヲ促スコト

（ロ）檢查場ノ設備井其ノ繩ニ關シ適當ノ方法ヲ講スルコト

（ハ）可檢水ノ採酌ニ際シ警察官吏ノ施行スル井戸ノ調查ヲ援助スルコト

（參考）

井戸ノ調查事項ハ概ネ左ノ如シ

注、井戸周圍ノ關係等

井戸ノ種類、使用ノ區別、井戸側ノ構造及其否、井戸ノ深淺、汲取方法

（第三十九號表ノ二）　水質檢査成績表

市町村名	全戸數	井水使用戸數	檢査數	内譯 良	内譯 不良	檢水百ニ對スル不良數
京都市	九二、四〇九	五七、五六八	三九、七八六	二三、八五六	一五、九三〇	四、〇〇四
紀伊郡伏見町	五、四三三	五、四三三	二、五九四	一、〇九五	一、四九九	五七、七九
紀伊郡柳原町	一、七五六	一、六五〇	五六九	三二〇	二四九	四二、七六
紀伊郡堀内村	四四〇	四四〇	一八六	九三	九三	五〇、〇〇
紀伊郡深草村	二、三六一	二、三六一	一、三一三	二八三	一、〇三〇	七八、四四
紀伊郡東九條村	一、三〇〇	一、三〇〇	六八六	二七一	四一五	六〇、六四
愛宕郡下鴨村	六七三	六七三	四七〇	四二七	四三	九、一五
愛宕郡田中村	一、四四六	一、四四三	八七九	七六一	一一八	一五、七〇
愛宕郡上加茂村	六九六	六九六	四八二	一二三	三五九	七四、四八
愛宕郡大宮村	二、〇一五	一、八五一	一、〇六六	三七一	六九五	六五、二〇
葛野郡梅ヶ畑村	一二〇	一〇	六	五	一	一六、六七
葛野郡花園村	一六二	一六二	四七	一〇	三七	七〇、八六
葛野郡嵯峨村	七二二	七二二	五四六	三七一	一七五	三三、二〇
葛野郡朱雀野村字壬生	一、六四九	一、六四九	八〇〇	一二五	六七五	八四、三八
葛野郡朱雀野村字聚樂廻	二、八六二	二、四三八	一、一〇七	六五	一、〇四二	九二、一三
葛野郡衣笠村	六六〇	五五八	四三七	二八六	一五一	三四、五五
葛野郡大内村	二、五〇二	二、三八三	七四一	四三〇	三一一	四一、九七
北桑田郡周山村	四、一〇八	一、一五七	四七九	三五五	一二四	二五、八九
久世郡宇治町	九七一	九七一	四二一	二〇二	二一九	五二、〇二
綴喜郡八幡町	一、二九九	七八二	七九四	五六五	二二九	二七、五六
合計	一二四、〇八三	八四、二四七	五三、四〇九	三〇、〇一四	二三、三九五	四三、八〇

備考　本表ハ大禮準備上實施シタル水質檢査成績ニシテ市郡ニ於テハ水道水使用者ヲ除ク全部ニ渉リ郡部ニ於テハ御道筋ニ關係アルカ又ハ市ニ接續シ若クハ大禮御用ヲ命セラレタル町村中特ニ必要ト認メタル箇所ニ對シ施行シタルモノトス

第八章　清潔保持

第一節　一般清潔保持

一般ニ清潔方法ノ持續セラルヽト否ラサルトハ保健防疫ノ上ニ於テ著シキ軒輊ヲ生スルコト論ヲ俟タス、然リト雖モ一齊ニ能ク該主旨ヲ徹底シ且ツ之ヲ實行セシムルハ頗ル至難ノコトニ屬ス、故ニ當府ニ於テハ大正元年秋冬ノ頃ヨリシテ特別ノ手段ヲ講シ住民ヲシテ慣習的ニ掃除ヲ勵行スルノ良風ニ馴レシメンコトヲ期シ通常清潔方法ノ施行ニ當リテハ豫メ實施ノ方針ヲ示シ其檢査ヲ行フニ際シ清潔持續ノ必要ヲ洩ナク各戸ニ諭示セシメ尚其實行ヲ監視スル爲メ或ハ衛生組合ノ視察又ハ警察官吏ノ施行スル戸口調査等ヲ利用シテ專ラ其向上ニ力ヲ注ケリ、大正四年六月大禮ヲ迎フル準備トシテ府下ノ全般ニ渉リ特別大清潔方法ヲ實施セントシ別記ノ如ク府令第三十五號（別記參照）ヲ以テ府民ニ之カ施行ヲ命シ之ト同時ニ凡テノ衛生機關ニ命シ其方針ヲ訓令（訓令第二〇號參照）シ特ニ掃除ノ普及ヲ監視セシムルコト、爲セリ、斯クテ其成績ハ漸次見ルヘキモノアルニ至リシト雖モ何レノ地方ニアリテモ少數ノ不履行者アルヲ免レス就中市街地ニ在リテハ之等一部ノ不履行者ニ依リテ全町ノ清潔ヲ汚サルヽ如キ事實アリ、例セハ街路撒水ノ如キ一二ノ不履行者アラハ遂ニ其效果ヲ完フスルコト能ハス故ニ其甚シキモノニ對シテハ時ニハ之ニ刑罰ヲ科シ以テ一般ニ警告スル等種々ナル手段ヲ施シテ益々奬勵スル所アリシカ後ニハ町民規約ヲ作リ撒水掃除ノ木札ヲ製シ順次之ヲ回送シ一齊ニ清潔方法ヲ實施スル等特ニ賞揚スヘキモノ續出シ、大禮御擧行ノ間際ニ至リテハ關係地域ノ全部ニ渉リ最モ能ク履行セラレ稀ニ見ル成績ヲ得タリ。

叙上ノ外京都市ニ於テハ市内ノ清潔保持ヲシテ益々的確ナラシムル爲メ塵芥採取勵行費六千六百圓ノ追加ヲ決議シ以テ臨時人夫ヲ使役シ得ルノ方法ヲ講シ且ツ塵芥採取度數從來一ケ月中六回ナリシヲ更ニ七回以上ニ改メ假置場ヲ增置シテ汚物ノ處分ヲ敏活ナラシメタリ、又公設便所ノ整理ヲ爲シ三十七ケ所ヲ改築シ七十五ケ所ニ修繕ヲ加ヘ比較的必要ナラサルモノヲ撤去シ點燈設備ヲ完全ナラシメ以テ市街ノ體裁ト衛生上ノ障害ヲ未發ニ防クニ力メタリ、而シテ之ニ要セシ實費ハ一萬九千六百五拾圓五拾參錢ナリトス、公共便所ノ改築修理ヲ了リタル後ニ於ケル汲取及其掃除ハ毎日一回之ヲ施行シ臨時汲取ノ方法ヲ設ケ且ツ其實施ヲ監督スル爲メ二名ノ巡視ヲ專屬セシメ自轉車ヲ利用シテ毎日二回以上巡視セシメ頗ル良好ノ結果（第四十號表參照）ヲ得タリ。

京都府令第三十五號
傳染病豫防ノ爲メ市町村ニ於テハ來ル七月一日ヨリ八月二十日迄ノ期間ニ通常清潔方法ヲ施行スヘシ
大正四年六月二十二日　京都府知事　大森鍾一

京都府訓令第二十號
郡役所
警察署
市役所
町村役場
傳染病豫防ノ爲メ本日府令第三十五號ヲ以テ通常清潔方法施行ノ件發令セシニ付テハ相互充分ニ協議ヲ遂ケ左記事項ヲ勵行シ實施上遺憾ナキヲ期スヘシ
大正四年六月二十二日　京都府知事　大森鍾一

注意事項

一、郡市長ハ日割ヲ定メ着手五日前迄ニ施行ノ日時及場所、終了後ハ十日以内ニ其成績ヲ報告スルコト。

二、今回ノ清潔方法ハ　大禮準備中保健并ニ防疫ニ關シ最モ重大ナル施設ナレハ時ニ綿密ナル注意ヲ拂ヒ掃除ノ普及汚物ノ搬出等一層其周到ヲ圖ルコト。

三、清潔方法ノ施行ハ豫メ期間ヲ定メ成ルヘク一齊ニ着手セシムルコト。

四、疊其他敷物類ノ打掃等特ニ塵埃ヲ飛散スル掃除ハ成ルヘク一定時ニ實施セシムルコト

五、清潔方法施行ノ時期ヲ殊更夏期ニ定メタルハ日光應用ノ目的ナレハ天候ノ如何ニ重キヲ置キ實施セシムヘキハ勿論成ルヘク長ク家屋内及物品ヲ乾燥セシムルコト。

六、清潔方法實施後ニ於テハ引續キ其狀態ヲ持續セシムル樣適切ノ方法ヲ講スルコト

七、空屋ノ清潔方法ハ指定當日家主又ハ管理人ニ命シ施行セシムルコト。

八、衛生組合ヲシテ豫メ實施ノ方針ヲ組合ニ周知セシメ掃除ノ普及并ニ施行後ニ於ケル清潔保持ニ力メシムルコト。

施設事項

一、着手ノ初メニ於テ洩ナク建具ヲ開放シ空氣ノ流通ヲ充分ナラシムルコト。

二、常用ノ衣類、寢具、座布團、疊其他ノ敷物、雜具、履物類ニ至ル迄凡テ屋外ニ搬出シ反覆日光ニ曝サシムルコト。

三、家屋ノ内外ヲ周ネク掃除シ就中寢所、臺所、內庭廻リ、流シ下、下水溝、便所、塵芥溜等ハ特ニ叮嚀ニ掃除セシムルコト。

四、邸宅内昇濕ノ個所ハ土砂ヲ塡充シ充分乾燥セシムルコト。

五、汚物類ハ速ニ無害ノ場所ヘ搬出セシムルコト。

六、汚物掃除法ヲ實施セル地域ニ於テハ採取ニ便利ナラシムル爲メ汚物類ヲ箱又ハ俵等ニ容レ置カシムルコト。

七、多數ノ斃鼠ヲ發見シタルトキハ一時其部分ノ掃除ヲ中止シ速ニ當該吏員ニ申告セシムルコト。

(第四十號表)　汚物掃除成績表　(市部)

大正四年大禮期間中	掃除管區内 戸數	掃除監視吏員 定員	掃除監視吏員 現員	掃除人夫 延數	塵芥搬出量 重量	塵芥搬出量 容量	汚泥搬出量 重量	汚泥搬出量 容量
四月	九二、二五六戸	五二人	五一	三、八九九	七五〇、四八〇貫	三三七、七一六立方尺	二七〇、八八〇貫	三〇、四七四立方尺
五月	九二、二五六戸	五二人	五一	三、〇〇八 *三、七四三	八六二、四〇〇貫	三八八、〇八〇立方尺	*一五八〇、〇〇〇貫	*一七八、七九〇立方尺
六月	九二、二五六戸	五二人	五二	二、九一九 *五、三四六	八五五、九二〇貫	三八五、一六四立方尺	*二〇九二、五六〇貫	*二四八、八〇五立方尺
七月	九二、二五六戸	五二人	五二	三、七三一 *三、八九一三分五厘	一、四七九、六〇〇貫	六五五、八二〇立方尺	*一、四五八、五六〇貫	*一六四、〇八八立方尺
八月	九三、七五〇戸	五二人	五二	三、〇七四 *二、五七七九分	一、〇二六、七二〇貫	四六二、〇二四立方尺	*九六四、七二〇貫	*一〇八、八九一立方尺
九月	九三、七五〇戸	五二人	五二	三、二三九 *一、四四五	九四五、四四〇貫	四〇二、三四四立方尺	*四二〇、八八〇貫	*四七、三四九立方尺
十月	九三、七五〇戸	五二人	五一	三、二五二 *一、九三五五分	九七六、五六〇貫	四三九、四五二立方尺	*四七九、五二〇貫	五三、九四六立方尺
十一月	九三、七五〇戸	五二人	五一	三、九八四 *七三一	一、一三九、七六〇貫 七、七七〇	五二二、六九二立方尺 *三、八八五	*一三七、一二〇貫	一五、四二六立方尺
合計	七四四、〇二四戸	四一六人	四一二	二七、〇九六 *一九、六六九七分五厘	八、〇三六、八八〇貫 *七、七七〇	三、五八三、四二〇立方尺 *三、八八五	二七〇、八八〇貫 *七、一三三、三六〇	三〇、四七四立方尺 *八一七、二九五

月	塵芥燒却場 總數	塵芥假置場 總數	公共便所 總數	公共假設便所 總數	施行規則第二十一條ニ基キ土地ノ占有者ヲシテ處分セシメタルモノ 總數	掃除ニ關スル費用 總額
四月	二	六	一四四ヶ所	—	一三	四、一六七、六八〇厘
五月	二	六	一五六ヶ所	—	一三	六、一四五、〇九〇厘 *四、五二〇、四四〇
六月	二	一〇	一五八ヶ所	—	一三	六、三二三、七五〇厘 *八、四六一、五一〇
七月	二	一〇	一五八ヶ所	—	一三	四、七七四、九四〇厘 *四、八九八、〇三〇
八月	二	一〇	一五五ヶ所	—	一三	四、九六四、五七〇厘 *七、四八五、三一〇
九月	二	一〇	一三一ヶ所	—	一三	四、六八五、四四〇厘 *二、八七一、一〇〇
十月	二	一〇	一〇四ヶ所	—	一三	四、三五三、一七〇厘 *一、五七八、二八〇
十一月	二	一〇	一三一ヶ所	一七	一三	四、〇六三、四八〇厘 *五、七七三、三九〇
合計	—	—	—	—	九八四	三九、四七八、一二〇厘 *三五、五八八、〇六〇

備考

一、本表ノ*印ハ大禮準備ノ爲メ特ニ設ケタル臨時費ヲ以テ實施シタル成績ヲ掲ケタルモノトス

一、掃除人夫黒書二七、〇九六人ノ内ニハ馬車持人夫延三、四一五人ヲ含ム

一、同上*印延數一九、六六七人七分五厘ハ臨時費ヲ以テ支辨シタル公共溝渠浚渫ヲ爲シタルモノニシテ其内ニハ馬車持人夫延四、四五四人三分五厘ヲ含ム但シ馬車持人夫ハ普通人夫ノ四倍量ヲ搬出ス

一、公共便所ノ修築ハ大正三年度ヨリ繼續事業トシタルニ依リ七月以降增加セシハ改築個所ノ成功ト同時ニ徹廢スヘキ個所ヲ其儘存置シタルト逐月竣功セシトニ依ル九月以降著シク減少セシハ一時ニ徹廢シタルニ因ル

一、七月以降塵芥搬出量ノ頓ニ增加セシハ大清潔法施行ノ結果ニ因ル

一、掃除監督長ハ衛生課長兼務トス又掃除巡視一名ハ缺員中

一、四月、五月、十月、十一月ノ定員ニ滿タサルハ掃除巡視一名缺員ナリシニ因ル

第二節　河川ノ掃除

鴨川ハ京都市ニ於ケル繁華ノ中心ヲ北ヨリ南ヘ貫流シ三條、四條、五條、其他數多著明ノ橋梁ヲ架シ東山一帶ノ名所舊跡ト相俟ツテ市内無二ノ勝景タルヲ失ハス、故ニ本流域ノ清潔ナルト否トハ單リ衛生ノミナラス風致ノ上ニ關シテモ亦等閑ニ附スルコト能ハサルナリ、白川、堀川、高瀬川等ハ之又市内ヲ貫通シ或ハ二條離宮ニ接シ又ハ貴賓ノ旅館ニ沿ヒ且ツ之等流域ノ各種ノ事業ニ利用セラル丶モノ少ナカラサル等衛生風致ノ上ニ於テ最モ重要視スヘキモノアリ、其他一ノ橋川、二ノ橋川、三ノ橋川等ハ行幸道路ヲ横斷セリ、然ルニ近時染織事業ノ發達ニ伴ヒ數多ノ工場ヨリ流出スル各

種ノ色素ハ常ニ流水ヲ汚染シテ著シク外觀ヲ傷ヒ加フルニ塵芥散亂、雜草ノ繁茂セル等河川掃除ノ必要甚タ切ナルモノアリ、茲ニ於テ京都市ハ八千六百九拾六圓餘ノ經費ヲ投シ之ヲ浚渫加工シテ其清潔ヲ持續スルニ努メタリ、而シテ河川ノ掃除ハ一時ニ之ヲ施行スルモ毎年八九月ノ頃ニ至ラハ殆ント定例的ノ出水アリテ再ヒ之ヲ汚サルヽ虞アレハ豫メ之レカ計畫ヲ回ラシ大正四年一月末ヨリ之ニ着手シ漸次其工程ヲ進メ更ニ九、十ノ兩月ニ渉リ一大清潔方法ヲ施行シテ以テ其終了ヲ告ケタルモノトス、其成績左ノ如シ。

一	鴨　川	延長二千〇四十七間
一	堀　川	延長四千六百九十間
一	音羽川	延長七百八間
一	二ノ橋川	延長四百六十間
一	高瀬川	延長千五百十二間七分
一	白　川	延長千百六十間
一	一ノ橋川	延長四百五十間
一	三ノ橋川	延長三百三十間

第三節　公共溝渠ノ修築及其浚渫

京都市内ノ公共溝渠ハ近時改築又ハ修繕ヲ加ヘタル個所尠カラスト雖モ其他ノ大部分ハ概シテ構造不備ニシテ汚水ノ疏通充分ナラス、殊ニ人家ト人家ノ中間ニ位置シ道路ニ面セサル溝渠ニアリテハ其浚渫ノ困難ナルト掃除機關ノ實力未タ之ニ及ハサルトヲ以テ曾テ浚渫セシコトナク汚泥深ク雍塞シ衞生上ノ障害特ニ著シキヲ覺ヘシム、故ニ京都市ニ於テハ大禮ノ準備トシテ公共溝渠ノ一大浚渫ヲ斷行スルノ計畫ヲ立テ、延長二十二萬六千九百七間ノ長キニ渉リ其目的ヲ貫徹シタリ、而シテ之ニ要セシ實費ハ貳萬五千五拾四圓拾六錢ナリトス、尙之ト相前後シテ修築ヲ加ヘタルモノ延長六千五百八十四間餘此經費參萬貳千七百七拾貳圓四拾貳錢ヲ算ス、公共溝渠ノ浚渫ニ依リ生シタル汚泥ハ別表ニ示スカ如ク重量七百四十萬四千二百四十貫容積八十四萬七千七百六十九立方尺ノ多キニ達セリ、汚泥ノ處分ハ凡テ一定ノ棄場ニ搬出シ毫モ停滯スルコトナカラシメシト雖モ特ニ之ヲ利用シタル實績ナシ。

公共溝渠ノ浚渫ハ殆ント全市ニ渉ルヲ以テ詳細ニ其場所ヲ明記スルコト難シト雖モ之レカ改築修繕ニ付テハ後日ノ參考ニ供スル爲メ左ニ之ヲ摘錄ス。

公共溝渠ノ改築

場所	間數
竹屋町西堀川ヨリ西水車場ニ至ル	三百七十四間三分
神泉苑西通押小路御池間	六十一間一分
七條新寺町ヨリ東洞院間	百三十間六分
七條内濱ヨリ柳原ヲ經テ高瀨川ニ至ル	百〇二間
今出川通常盤井殿町ヨリ寺町ニ至ル	五十四間四分
今出川通華族會館分館東手ヨリ烏丸通今出川ニ至ル	七十六間七分
計	七百九十九間一分

公共溝渠ノ修繕

泉涌寺道、伏見街道泉涌寺門前	五百五十間五分
土手町二條夷川間	七十五間
河原町二條三條間	二百十八間七分
西堀川御池押小路間	九十五間三分
西堀川丸太町櫨木町間	百五十二間六分
寺町蛸藥師西入	八十五間三分
今小路御前通七本松間	三百五十二間九分
大宮寺ノ内上ル五丁目	百二十三間四分
廣道松原下ル	二百八十六間二分
吉田中通近衞道上ル	百六十間四分
上長者町堀川東入	百二十八間
出水油小路東堀川間	七十四間六分
五條東山東入	七十二間
小川上長者町中立賣間	七十一間
醒蘭街道大和大路東入	三間一分
堺町四條下ルヨリ綾小路高倉ニ至ル	八十七間
淨福寺櫨木町丸太町間	三十七間
上長者町淨福寺裏門町間	三十間
室町新町ノ間寺ノ内上ル	六十七間
下辨天町上辨天町玉水町間	百四十五間
川端荒神上ル	十五間九分
高倉佛光寺前	五間一分
上御靈前鞍馬口下ル	四間八分
東堀川御池丸太町間	三百二十六間二分
新町上長者町下立賣間	百六十間
第二勸業館前	二百十二間
五條猪熊堀川間	六十七間五分
西洞院六角及御池角	九間一分七厘
上立賣烏丸東入	八間五分
猪熊丸太町竹屋町間	二百五十間五分
大宮御池上ル	九十一間二分
丸太町烏丸堀川間	三百〇七間七分
室町丸太町外二	三十八間八分
鴨川荒神橋上ル	十二間
丸太町西堀川ヲ經テ櫨木町ニ至ル	三百八十五間八分
丸太町油小路東堀川間	六十六間三分
秋月橋通丸太町ヨリ東竹屋町通ヲ經テ稅務署北裏西入ニ至ル	百八十四間五分
大佛南門通ヨリ大佛南門大和大路ニ至ル	五十六間七分
西堀川出水下立賣間	七十一間三分
大宮出水下長者町間	百六十二間七分
松屋町出水上ル東側	三十一間
丸太町黒門大宮間	三十八間一分
白川東沿道路岡崎橋北入ヨリ冷泉通ヲ經テ白川念佛橋ニ至ル	二百四十一間
仁和寺街道御前通西裏辻	五十二間
大宮通西本願寺博門前ヨリ大宮西裏溝ヲ經テ木津屋橋ニ至ル	百七十一間一分五厘
合計	五千七百八十四間九分二厘
計	六千五百八十四間〇二厘

第四節　屎尿ノ特別搬出

市内ニ於ケル屎尿運搬時間ノ制限ハ府令ノ規定ニ依リ午後七時ヨリ午前十時迄ノ通則ナリシカ　大禮御擧行ノ秋ニ際シ内外ノ貴賓ヲ迎ヘ四民雲集ノ中ニ於テ晝間汚物ヲ運搬スルハ衞生上實害少ナカラサルノミナラス外觀甚タ見苦シク之ヲ等閑ニ附スルコト能ハサルヲ以テ更ニ時間ヲ短縮シ夜間ニ於テノミ之ヲ運搬セシムルノ止ムヲ得サル事情ニ迫レリ、然リト雖モ之等汚物ノ搬出ハ平時ニ於テモ尚且ツ充分ナラサルニ一層其量ノ增大スル時期ニ於テ特殊ノ制限ヲ加フルトキハ却ツテ汚物ノ澁滯ヲ來タシ危害ヲ誘致スル原因ヲ釀成スルヤモ計リ難シ、加フルニ時恰カモ農家ノ繁忙ナル時期ニシテ肥料ノ需要最モ薄キ季節ニ當リ汚物排除ノ上ニ於テハ一層其困難ヲ深カラシメタリ、故ニ先ツ現住市民ノ人口ト當時雲集スヘキ豫測人員トヲ標準トシ之ニ依リテ生スヘキ汚物ノ量ヲ案出シ、一面隣接町村ニ於ケル農家ノ需要力其他肥料野壺ノ容量ニ至ル迄詳細ナル調査ヲ遂ケ別記協議事項ニ依リテ個人ノ執ルヘキ方法ト非常救濟ノ途ヲ講シ以テ此難關ニ當ラントシ大正四年十月二十二日府令第六十號（別記參照）ヲ發スルニ至レリ、之ト同時ニ關係アル郡市役所及警察署ニ訓令（訓第一八三號幷衞第九九五一號參照）シ豫メ部民ヲシテ其處置ヲ誤ラサラシメンコトヲ期シタリ、斯クテ實施ノ時期ニ入リテハ關係官公吏ノ活動ト農會及青年會等ノ努力奮勵見ルヘキモノアリシカ未タ十分ノ成績ヲ得タルモノト云ヒ難シ、而シテ市内何レノ方面ニアリテモ特ニ著シク汚物ヲ停滯セシメタル個所ナカリシハ入洛人員ノ豫想ヨリモ少數ナリシニ依ルモノト云フノ外ナシ。（第四十一號及第四十二號表參照）

京都府令第六〇號

明治二十三年七月京都府令第五十九號汚物掃除法施行細則第十三條ノ規定ニ依リ市内屎尿ノ運搬ハ大正四年十一月六日ヨリ同月二十日迄日沒後ヨリ日出前迄トス

大正四年十月二十二日

京都府知事　大森鍾一

訓第一八三號

郡役所

本日府令第六十號ヲ以テ來ル十一月中ノ一定期間内京都市内ニ於ケル屎尿運搬時間ヲ短縮スルニ至リタルハ　大禮ヲ行ハセラルヽ時ニ方リ晝間汚物ヲ運搬スルカ如キコトアリテハ獨リ外觀ノ見苦シキノミナラス衞生上ノ影響モ亦決シテ尠少ナラサルニ依リ不便ヲ顧ミルノ遑ナク止ムヲ得サルノ處置ニ出テタルモノトス、然ルニ之レカ爲メニ屎尿ヲ停滯セシムルニ至テハ却ツテ危害ヲ誘致スル原因トナリ障害那邊ニ波及スルヤモ計リ難シ、故ニ今ヨリ成ルヘク廣ク需要者ヲ奬勵シ一面農會又ハ青年會等ノ公益團體ニ對シテハ此ノ大切ナル時機ニ於テ遺憾ナク市内ノ清潔ヲ保持スルハ府民ノ義務タル所以ヲ示シ需要ノ如何ニ拘ラス至誠奉公ノ念慮ニ訴ヘ努メテ其衝ニ當ラシムル等專ラ盡力セラルヘシ。

右訓令ス

大正四年十月二十二日

京都府知事　大森鍾一

衞第九九五一號

本日府令第六〇號ヲ以テ市内ニ於ケル屎尿運搬時間ヲ短縮セラレ候處右ハ御大禮ノ關係上止ムヲ得サルノ處置ニ出テラレシ次第ニ有之候得共之ト同時ニ少ナカラサル不便ヲ生シ搬出上一層困難ヲ來スヘク思料セラレ候ニ付此際特殊ノ方法ヲ講シ市内ノ清潔ヲ保持スルノ必要有之候條詳細ノ事項ニ關シテハ當府衞生課ト御協議ノ上遺憾ナク其目的ヲ達シ得ラルヽ樣御盡力相成度依命此段及通牒候也

大正四年十月二十二日

京都府警察部長　永田秀次郎

郡長

警察署

市役所

屎尿ノ處分ニ關スル協議事項

御駐輦中市内ニ於テ屎尿ヲ停滯セシムルカ如キコトアリテハ甚不都合ニ付敏活ニ之ヲ搬出セシムヘキ必要ヲ認ムト雖モ其程度ヲ豫知スルコト不可能ニシテ正確ナル設計ヲ立ツルコト困難ナルモ大要左記方法ノ下ニ救濟方法ヲ講セン

トス

一、關係郡市長ハ左記事項ヲ督勵シ制限時間内ニ於ケル搬出方法ヲ敏活ナラシムルモノトス

（イ）近郡町村農民ヲシテ現在野壺ニ溜メ置ケル肥料ヲ成ルヘク田野ニ撒布セシメ十一月中ニ豫備行爲トシテ之ヲ空虚ト爲サシメ置クコト

（ロ）市内ノ屎尿ハ農民又ハ請負人ト汲取契約ヲ爲セルモノ大部分ヲ占ムルニ依リ豫メ注意ヲ加ヘ十一月一日ヨリ同月六日迄ニ悉皆汲取リ市内ノ便所ヲ空虚ト爲サシムル樣努ムルコト

（ハ）屎尿運搬時間ノ短縮セラレタルコトヲ周知セシメ汲取人ヲシテ需要ノ如何ニ拘ハラス制限時間内ニ努メテ其義務ヲ履行スル樣督勵スルコト

（ニ）制限時間ニ汲取リ難キ事情アル場合ハ豫メ準備ノ上第一回ハ市外接近ノ場所ヘ曳キ出シ同所ヨリ引返シ更ニ第二回ノ汲取リヲ爲スカ如キ手段ヲモ講セシムルコト

以上ノ方法ニ依リ其搬出ヲ督勵スルモ御道筋附近其他繁華ノ地域ニアリテハ晝間汲取ヲ爲スニアラサレハ到底清潔ヲ保持スルコト困難ノ見込ニ付特別施設トシテ左記方法ヲ實施セントス

一、制限時間外運搬容器トシテ四斗樽ヲ應用シ外部ノ掃除密栓等ニ依リ臭氣ヲ洩サス一見何物タルヤヲ識別スルコト能ハサル裝置トナセル樽約五百個ヲ京都市ニ於テ調製シ之ヲ各掃除管區ニ配置シ近郡農會又ハ青年會等ヨリ義務汲取人トシテ出役スル人夫ヲシテ隨時必要ノ場所ノ汲取ヲ爲サシムル計畫トス其受持區域及出役車輛豫定數左ノ如シ

（イ）第一掃除管區　上京區日暮通出水西入

受持區域

甲　御道筋及其附近

西堀川通丸太町以南三條以北及二條離宮南北西面附近

乙　第一掃除管區受持區域全部（堀川以西三條以北郡界迄）

以上　葛野郡愛宕郡

（ロ）第二掃除管區　上京區西洞院通上長者町下ル

受持區域

甲　御道筋及其附近

丸太町通東堀川以東柳馬場以西及烏丸通丸太町以南三條以北

乙　第二掃除管區受持區域全部（寺町以西堀川以東三條以北郡界迄）

以上　愛宕郡

（ハ）第五掃除管區　下京區佛光寺通寺町東入長寺

受持區域

甲　御道筋及其附近

烏丸通三條以南五條以北

乙　第五掃除管區受持區域全部（鴨川以西西洞院以東三條以南五條以北）

以上　葛野郡　乙訓郡

（ニ）第七掃除管區　下京區七條通間ノ町東入

受持區域

甲　御道筋及其附近

烏丸通五條以南三哲以北及七條通烏丸以東鴨川迄

乙　第七掃除管區受持區域全部（鴨川以西、西洞院以東五條以南郡界迄）

以上　紀伊郡　乙訓郡

（ホ）第四掃除管區　下京區松原通大和大路東入

受持區域

甲　御道筋及其附近

七條通鴨川以東本町以西及本町通七條以南泉涌寺迄

乙　第四掃除管區受持區域全部（鴨川以東三條以南郡界迄）

以上　紀伊郡　宇治郡

（ハ）　第三掃除管區　上京區東竹屋町通熊野道西入

受持區域

第三掃除管區受持區域全部（寺町以東三條以北郡界迄）

以上　宇治郡　愛宕郡

（ト）　第六掃除管區　下京區五條通堀川西入

受持區域

第六掃除管區受持區域全部（西洞院以西三條以南郡界迄）

以上　葛野郡　乙訓郡　紀伊郡

一、出役車輛ハ十一月八日ヨリ同月二十八日迄大要左記ノ範圍トシ臨時增減ノ必要アルトキハ豫メ協議スルモノトス

郡別	特別指定日車輛數	普通指定日車輛數
愛宕郡	一〇	一〇
葛野郡	一〇	二〇
乙訓郡	八	一五
紀伊郡	六	一〇
宇治郡	六	一〇

備　考

（イ）　特別指定日ハ主ナル御儀式ノ前日又ハ其翌日トシ普通指定日ハ特別指定日以外トス

（ロ）　諸儀御日取ハ別紙ノ通則チ丸太町通堺町以西烏丸迄烏丸通丸太町以南三哲以北ハ八、十一、十三、十五、二

十、二十一、二十三、二十四、二十七ノ各日丸太町通烏丸以西、西堀川以東及西堀川通丸太町以南三條以北幷ニ二條離宮周圍ハ十五、十六、十七、十八ノ各日、七條通及本町通ハ二十五、二十七ノ各日ハ特別指定日ニ屬シ其他ハ普通ノ豫定ナルモ群衆ノ模樣ニ依リ自然變動免レサルヘシ

、汲取人ノ注意スヘキ事項左ノ如シ

（イ）　車輛ニハ四斗樽四乃至五個積トシ二人曳トナスコト

（ロ）　一車輛毎ニ柄杓一汲桶一汲桶袋一漏斗一ヲ附屬セシムルコト

（ハ）　家屋內ノ通路狹隘ニシテ四斗樽ヲ持入ルコト能ハサル場所ハ汲桶ヨリ移シ代フル方法ヲ取リ移代ヘノ場所ハ露次內軒下等ヲ擇ヒ道路ヲ避クルコト

（ニ）　運搬途中ニ於テハ一定ノ旗ヲ車輛ニ附シ義務搬出ノ標識トナスコト

（ホ）　屎尿停滯ノ家ニハ赤色ノ紙製短冊（縱六寸橫二寸）ヲ揭出セシムルニ依リ之ヲ目標トナスコト

（ヘ）　屎尿運搬禁示區域ノ道路ハ常ニ記憶シ置クコト

一、京都市ノ設備

（イ）　容器　五百個（所轄警察署ノ燒印アルモノニアラサレハ無效）

（ロ）　漏斗　百個

（ハ）　汲桶覆　百個

（ニ）　旗　百本

以上ノ物件ハ十月末日迄ニ調製シ各掃除管區ニ配置ス

一、郡ノ設備

（イ）　關係郡役所ニ於テハ前記各項參照ノ上農會又ハ靑年會等ヨリ必要人員ヲ出動セシムル方法ヲ講シ受持日割ヲ定メ當日午前八時迄ニ關係掃除管區ヘ出張セシムルコト

（ロ）　各掃除管區ニハ電話特急架設ノ計畫中ニ付其番號ハ追テ通知ノ筈

備　考

一　各掃除管區ニハ車輛置場ノ設ケアリ

二　屎尿停滯ノ家ハ凡テ受持掃除管區ニ申告スル手筈トナリ居レリ